

# さいたま市における障害者のスポーツの実施 に関する調査研究

令和8年3月

さいたま市  
一般財団法人 地方自治研究機構

さいたま市における障害者のスポーツの実施  
に関する調査研究

令和8年3月

さいたま市

一般財団法人 地方自治研究機構



## はじめに

昨今のわが国の地方行政を取り巻く環境は、少子化に伴う本格的な人口減少・高齢化の進行、社会全体のデジタル化の急速な進展、各種災害の激甚化、働き方やライフスタイルの多様化、インバウンドの急増、脱炭素化やSDGs等の地球規模の潮流など、これまでとは大きく異なる変化が見られます。

こうした中で、地方公共団体は、自治体DXの推進、人材の確保・育成、経営マネジメントの強化等を図りつつ、住民ニーズを的確に捉え、地域の特性を活かしながら、住民福祉の向上、地域産業の振興、まちづくりの推進、防災対策の強化、自然環境の保全、共生社会の実現等に関する諸課題に、自らの判断と責任において取り組んでいくことが求められています。

このため、当機構では、地方公共団体が直面している諸課題を多角的・総合的に解決するため、個々の団体が抱える課題を取り上げ、当該団体と共同して、全国的な視点と地域の実情に即した視点の双方から問題を分析し、その解決方策の調査研究を実施しています。

本年度は6つのテーマを具体的に設定しており、本報告書は、そのうちの一つの成果を取りまとめたものです。

スポーツは、国民の生活や社会に活力を与えるなど、社会全体に対して優れた効果を発揮する重要なコンテンツであると考えられています。さいたま市でも、これまで障害者の運動・スポーツの実施に資する各種取組を進めてきましたが、障害者の運動・スポーツに焦点を当てた調査を行う機会がなく、障害者の運動・スポーツの実態や、その実施における障壁、解決すべき課題などが、明確になっていない状況にありました。

このような背景を踏まえ、本調査研究では、障害者本人や、スポーツ施設・団体等を対象にアンケート・ヒアリング調査を実施することで、さいたま市における障害者の運動・スポーツの実態等を把握するとともに、今後の障害者の運動・スポーツ推進の方向性について整理しました。

本調査研究の企画及び実施に当たりましては、調査研究委員会の委員長及び委員を始め、関係者の皆様から多くの御指導と御協力をいただきました。

また、本調査研究は、公益財団法人 地域社会振興財団の助成金を受けて、さいたま市と当機構とが共同で行ったものであり、ここに謝意を表する次第です。

本報告書が広く地方公共団体の施策展開の一助となれば大変幸いです。

令和8年3月

一般財団法人 地方自治研究機構  
理事長 北崎 秀一



## 目次

序章 調査研究の概要	1
1 調査研究の背景と目的	3
2 調査研究の流れと全体像	5
3 調査研究体制	8
第1章 さいたま市の概要	9
1 地勢	11
2 人口等の推移	12
3 さいたま市における障害者のスポーツの取組	14
第2章 障害者スポーツを取り巻く現状	17
1 障害者スポーツの現状	19
2 障害者スポーツに関する政策・関連団体等	24
第3章 障害者手帳所持者向けアンケート調査結果	29
1 障害者手帳所持者向けアンケート調査の概要	31
2 アンケート集計結果	32
第4章 スポーツ施設向けアンケート・ヒアリング調査結果	107
1 スポーツ施設向けアンケート調査の概要	109
2 アンケート集計結果	110
3 スポーツ施設向けヒアリング調査の概要	125
4 ヒアリング調査結果	126
第5章 スポーツ団体向けアンケート・ヒアリング調査結果	131
1 スポーツ団体向けアンケート調査の概要	133
2 アンケート集計結果	134
3 スポーツ団体向けヒアリング調査の概要	147
4 ヒアリング調査結果	148
第6章 特別支援学校・特別支援学級向けアンケート・ヒアリング調査結果	153
1 特別支援学校・特別支援学級向けアンケート調査の概要	155
2 アンケート集計結果	156
3 特別支援学校・特別支援学級向けヒアリング調査の概要	173
4 ヒアリング調査結果	174
第7章 障害福祉施設等向けアンケート・ヒアリング調査結果	177
1 障害福祉施設等向けアンケート調査の概要	179
2 アンケート集計結果	180
3 障害福祉施設等向けヒアリング調査の概要	191
4 ヒアリング調査結果	192
第8章 障害者スポーツ指導者向けヒアリング調査結果	195
1 障害者スポーツ指導者向けヒアリング調査の概要	197
2 ヒアリング調査結果	198
第9章 各種調査結果から判明したこと	201
1 各種アンケート調査結果を踏まえた考察および示唆	203
2 各種ヒアリング調査結果を踏まえた考察および示唆	208
第10章 今後の方向性の整理	211
調査研究委員会名簿	225
参考1 障害者手帳不所持者からの意見聴取結果	229
1 障害者手帳不所持者からの意見聴取の概要	231
2 意見聴取集計結果	232
参考2 アンケート調査票	253
1 障害者手帳所持者向けアンケート調査票	255
2 スポーツ施設向けアンケート調査票	268
3 スポーツ団体向けアンケート調査票	273
4 特別支援学校・特別支援学級向けアンケート調査票	277
5 障害福祉施設等向けアンケート調査票	281
6 障害者手帳不所持者からの意見聴取調査票	284



## 序章 調査研究の概要



## 序 章 調査研究の概要

### 1 調査研究の背景と目的

障害者とは、障害者基本法において、「身体障害、知的障害又は精神障害があるため、継続的に日常生活又は社会生活に相当な制限を受ける者」と定義されている。さいたま市では、障害者差別解消法（平成 28 年 4 月制定）以前に、全国の政令指定都市に先駆けて平成 23 年に「ノーマライゼーション条例」を制定し、障害者を「保護の対象」ではなく、「権利の主体」と位置付けた。障害者も、障害のない人と同じように、社会の一員として責任を分担し、必要な支援を受けながら、自分で決めたことや選んだことに基づいて社会のあらゆる分野の活動に参加、参画する権利があり、スポーツへの参加もその一つであるとしている。

一方、スポーツは、スポーツ基本法の前文において、「世界共通の人類の文化」であると示され、国民の生活や社会に活力を与えるなど、社会全体に対して優れた効果を発揮する重要なコンテンツであると考えられている。

障害者にとっても、同様に、スポーツは重要な意義を有しており、障害者がスポーツに取り組むことで、「身体的な健康維持とリハビリテーション」、「精神的な充実感とストレス解消」、「スポーツを通じた仲間づくり」等の効果が得られるだけでなく、「社会との交流・共生の促進」、「障害者に対する理解の促進」など、スポーツを通じた共生社会の実現等に寄与すると考えられる。

そのため、国では、令和 4 年度からの「第 3 期スポーツ基本計画」において、障害者のスポーツ実施率に関する目標として、「障害者の週 1 回以上のスポーツ実施率が 40%、年 1 回以上のスポーツ実施率が 70%程度となることを目指す」ことが掲げられ、地方自治体でも障害者のスポーツ実施率の目標の設定や、障害者がスポーツに取り組みやすい環境の整備など、障害者のスポーツ実施を推進するための取組が進められている。

さいたま市においても、「第 2 期さいたま市スポーツ振興まちづくり計画」に示す「健康で活力ある『スポーツのまち さいたま』」の実現のためには、障害者のスポーツ実施の取組を強化する必要がある。しかし、これまで障害者本人や障害者を受け入れるスポーツ施設・団体等を対象とした詳細な実態調査を行う機会がなく、障害者のスポーツ実施率に関する目標も未設定の状況にある。

これらの状況を踏まえ、本調査研究では、障害者本人、スポーツ施設・団体等、支援の場（特別支援学校等）、障害者スポーツ指導者を対象としたアンケート・ヒアリング調査等を実施することにより、さいたま市における障害者のスポーツの実態を把握し、今後のさいたま市における障害者のスポーツの在り方を見定め、令和 9 年度からの次期「さいたま市障害者総合支援計画」に反映すべき障害者にかかるスポーツ関連施策の方向性等を検討した。

なお、本調査研究は、障害者が取り組みやすいようにルールや用具が工夫・適合・開発されたスポーツ競技種目としての「障害者スポーツ（パラスポーツ）」の普及促進等を通じて、障害者

一人ひとりが運動・スポーツに親しむことで、体を動かす機会が拡大し、それが習慣化・定着化することを目的として実施するものである。

## 2 調査研究の流れと全体像

本調査研究の流れと全体像は、以下のとおりである。

### (1) 障害者手帳所持者向けアンケート調査

【目的】今後のさいたま市における障害者のスポーツ施策の方向性を検討する際の基礎資料とするため、障害者のスポーツに関する意識や価値観、実態、ニーズ等を把握する。

【内容】さいたま市内の障害者手帳所持者（身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳）にアンケート調査を実施し、結果及び課題を分析する。

### (2) 障害者手帳不所持者からの意見聴取

【目的】今後のさいたま市における障害者のスポーツ施策の方向性を検討する際の定性要素とするため、心身に何らかの障害・支障等を抱えている障害者手帳不所持者のスポーツの実施に関する意見を把握する。

【内容】心身に何らかの障害・支障等を抱えている障害者手帳不所持者に書面による聞き取りを実施し、それらの意見を整理する。

### (3) スポーツ施設・団体向けアンケート・ヒアリング調査

【目的】今後のさいたま市における障害者のスポーツ環境の充実に資するものとするため、市内に所在する施設、市内で活動するスポーツ団体等における障害者のスポーツ実施環境、受け入れ状況等を把握する。

また、今後のさいたま市における障害者のスポーツ施策の方向性の検討等に際しての参考情報とするために、調査結果を踏まえた課題について個別にヒアリング調査を実施する。

【内容】さいたま市内の公共施設・民間スポーツ施設、さいたま市内で活動するスポーツ団体等にアンケート・ヒアリング調査を実施し、結果及び課題を分析する。

### (4) 支援の場（特別支援学校等）向けアンケート・ヒアリング調査

【目的】今後のさいたま市における障害者のスポーツ環境の充実に資するものとするため、特別支援学校・特別支援学級・障害福祉施設等のスポーツ実施の現状や、卒業・退所後のスポーツ習慣継続のための取組等について把握する。

また、今後のさいたま市における障害者のスポーツ施策の方向性の検討等に際しての参考情報とするために、調査結果を踏まえた課題について個別にヒアリング調査を実施する。

【内容】さいたま市を通学区域に含む県内の特別支援学校、市内特別支援学級、障害者総合支援法に基づく市内の施設、障害児のための施設等にアンケート・ヒアリング調査を実施し、結果及び課題を分析する。

(5) 障害者スポーツ指導者向けヒアリング調査

【目的】 障害者スポーツ指導者の活動状況、取り巻く環境や解決すべき課題、障害者のスポーツの更なる普及に必要な要素などを定性的に把握し、今後のさいたま市における障害者のスポーツ施策の方向性の検討等に際しての参考情報とするために、障害者スポーツ指導者に個別にヒアリング調査を実施する。

【内容】 障害者スポーツ指導者にヒアリング調査を実施し、結果及び課題を分析する。

(6) 障害者のスポーツに関する他自治体における先進事例調査

【目的】 さいたま市における障害者のスポーツ施策を検討する際の参考情報とするため、他自治体における優れた事例の調査を実施し、成果に至ったポイント等を整理する。

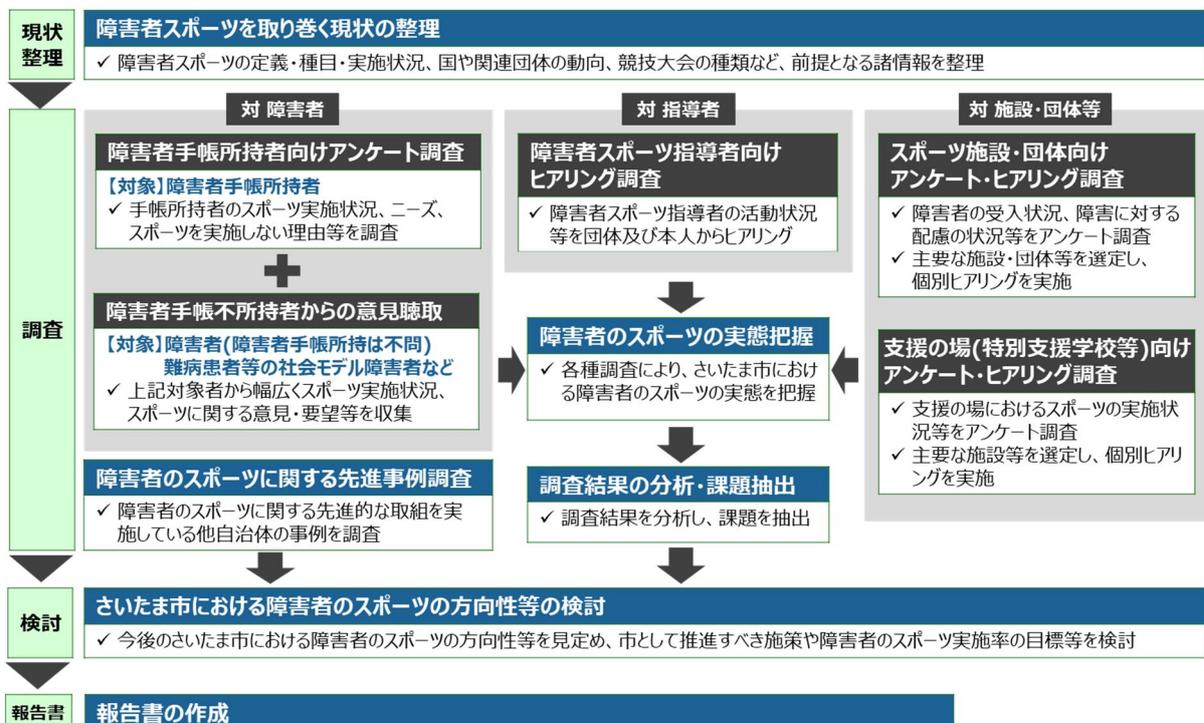
【内容】 障害者のスポーツに関する先進的な取組を実施している自治体の事例を、公開情報に基づいたWEB調査等で収集し、その取組の成功している要因等を分析する。

(7) さいたま市における障害者のスポーツの方向性等の検討

【目的】 今後、さいたま市が目指すべき障害者のスポーツの方向性等を検討する。

【内容】 各種アンケート・ヒアリング調査結果を踏まえ、今後のさいたま市における障害者のスポーツの方向性等を見定め、市として推進すべき施策や障害者のスポーツの実施率の目標等を検討する。

図表 序-2-1 調査研究の全体像



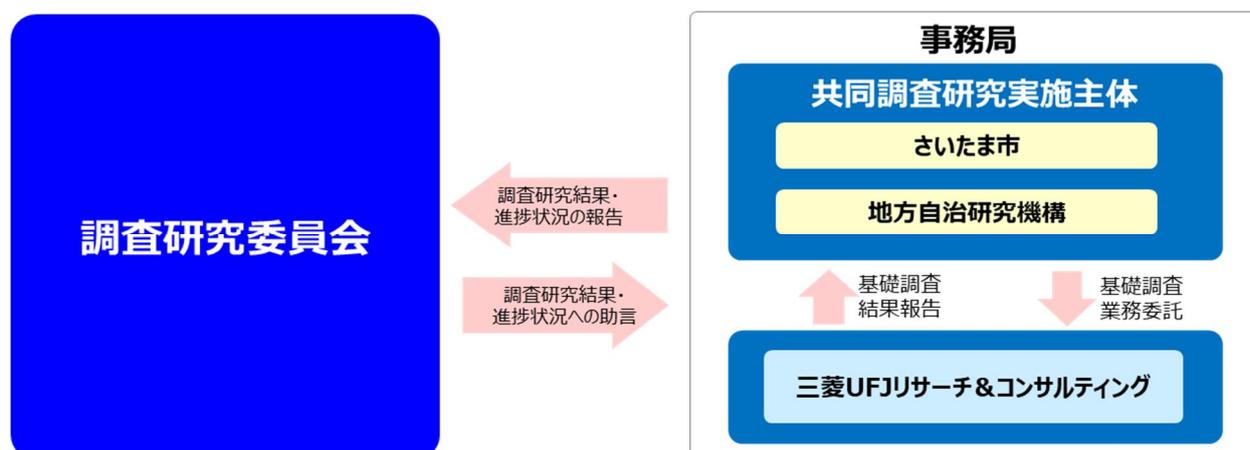
図表 序-2-2 調査研究スケジュール

	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月	
	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下
<b>(1)障害者スポーツを取り巻く現状の整理</b>																						
障害者スポーツの状況																						
国や関連団体の動向等																						
<b>(2)障害者手帳所持者向けアンケート調査</b>																						
調査内容の検討																						
アンケート調査実施																						
集計・分析																						
<b>(3)障害者手帳所持者からの意見聴取</b>																						
聴取方法の検討																						
意見聴取実施																						
まとめ・分析																						
<b>(4)スポーツ施設・団体等向けアンケート・ヒアリング調査</b>																						
調査内容の検討																						
アンケート調査実施																						
ヒアリング調査実施																						
集計・分析																						
<b>(5)支援の場(特別支援学校等)向けアンケート・ヒアリング調査</b>																						
調査内容の検討																						
アンケート調査実施																						
ヒアリング調査実施																						
集計・分析																						
<b>(6)障害者スポーツ指導者向けヒアリング調査</b>																						
調査内容の検討																						
ヒアリング調査実施																						
まとめ・分析																						
<b>(7)先進事例調査</b>																						
先進事例調査																						
<b>(8)さいたま市における障害者のスポーツの方向性の検討</b>																						
障害者のスポーツの方向性の検討																						
<b>(9)報告書(案)の執筆</b>																						
報告書(案)の執筆																						
報告書の修正・確定																						
<b>委員会</b>																						
第1回																						
第2回																						
第3回																						

### 3 調査研究体制

本調査研究は、さいたま市及び一般財団法人地方自治研究機構を実施主体として、調査研究委員会の指導及び助言の下、基礎調査機関として三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社の協力を得て実施した。

図表 序-3-1 調査研究体制



なお、以下の日程で委員会を開催した。

#### 【第1回委員会】

日時：令和7年7月14日（月）10:00～11:30

場所：さいたま市役所 議会棟2階 第6委員会室

内容：調査研究の実施概要及びアンケート調査案の審議

#### 【第2回委員会】

日時：令和7年10月30日（木）10:00～12:00

場所：埼玉県勤労者福祉センターときわ会館 5階 小ホール

内容：調査研究結果の概要報告及び報告内容に関する審議

#### 【第3回委員会】

日時：令和8年1月23日（金）10:00～11:30

場所：埼玉県勤労者福祉センターときわ会館 5階 小ホール

内容：調査研究報告書案の審議

## 第 1 章 さいたま市の概要



## 第1章 さいたま市の概要

### 1 地勢

さいたま市は、埼玉県の南東部に位置する県庁所在地で、古くは中山道の宿場町として発達してきた歴史を持ち、現在は東北・上越など新幹線6路線を始め、JR各線や私鉄線が結節する東日本の交通の要衝となっている。また、市域の周囲は、すべて他の都市と接する内陸都市である。

さいたま市は、平成13年5月に旧浦和・大宮・与野の3市合併により誕生し、平成15年4月1日には全国で13番目の政令指定都市へと移行した。さらに、平成17年4月1日の旧岩槻市との合併を経て、東西19.6km、南北19.3km、面積217.49km<sup>2</sup>に及ぶ市域となった。

平成15年4月1日の政令指定都市移行と同時に区制が施行され、現在市域は10区（西区、北区、大宮区、見沼区、中央区、桜区、浦和区、南区、緑区、岩槻区）の行政区に区分され、人口が県内で最も多い都市である。

図表 1-1-1 さいたま市位置図



出所：さいたま市ホームページ

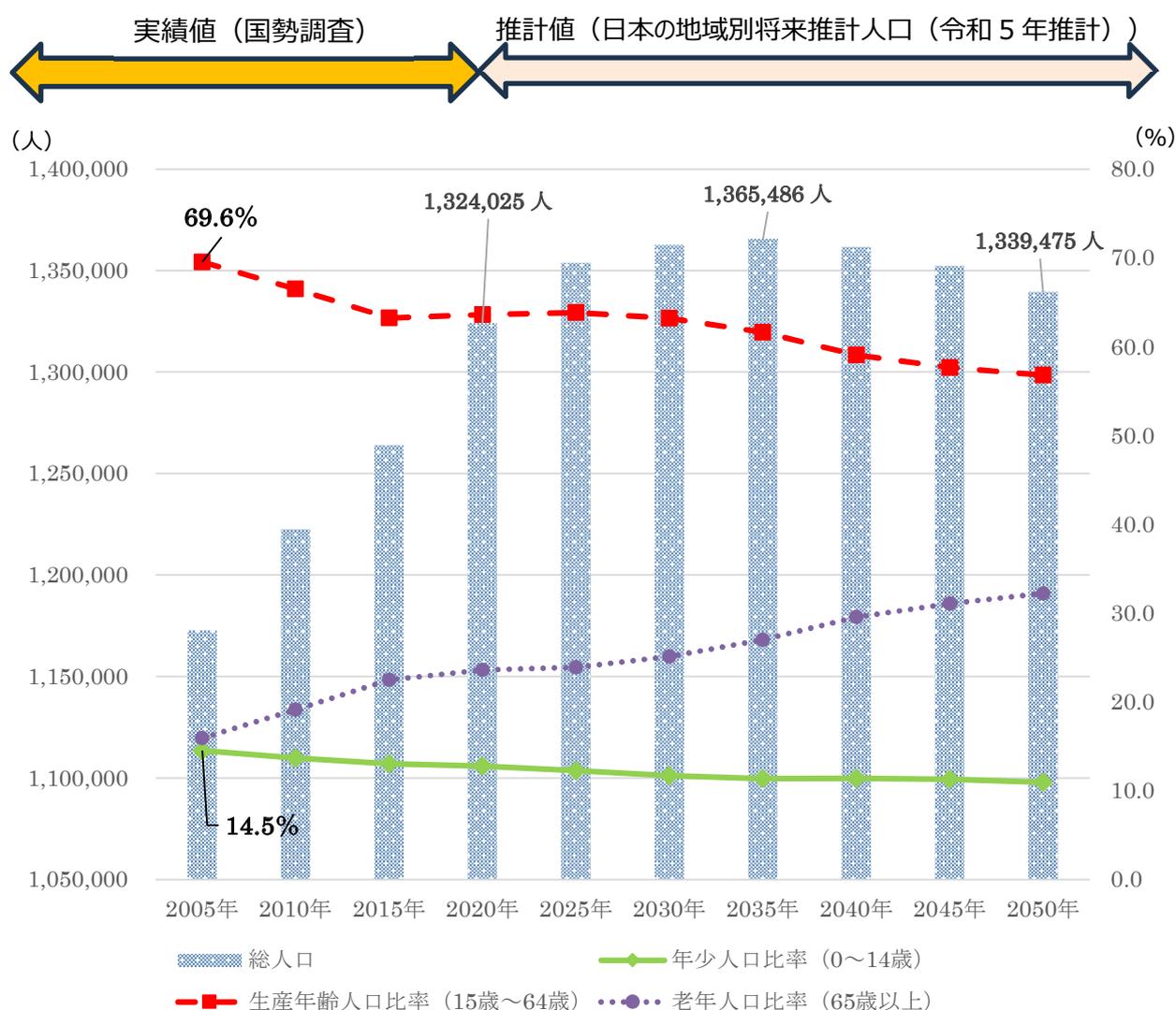
## 2 人口等の推移

### (1) 人口推移と将来の見通し

さいたま市の人口は、現在のところ、年々増加傾向であり、2020年の国勢調査の結果では、130万人を超え、1,324,025人となっている。また、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）」によると、当面さいたま市の人口は増加を続け、2035年にピークの1,365,486人となった後、減少に転じると推計されている。

一方、年齢3区分別でみると、生産年齢人口比率は年々減少し、2020年及び2025年には微増するものの2030年以降は再び減少傾向であり、年少人口比率も長期的に減少傾向が続くのか、老年人口比率は年々増加すると予想されている。

図表 1-2-1-1 さいたま市の人口推移と将来の見通し



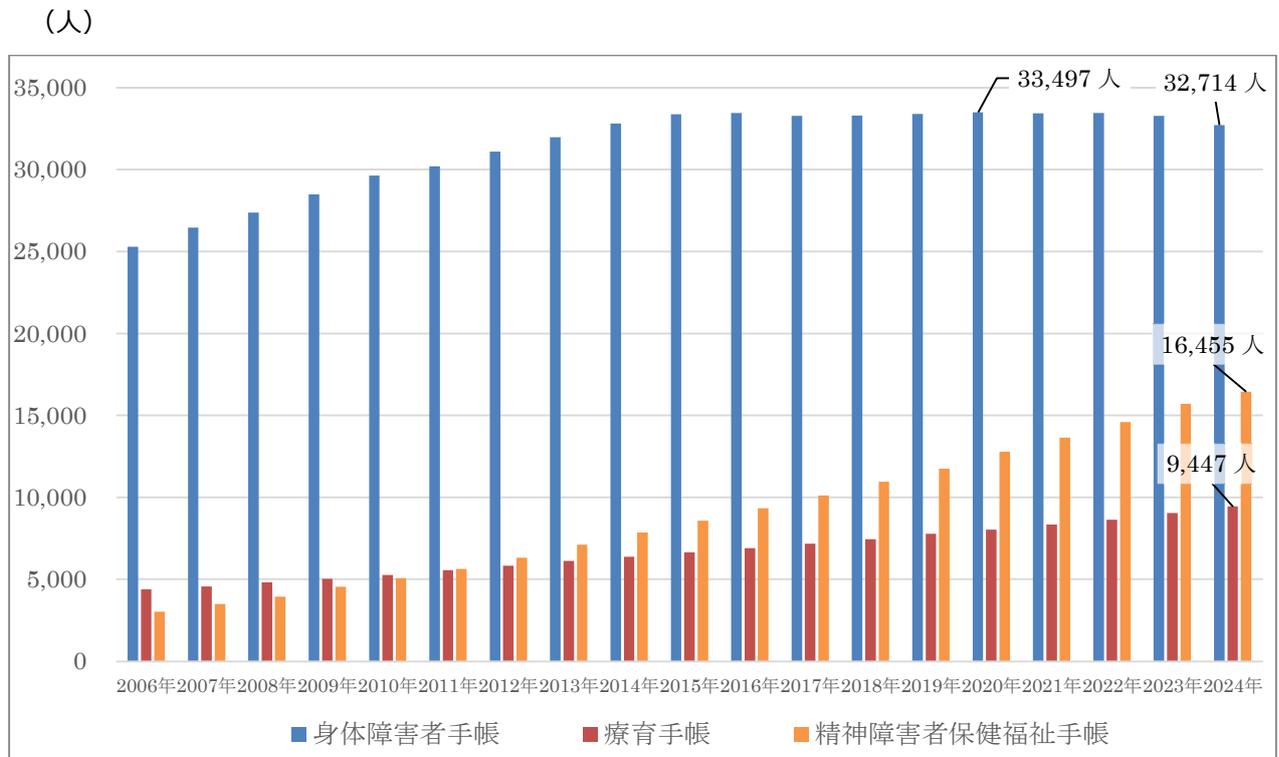
出所：総務省「国勢調査」および国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来人口」より地方自治研究機構が作成（以下、「機構作成」という。）

## (2) 障害者手帳所持者数の推移

さいたま市の障害者手帳所持者数（身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の合計）をみると、年々微増の傾向であり、2024年には58,616人（うち身体障害者手帳32,714人、療育手帳9,447人、精神障害者保健福祉手帳16,455人）と過去最高となった。

手帳の種別でみると、身体障害者手帳所持者数は、2020年の33,497人をピークとして、2015年以降は概ね横ばいの傾向である。療育手帳及び精神障害者保健福祉手帳所持者数は年々増加の傾向であり、2011年には、精神障害者保健福祉手帳所持者数が療育手帳所持者数を上回り、2024年には療育手帳所持者数が9,447人、精神障害者保健福祉手帳所持者数16,455人と過去最高となった。

図表1-2-2 さいたま市の障害者手帳所持者数の推移



出所：さいたま市統計書より機構作成

### 3 さいたま市における障害者のスポーツの取組

さいたま市では、障害者のスポーツの実施を促すため、これまで障害者に向けて様々なスポーツ教室・イベント・大会等を実施してきた。その主なものを以下に記載する。

#### (1) 障害者スポーツ教室の開催

スポーツを通じて障害者の体力増強・交流・余暇活動等に資するため、障害者の社会参加の促進、健康の増進を図ることを目的に開催している。

市内に在住、又は市内の障害者施設等に入所・通所・通学している障害者が参加でき、一部を除いて参加費は無料である。より幅広い年齢層の障害者が参加できるように、一部の競技（サッカー、フライングディスク、ボッチャ）は小中学校の特別支援学級等に訪問したうえで開催している。

なお、過去3年間の障害者スポーツ教室の開催状況は、図表1-3-1のとおりである。

図表 1-3-1 過去3年間の障害者スポーツ教室の開催状況

年度	開催実績	参加者数（合計）
令和4年度	11 競技 14 教室	146 名
令和5年度	12 競技 17 教室	185 名
令和6年度	12 競技 18 教室	160 名

出所：さいたま市提供資料より機構作成

#### (2) ノーマライゼーションカップの開催

平成23年に制定した「ノーマライゼーション条例」及びその理念の普及啓発とスポーツ振興を目的として、視覚障害のある選手とない選手が力を合わせてゴールを目指すブラインドサッカーの国際親善試合「ノーマライゼーションカップ」を平成24年度から開催している。

令和6年度は、女子日本代表チームと女子インド代表チームによる国際親善試合を実施し、視覚障害のある選手とない選手が同じチームで協力してプレーする姿を通じて、競技の魅力とともにノーマライゼーションの理念を、1,433人の来場者を前に広く発信した。

また、体験ブースや障害者スポーツ教室を同時開催し、来場者が障害者スポーツに親しんだ。

図表 1-3-2 令和6年度ノーマライゼーションカップの試合の様子



出所：さいたま市ホームページ

### (3) 体を動かすレクリエーション教室の開催

体を動かす楽しさを感じ、余暇活動の質の向上、体力増強等に資するとともに、社会参加を促進することを目的に開催している。

障害の状態が重く、障害者スポーツ教室に参加することが難しい方、競技性のあるスポーツに参加することが難しい障害者を対象に、令和5年度から体を動かすレクリエーションを指導できる講師を障害福祉サービス事業所へ派遣している。(1回の派遣につき1時間程度)

令和5年度は、講師2名を8箇所の生活介護事業所に派遣し、合計85名が参加、令和6年度は、講師2名を20箇所に派遣し、合計273名が参加した。

### (4) 全国障害者スポーツ大会の意識啓発及び参加

全国障害者スポーツ大会は、様々な障害のある選手が、競技等を通じ、スポーツの楽しさを体験すると共に、国民の障害に対する理解を深め、障害者の社会参加の推進を目的に、都道府県、政令指定都市が選手団を結成し、約5,000から6,000人の選手・役員が一堂に会して開催される国内最大の障害者スポーツ大会の祭典である。

さいたま市では、競技などを通じスポーツの楽しさを体験するとともに、市民の障害に対する理解を深め、障害者の社会参加を促進するため、全国障害者スポーツ大会への参加を支援している。政令指定都市となった平成15年度の第3回全国障害者スポーツ大会「わかふじ大会」(静岡県)から選手団を派遣し、令和6年度に佐賀県で開催した第23回全国障害者スポーツ大会「SAGA2024」で、19回目の出場となった。同大会の陸上競技では、2つの大会新記録、4×100mリレーでの初メダルを獲得した。

なお、過去3年間のさいたま市の全国障害者スポーツ大会の派遣者数、参加競技及びメダル獲得数は、図表1-3-3のとおりである。

図表1-3-3 過去3年間のさいたま市の全国障害者スポーツ大会の派遣者数、参加競技及びメダル獲得数

年度	競技選手数	派遣役員数	参加競技	メダル獲得数
令和4年度	27名	24名	陸上競技、水泳、アーチェリー、卓球、フライングディスク、ボウリング	22個
令和5年度	21名	24名	陸上競技、水泳、アーチェリー、卓球、フライングディスク、ボウリング、ボッチャ	17個
令和6年度	19名	19名	陸上競技、水泳、卓球、フライングディスク、ボウリング	22個

出所：さいたま市提供資料より機構成



## 第2章 障害者スポーツを取り巻く現状



## 第2章 障害者スポーツを取り巻く現状

### 1 障害者スポーツの現状

#### (1) 障害者スポーツとは

障害者にとって、スポーツは、リハビリテーションの手段として、また、健康や体力の維持、楽しみやストレス解消、仲間づくりの機会など、様々なことを目的として取り組まれており、障害者のウェルビーイング向上に寄与すると考えられている。

障害者がスポーツに取り組む際の選択肢の一つとして、障害があってもスポーツ活動ができるよう、障害に応じて競技規則や実施方法を変更したり、用具等を用いて障害を補ったりする工夫・適合・開発が施された「障害者スポーツ」がある。例えば、代表的な障害者スポーツである「車いすテニス」では、コート内の移動に車いすを用いるとともに、2バウンド以内の返球が認められるなど、障害者にもテニスが楽しめるような工夫がなされている。障害の種別、障害の箇所、程度等に応じてクラス分けがなされ、そのクラス内で順位を競うこととしている。

なお、「障害者スポーツ」という言葉は、近年、地域行政・企業のイベントや、マスコミ等において、また、公益財団法人日本パラスポーツ協会の「2030年ビジョン」においても、「パラスポーツ」（もう一つのスポーツ）という言葉に置き換えられている。これは、「パラスポーツ」という言葉の一般化の進展に加えて、障害者スポーツの特徴や将来性等について、「パラスポーツ」という表現を通じて、これまで以上に理解・浸透を図っていくことを目指したものである。

さらに、障害者が取り組むことができるスポーツとして、インクルーシブスポーツがある。インクルーシブスポーツとは、障害の有無や年齢、性別、文化的背景などに関わらず、誰もが平等に参加できるスポーツである。インクルーシブスポーツのイベントである「アンリミテッドスポーツフェスティバル」では、全ての人が平等に、垣根を越えてスポーツや遊びを楽しむことができる場を提供している。スポーツを通じて共生社会を実現するための重要な一歩であり、参加者全員が互いの違いを尊重し、共に楽しむことで、新たな価値観と可能性を広げることがを目的に開催している。

図表 2-1-1 障害者スポーツの例（競技種目）

種目名	対象者	競技内容や特徴
車いすテニス	身体障害者	基本的には、ルールやコートの大きさは通常のテニスと同じで、2セット先取の3セット制で行う。相違点は、2バウンド以内に返球することで、1バウンド目がコート内に入れば、2バウンド目はコートの外側でも良く、コートの外側から返球することが認められる。

車いすバスケットボール	身体障害者	競技用の車椅子に乗ってプレーするバスケットボールで、障害レベルに応じて持ち点が定められており、コート上の5人の合計が14点以内でなければならない。
水泳	身体障害者 視覚障害者 聴覚障害者 知的障害者	一般の競技と同じで、障害に応じてルールを一部変更している。「自由形」「平泳ぎ」「背泳ぎ」「バタフライ」「個人メドレー」「メドレーリレー」「フリーリレー」の7種目で競う。障害に応じて水中からのスタートや用具を使ったスタートが認められる。

出所：機構作成

図表： 2-1-2 障害者スポーツの例（非競技種目）

種目名	対象者	主な目的等
ウォーキング 階段昇降 体操・ダンス 筋力トレーニング 等	全ての障害者	リハビリテーション、健康の維持・増進、気分転換・ストレス解消など、様々な目的のために、いろいろな場所で、多くの人に取り組みされている。

出所：機構作成

図表： 2-1-3 障害者スポーツの例（インクルーシブスポーツ）

種目名	対象者	競技内容や特徴
ボッチャ	誰でも	1 エンドごとに赤・青それぞれのボールを6球ずつ投げ、ジャックボール（目標球）と呼ばれる白いボールにどちらがより近づけられるかを競う。 1 投ごとに展開が変わる頭脳戦である。
フライングディスク	誰でも	プラスチック製の円盤（ディスク）を使って行う。 ①5m または 7m（どちらかを選択）離れたアキュラシーゴール（内径 91.5cm）に向かってディスクを10回連続して投げて、通過した回数を競う。 ②3枚のディスクをできるだけ遠くに目掛けて投げ、3枚の内一番遠くに飛んだディスクの距離を計測し、その距離の長さを競う。
モルック	誰でも	モルック（木の棒）を投げて、倒れたスキットル（木製のピン）の内容によって得点を加算していき、先に50点ピッタリになるまで得点した方が勝利する。

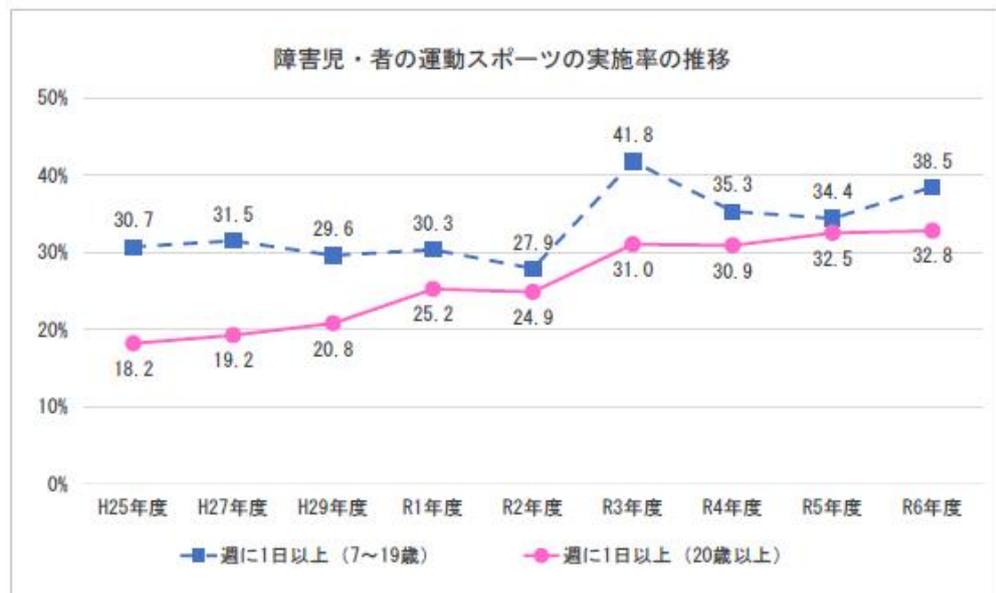
出所：機構作成

## (2) 障害者のスポーツ実施状況

「令和4年生活のしづらさなどに関する調査」(厚生労働省)によると、全国の障害者の総数は、1164.6万人(うち身体障害者423万人、知的障害者126.8万人、精神障害者614.8万人)と推計されている。

また、令和6年度「障害児・者のスポーツライフに関する調査」(スポーツ庁)によると、過去1年間に障害児・者が週1日以上、何らかの運動・スポーツを実施していた割合は20歳以上32.8%、7～19歳38.5%であり、全国で400万人弱程度の障害児・者が週1日以上の運動・スポーツに取り組んでいると推測される。

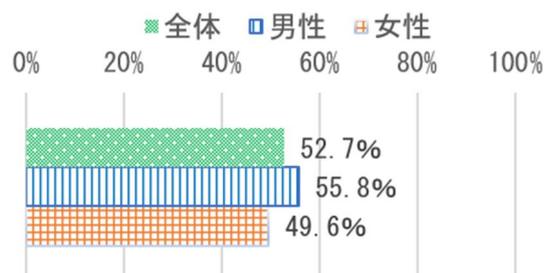
図表 2-1-4 障害者の運動・スポーツの実施率



出所：スポーツ庁 令和6年度「障害児・者のスポーツライフに関する調査」より

しかし、障害の有無を問わず、全国で幅広く実施した令和6年度「スポーツの実施状況等に関する世論調査」(スポーツ庁)によると、国民の週1日以上のスポーツ実施率は52.7%となっており、障害者のスポーツ実施率(20歳以上32.8%、7～19歳38.5%)は相対的に低いことが分かる。

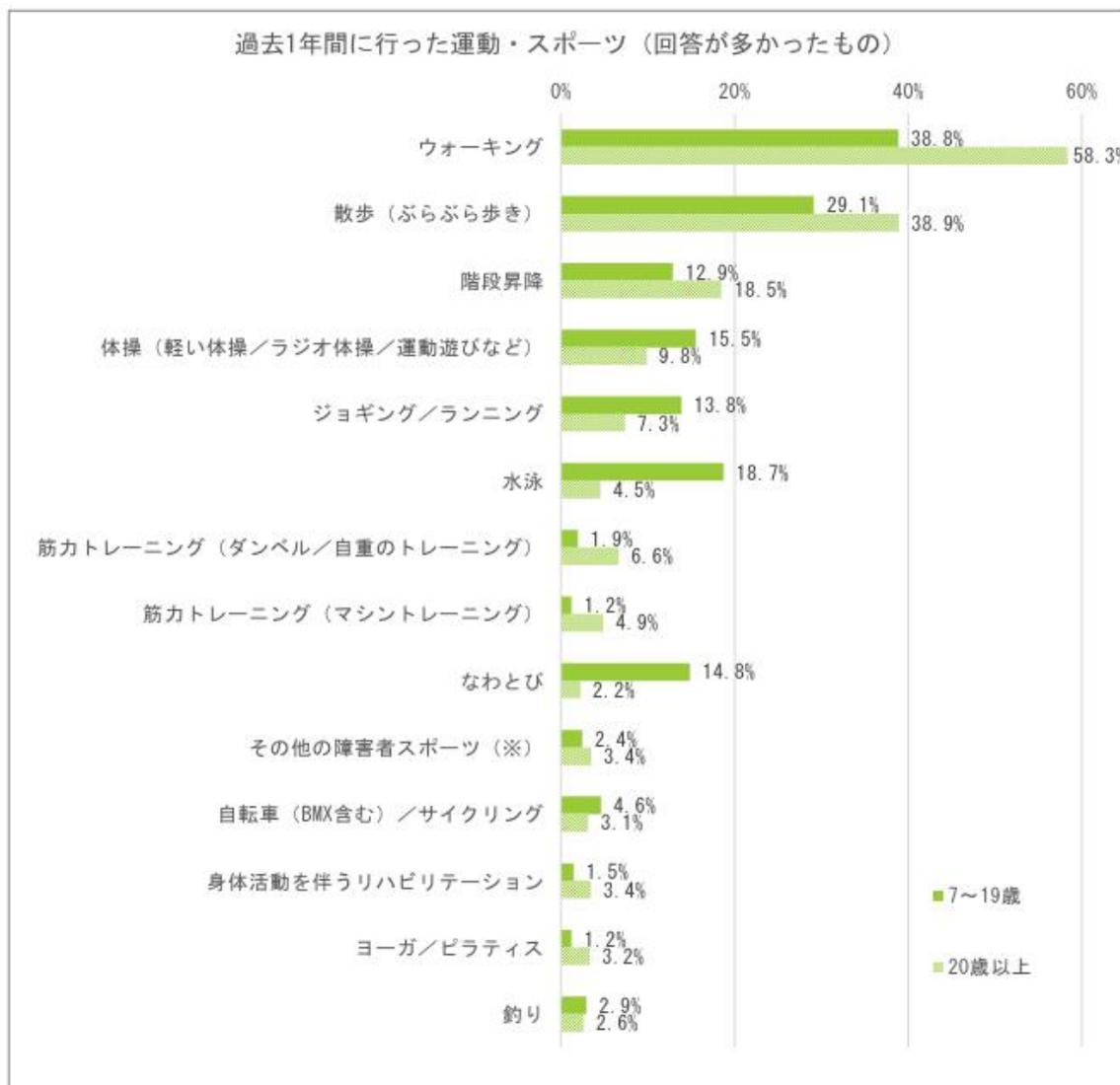
図表 2-1-5 国民のスポーツの実施率



出所：スポーツ庁 令和6年度「スポーツの実施状況等に関する世論調査」より機構作成

また、過去1年間に運動・スポーツを「実施した」と回答した障害児・者が、どのような運動・スポーツを行ったかについて、上位種目をまとめると、「ウォーキング」の割合が最も高く、次いで「散歩（ぶらぶら歩き）」、「階段昇降」という順番となった。

図表 2-1-6 過去1年間に行ったスポーツ等（回答が多かったもの）



（※）アーチェリー／ボウリング／バドミントン／乗馬／カヌー／自転車競技／射撃／柔道／セーリング／テコンドー／馬術／バドミントン／ボート／アイスホッケー／車いすカーリング／バイアスロン／パワーリフティング／スノーボード／チェアスキー・パイスキー／シットスキー 等

出所：スポーツ庁 令和6年度「障害児・者のスポーツライフに関する調査」より

一方、2018年度「障害者スポーツ競技団体の実態調査」（公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団）によると、障害者スポーツ競技団体の登録者数は70,334人（パラリンピック競技団体4,406人+パラリンピック競技以外の団体65,928人）となっており、全国で延べ7万人程度の障害者が、競技としてのスポーツに取り組んでいることが分かる。

図表 2-1-7 障害者スポーツ競技団体の登録者数等

		全体			パラリンピック競技団体			パラリンピック競技以外の団体		
		合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子
競技登録者数	N	39	37	37	19	18	18	20	19	19
	平均値	1,803	1,104	751	232	165	42	3,296	1,994	1,423
	中央値	115	93	17	100	67	19	228	200	17
	総計	70,334	40,853	27,800	4,406	2,966	759	65,928	37,887	27,041
国際大会を目指す競技者数	N	35	34	34	20	20	20	15	14	14
	平均値	39	29	7	40	30	10	37	28	4
	中央値	26	18	4	31	21	11	15	11	0
	総計	1,351	998	253	796	601	195	555	397	58
団体チーム登録数	N	27	12	11	12	5	5	15	7	6
	平均値	41	31	8	62	57	16	24	13	2
	中央値	25	14	0	25	16	8	26	12	0
	総計	1,102	377	91	746	284	82	356	93	9
指導者数	N	30	26	26	12	12	12	18	14	14
	平均値	397	107	33	19	15	5	648	187	56
	中央値	14	10	2	10	9	2	21	13	2
	総計	11,902	2,786	845	230	175	55	11,672	2,611	790
審判員数	N	31	28	28	12	12	12	19	16	16
	平均値	83	14	3	10	8	2	129	19	4
	中央値	8	6	0	6	5	1	12	6	0
	総計	2,583	402	95	124	98	26	2,459	304	69

出所：公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団 2018年度「障害者スポーツ競技団体の実態調査」より

## 2 障害者のスポーツに関する政策・関連団体等

「スポーツ基本法」において、スポーツは「世界共通の人類の文化」と示されている。スポーツを「する」「みる」「ささえる」という様々な形での自発的な参画を通じて、より多くの人がスポーツの楽しさや感動を分かち合うようなスポーツ文化の成熟に向けて、「スポーツ基本計画」において必要な方針や具体的施策等を示すことが求められている。

文部科学省の「第3期スポーツ基本計画」では、スポーツを「他の分野にも貢献し、優れた効果を波及したり、様々な社会課題を解決したりすることができるという社会活性化等に寄与するもの」と位置づけ、スポーツの実施率の目標を設定するなど、スポーツの取組を推進するための各種施策等がまとめられている。なお、同計画では、障害者のスポーツの実施率に関する目標として、「成人の週1回以上のスポーツ実施率が40%、成人の年1回以上のスポーツ実施率が70%程度になること」を目指すと掲げている。

これまでの文部科学省及びスポーツ庁の主な取組は、図表2-2-1のとおりである。

図表 2-2-1 文部科学省及びスポーツ庁の障害者スポーツの推進に係る各種取組

	文部科学省	スポーツ庁
2012年	・ 健常者と障害者のスポーツ・レクリエーション活動連携推進事業（2012～2014年度）	
2014年	・ 障害者のスポーツ参加における安全確保に関する調査研究	
2015年	・ 地域における障害者スポーツ普及促進事業	・ 10月1日スポーツ庁創設
2016年		・ 地域における障害者スポーツ普及促進事業（2016～2017年度） ・ 特別支援学校等を活用した障害児・者のスポーツ活動実践事業
2018年	・ 障害者活躍推進プランにおける、6つの政策プランのうちの一つに障害者のスポーツ活動を支援する「障害者のスポーツ活動推進プラン」を策定	・ 障害者スポーツ推進プロジェクト開始（2018年度～現在まで継続中だが、2025年度はパラスポーツ推進プロジェクトに名称変更している。）
2024年		・ 10月1日「U-SPORT PROJECT」を立ち上げ

出所：スポーツ庁ホームページ

## (1) 文部科学省の主な政策

### ① 健常者と障害者のスポーツ・レクリエーション活動連携推進事業

「健常者と障害者のスポーツ・レクリエーション活動に関する連携実践研究」と「地域における障害者のスポーツ・レクリエーション活動に関する調査研究」の2本の事業を通じて、健常者と障害者が一緒に楽しめるスポーツ・レクリエーション活動を推進するための事業である。

### ② 地域における障害者スポーツ普及促進事業

全国各地で障害の有無に関わらずスポーツを行うことができる社会を実現するため、国が、各地域において障害者のスポーツに取り組みやすい環境の整備を促進することを目的としている。

### ③ 障害者のスポーツ活動推進プラン

障害者活躍推進プランのうち、スポーツ分野に関するプランで、小・中・高等学校の体育・スポーツも含めて「アダプテッド・スポーツ」の視点・ノウハウを関係者に普及し、①誰もがスポーツを親しむ機会を奪われないようにすること、②より多くの人が身近にスポーツをできるような環境づくりを加速させることを目的として策定されたプランである。

## (2) スポーツ庁の主な政策

### ① パラスポーツ推進プロジェクト（2024年度以前は障害者スポーツ推進プロジェクト）

第3期スポーツ基本計画等を踏まえ、①障害者と健常者がともにするスポーツ環境づくり、②障害者のスポーツに向けた障壁解消、③パラスポーツ団体の基盤強化に向けた他団体・民間企業との連携促進や、地域におけるスポーツ・福祉・医療健康・教育各部署の連携体制の促進、④特別支援学校等の児童生徒のスポーツ活動環境の充実に取り組むための事業である。

### ② U-SPORT PROJECT

東京2020パラリンピック競技大会で醸成された「スポーツを通じた共生社会の実現」に向けた機運を確かなものとするために、障害者と健常者が身近な場所でスポーツをともに実施できる環境の整備や、パラスポーツ団体、民間企業・地方公共団体等の関係団体の連携体制の構築等を促進することを目的とした事業である。

## (3) 障害者スポーツの関連団体

### ① 公益財団法人日本パラスポーツ協会

身体障害者スポーツの普及・振興を図る統括組織として、昭和40年に財団法人日本身体障害者スポーツ協会が設立された。その後、幾度かの組織・名称変更を経たうえで、令和3年10月1日、東京2020大会後のレガシーとして、公益財団法人日本パラスポーツ協会（以下、「JPSA」という。）という現在の名称に変更した。

主な事業内容は、パラスポーツの振興、全国障害者スポーツ大会の開催等、地域における障害者のスポーツ振興、障害者のスポーツの理解促進を目的とした普及・啓発事業である。

### ア. パラスポーツ振興の理念

JPSA では、パラスポーツ振興の理念として、「①障害の有無、性別、年齢、国籍や価値観、性格の違いなどの多様性を尊重し、誰もが個性を発揮して活躍できる社会を目指す。」、「②スポーツは、心身の健全な発達、健康及び体力の保持促進、自律心を養うとともに、社会の一員としての人格形成に寄与する。このようなスポーツの価値を障害のある全ての人々が共有できるようにする。」、「③スポーツを通じて、社会の障害に対する理解を深め、障害者の社会参加を広げる。」の3点を掲げている。

### イ. 果たすべき使命と 2030 年目標

JPSA では、果たすべき使命と 2030 年目標として、図表 2-2-2 の事項を掲げている。

図表 2-2-2 果たすべき使命と 2030 年目標

	果たすべき使命	2030 年目標
1	パラスポーツの普及拡大の実現 ・パラスポーツの普及拡大の環境づくり ・公認障害者スポーツ指導者の育成 ・パラスポーツ振興に関する連携・協働 ・パラスポーツに関する調査・研究	・障害者成人の週 1 回以上のスポーツ実施率目標（文部科学省）達成への貢献 ・公認障害者スポーツ指導者の資格保有者が全国で 5 万人
2	全国における行政、学校、関係諸団体等との強い連携・協働 ・県市等におけるパラスポーツ振興への支援 ・県市等におけるスポーツ関係団体間の連携の支援	・全国の全ての県市等において障害者が日常的にスポーツを楽しむ環境が整いスポーツに参加 ・全国の全ての県市等において障害者スポーツ協会、同指導者協議会、行政が連携を深め、三者が主体的にパラスポーツ振興を推進
3	競技力の向上とパラスポーツの価値・魅力の向上 ・競技力の向上 ・日本での主要国際大会開催への協力 ・球技大会・パラアスリートへのスポーツインテグリティ <sup>1</sup> の向上	・パラリンピックのメダル目標東京 2020 大会の成績等を考慮して別途検討 ・パラリンピック・デフリンピック等の各種実施競技の国際大会を日本で毎年開催 ・全ての競技大会の法人化とガバナンスコード <sup>2</sup> を遵守した自律的な運営の実現
4	パラスポーツを通じた国際協力の推進 ・国際協力	・国際機関（IPC 等）の役員や競技運営役員等を輩出
5	共生社会実現に向けた国民の意識変革の促進 ・パラスポーツの理解促進及び広報	・意識調査でパラスポーツ・共生社会に関する国民の理解・意識改革が着実に進展
6	JPSA の万全な基盤づくりの実現 ・JPSA の体制の強化 ・財政基盤の充実・安定化	・部門を超えて対応できる柔軟な JPSA 組織の実現 ・JPSA オフィシャルパートナーの拡大（40 社）と JPC スポンサー制度の新設による財政基盤の確立

出所：公益財団法人日本パラスポーツ協会ホームページより機構作成

<sup>1</sup> スポーツが様々な脅威により欠けるところなく、価値ある高潔な状態

<sup>2</sup> スポーツ団体が適切な組織運営を行う上での原則・規範

## ウ. パラスポーツ指導者制度

JPSA 及び加盟団体が認定する公認のパラスポーツ指導者制度であり、パラスポーツに関する専門知識・技術を有する人材の養成、資質向上を目的としている。6種類の資格（①初級パラスポーツ指導員、②中級パラスポーツ指導員、③上級パラスポーツ指導員、④パラスポーツコーチ、⑤パラスポーツトレーナー、⑥パラスポーツ医）を設けており、令和6年3月31日現在、全国の公認パラスポーツ指導者数は28,017人（うち、①～③は計26,943人、④～⑥は計1,074人）となっている。

### ②一般社団法人パラスポーツ推進ネットワーク

2018年11月、競技団体の大会運営、広報活動をサポートするために設置された。

主な事業内容は、競技団体サポート（大会運営サポート、広報サポート等）、渉外広報（パラスポーツ活性化のための広報活動、パラスポーツ関係団体との渉外活動）、事業開発（地域プロジェクト）である。

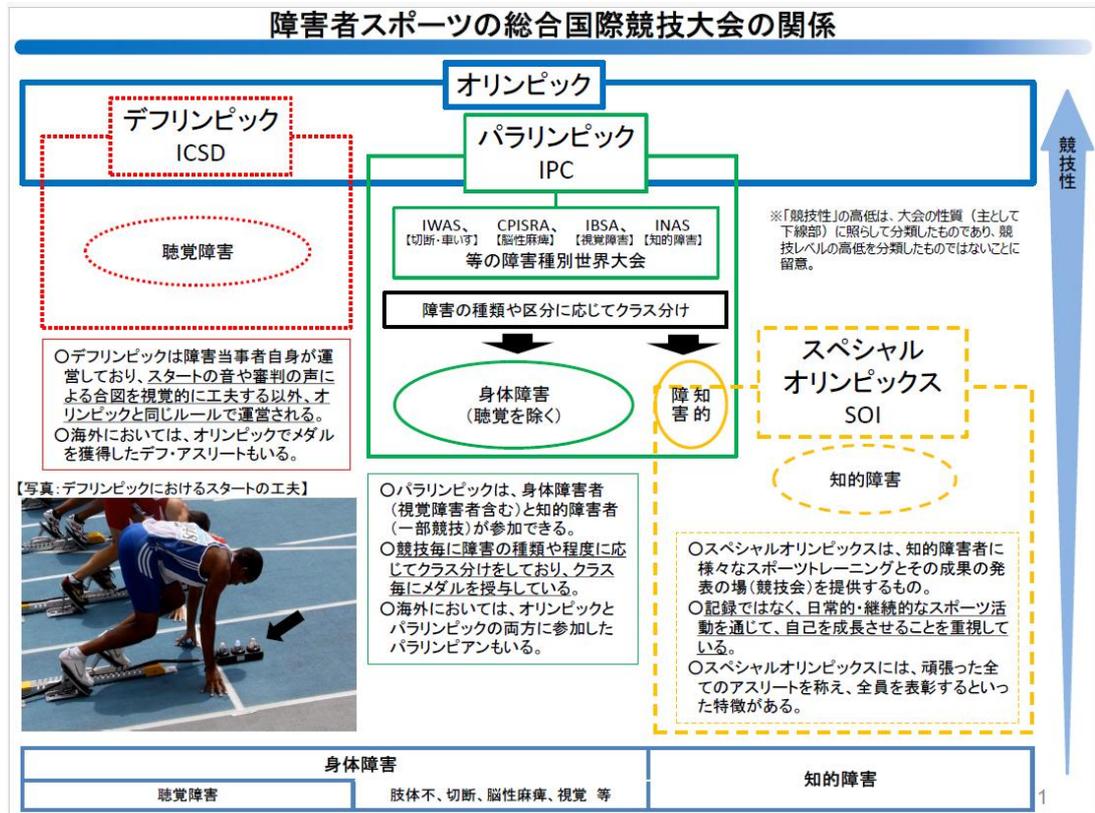
### ③パラスポーツ指導者協議会

パラスポーツ指導者の指導技術の向上と指導者相互の連携を図り、パラスポーツの指導活動を促進し、指導体制の確立を図るために設置された。

主な事業内容は、指導者の指導技術向上の研修等、指導者相互の連携に関すること、指導者の活動の促進および指導体制の確立に関すること、JPSAと各都道府県および指定都市の指導者協議会との連絡調整に関することである。

(4) デフリンピック、パラリンピック、スペシャルオリンピック、その他の競技大会について  
 障害者スポーツでは、以下のような競技大会が開催されている。

図表 2-2-3 障害者スポーツの総合国際競技大会



出所：スポーツ庁ホームページ

### ①デフリンピック

主催は、国際ろう者スポーツ委員会（ICSD）で、4年に一度、世界的規模で行われる聴覚障害者のための総合スポーツ競技大会である。

### ②パラリンピック

主催は、国際パラリンピック委員会（IPC）で、オリンピック終了後に同じ開催地で開催される障害者スポーツの最高峰の大会（聴覚障害者を除く）である。4年に1度、夏季競技大会と冬季競技大会が開催される。

### ③スペシャルオリンピックス世界大会

主催は、スペシャルオリンピックス国際本部（SOI）で、4年に1度、夏季及び冬季に開催される知的障害者のスポーツの世界大会である。

### ④全国障害者スポーツ大会

主催は、JPSA、文部科学省、開催地都道府県・指定都市、開催地市町およびその他関係団体で、障害者がスポーツ大会に参加し、スポーツを楽しむことはもちろん、国民の障害に対する理解を深め、障害者の社会参加を推進することを目的としている

### 第3章 障害者手帳所持者向けアンケート調査結果



### 第3章 障害者手帳所持者向けアンケート調査結果

#### 1 障害者手帳所持者向けアンケート調査の概要

##### (1) 目的

今後のさいたま市における障害児・者の運動・スポーツ政策の方向性を検討する基礎資料とするため、障害児・者のスポーツに関する意識や価値観、実態、ニーズ等を把握することを目的として実施した。

##### (2) 調査対象・サンプル数

調査対象	障害者手帳所持者（身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳）を有する人
調査方法	・PC・スマホ等によるWEB回答方式 （備考）2つの方法で調査を依頼した。 ① 紙の依頼状（回答用二次元バーコード・URL、音声コード付）を自宅に郵送。 ② さいたま市ホームページ、SNS等による周知。 ・本人が回答を入力することが困難な場合は、家族や介助者等が回答入力を補助いただくよう依頼した。（52.8%は本人が回答し、47.2%は家族や介助者等の補助により回答がなされた）
サンプル数	566

##### (3) 調査期間

令和7年7月28日（月）から令和7年8月22日（金）を調査期間とした。

##### (4) その他留意事項

- ・選択肢にあるにも関わらず、その他自由回答に記載している場合など、適宜ローデータの修正を行っている。
- ・集計結果は有効回答数を母数として百分率で示している。また、その値は小数第一位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。
- ・この報告書の図表見出し及び文章中での回答選択肢は、本来の意味を損なわない程度に省略して掲載している場合がある。
- ・nは回答者数とする。
- ・【SA】は単一回答、【MA】は複数回答可、【FA】は自由回答の設問を示す。
- ・障害者ご本人以外（ご家族、介助者等）が回答する場合も、障害者ご本人の属性やご意見について、回答している。

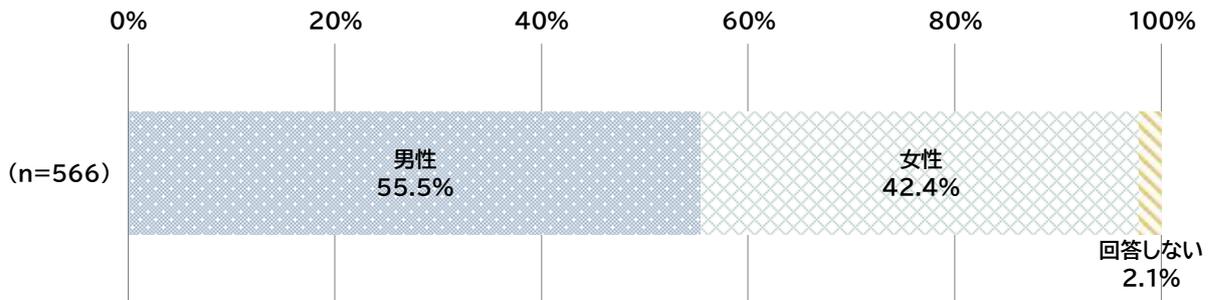
## 2 アンケート集計結果

### (1) 回答者の属性

#### ①性別・年齢【SA】

「男性」が55.5%とやや多く、30代以下が60%以上を占める。

図表 3-2-1 性別



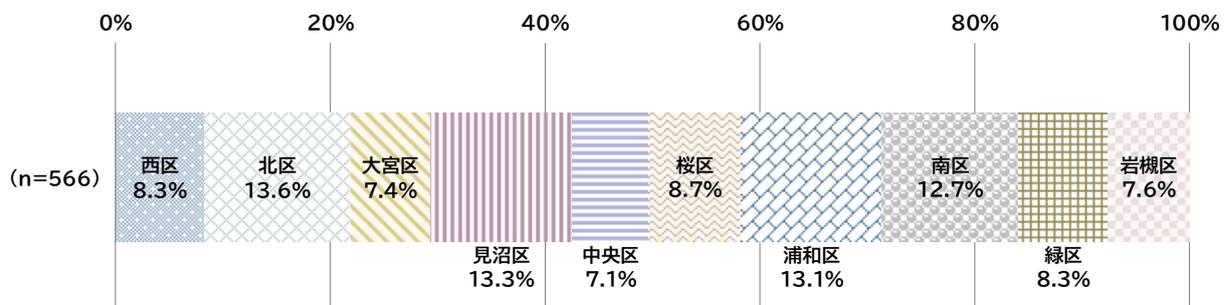
図表 3-2-2 年齢



#### ②居住地【SA】

「北区」、「見沼区」、「浦和区」、「南区」がそれぞれ10%以上で、半数以上を占める。

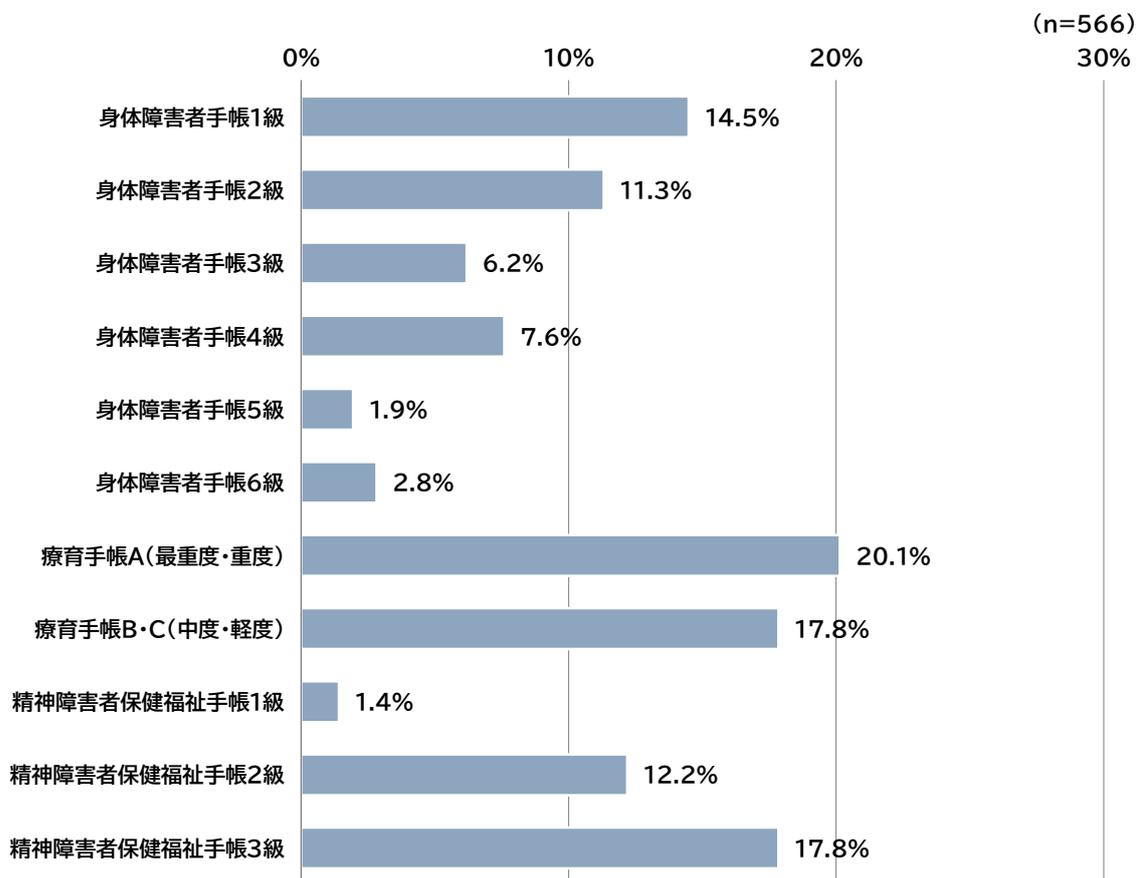
図表 3-2-3 居住地



### ③障害者手帳の所持状況【MA】

「療育手帳A（最重度・重度）」の割合が最も高く20.1%である。次いで、「療育手帳B・C（中度・軽度）」（17.8%）、「精神障害者保健福祉手帳3級（17.8%）」の割合が高い。

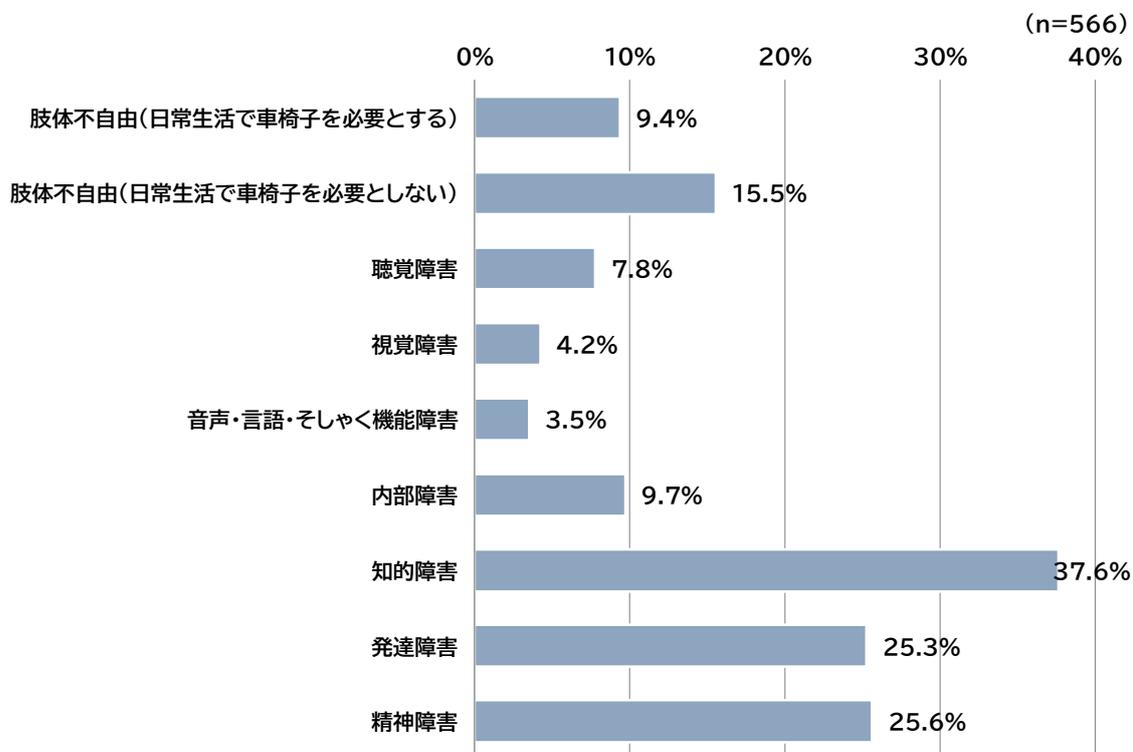
図表 3-2-4 障害者手帳の所持状況



#### ④障害の種類【MA】

「知的障害」の割合が最も高く 37.6%である。次いで、「精神障害 (25.6%)」、「発達障害 (25.3%)」の割合が高い。

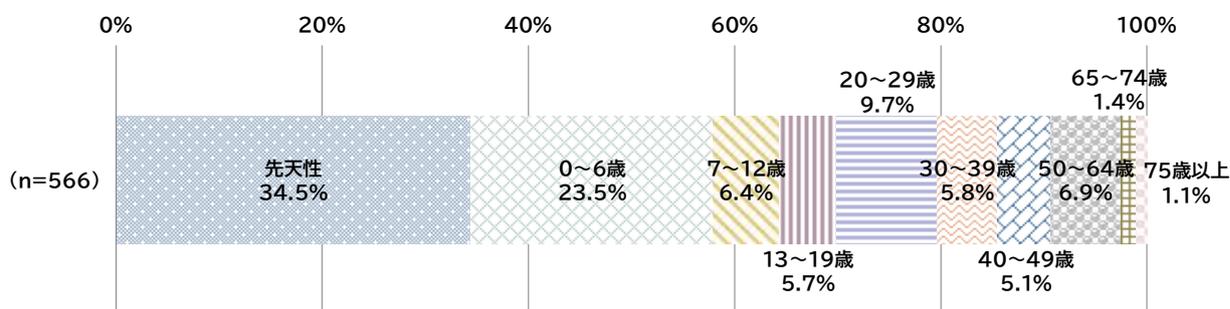
図表 3-2-5 障害の種類



#### ⑤障害が発生した年齢【SA】

「先天性」と「0～6歳」で約 60%を占める。

図表 3-2-6 障害が発生した年齢



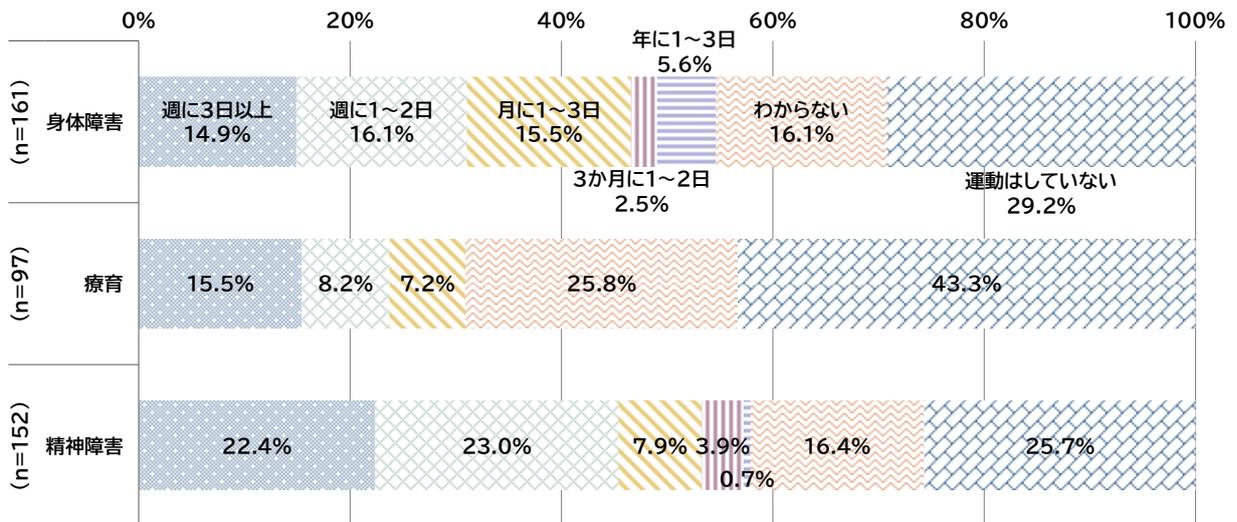
※（１）⑤で「先天性」と回答した方以外

⑥障害が発生する前における運動・スポーツを行った日数【SA】

（障害種別クロス集計結果）

・週1日以上に着目すると、精神障害（45.4%）は、身体障害（31.0%）、療育（23.7%）と比べて、10ポイント以上高い。

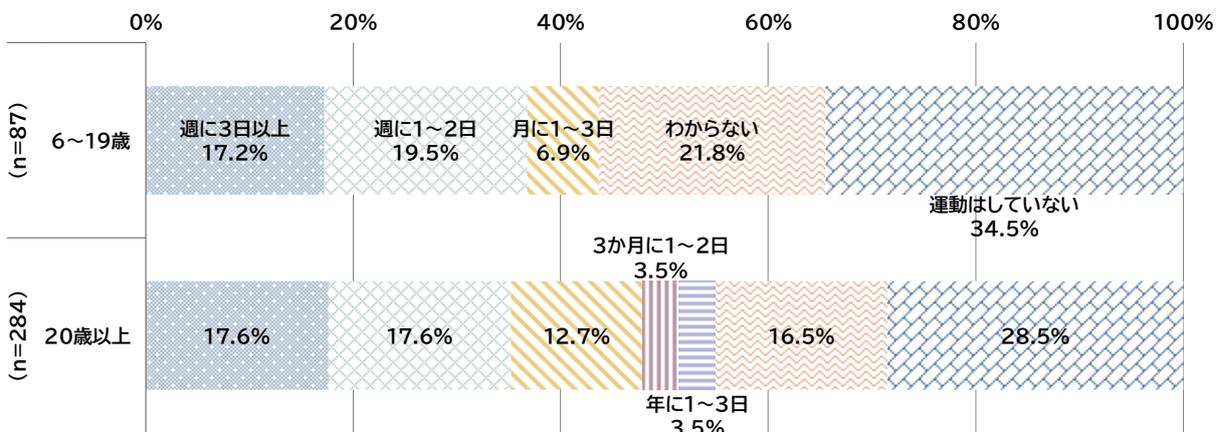
図表 3-2-7 障害が発生する前における運動・スポーツを行った日数（障害種別）



（6~19歳・20歳以上別クロス集計結果）

・週1日以上に着目すると、年齢区分に関わらず、約35%である。

図表 3-2-8 障害が発生する前における運動・スポーツを行った日数（6~19歳・20歳以上別）

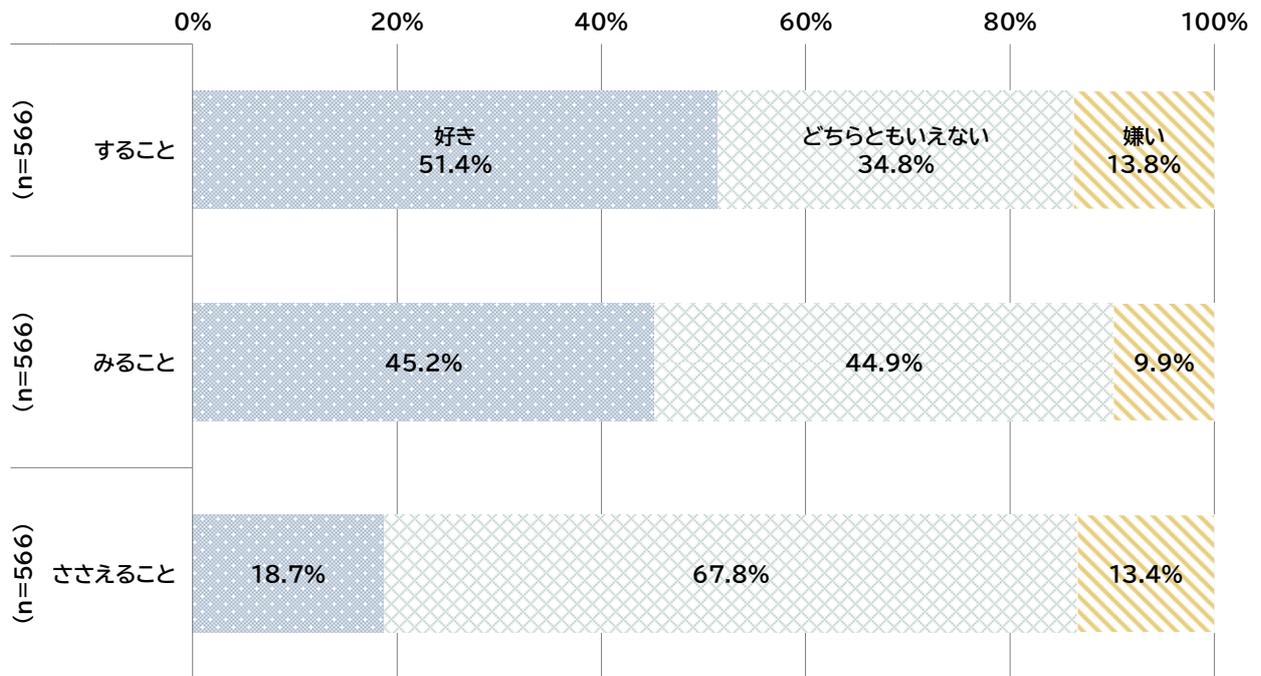


## (2) 運動・スポーツに対する意識・価値観

### ①運動・スポーツをする・みる・ささえることが好きか否か【それぞれ SA】

運動・スポーツをすること、みること、ささえることの順に「好き」の割合が高くなっていく。また、ささえることは「どちらともいえない」の割合が60%以上で突出して高い。

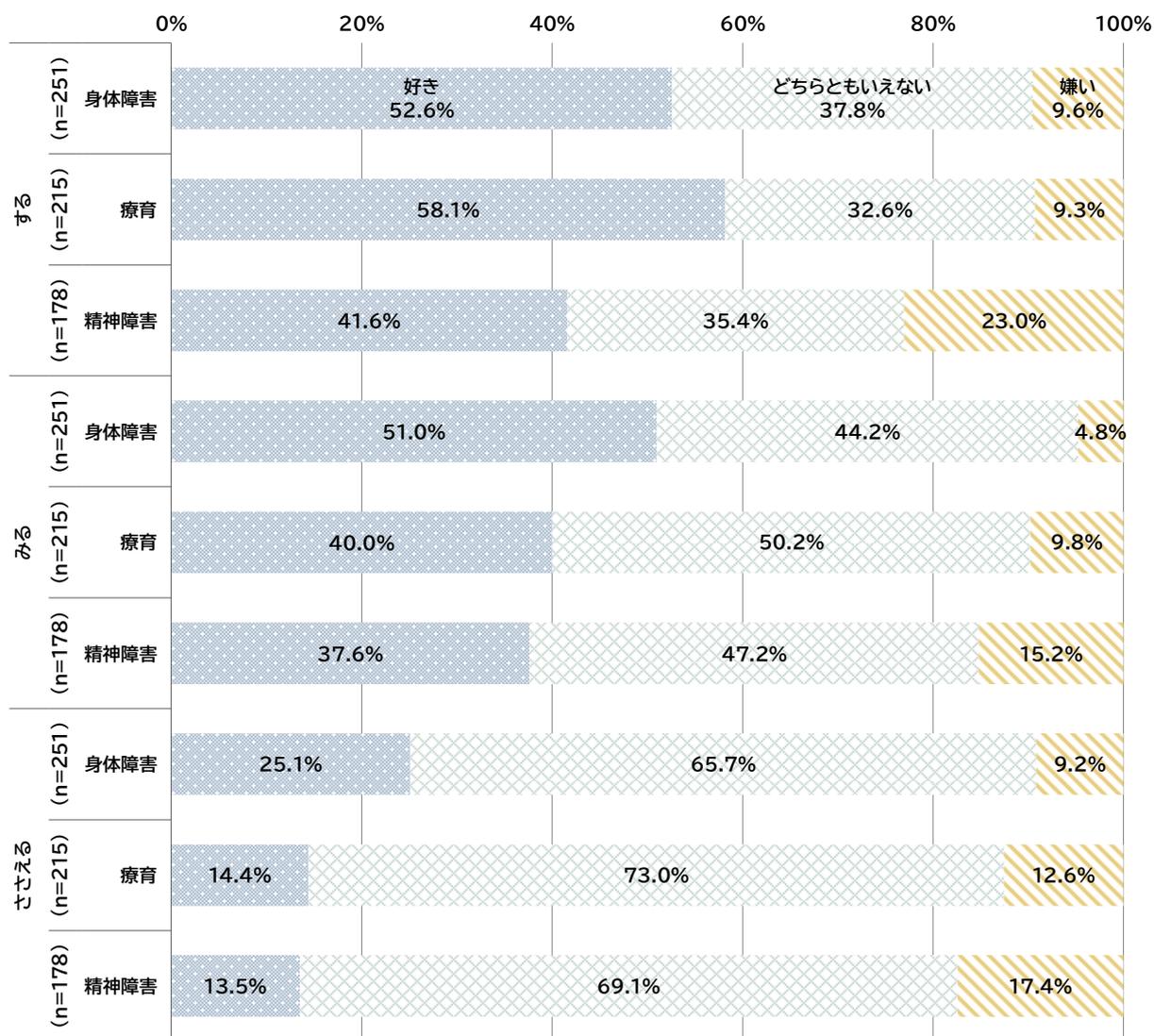
図表 3-2-9 運動・スポーツをする・みる・ささえることが好きか否か



(障害種別クロス集計結果)

- ・【する】について、身体障害、療育は精神障害と比べて、「好き（それぞれ 52.6%、58.1%）」の割合が 10 ポイント以上高い。
- ・【みる】について、身体障害は他の障害と比べて、「好き（51.0%）」の割合が 10 ポイント以上高い。
- ・【ささえる】について、身体障害は他の障害と比べて、「好き（25.1%）」の割合が 10 ポイント以上高い。

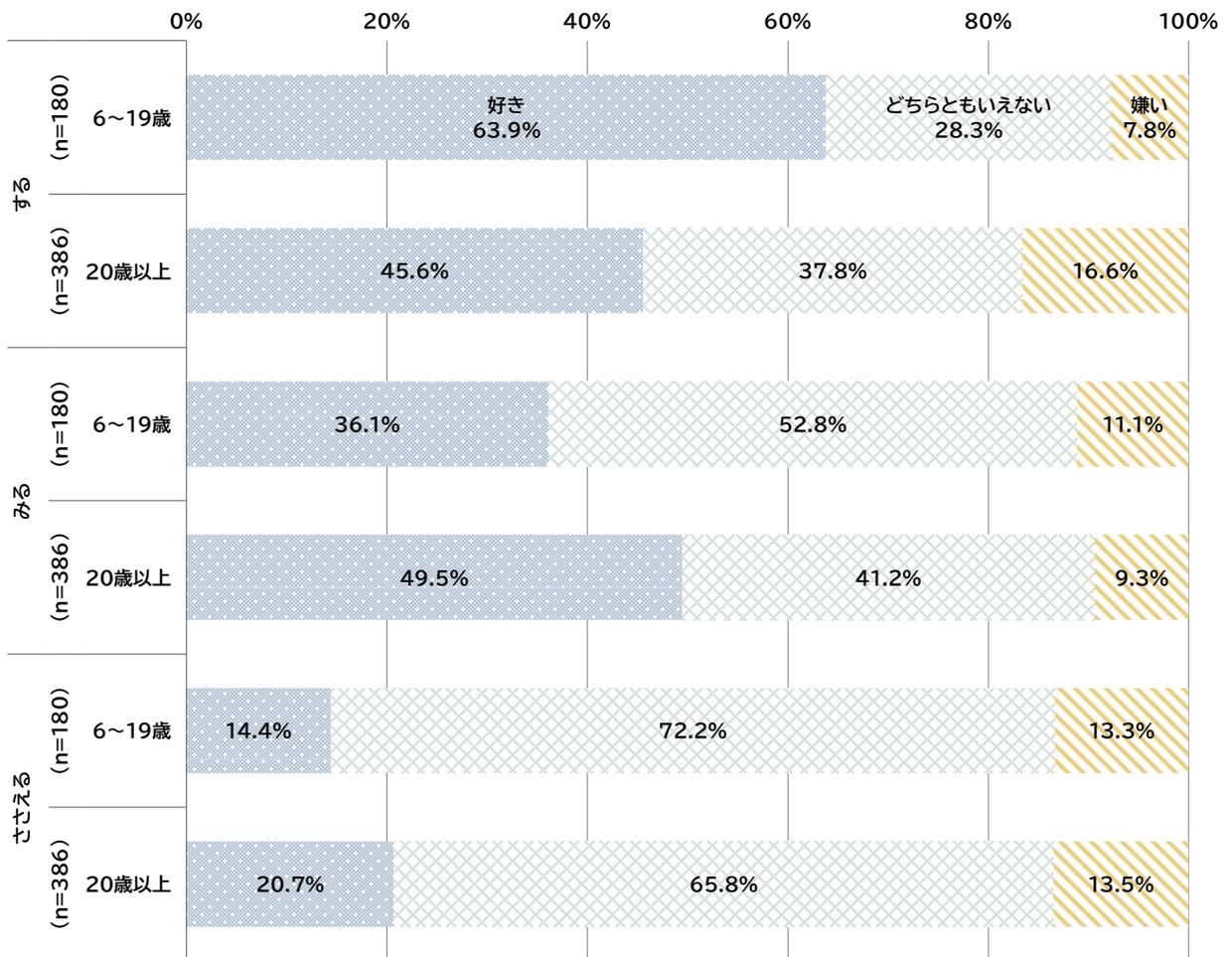
図表 3-2-10 運動・スポーツをする・みる・ささえることが好きか否か（障害種別）



(6～19歳・20歳以上別クロス集計結果)

- ・【する】について、6～19歳は20歳以上と比べて、「好き (63.9%)」の割合が10ポイント以上高い。
- ・【みる】について、20歳以上は6～19歳と比べて、「好き (49.5%)」の割合が10ポイント以上高い。
- ・【ささえる】について、年齢区分による違いは見られない。

図表 3-2-11 運動・スポーツをする・みる・ささえることが好きか否か (6～19歳・20歳以上別)

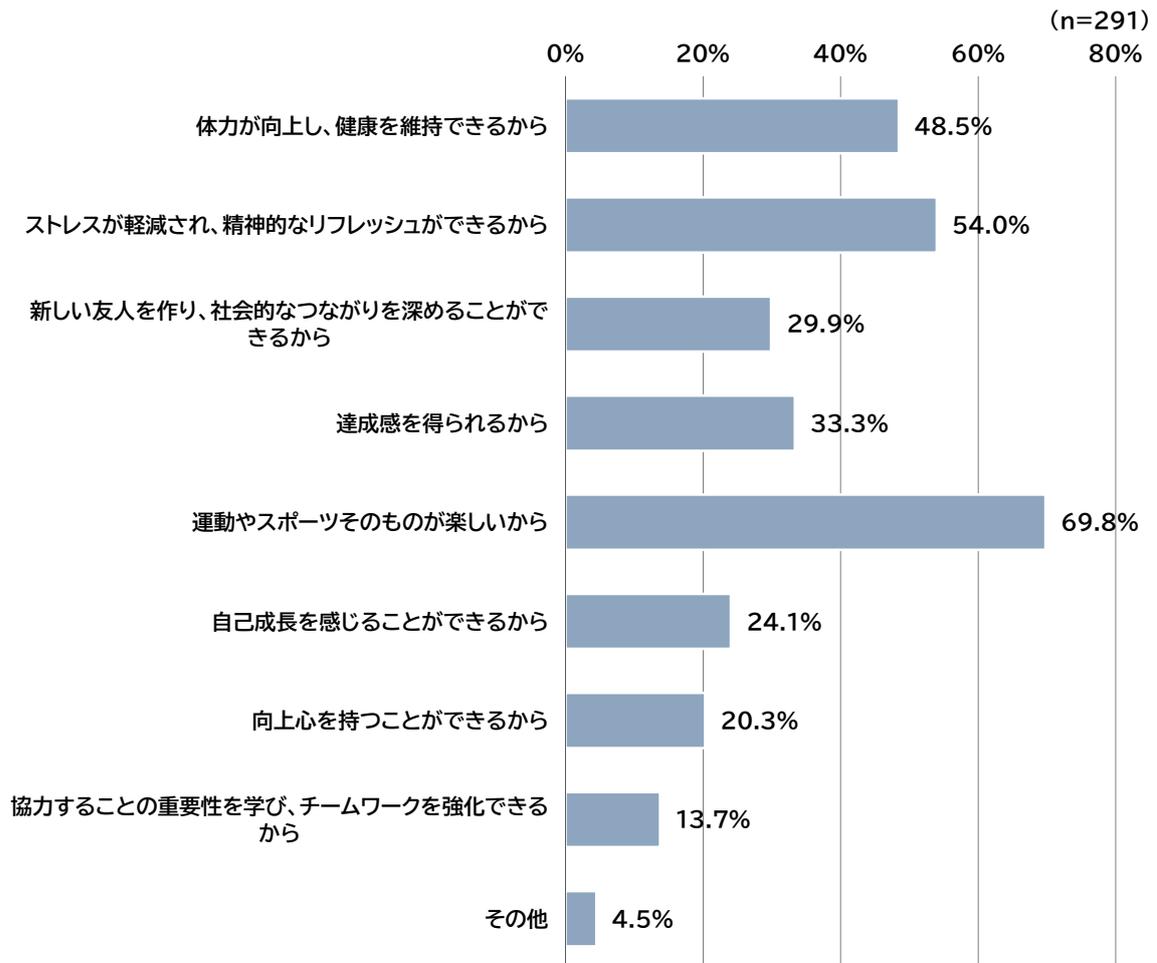


※（２）①で「運動・スポーツをすることが好き」と回答した方のみ

## ②運動・スポーツをすることが好きな理由【MA】

「運動やスポーツそのものが楽しいから」の割合が突出して高く約70%である。次いで、「ストレスが軽減され、精神的なリフレッシュができるから（54.0%）」、「体力が向上し、健康を維持できるから（48.5%）」の割合が高い。

図表 3-2-12 運動・スポーツをすることが好きな理由



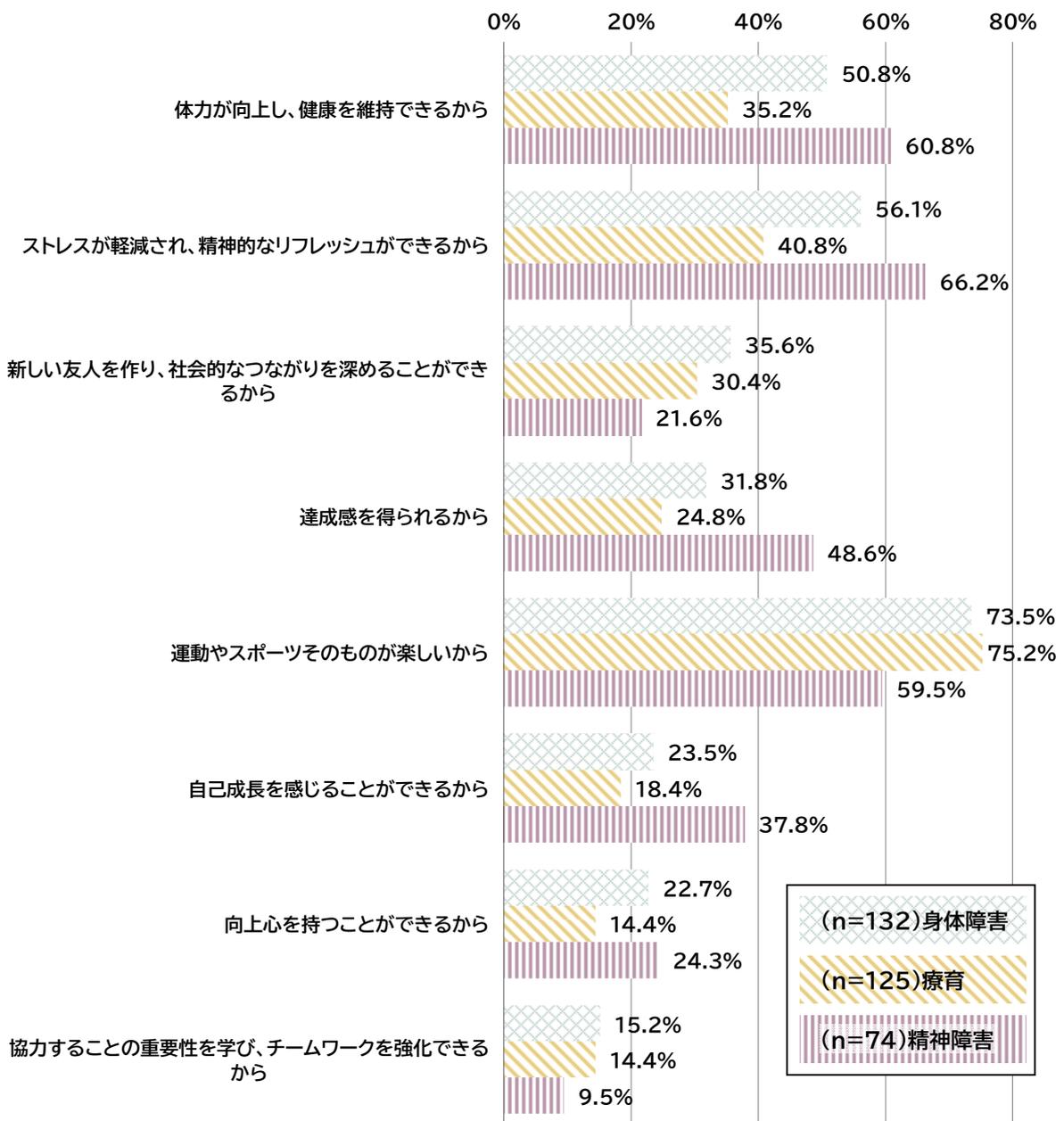
### その他

- 友達・仲間同士で楽しむことができる（２）
- 生きがい 等

(障害種別クロス集計結果)

- ・身体障害、療育は「運動やスポーツそのもの楽しいから（それぞれ 73.5%、75.2%）」の割合が突出して高く、精神障害と比べて、10 ポイント以上高い。
- ・精神障害は「ストレスが軽減され、精神的なリフレッシュができるから（66.2%）」の割合が最も高く、他の障害と比べて、10 ポイント以上高い。次いで、「体力が向上し、健康を維持できるから（60.8%）」で、他の障害と比べて、10 ポイント以上高い。

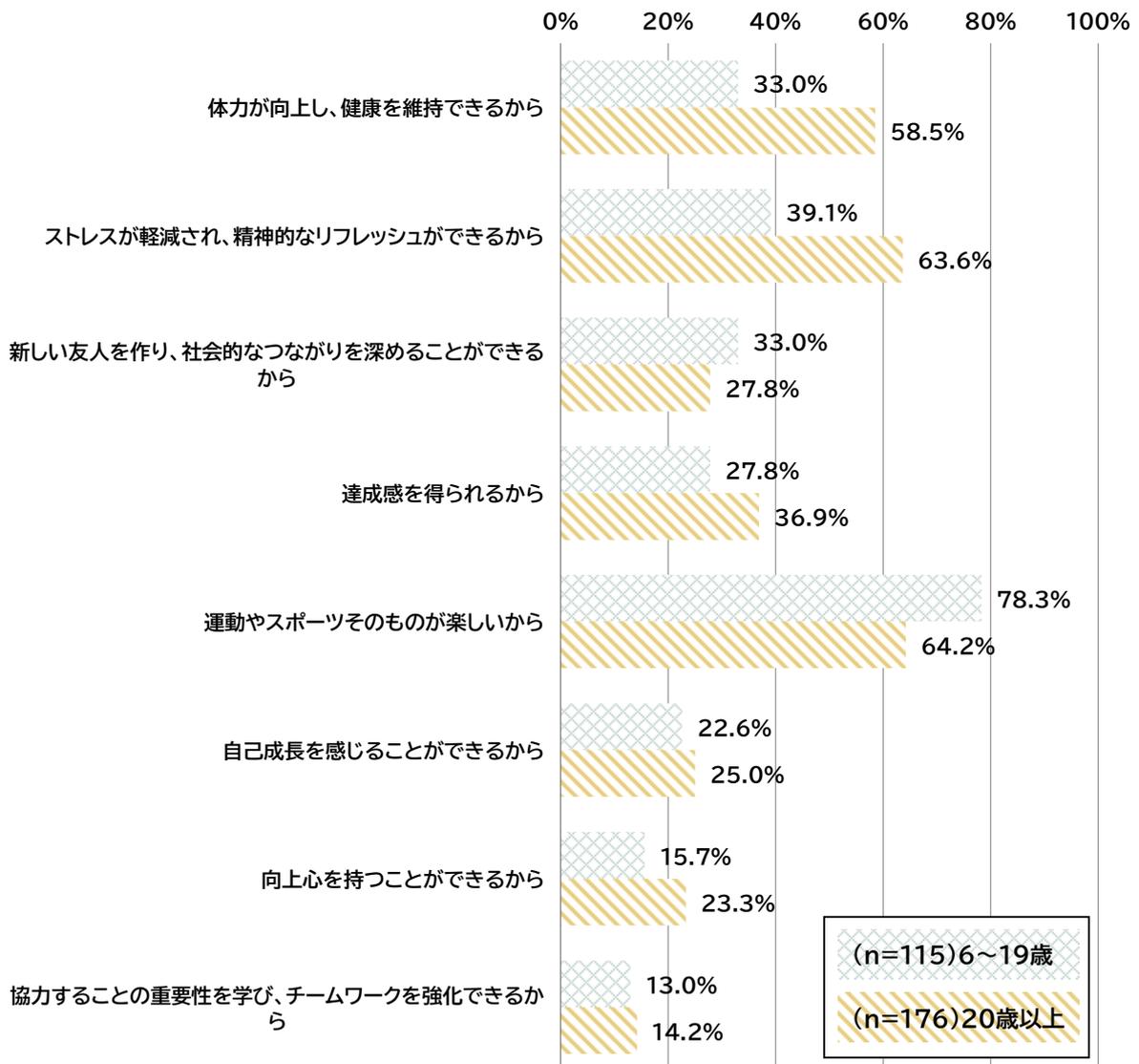
図表 3-2-13 運動・スポーツをすることが好きな理由（障害種別）



(6～19歳・20歳以上別クロス集計結果)

- ・6～19歳は「運動やスポーツそのもの楽しいから (78.3%)」の割合が突出して高く、20歳以上と比べて、10ポイント以上高い。
- ・20歳以上は6～19歳と比べて、「ストレスが軽減され、精神的なリフレッシュができるから (63.6%)」、「体力が向上し、健康を維持できるから (58.5%)」の割合が10ポイント以上高い。

図表 3-2-14 運動・スポーツをすることが好きな理由 (6～19歳・20歳以上別)

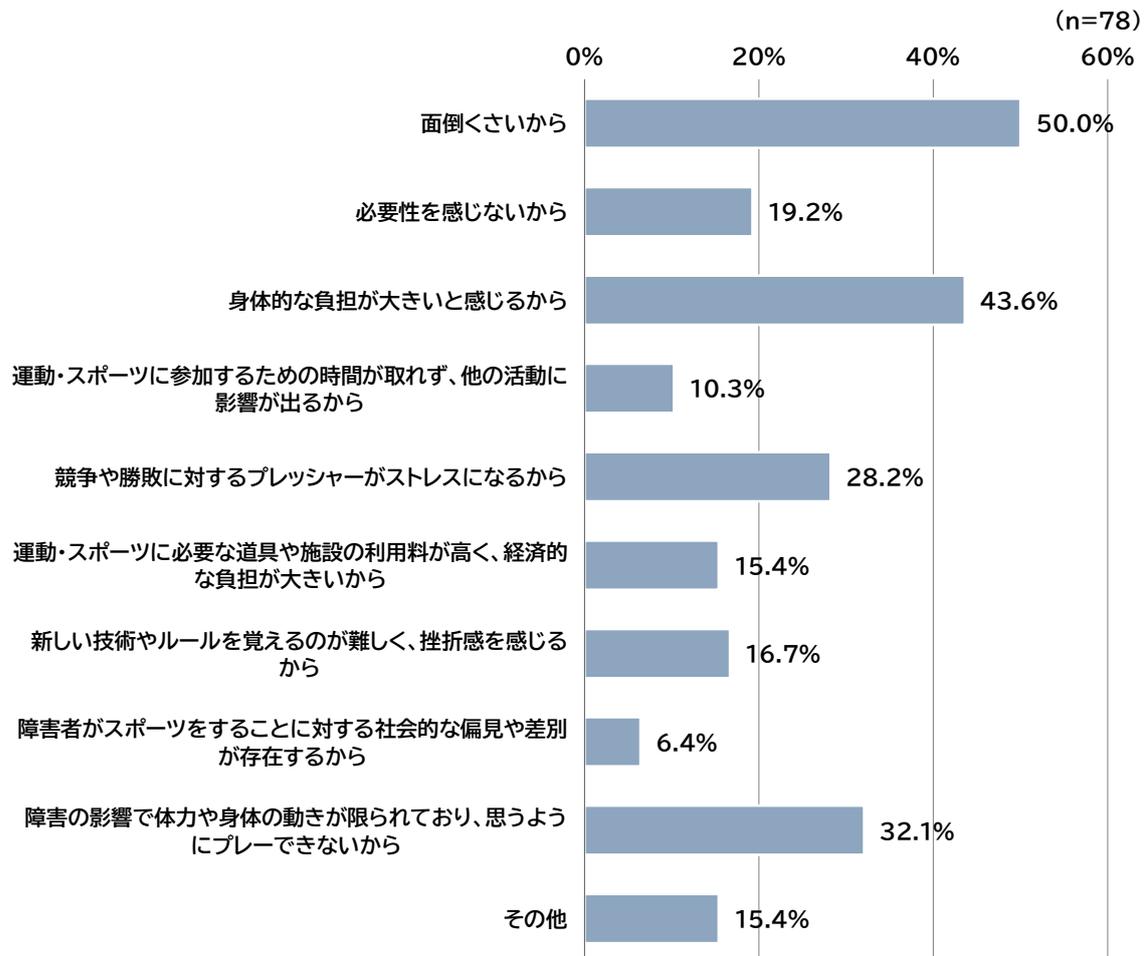


※ (2) ①で「運動・スポーツをすることが嫌い」と回答した方のみ

### ③運動・スポーツをすることが嫌いな理由【MA】

「面倒くさいから」の割合が最も高く 50.0%である。次いで、「身体的な負担が大きいと感じるから (43.6%)」である。

図表 3-2-15 運動・スポーツをすることが嫌いな理由



#### その他

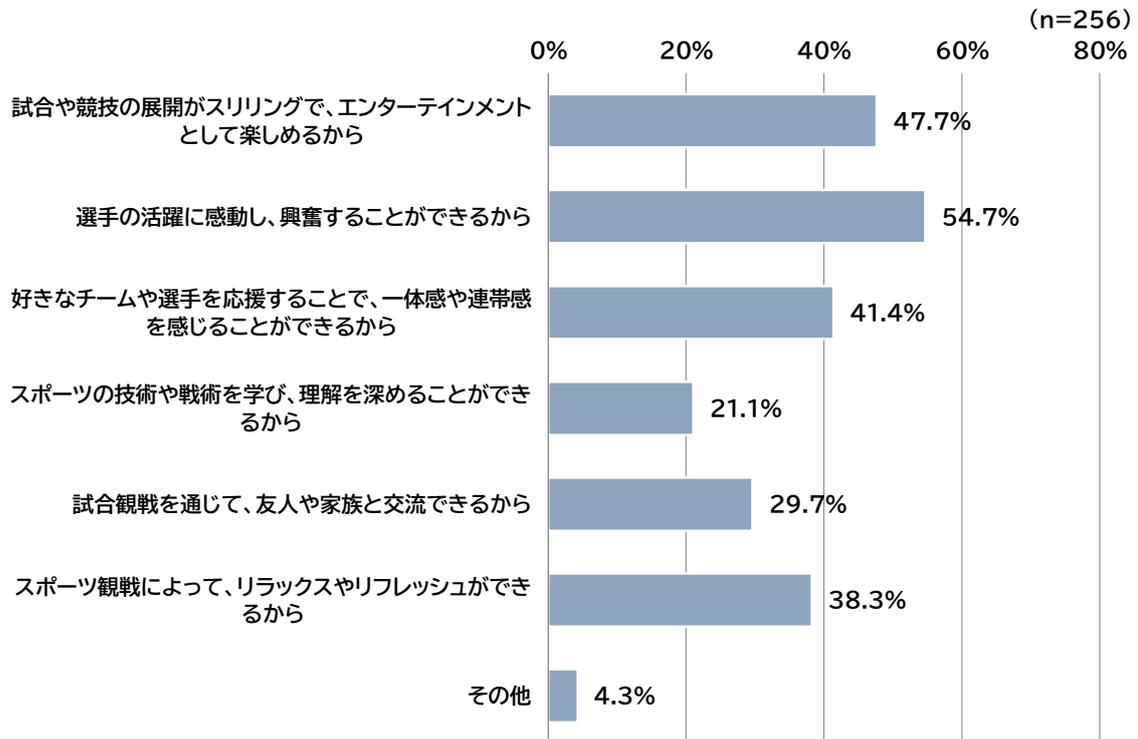
- スポーツを通してからかわれるなど、過去のトラウマがある (3)
- 興味がない 等

※（２）①で「運動・スポーツをみるのが好き」と回答した方のみ

#### ④運動・スポーツをみるのが好きな理由【MA】

「選手の活躍に感動し、興奮することができるから」の割合が最も高く 54.7%である。次いで、「試合や競技の展開がスリリングで、エンターテインメントとして楽しめるから（47.7%）」である。

図表 3-2-16 運動・スポーツをみるのが好きな理由



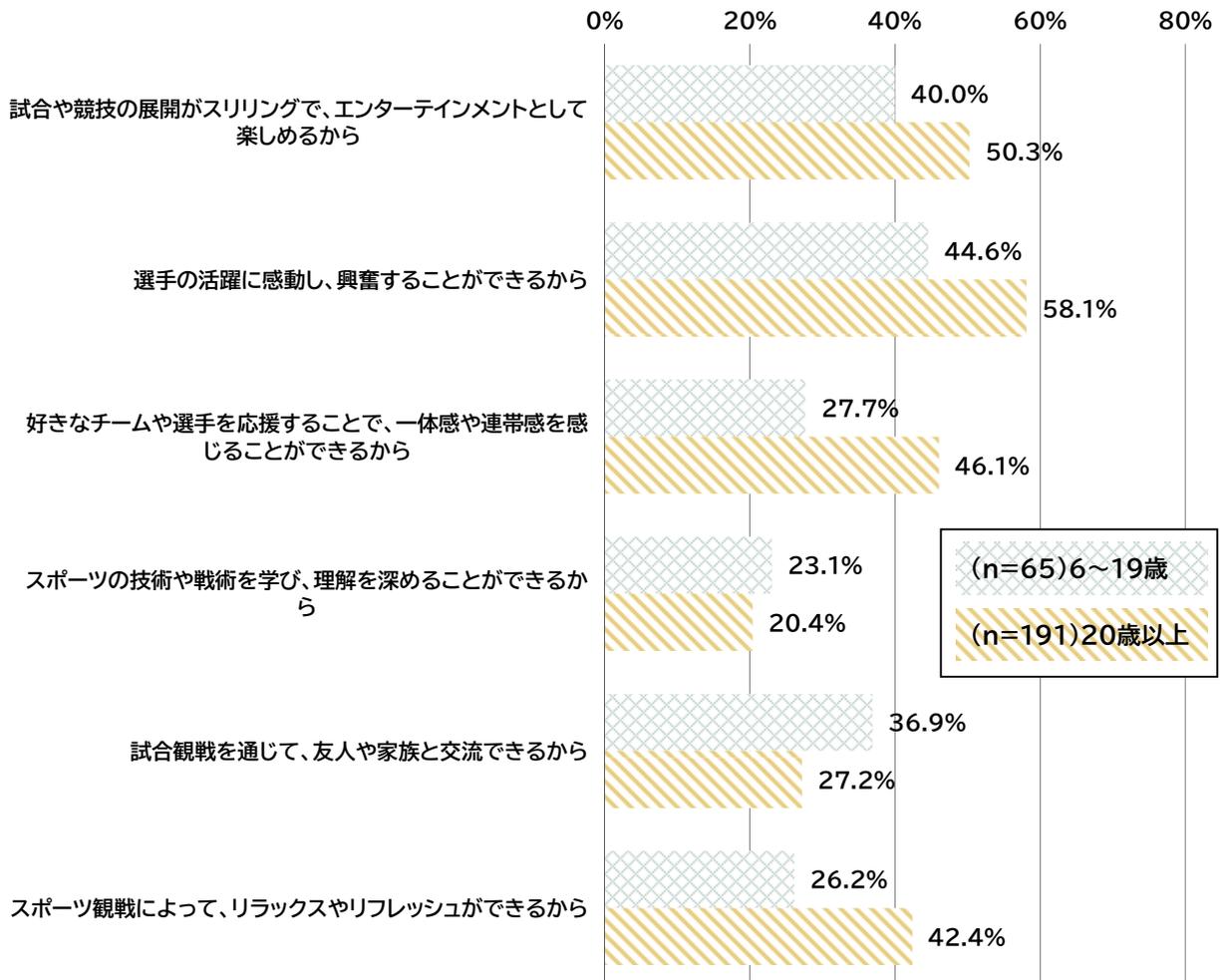
#### その他

- 気分転換（２）
- 選手を追い続けると、人間味が伝わり、その選手の人生に立ち会っている実感が湧く 等

(6～19歳・20歳以上別クロス集計結果)

- ・20歳以上は6～19歳と比べて、「選手の活躍に感動し、興奮することができるから (58.1%)」の割合が10ポイント以上高い。その他、「スポーツ観戦によって、リラックスやリフレッシュができるから (42.4%)」の割合が10ポイント以上高い。

図表 3-2-17 運動・スポーツをみるのが好きな理由 (6～19歳・20歳以上別)

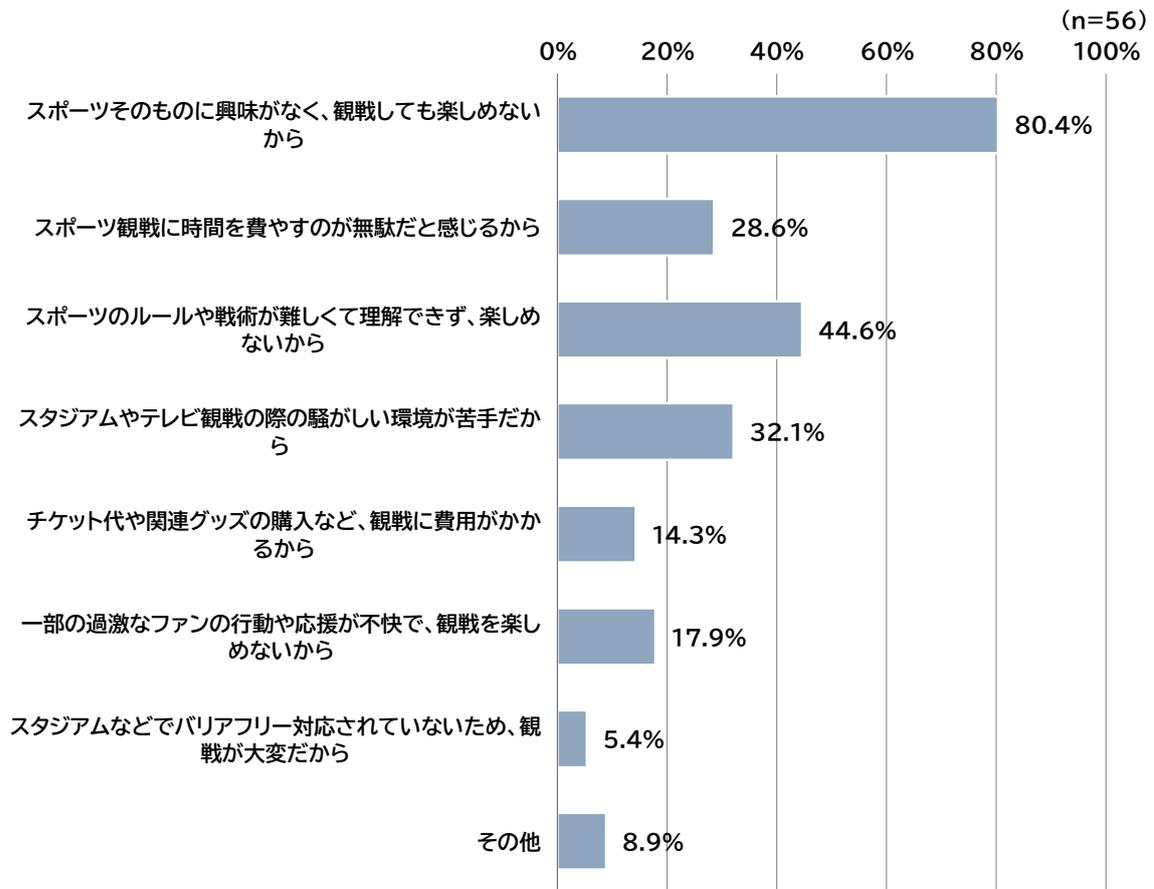


※（２）①で「運動・スポーツをみるのが嫌い」と回答した方のみ

⑤運動・スポーツをみるのが嫌いな理由【MA】

「スポーツそのものに興味がなく、観戦しても楽しめないから」の割合が突出して高く約80%である。次いで、「スポーツのルールや戦術が難しく理解できず、楽しめないから（44.6%）」の割合が高い。

図表 3-2-18 運動・スポーツをみるのが嫌いな理由



その他

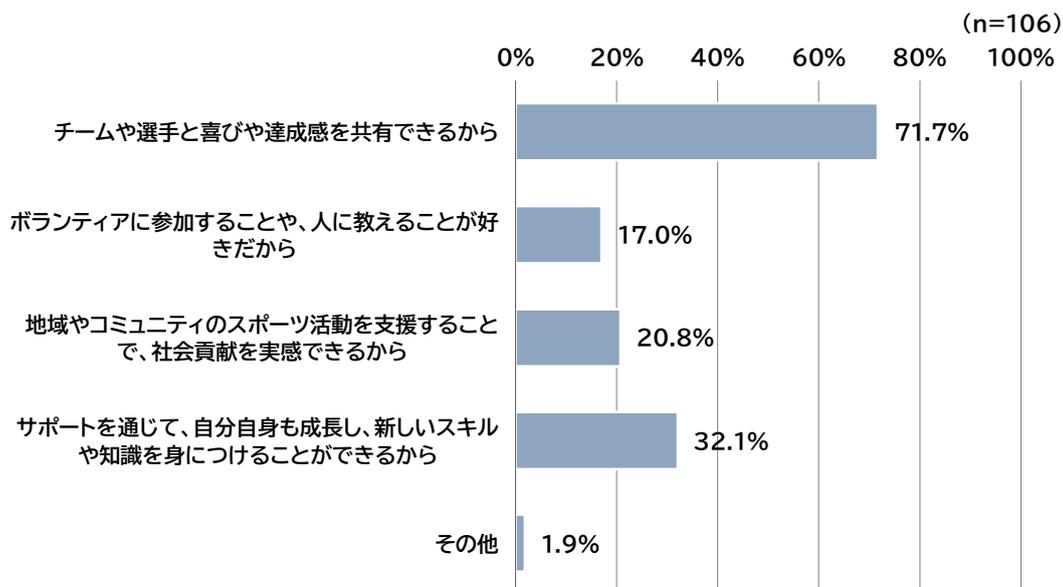
- 重複障害があり、車いす自走になってしまうため
- 自分の気性が勝ち負けを伴うスポーツ観戦に向いていない 等

※（２）①で「運動・スポーツをささえることが好き」と回答した方のみ

### ⑥運動・スポーツをささえることが好きな理由【MA】

「チームや選手と喜びや達成感を共有できるから」の割合が突出して高く 71.7%である。次いで、「サポートを通じて、自分自身も成長し、新しいスキルや知識を身につけることができるから（32.1%）」の割合が高い。

図表 3-2-19 運動・スポーツをささえることが好きな理由



#### その他

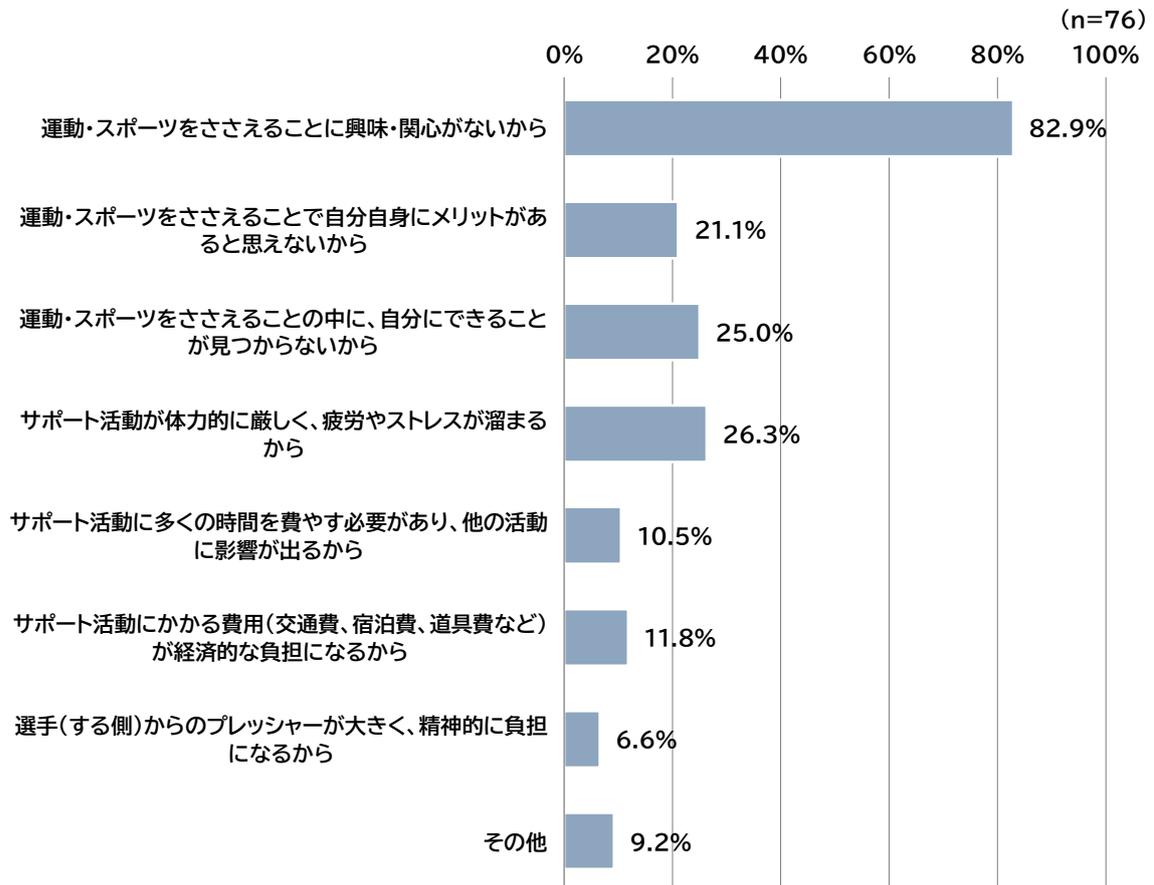
- 子どものためにスポーツ実施の環境を整えることで、子ども自身が運動やスポーツの楽しさに気づくとともに、将来スポーツ選手などで活躍できる可能性が広がるから
- 友達ができるから

※ (2) ①で「運動・スポーツをささえることが嫌い」と回答した方のみ

⑦運動・スポーツをささえることが嫌いな理由【MA】

「運動・スポーツをささえることに興味・関心がないから」の割合が突出して高く 82.9% である。

図表 3-2-20 運動・スポーツをささえることが嫌いな理由



その他

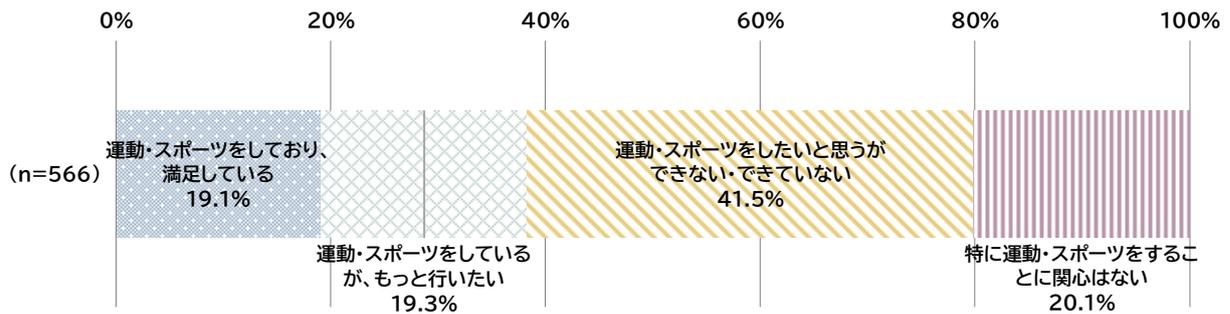
- 支えられる側であるから
- 面倒くさいから 等

### (3) 運動・スポーツの実施状況

#### ①現在の運動・スポーツの実施状況【SA】

「運動・スポーツをしたいと思うができない・できていない」の割合が突出して高く、約40%である。「運動・スポーツをしているが、もっと行いたい」を含めると、全体の約60%を占める。

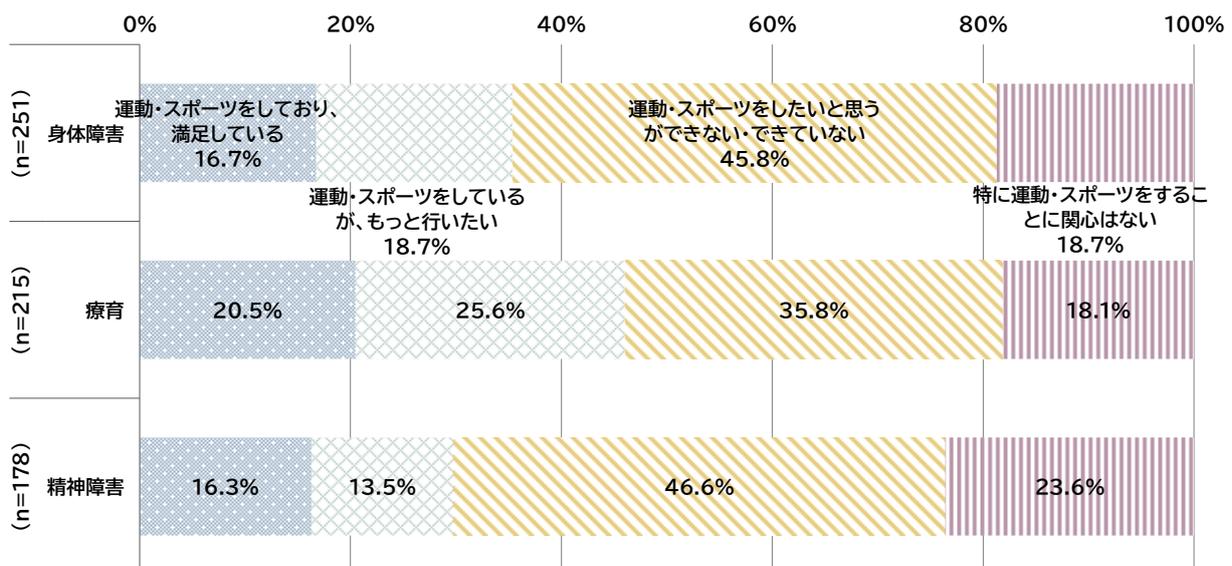
図表 3-2-2-1 現在の運動・スポーツの実施状況



#### (障害種別クロス集計結果)

- ・精神障害、身体障害は療育と比べて、「運動・スポーツをしたいと思うができない・できていない（それぞれ46.6%、45.8%）」の割合が10ポイント以上高い。
- ・療育は精神障害と比べて、「運動・スポーツをしているが、もっと行いたい（25.6%）」の割合が10ポイント程度高い。

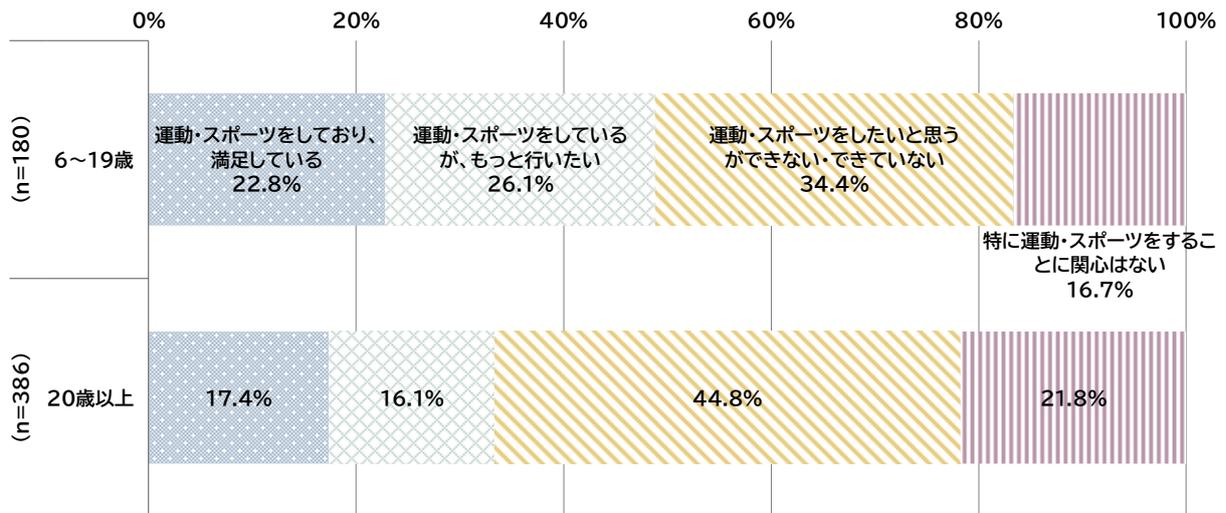
図表 3-2-2-2 現在の運動・スポーツの実施状況（障害種別）



(6～19歳・20歳以上別クロス集計結果)

- ・ 6～19歳は20歳以上と比べて、「運動・スポーツをしているが、もっと行いたい (26.1%)」の割合が10ポイント程度高い。
- ・ 20歳以上は6～19歳と比べて、「運動・スポーツをしたいと思うができない・できていない (44.8%)」の割合が10ポイント以上高い。

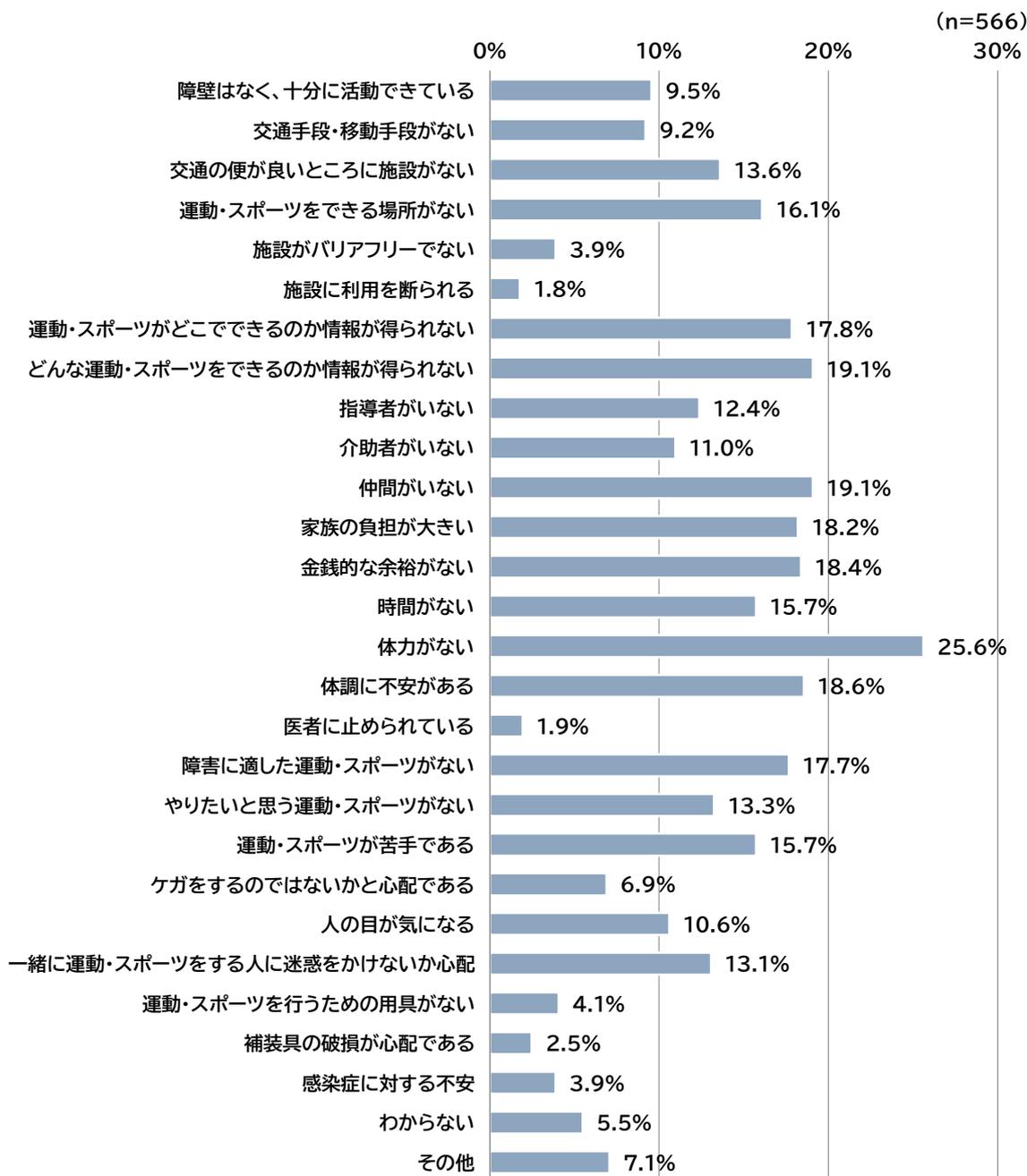
図表 3-2-23 現在の運動・スポーツの実施状況 (6～19歳・20歳以上別)



## ②運動・スポーツの実施において障壁となっているもの【MA】

「体力がない」の割合が最も高く 25.6%である。次いで、「どんな運動・スポーツをできるのか情報が得られない (19.1%)」、「仲間がいない (19.1%)」の割合が高い。

図表 3-2-24 運動・スポーツの実施において障壁となっているもの



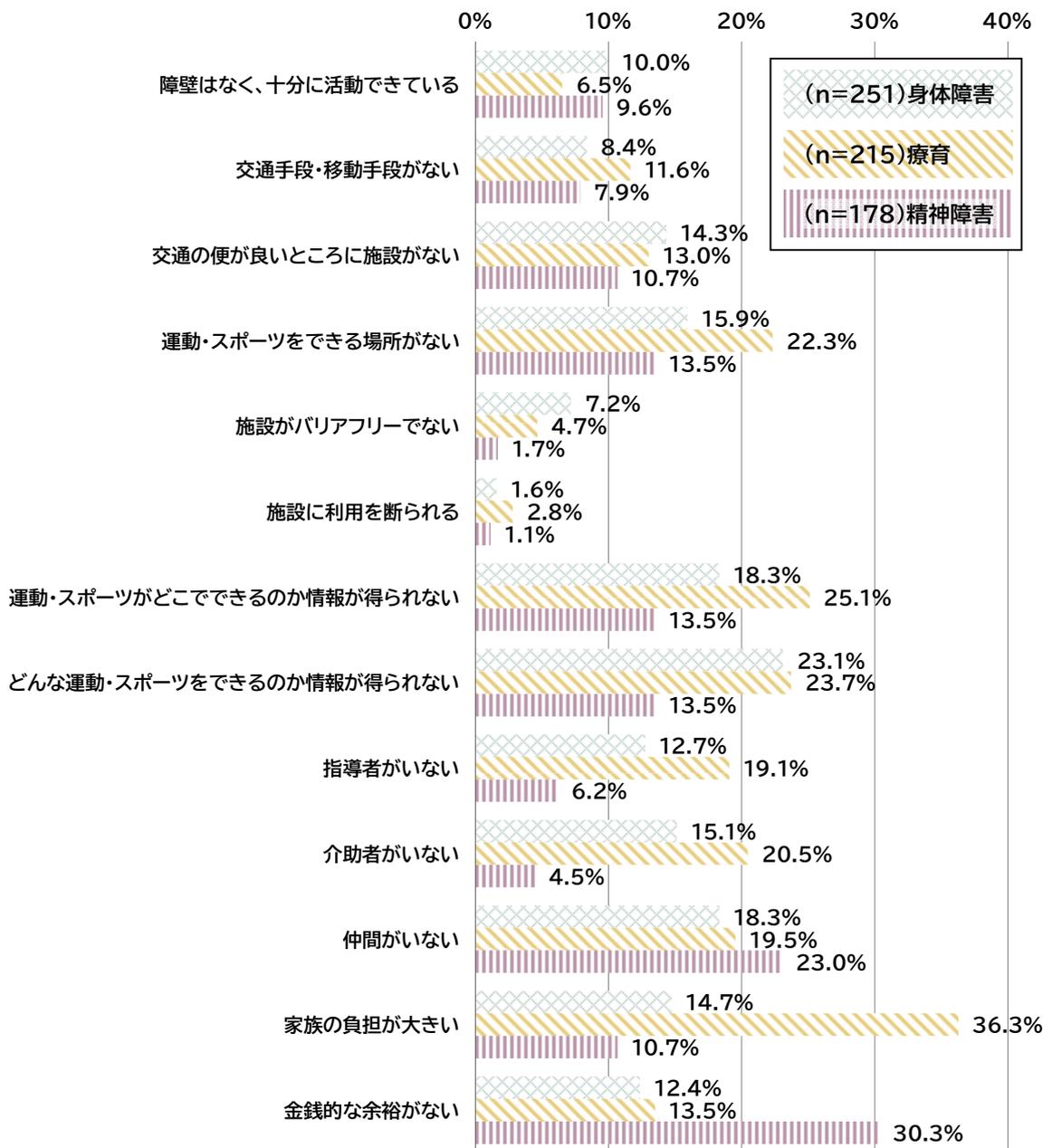
### その他

- コミュニケーション（意思疎通）が難しい（3）
- 周囲の理解が不足している（2） 等

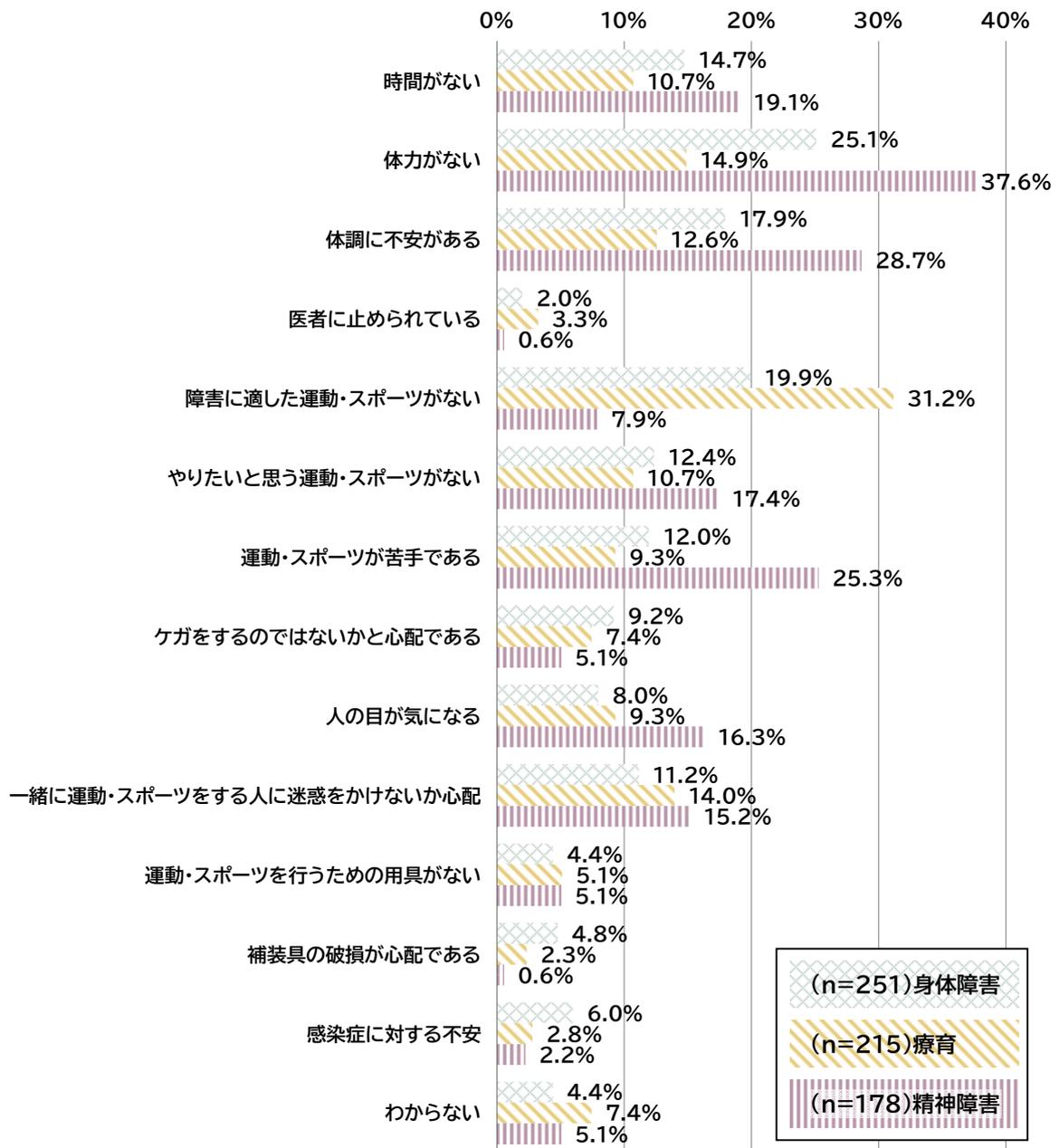
(障害種別クロス集計結果)

- ・精神障害、身体障害は「体力がない（それぞれ 37.6%、25.1%）」の割合が最も高く、療育と比べて、10 ポイント以上高い。
- ・精神障害は他の障害と比べて、「金銭的な余裕がない（30.3%）」、「体調に不安がある（28.7%）」、「運動・スポーツが苦手である（25.3%）」の割合が10 ポイント以上高い。
- ・療育は「家族の負担が大きい（36.3%）」の割合が最も高く、他の障害と比べて、20 ポイント以上高い。また、「障害に適した運動・スポーツがない（31.2%）」の割合が他の障害と比べて、10 ポイント以上高い。

図表 3-2-25 運動・スポーツの実施において障壁となっているもの（障害種別・その1）



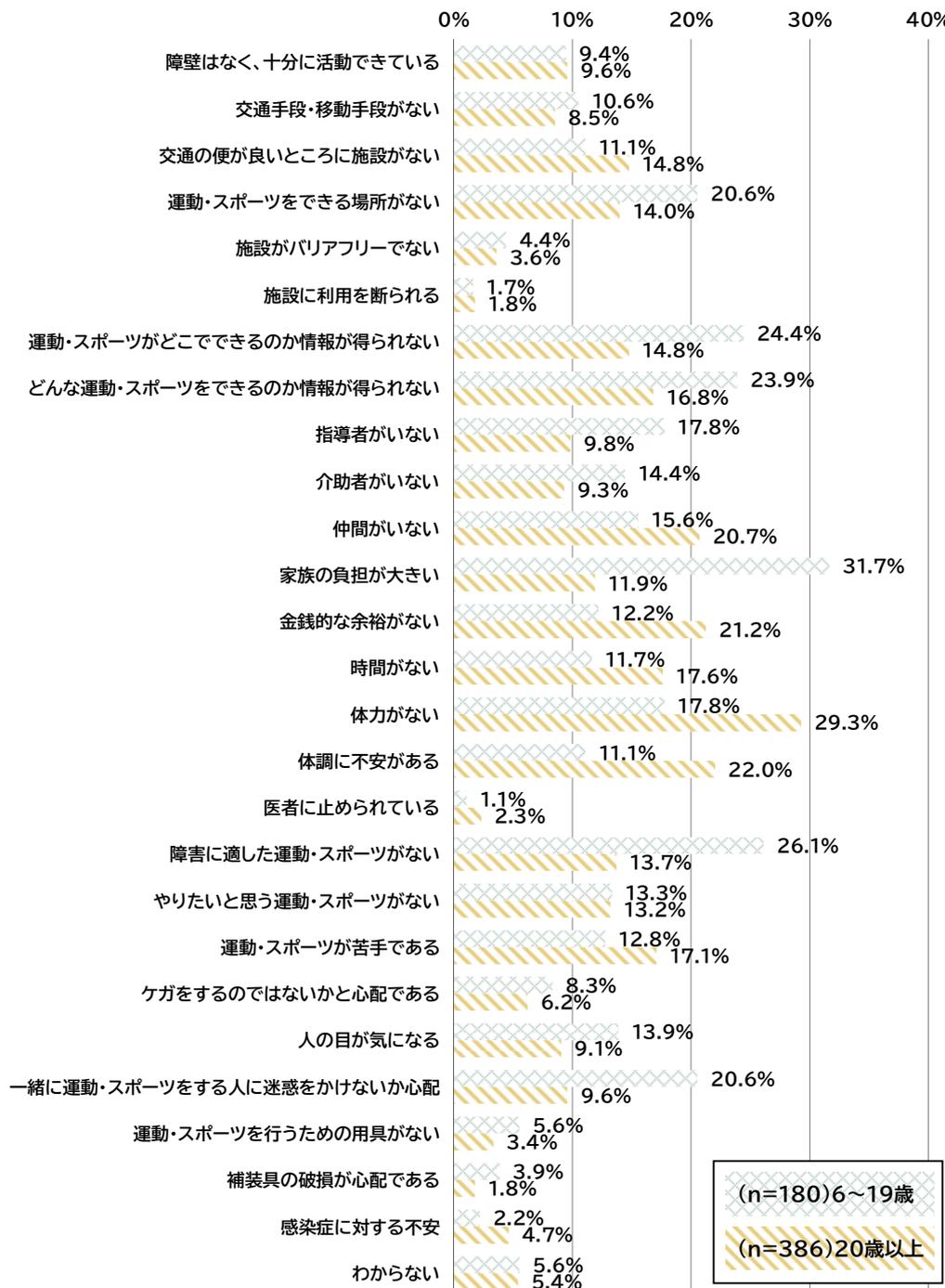
図表 3-2-26 運動・スポーツの実施において障壁となっているもの（障害種別・その2）



(6～19歳・20歳以上別クロス集計結果)

- ・6～19歳は「家族の負担が大きい(31.7%)」、20歳以上は「体力がない(29.3%)」が最も高い。また、20歳以上は6～19歳と比べて、「体調に不安がある(22.0%)」の割合が10ポイント以上高い。
- ・6～19歳は20歳以上と比べて、「障害に適した運動・スポーツがない(26.1%)」、「一緒に運動・スポーツをする人に迷惑をかけないか心配(20.6%)」の割合が10ポイント以上高い。

図表 3-2-27 運動・スポーツの実施において障壁となっているもの(6～19歳・20歳以上別)

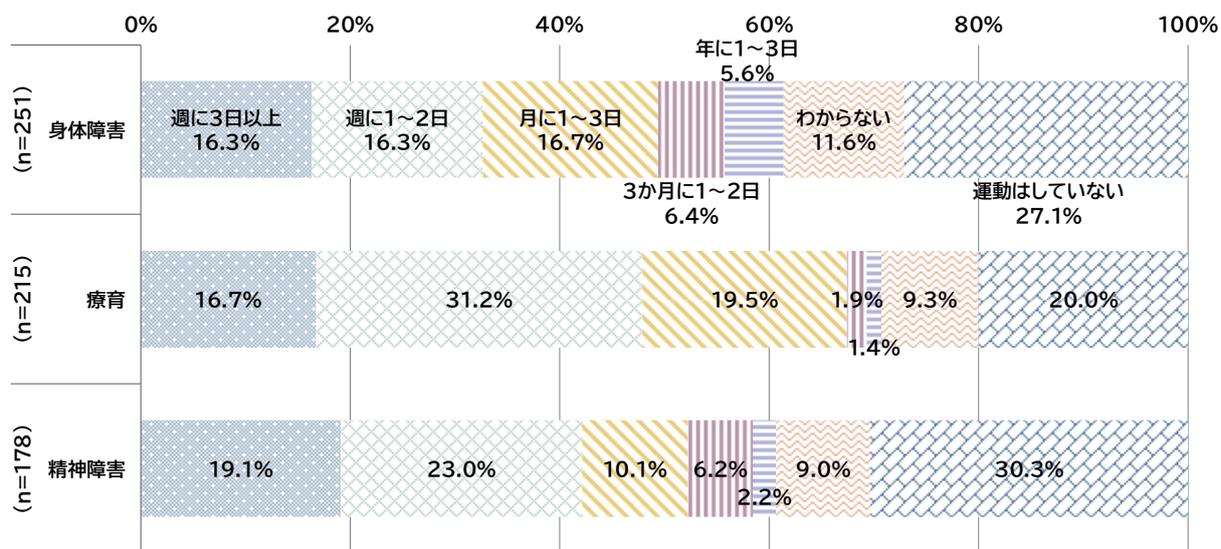


### ③運動・スポーツを行った日数【SA】

#### (障害種別クロス集計結果)

- ・週1日以上に着目すると、療育（47.9%）と精神障害（42.1%）は身体障害（32.6%）と比べて、10ポイント程度高い。

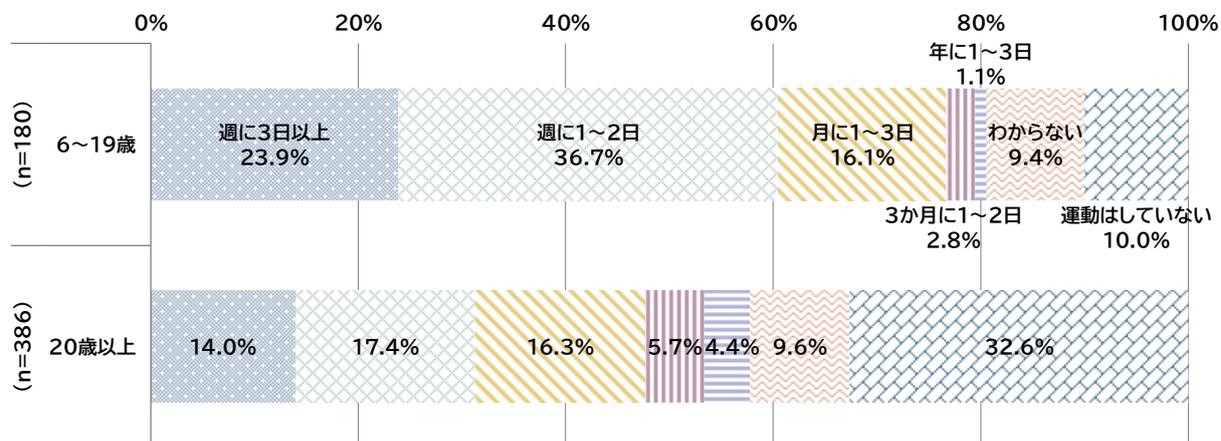
図表 3-2-28 運動・スポーツを行った日数（障害種別）



#### (6~19歳・20歳以上別クロス集計結果)

- ・週1日以上に着目すると、6~19歳は約60%、20歳以上は約30%で、大きな差が見られる。
- ・20歳以上では、「運動はしていない」の割合が30%を超えており、定期的に運動・スポーツを行う人との二極化が生じている。

図表 3-2-29 運動・スポーツを行った日数（6~19歳・20歳以上別）

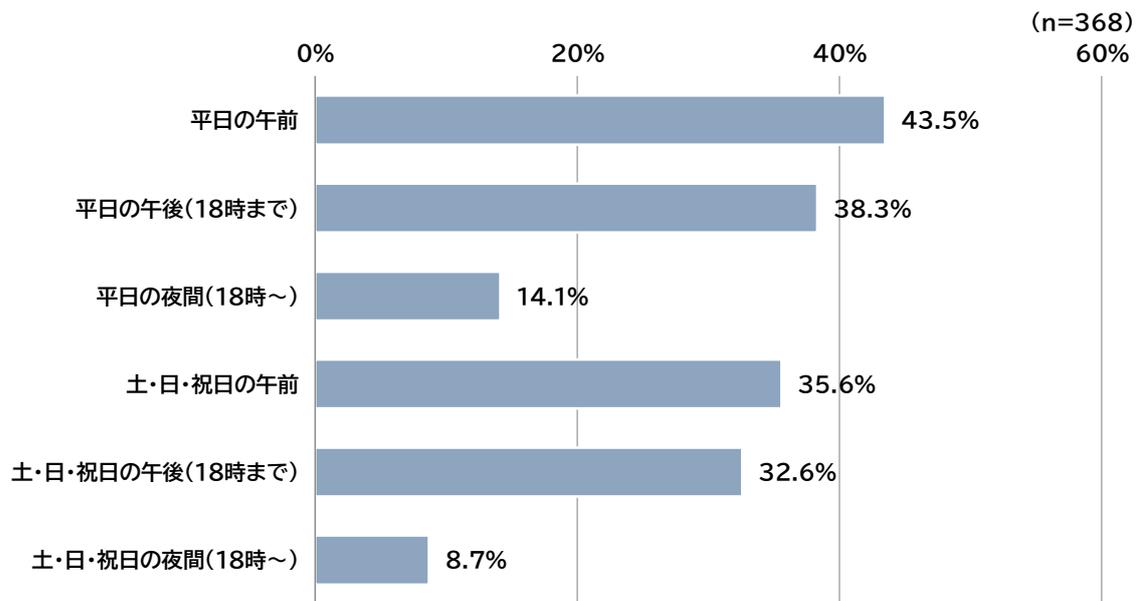


※ (2) ③で「週に3日以上」、「週に1~2日」、「月に1~3日」、「3か月に1~2日」、「年に1~3日」と回答した方のみ

④運動・スポーツを実施している時間帯【MA】

「平日の午前」の割合が最も高く43.5%である。次いで「平日の午後(18時まで)」、「土・日・祝日の午前」、「土・日・祝日の午後(18時まで)」の割合が高く、30%以上となっている。

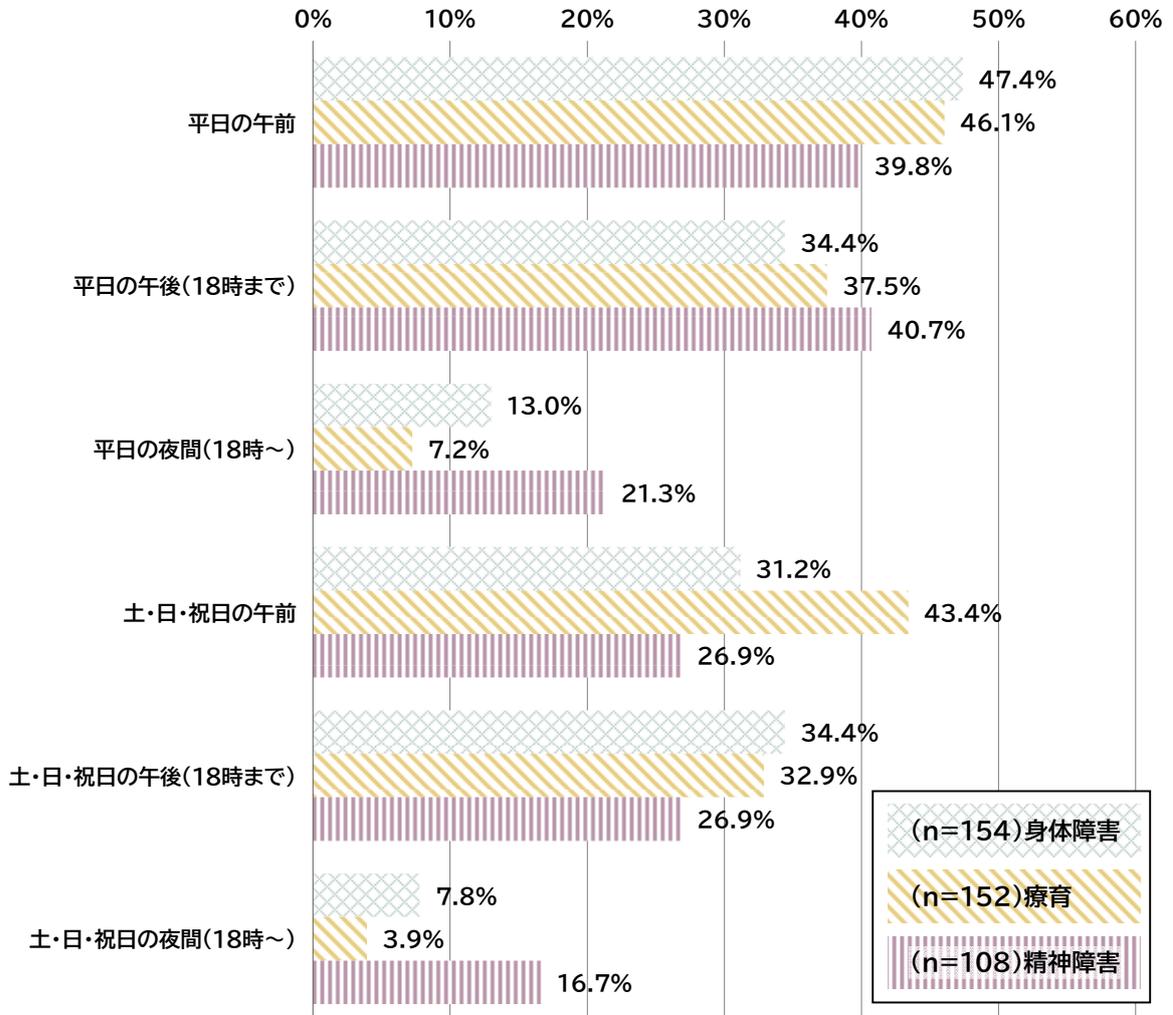
図表 3-2-30 運動・スポーツを実施している時間帯



(障害種別クロス集計結果)

- ・療育は他の障害と比べて、「土・日・祝日の午前 (43.4%)」の割合が10ポイント以上高い。

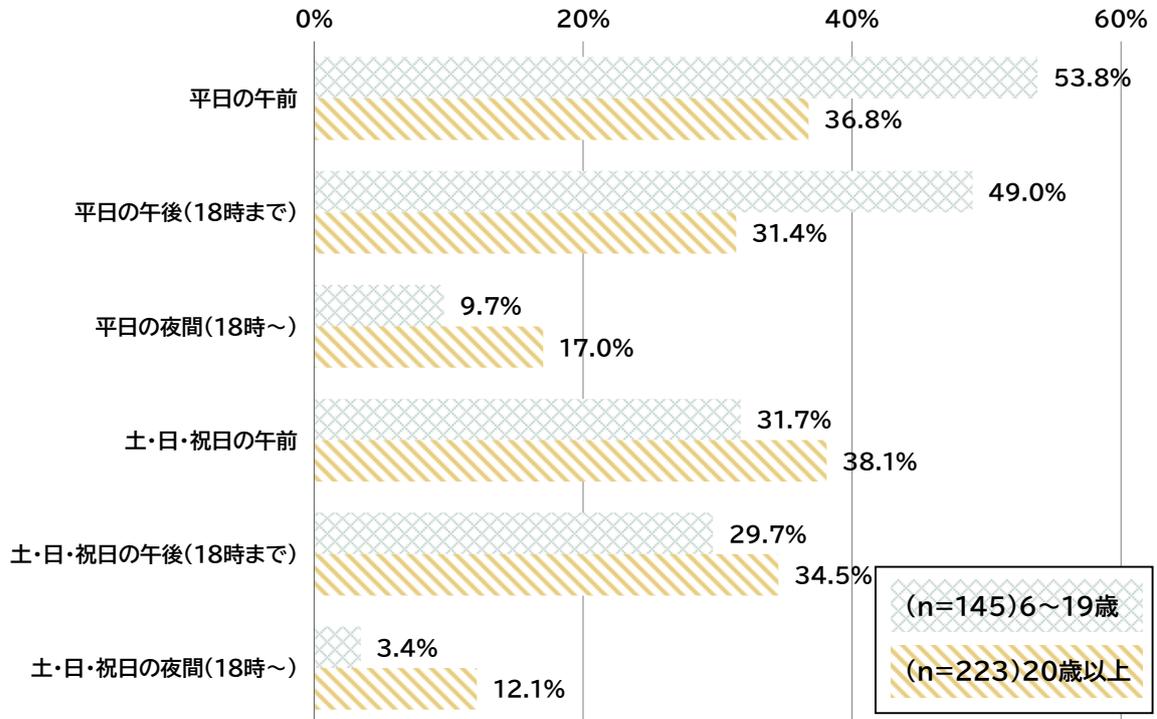
図表 3-2-31 運動・スポーツを実施している時間帯 (障害種別)



(6～19歳・20歳以上別クロス集計結果)

- ・6～19歳は「平日の午前(53.8%)」、「平日の午後(18時まで)(49.0%)」の割合が高く、20歳以上と比べて、それぞれ10ポイント以上高い。

図表 3-2-32 運動・スポーツを実施している時間帯(6～19歳・20歳以上別)

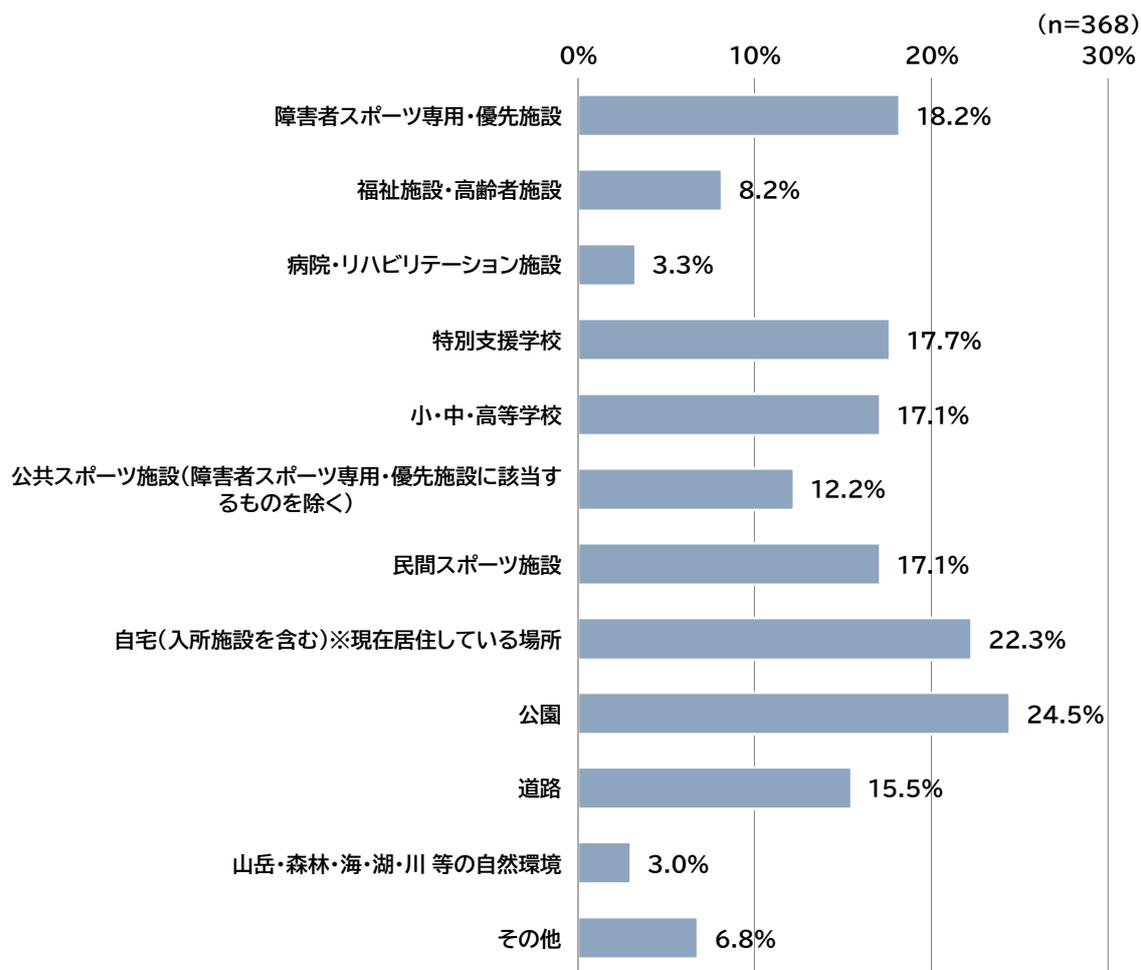


※（２）③で「週に３日以上」、「週に１～２日」、「月に１～３日」、「３か月に１～２日」、「年に１～３日」と回答した方のみ

⑤運動・スポーツを実施している場所【MA】

「公園」の割合が最も高く 24.5%である。次いで、「自宅（入所施設を含む）※現在居住している場所（22.3%）」、「障害者スポーツ専用・優先施設（18.2%）」である。

図表 3-2-33 運動・スポーツを実施している場所



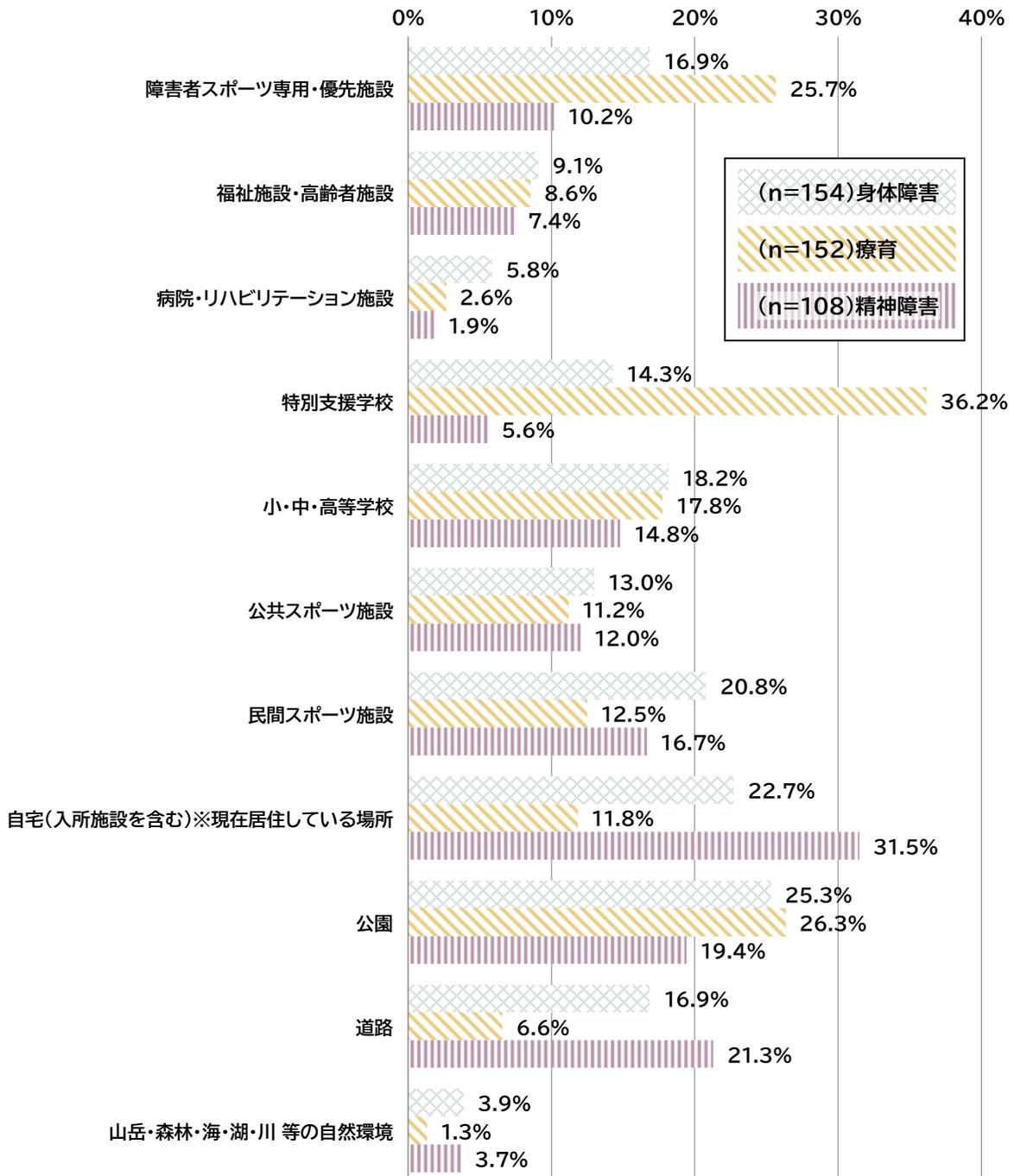
その他

- 放課後等デイサービス（６）
- ジム（４）等

(障害種別クロス集計結果)

- ・療育は「特別支援学校 (36.2%)」の割合が最も高く、他の障害と比べて、20ポイント以上高い。
- ・精神障害は「自宅(入所施設を含む)※現在居住している場所 (31.5%)」の割合が最も高く、療育と比べて、20ポイント程度高い。

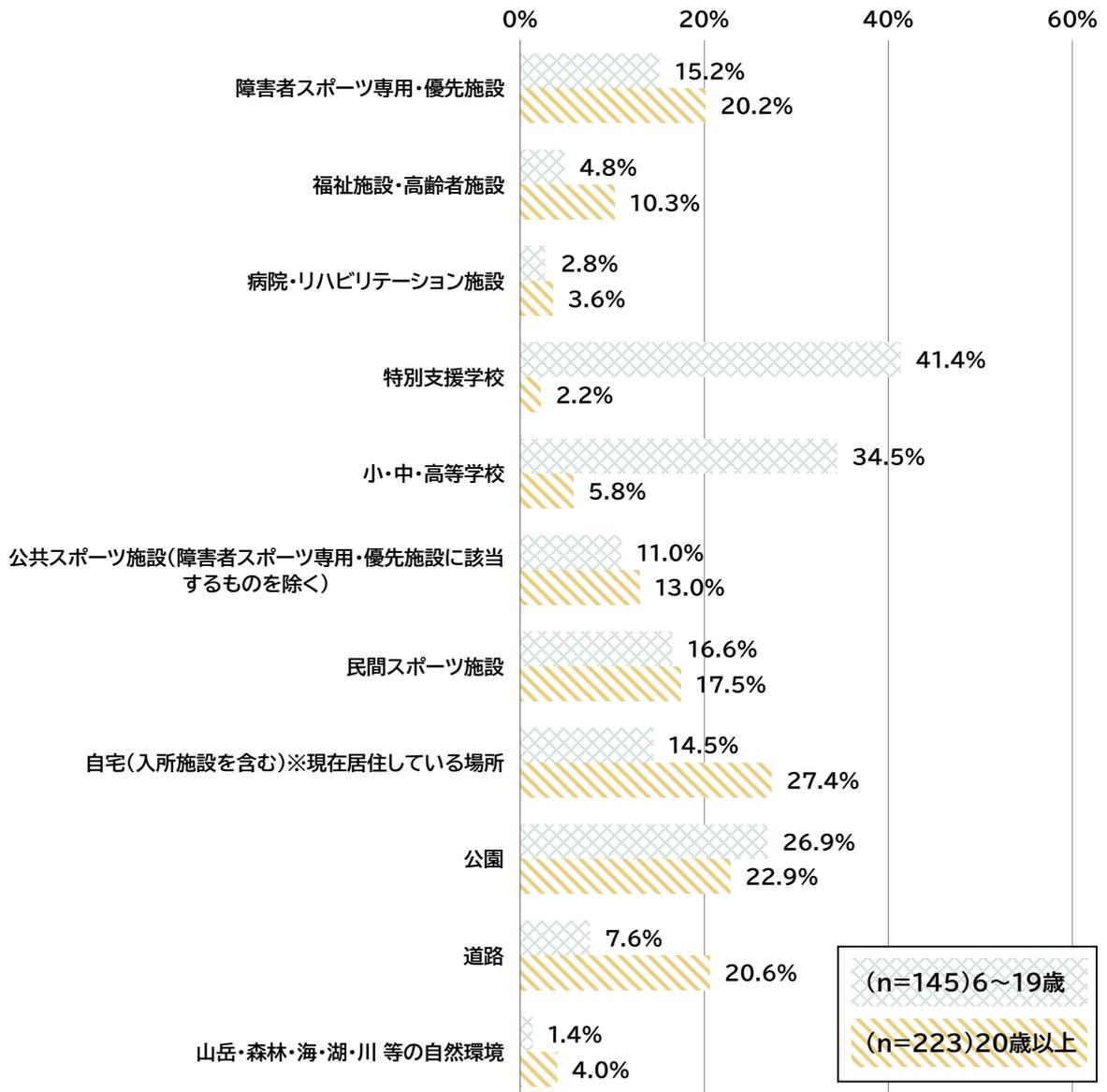
図表 3-2-34 運動・スポーツを実施している場所(障害種別)



(6～19歳・20歳以上別クロス集計結果)

- ・ 6～19歳は20歳以上と比べて、「特別支援学校 (41.4%)」、「小・中・高等学校 (34.5%)」の割合が突出して高い。
- ・ 20歳以上は6～19歳と比べて、「自宅 (入所施設を含む) ※現在居住している場所 (27.4%)」、「道路 (20.6%)」の割合が10ポイント以上高い。

図表 3-2-35 運動・スポーツを実施している場所 (6～19歳・20歳以上別)

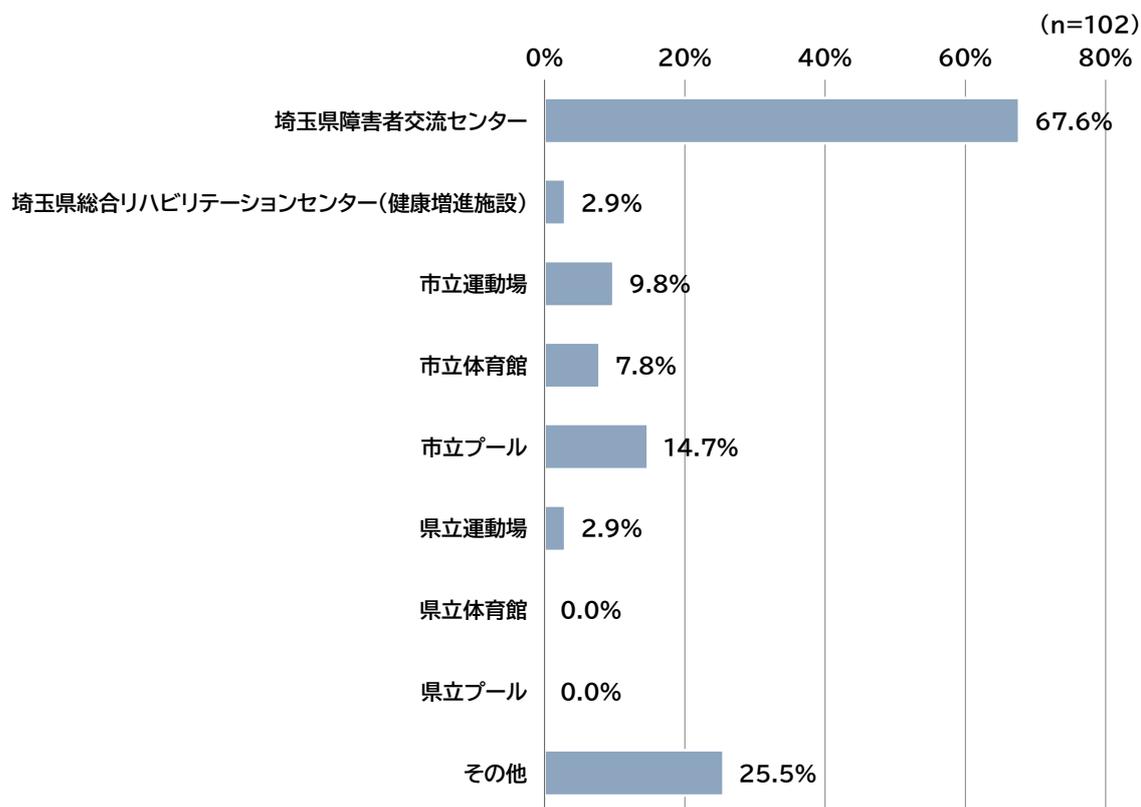


※（２）⑤で「障害者スポーツ専用・優先施設」、「公共スポーツ施設」と回答した方のみ

### ⑥具体的な実施場所【MA】

「埼玉県障害者交流センター」の割合が突出して高く 67.6%である。「その他」を除くと、次いで、「市立プール（14.7%）」の割合が高い。

図表 3-2-36 運動・スポーツを実施している場所



#### その他

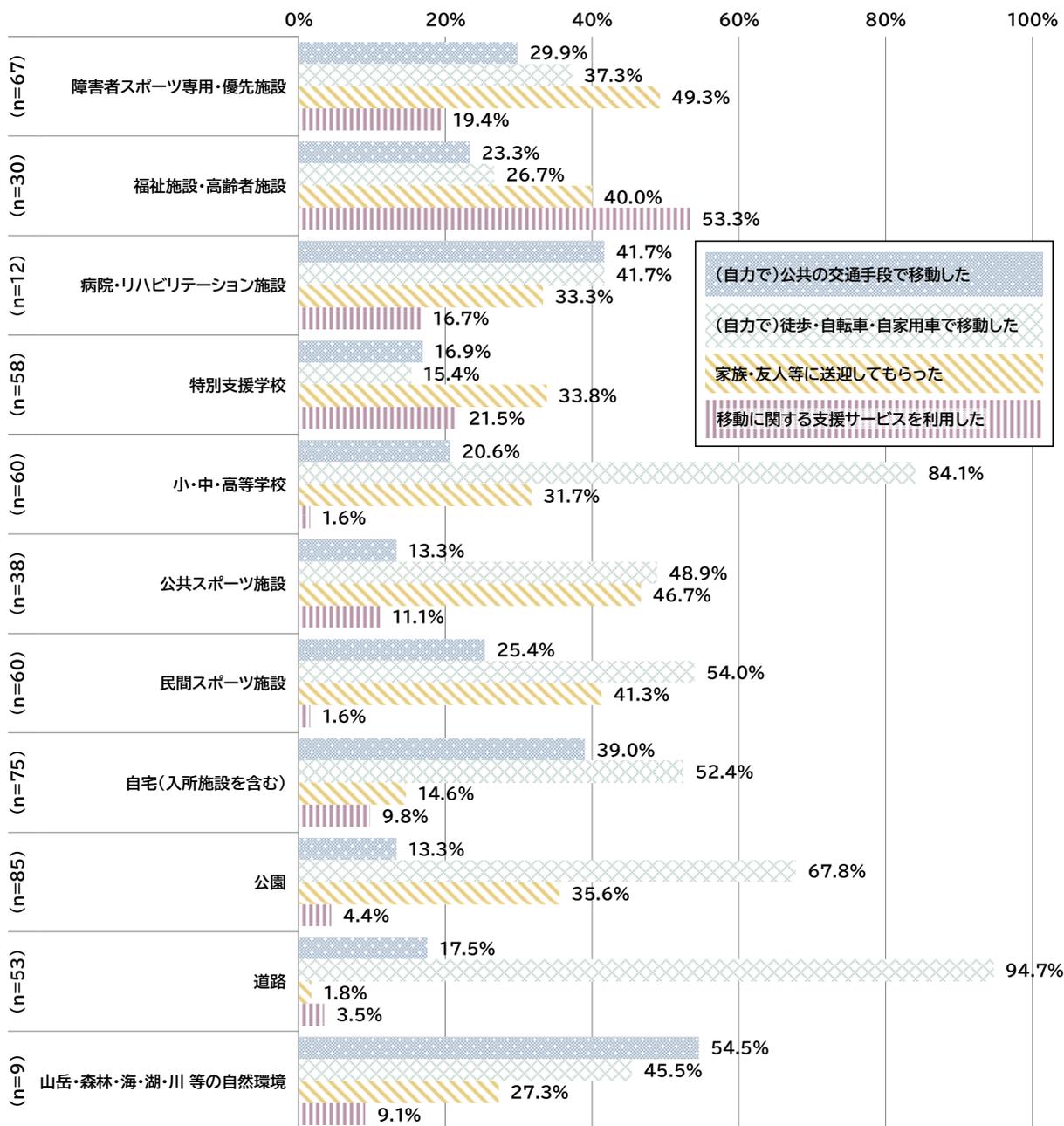
- 公民館（6）
- 大宮ふれあい福祉センター 等

※ (2) ⑤で回答した場所について、回答

⑦運動・スポーツ実施場所までの移動手段【MA】

運動・スポーツを実施する場所として最も多い公園では、「(自力で) 徒歩・自転車・自家用車で移動した」の割合が突出して多い (67.8%)。一方で、障害者スポーツ専用・優先施設では「家族・友人等に送迎してもらった」の割合が最も多い (49.3%)。

図表 3-2-37 運動・スポーツ実施場所までの移動手段

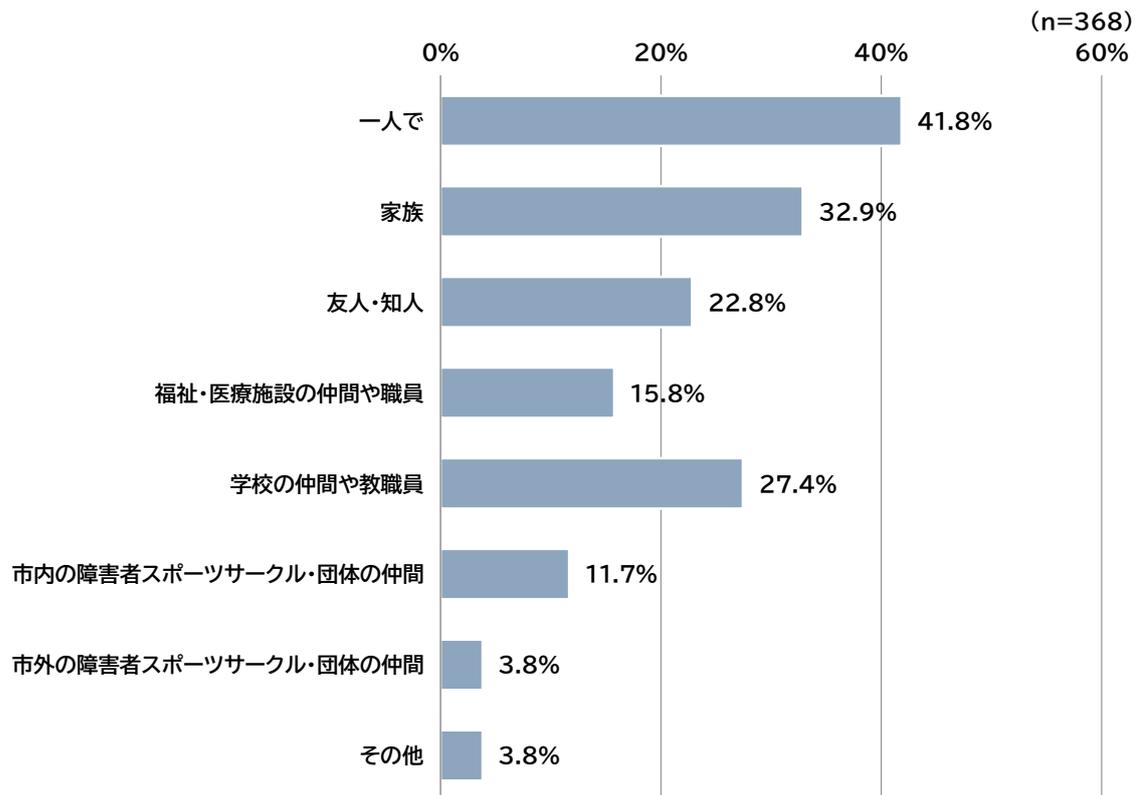


※ (2) ③で「週に3日以上」、「週に1~2日」、「月に1~3日」、「3か月に1~2日」、「年に1~3日」と回答した方のみ

⑧運動・スポーツを一緒に実施している人【MA】

「一人で」の割合が最も高く41.8%である。次いで、「家族(32.9%)」、「学校の仲間や教職員(27.4%)」である。

図表 3-2-38 運動・スポーツを一緒に実施している人



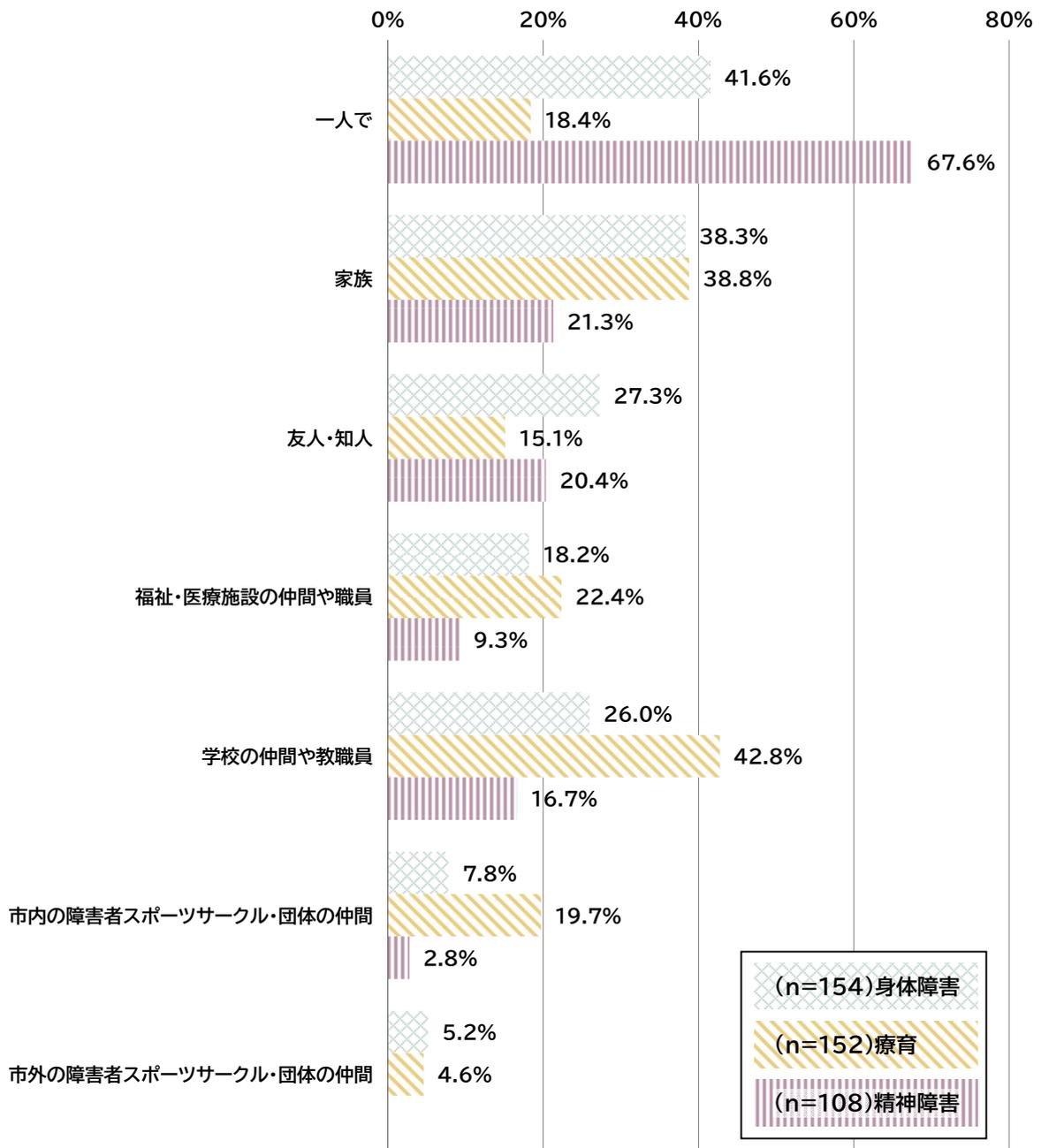
その他

- ボランティア団体
- 障害者交流センターの職員 等

(障害種別クロス集計結果)

- ・療育は「学校の仲間や教職員 (42.8%)」の割合が最も高く、他の障害と比べて、10ポイント以上高い。
- ・精神障害は「一人で (67.6%)」の割合が突出して高く、他の障害と比べて、20ポイント以上高い。
- ・身体障害、療育は精神障害と比べて、「家族 (それぞれ 38.3%、38.8%)」の割合が10ポイント以上高い。

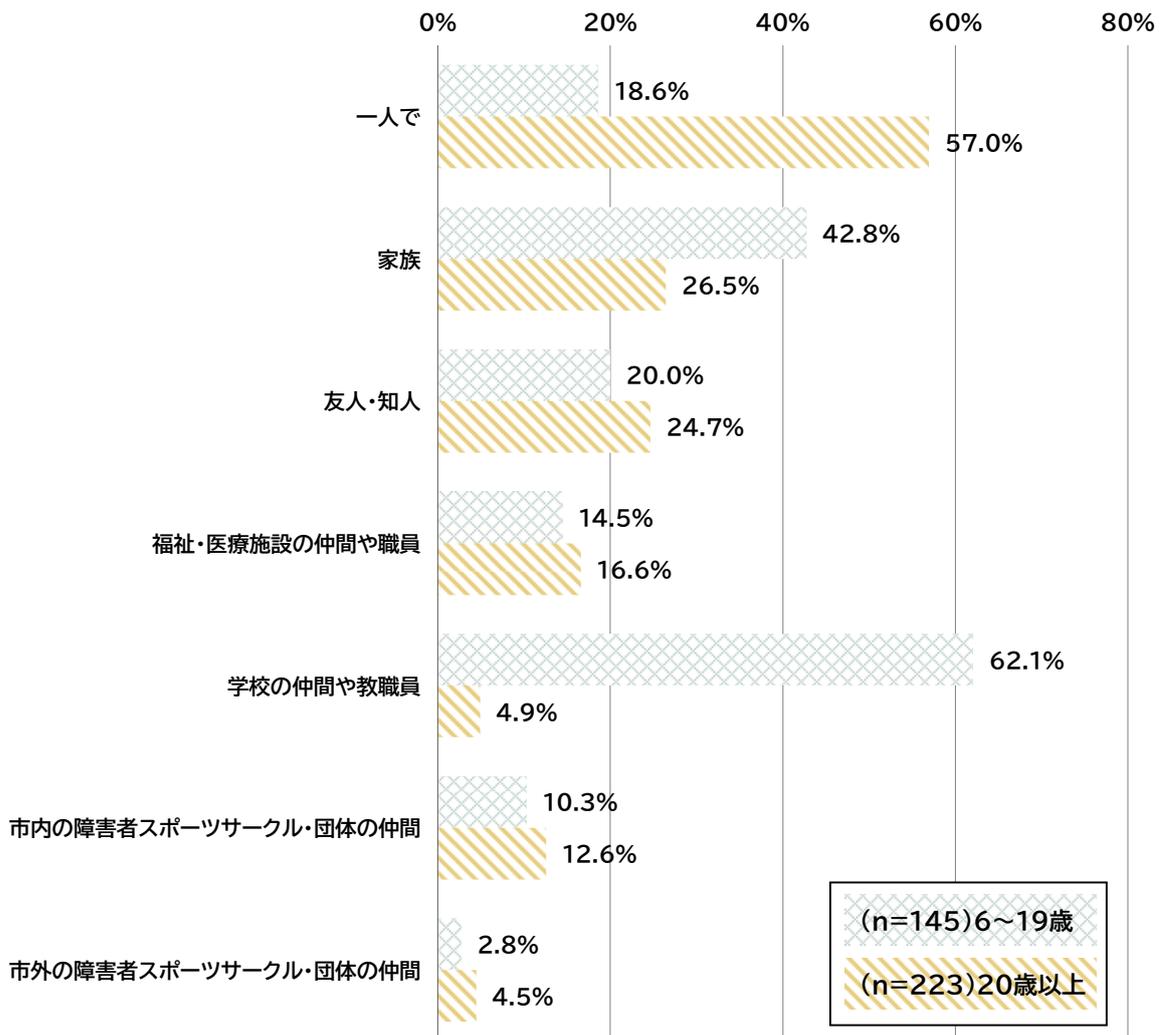
図表 3-2-39 運動・スポーツを一緒に実施している人 (障害種別)



(6～19歳・20歳以上別クロス集計結果)

- ・6～19歳は「学校の仲間や教職員（62.1%）」の割合が突出して高く、20歳以上と比べて、50ポイント以上高い。次いで「家族（42.8%）」の割合が高く、20歳以上と比べて10ポイント以上高い。
- ・20歳以上は「一人で（57.0%）」の割合が突出して高く、6～19歳と比べて、40ポイント程度高い。

図表 3-2-40 運動・スポーツと一緒に実施している人（6～19歳・20歳以上別）

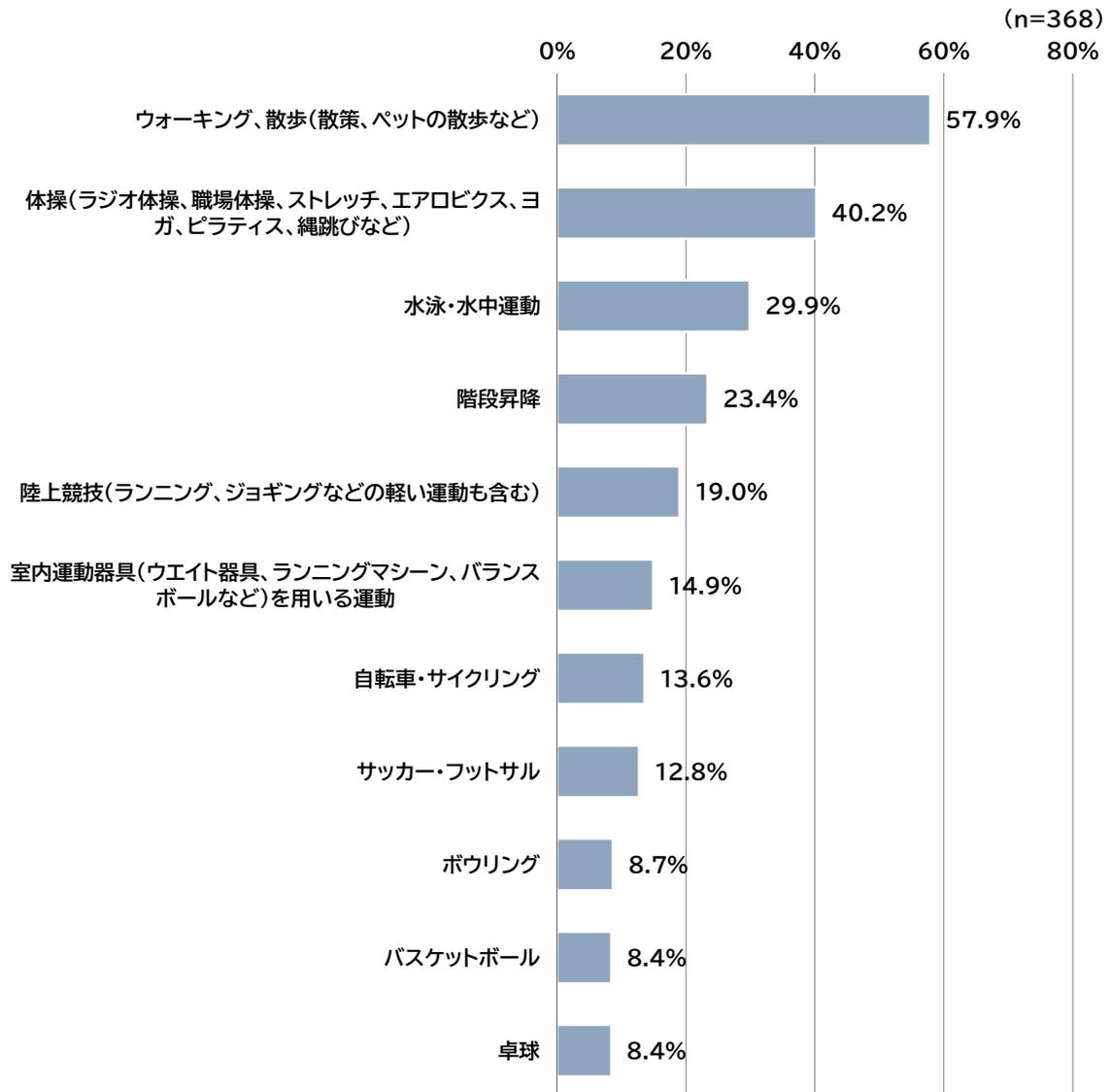


※ (2) ③で「週に3日以上」、「週に1~2日」、「月に1~3日」、「3か月に1~2日」、「年に1~3日」と回答した方のみ

⑨過去1年間に実施した運動・スポーツの種類（上位10種目）【MA】

「ウォーキング、散歩（散策、ペットの散歩など）」の割合が最も高く57.9%である。次いで、「体操（ラジオ体操、職場体操、ストレッチ、エアロビクス、ヨガ、ピラティス、縄跳びなど）」の割合が高い。

図表 3-2-4-1 過去1年間に実施した運動・スポーツの種類



(障害種別クロス集計結果)

	身体障害 (n=154)		療育 (n=152)		精神障害 (n=108)	
	種別	割合	種別	割合	種別	割合
1	ウォーキング、散歩	59.1%	ウォーキング、散歩	55.3%	ウォーキング、散歩	62.1%
2	体操	39.6%	体操	40.8%	体操	42.6%
3	階段昇降	29.9%	水泳・水中運動	37.5%	水泳・水中運動	25.0%
4	水泳・水中運動	29.2%	陸上競技	21.1%	階段昇降	23.1%
5	室内運動器具を用いる運動	17.5%	サッカー・フットサル	19.1%	室内運動器具を用いる運動	20.4%
6	陸上競技	14.9%	階段昇降	15.1%	陸上競技	17.6%
7	自転車・サイクリング	13.6%	バスケットボール	12.5%	自転車・サイクリング	16.7%
8	ボッチャ	8.4%	ボッチャ	12.5%	サッカー・フットサル	9.3%
9	ボウリング	7.8%	ボウリング	11.8%	卓球	8.3%
10	卓球・サッカー・フットサル	7.1%	卓球	8.6%	バスケットボール	6.5%

(6～19歳・20歳以上別クロス集計結果)

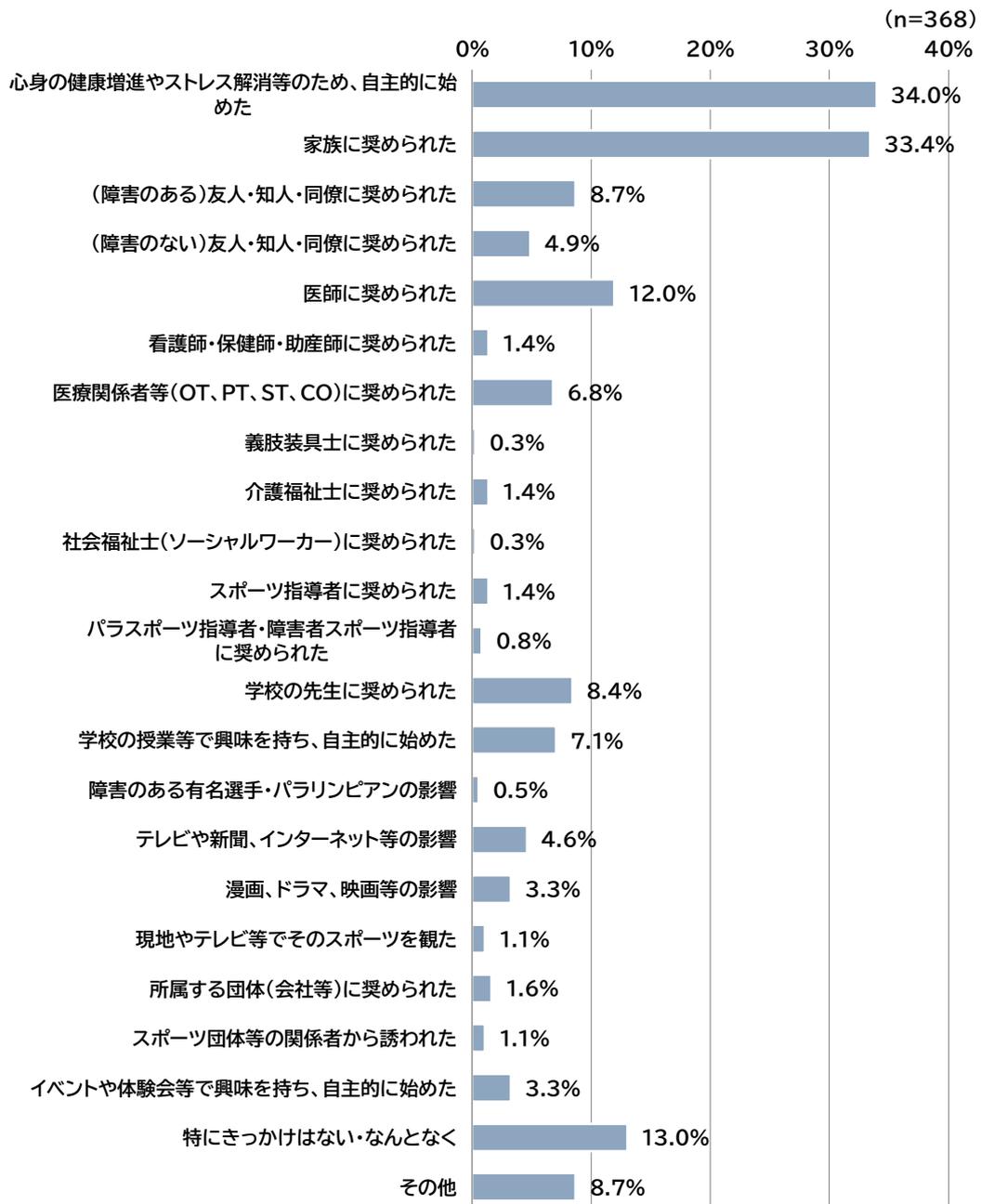
	6～19歳 (n=145)		20歳以上 (n=223)	
	種別	割合	種別	割合
1	ウォーキング、散歩	49.0%	ウォーキング、散歩	63.7%
2	水泳・水中運動	47.6%	体操	35.9%
3	体操	46.9%	階段昇降	24.2%
4	陸上競技	30.3%	水泳・水中運動	18.4%
5	階段昇降	22.1%	室内運動器具を用いる運動	16.6%
6	サッカー・フットサル	21.4%	自転車・サイクリング	14.8%
7	バスケットボール	17.2%	陸上競技	11.7%
8	ボッチャ	13.8%	ボウリング	7.6%
9	室内運動器具を用いる運動	12.4%	サッカー・フットサル	7.2%
10	卓球 自転車・サイクリング	11.7%	卓球	6.3%

※ (2) ③で「週に3日以上」、「週に1~2日」、「月に1~3日」、「3か月に1~2日」、「年に1~3日」と回答した方のみ

⑩障害発生後に運動・スポーツを始めたきっかけ【MA】

「心身の健康増進やストレス解消等のため、自主的に始めた」の割合が最も高く34.0%である。次いで、「家族に奨められた(33.4%)」の割合が高い。

図表 3-2-4 2 障害発生後に運動・スポーツを始めたきっかけ



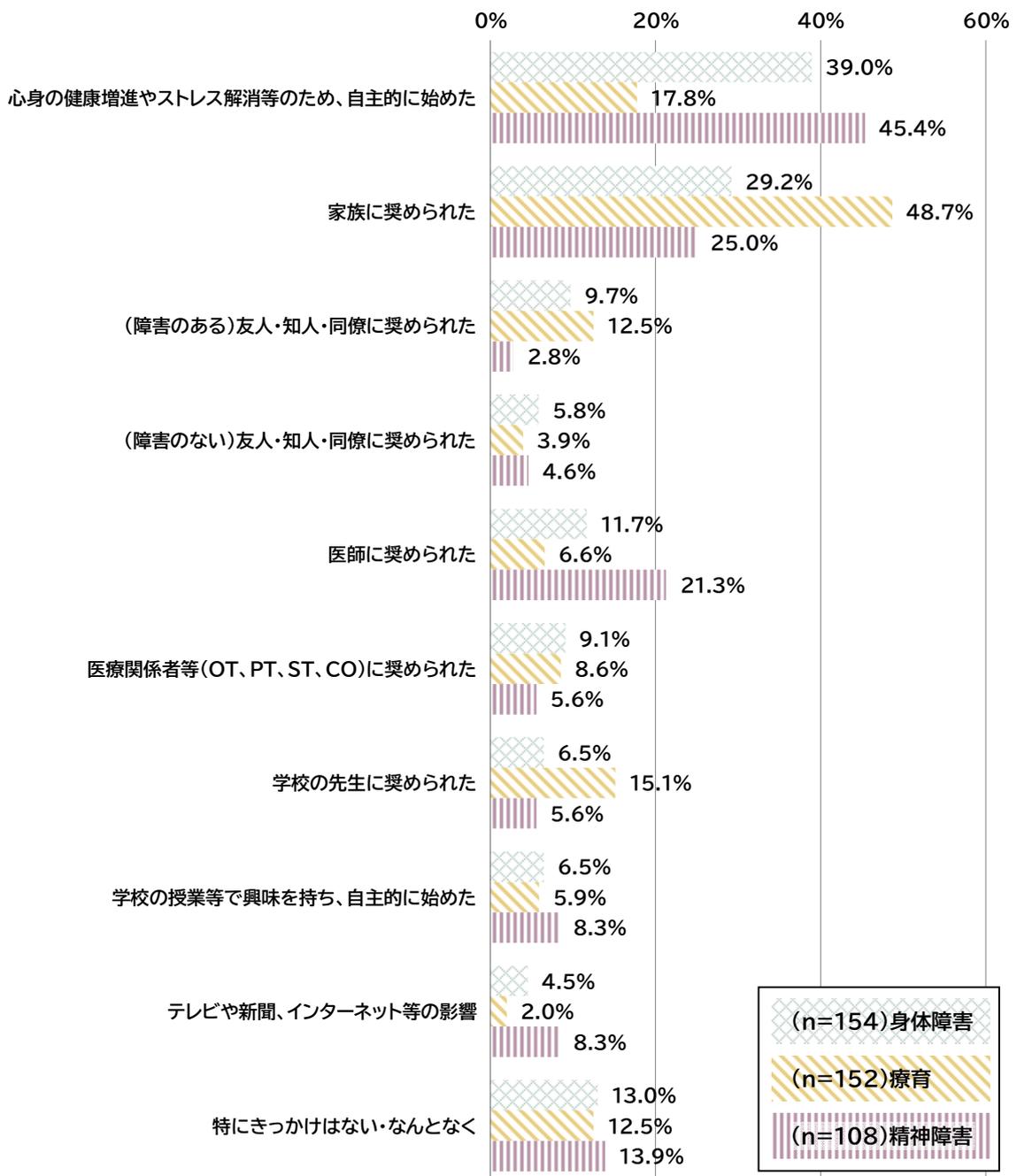
その他

- 障害発生前から運動・スポーツをしていたため(3)
- 施設(デイサービス等)の行事(2)等

(障害種別クロス集計結果) ※上位項目のみ抜粋

- ・精神障害、身体障害は「心身の健康増進やストレス解消等のため、自主的に始めた（それぞれ 45.4%、39.0%）」の割合が最も高く、療育と比べて 20 ポイント以上高い。
- ・療育は「家族に奨められた（48.7%）」の割合が最も高く、他の障害と比べて、20 ポイント程度高い。
- ・療育は、「学校の先生に奨められた（15.1%）」の割合が他の障害と比べて 10 ポイント程度高い。また精神障害は、「医師に奨められた（21.3%）」の割合が他の障害と比べて、10 ポイント程度高い。

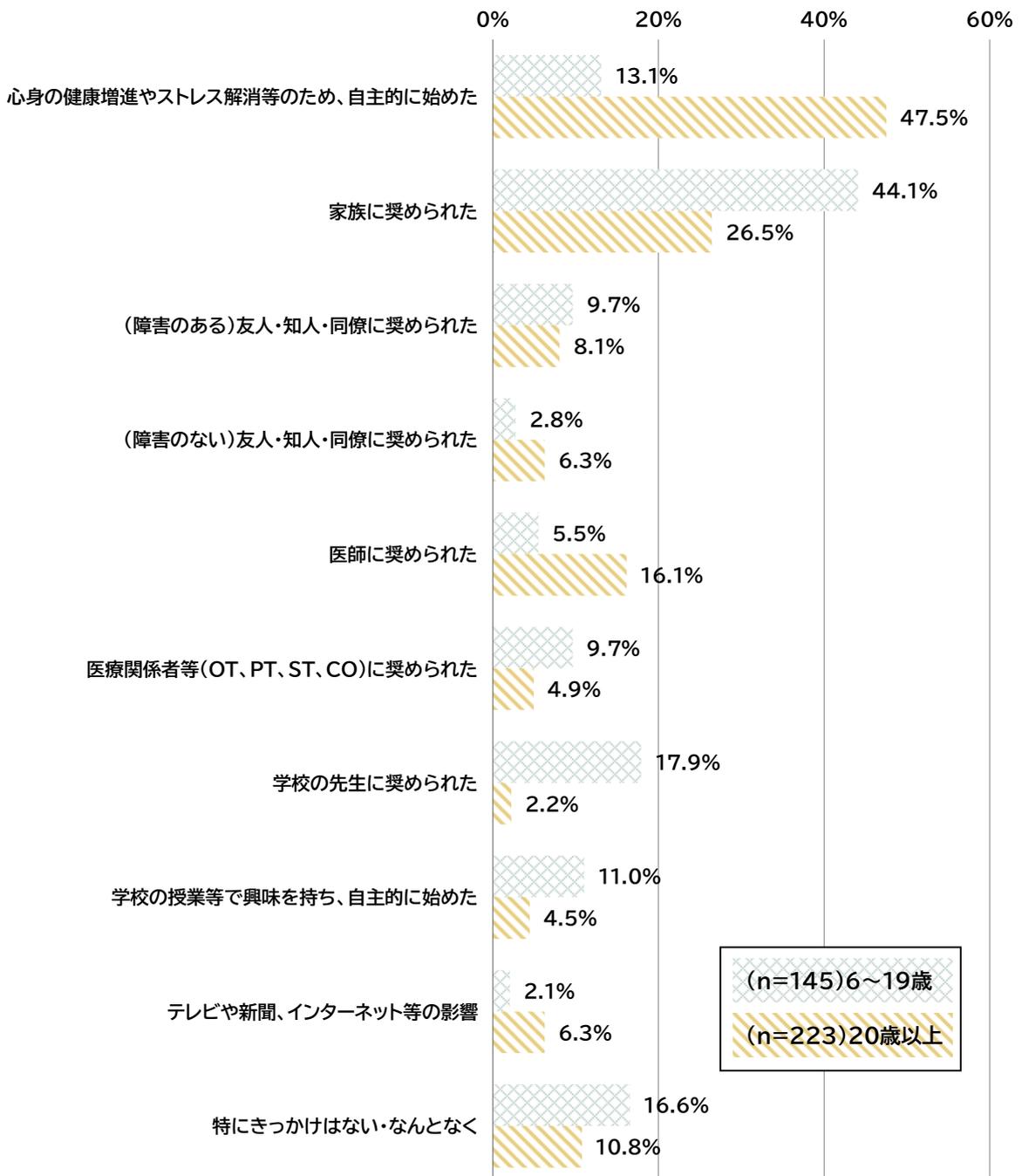
図表 3-2-43 障害発生後に運動・スポーツを始めたきっかけ（障害種別）



(6～19歳・20歳以上別クロス集計結果) ※上位項目のみ抜粋

- ・6～19歳は「家族に奨められた (44.1%)」が突出して高く、20歳以上と比べて、15ポイント以上高い。
- ・20歳以上は「心身の健康増進やストレス解消等のため、自主的に始めた (47.5%)」が突出して高く、6～19歳と比べて、30ポイント以上高い。
- ・20歳以上は6～19歳と比べて、「医師に奨められた (16.1%)」の割合が10ポイント以上高い。

図表 3-2-44 障害発生後に運動・スポーツを始めたきっかけ (6～19歳・20歳以上別)

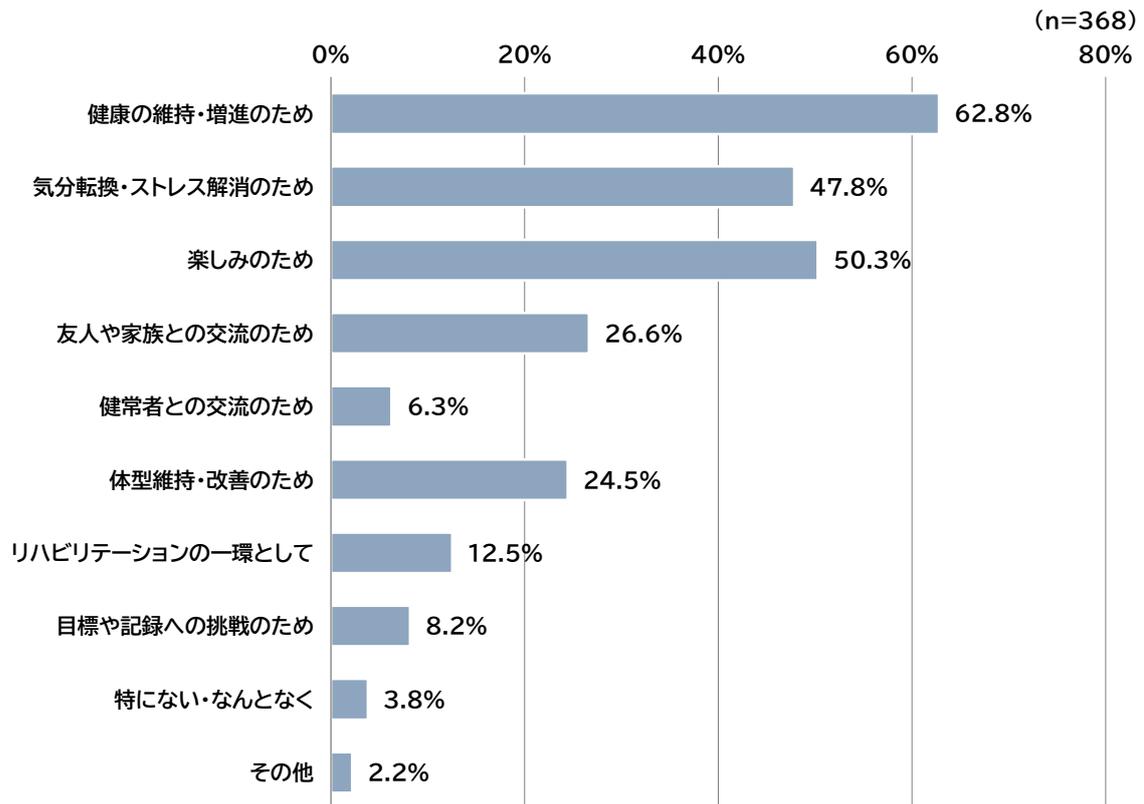


※ (2) ③で「週に3日以上」、「週に1~2日」、「月に1~3日」、「3か月に1~2日」、「年に1~3日」と回答した方のみ

①運動・スポーツを実施する目的【MA】

「健康の維持・増進のため」の割合が最も高く62.8%である。次いで、「楽しみのため(50.3%)」、「気分転換・ストレス解消のため(47.8%)」の割合が高い。

図表 3-2-45 運動・スポーツを実施する目的



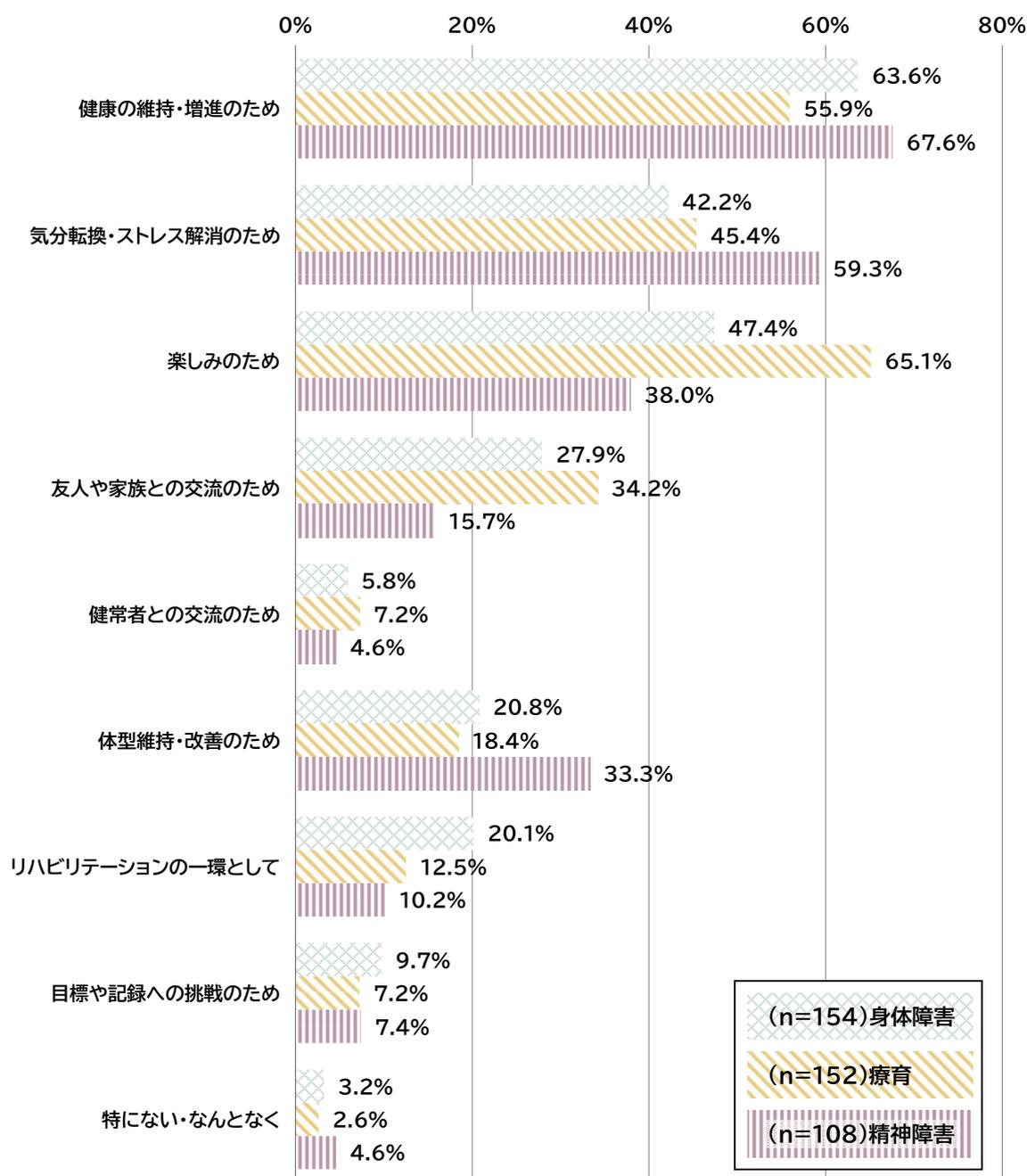
その他

- 自己実現のため
- 外出するきっかけとするため 等

(障害種別クロス集計結果)

- ・療育は「楽しみのため (65.1%)」の割合が最も高く、他の障害と比べて、15ポイント以上高い。
- ・精神障害は他の障害と比べて、「気分転換・ストレス解消のため (59.3%)」、「体型維持・改善のため (33.3%)」の割合が10ポイント以上高い。
- ・療育、身体障害は精神障害と比べて、「友人や家族との交流のため (それぞれ 34.2%、27.9%)」の割合が10ポイント以上高い。

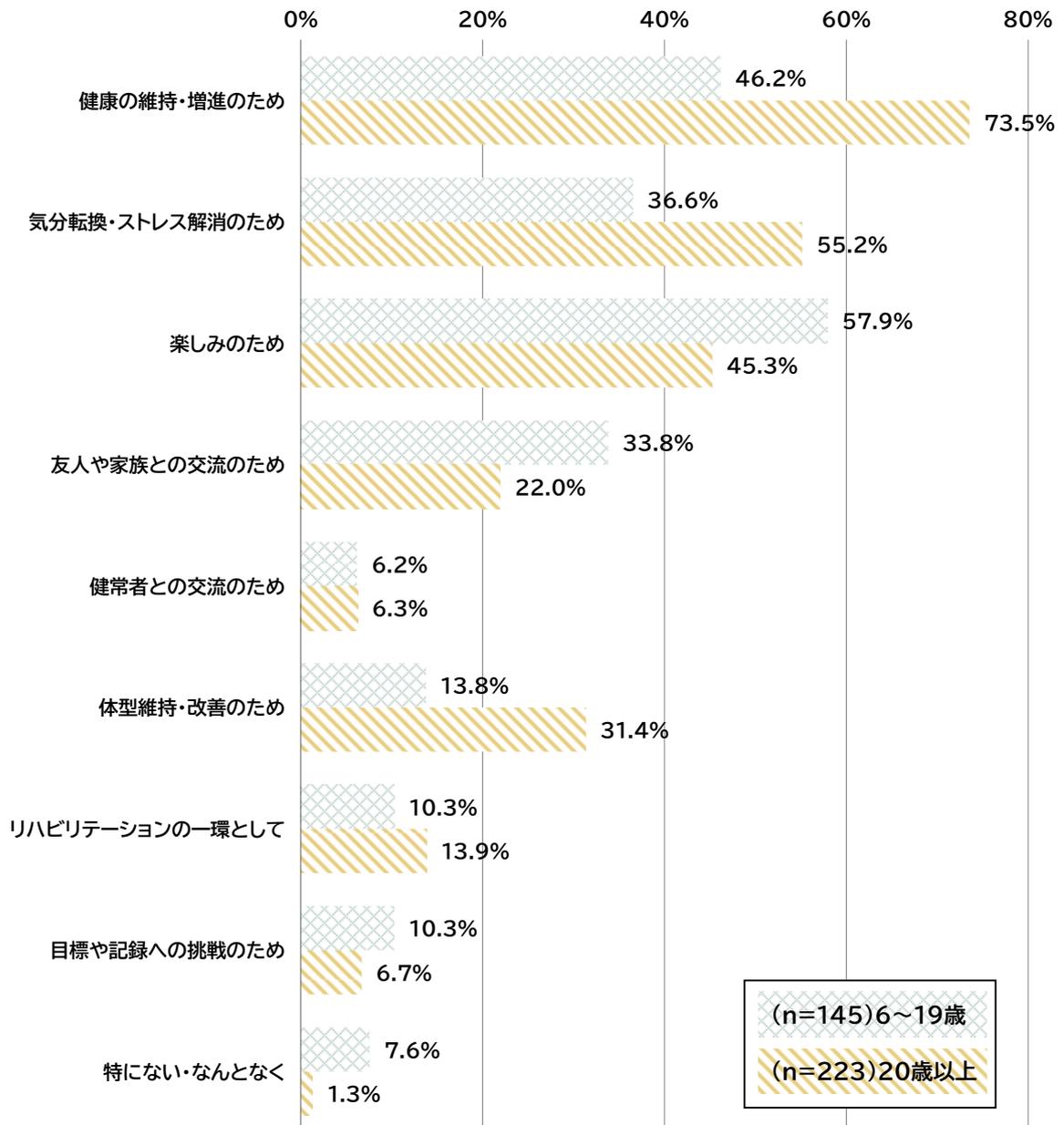
図表 3-2-46 運動・スポーツを実施する目的 (障害種別)



(6～19歳・20歳以上別クロス集計結果)

- ・6～19歳は「楽しみのため (57.9%)」、20歳以上は「健康の維持・増進のため (73.5%)」の割合が最も高い。
- ・6～19歳は20歳以上と比べて、「友人や家族との交流のため (33.8%)」の割合が10ポイント以上高い。
- ・20歳以上は6～19歳と比べて、「気分転換・ストレス解消のため (55.2%)」、「体型維持・改善のため (31.4%)」の割合が15ポイント以上高い。

図表 3-2-47 運動・スポーツを実施する目的 (6～19歳・20歳以上別)

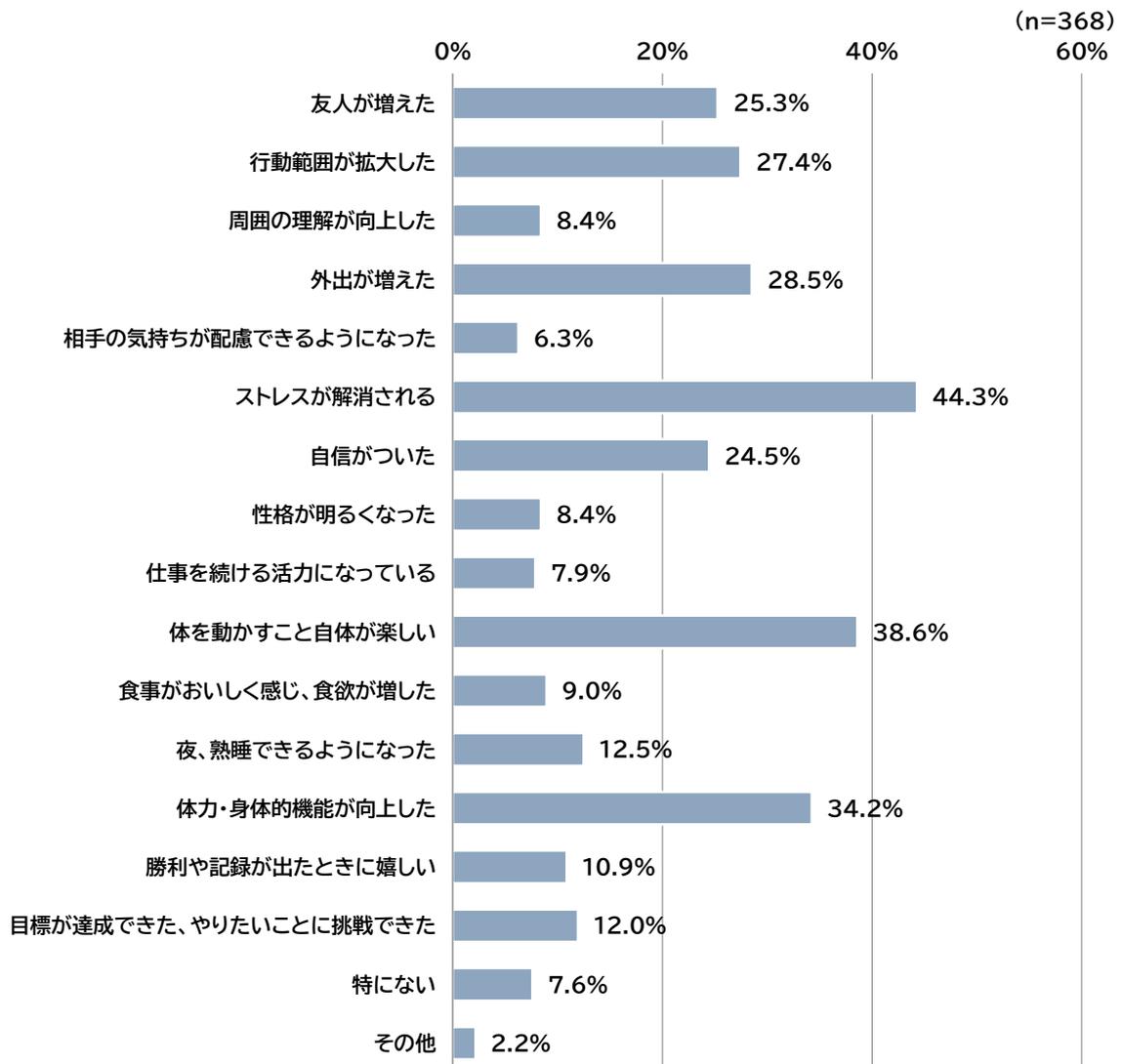


※ (2) ③で「週に3日以上」、「週に1~2日」、「月に1~3日」、「3か月に1~2日」、「年に1~3日」と回答した方のみ

⑫運動・スポーツをやっているよかったこと【MA】

「ストレスが解消される」の割合が最も高く44.3%である。次いで、「体を動かすこと自体が楽しい(38.6%)」、「体力・身体的機能が向上した(34.2%)」の割合が高い。

図表 3-2-48 運動・スポーツをやったよかったこと



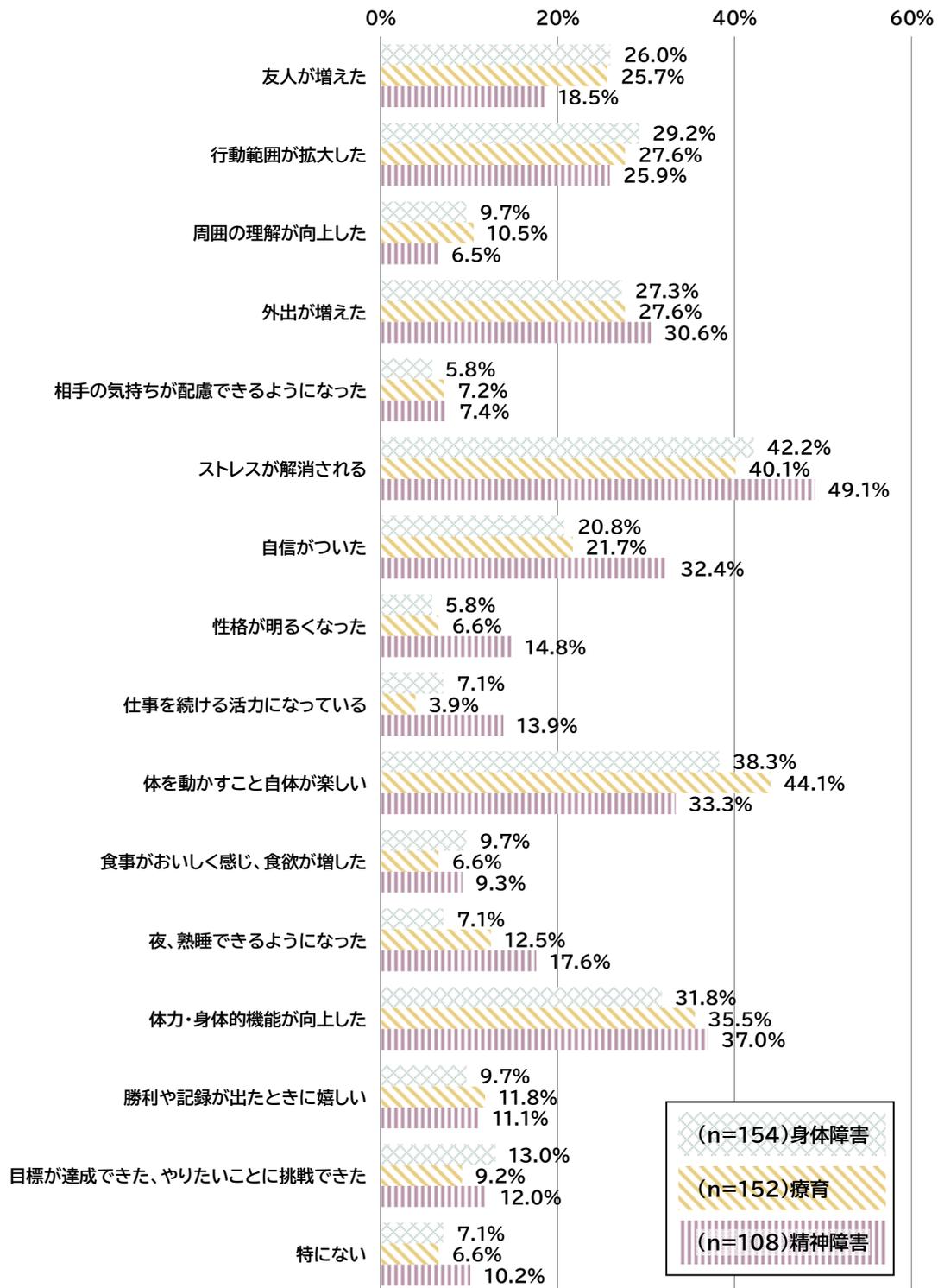
その他

- 継続する力を得た
- 健康的な生活を送ることができる 等

(障害種別クロス集計結果)

- ・療育は「体を動かすこと自体が楽しい (44.1%)」の割合が最も高く、精神障害と比べて、10ポイント以上高い。
- ・精神障害は他の障害と比べて、「自信がついた (32.4%)」の割合が10ポイント以上高い。

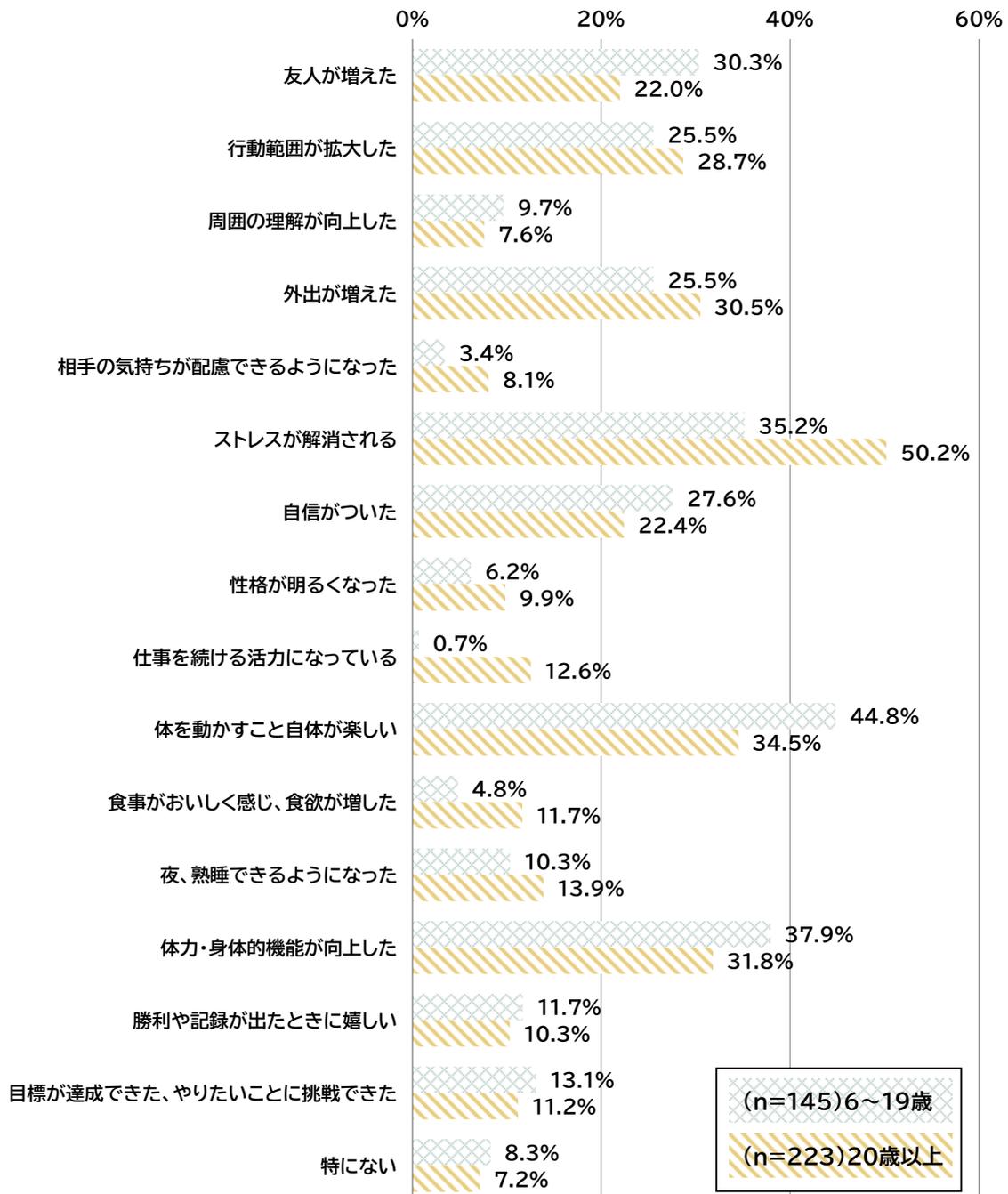
図表 3-2-49 運動・スポーツをやったよかったこと (障害種別)



(6～19歳・20歳以上別クロス集計結果)

- ・6～19歳は「体を動かすこと自体が楽しい(44.8%)」が最も高く、20歳以上と比べて、10ポイント以上高い。
- ・20歳以上は「ストレスが解消される(50.2%)」の割合が最も高く、6～19歳と比べて、10ポイント以上高い。
- ・20歳以上は6～19歳と比べて、「仕事を続ける活力になっている(12.6%)」の割合が10ポイント以上高い。

図表 3-2-50 運動・スポーツをやってよかったこと(6～19歳・20歳以上別)

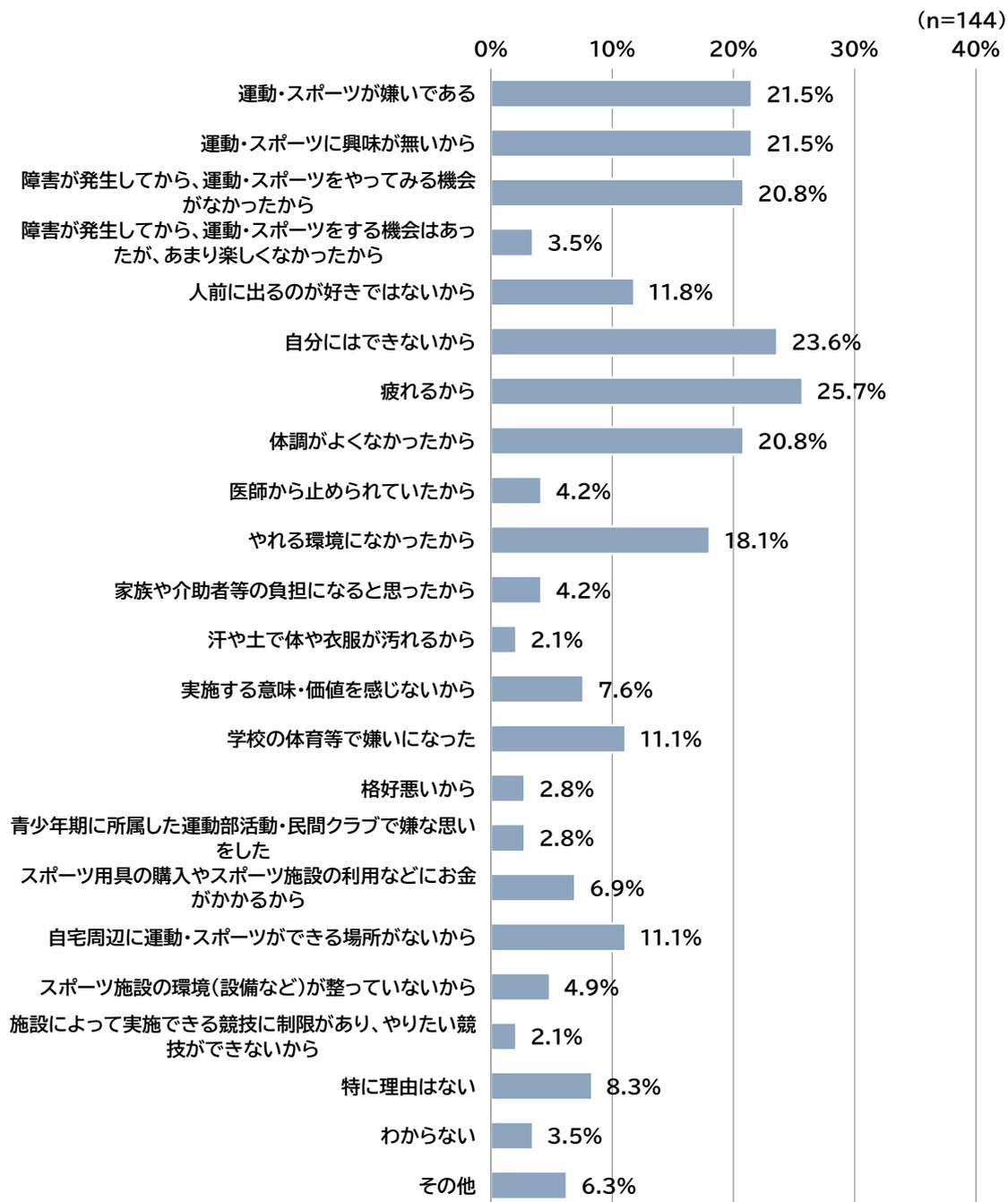


※（２）③で「運動はしていない」と回答した方のみ

⑬運動・スポーツを実施していない理由【MA】

「疲れるから」の割合が最も高く 25.7%である。次いで、「自分にはできないから (23.6%)」の割合が高い。

図表 3-2-5 1 運動・スポーツを実施していない理由



その他

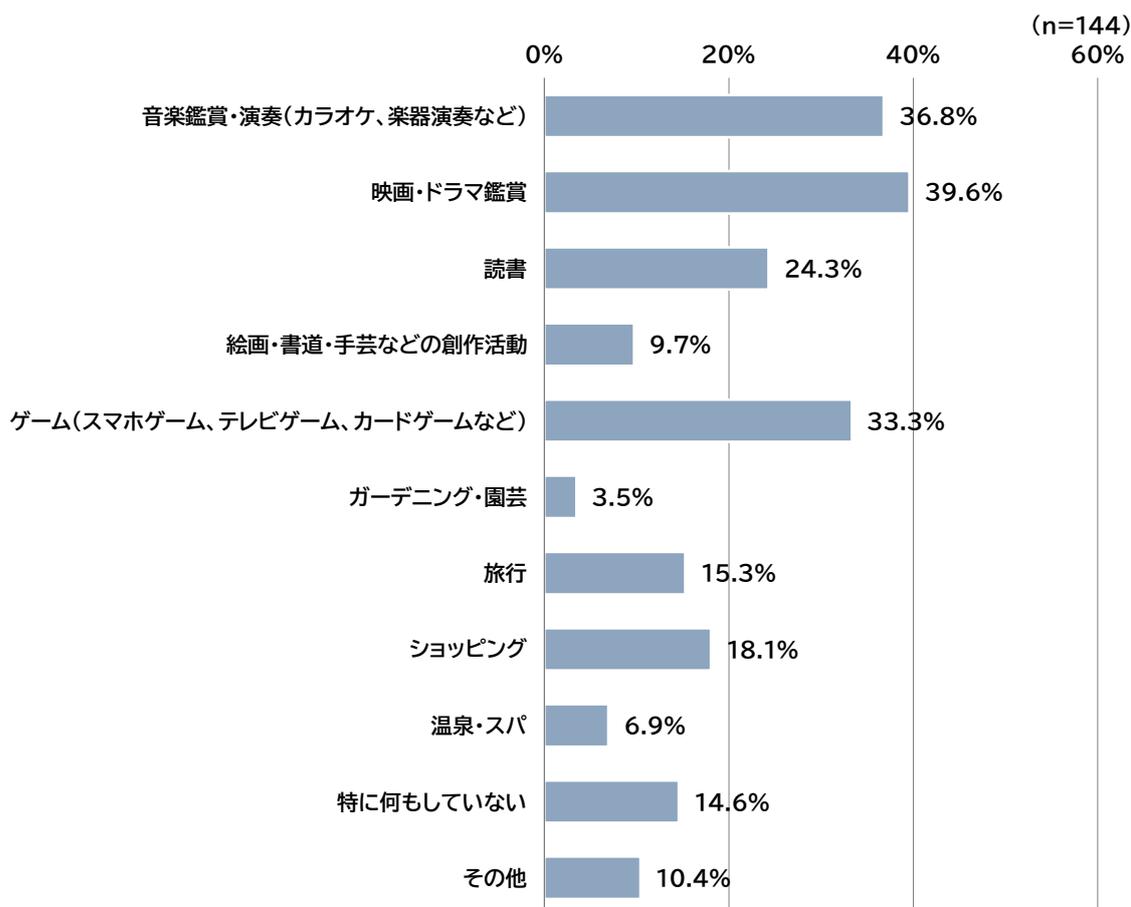
- (家事・育児等により) 時間がない (2)
- 人の目につくことが苦手なため 等

※ (2) ③で「運動はしていない」と回答した方のみ

#### ⑭日頃行っている余暇活動【MA】

「映画・ドラマ鑑賞」の割合が最も高く 39.6%である。次いで、「音楽鑑賞・演奏（カラオケ、楽器演奏など）（36.8%）」、「ゲーム（スマホゲーム、テレビゲーム、カードゲームなど）（33.3%）」の割合が高い。

図表 3-2-52 日頃行っている余暇活動



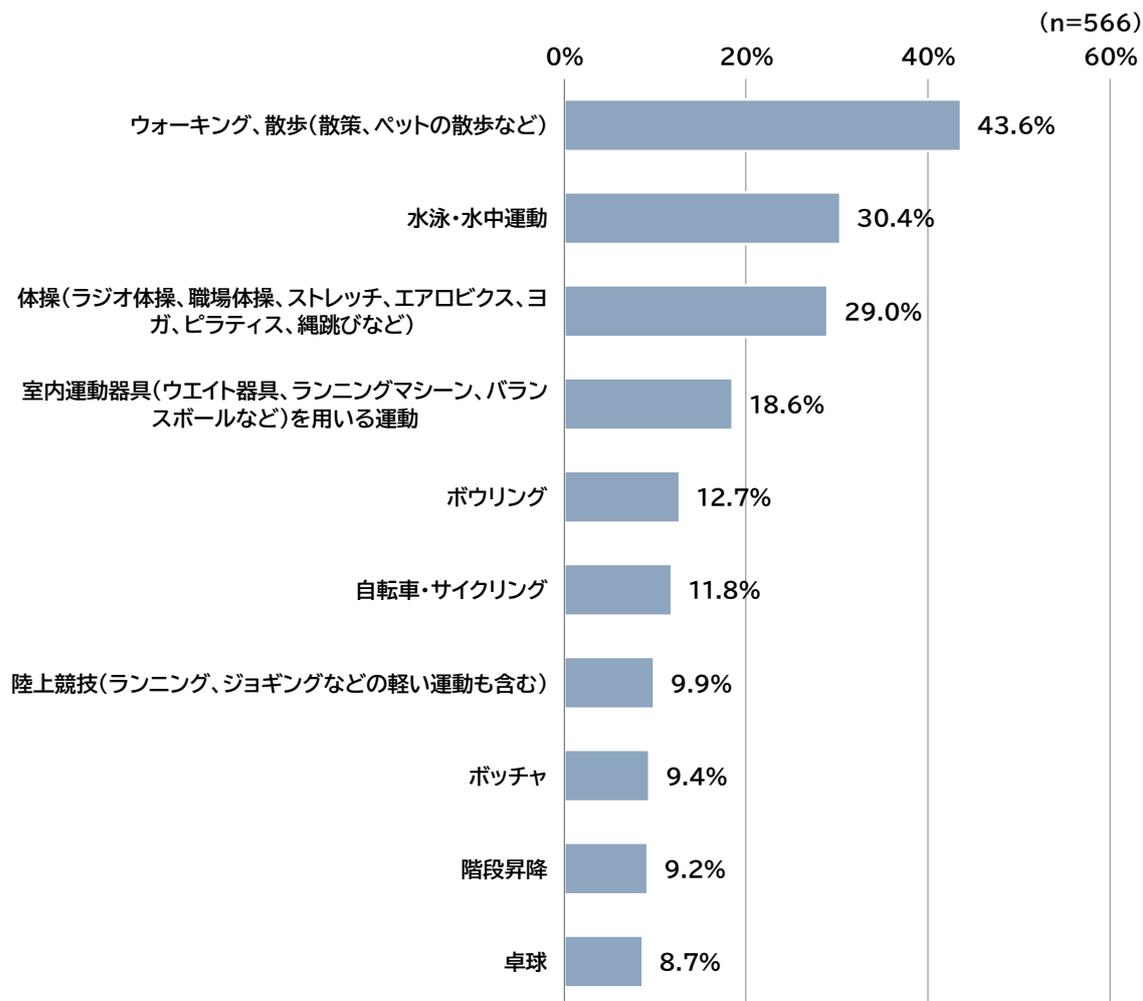
#### その他

- 推し活
- YouTube、TikTok 鑑賞 等

⑮今後やってみたい、または今後も続けたい運動・スポーツ【MA】

「ウォーキング、散歩（散策、ペットの散歩など）」の割合が最も高く 43.6%である。次いで、「水泳・水中運動（30.4%）」、「体操（ラジオ体操、職場体操、ストレッチ、エアロビクス、ヨガ、ピラティス、縄跳びなど）（29.0%）」の割合が高い。

図表 3-2-53 今後やってみたい、または今後も続けたい運動・スポーツ



(障害種別クロス集計結果)

	身体障害 (n=251)		療育 (n=215)		精神障害 (n=178)	
1	ウォーキング、 散歩	45.4%	ウォーキング、 散歩	40.5%	ウォーキング、 散歩	46.1%
2	体操	33.1%	水泳・水中運動	35.3%	水泳・水中運動	28.7%
3	水泳・水中運動	31.9%	体操	27.9%	体操	27.0%
4	室内運動器具を 用いる運動	21.5%	室内運動器具を 用いる運動	14.4%	室内運動器具を 用いる運動	20.2%
5	ボッチャ	14.3%	ボウリング	14.4%	自転車・ サイクリング	12.9%
6	ボウリング	13.5%	ボッチャ	13.0%	ボウリング	10.7%
7	階段昇降	12.0%	陸上競技	11.6%	階段昇降	10.7%
8	自転車・ サイクリング	10.4%	サッカー・ フットサル	11.2%	テニス	9.6%
9	卓球	9.6%	自転車・サイクリ ング	11.2%	陸上競技	9.0%
10	陸上競技 ウィンタースポ ーツ	8.8%	バスケットボー ル	8.8%	卓球 バスケットボー ル 武道 ウィンタースポ ーツ	7.9%

(6～19歳・20歳以上別クロス集計結果)

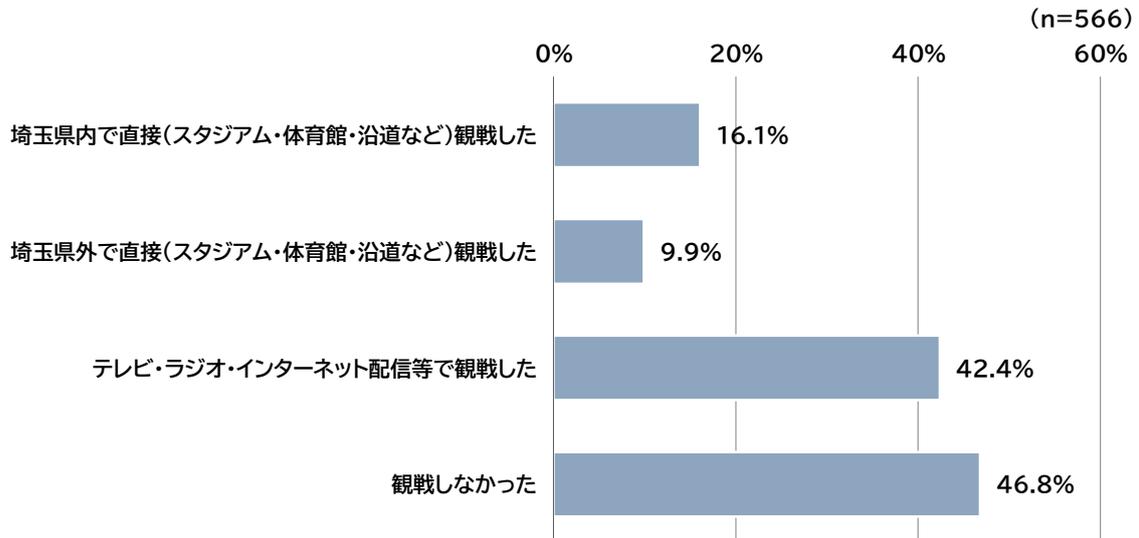
	6～19歳 (n=180)		20歳以上 (n=386)	
1	水泳・水中運動	41.1%	ウォーキング、散歩	47.7%
2	ウォーキング、散歩	35.0%	体操	28.2%
3	体操	30.6%	水泳・水中運動	25.4%
4	室内運動器具を用いる運動	19.4%	室内運動器具を用いる運動	18.1%
5	ボッチャ	15.6%	ボウリング	12.7%
6	自転車・サイクリング	13.9%	階段昇降	11.4%
7	ボウリング	12.8%	自転車・サイクリング	10.9%
8	サッカー・フットサル	12.2%	陸上競技	9.6%
9	バスケットボール	11.1%	卓球	9.1%
10	陸上競技 バドミントン ウィンタースポーツ	10.6%	テニス	7.0%

#### (4) スポーツの観戦状況

##### ①過去1年間のスポーツ観戦経験【MA】

「観戦しなかった」の割合が最も高く46.8%である。次いで、「テレビ・ラジオ・インターネット配信等で観戦した(42.4%)」の割合が高い。

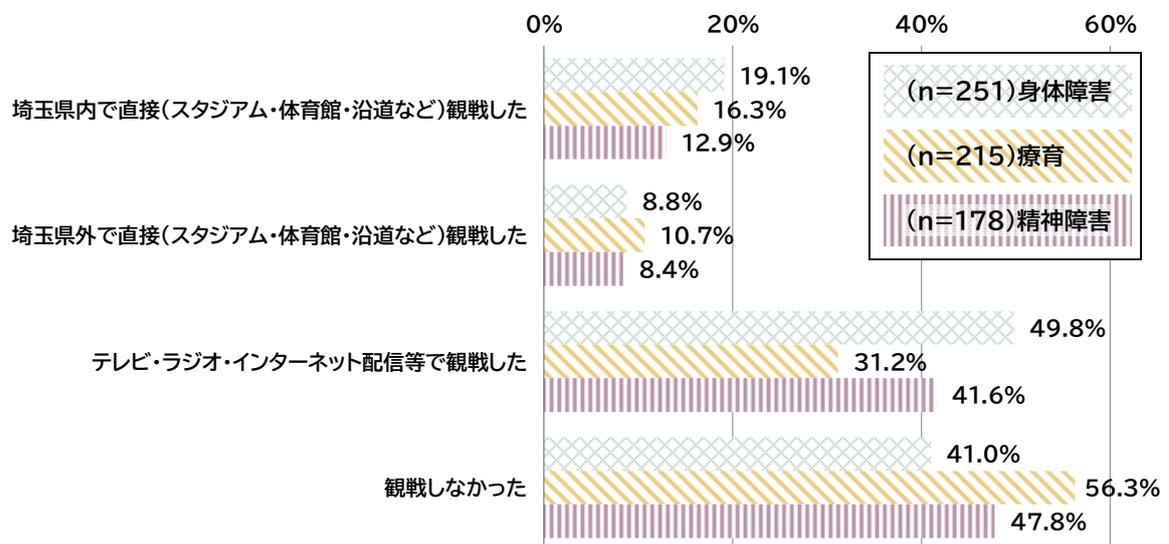
図表 3-2-54 過去1年間のスポーツ観戦経験



##### (障害種別クロス集計結果)

- ・身体障害、精神障害は療育と比べて、「テレビ・ラジオ・インターネット等で観戦した(それぞれ49.8%、41.6%)」の割合が10ポイント以上高い。
- ・療育は「観戦しなかった(56.3%)」の割合が最も高く、身体障害と比べて、15ポイント以上高い。

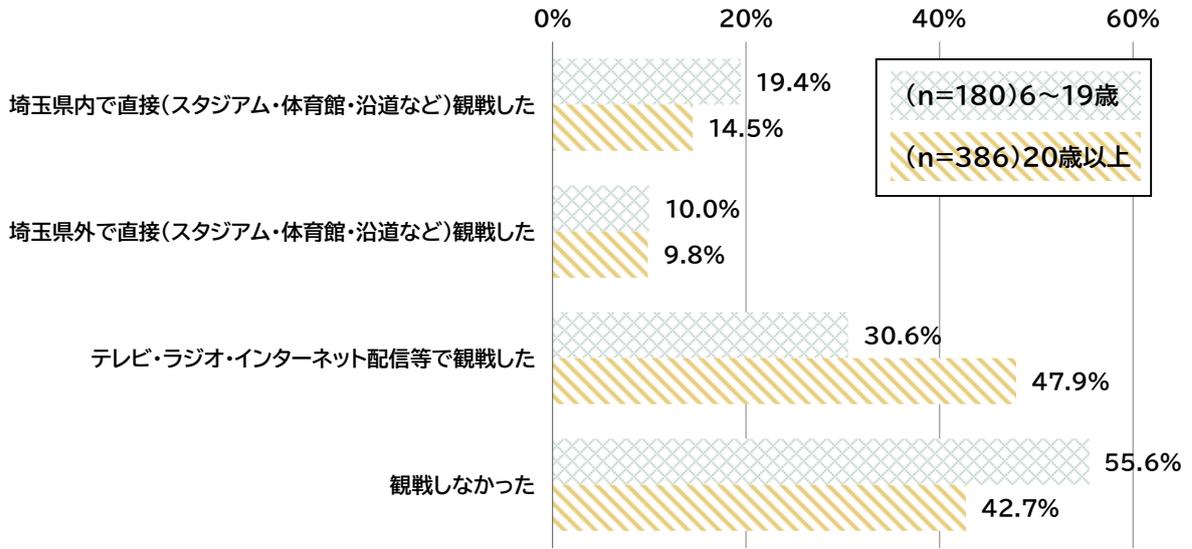
図表 3-2-55 過去1年間のスポーツ観戦経験(障害種別)



(6～19歳・20歳以上別クロス集計結果)

- ・6～19歳は「観戦しなかった (55.6%)」の割合が最も高く、20歳以上と比べて、10ポイント以上高い。
- ・20歳以上は「テレビ・ラジオ・インターネット等で観戦した (47.9%)」の割合が最も高く、6～19歳と比べて、15ポイント以上高い。

図表 3-2-56 過去1年間のスポーツ観戦経験 (6～19歳・20歳以上別)

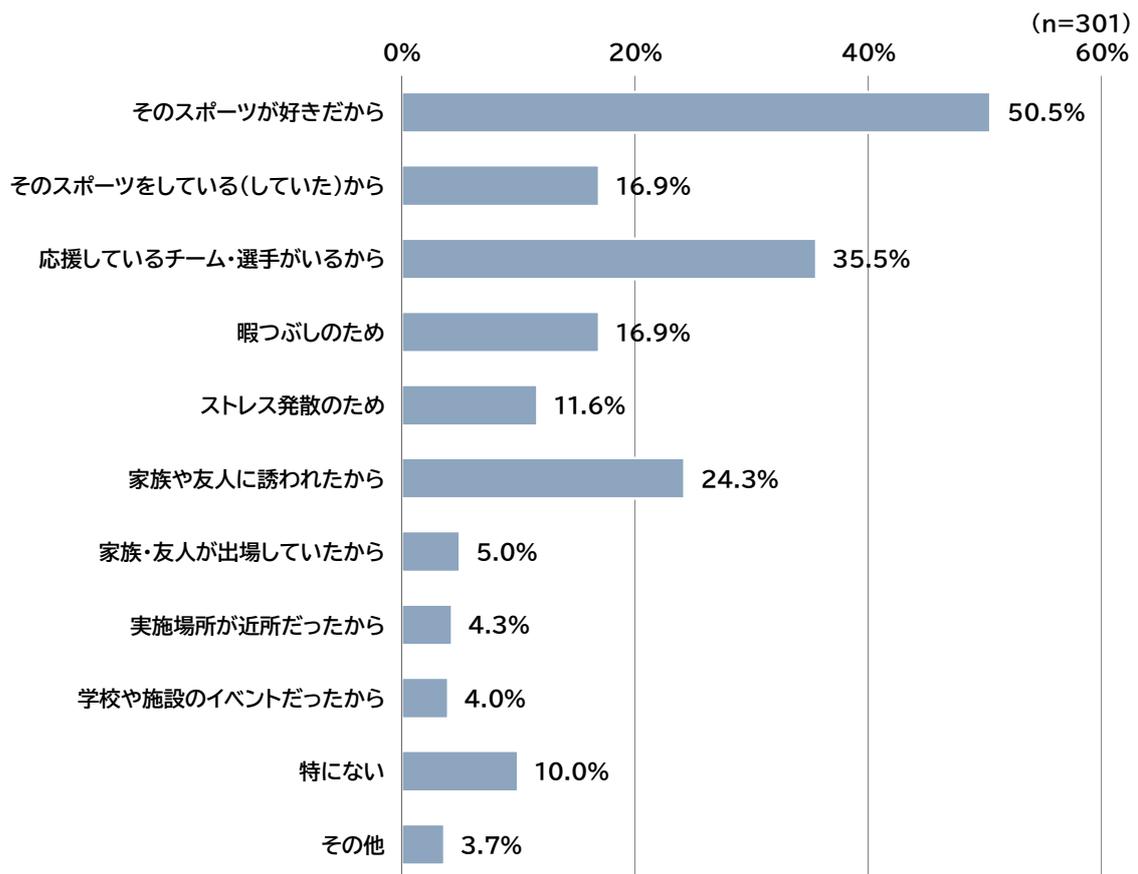


※（４）①で「埼玉県内で直接観戦した」、「埼玉県外で直接観戦した」、「テレビ・ラジオ・インターネット配信等で観戦した」と回答した方のみ

### ②スポーツを観戦した理由【MA】

「そのスポーツが好きだから」の割合が最も高く 50.5%である。次いで、「応援しているチーム・選手がいるから（35.5%）」、「家族や友人に誘われたから（24.3%）」である。

図表 3-2-57 スポーツを観戦した理由



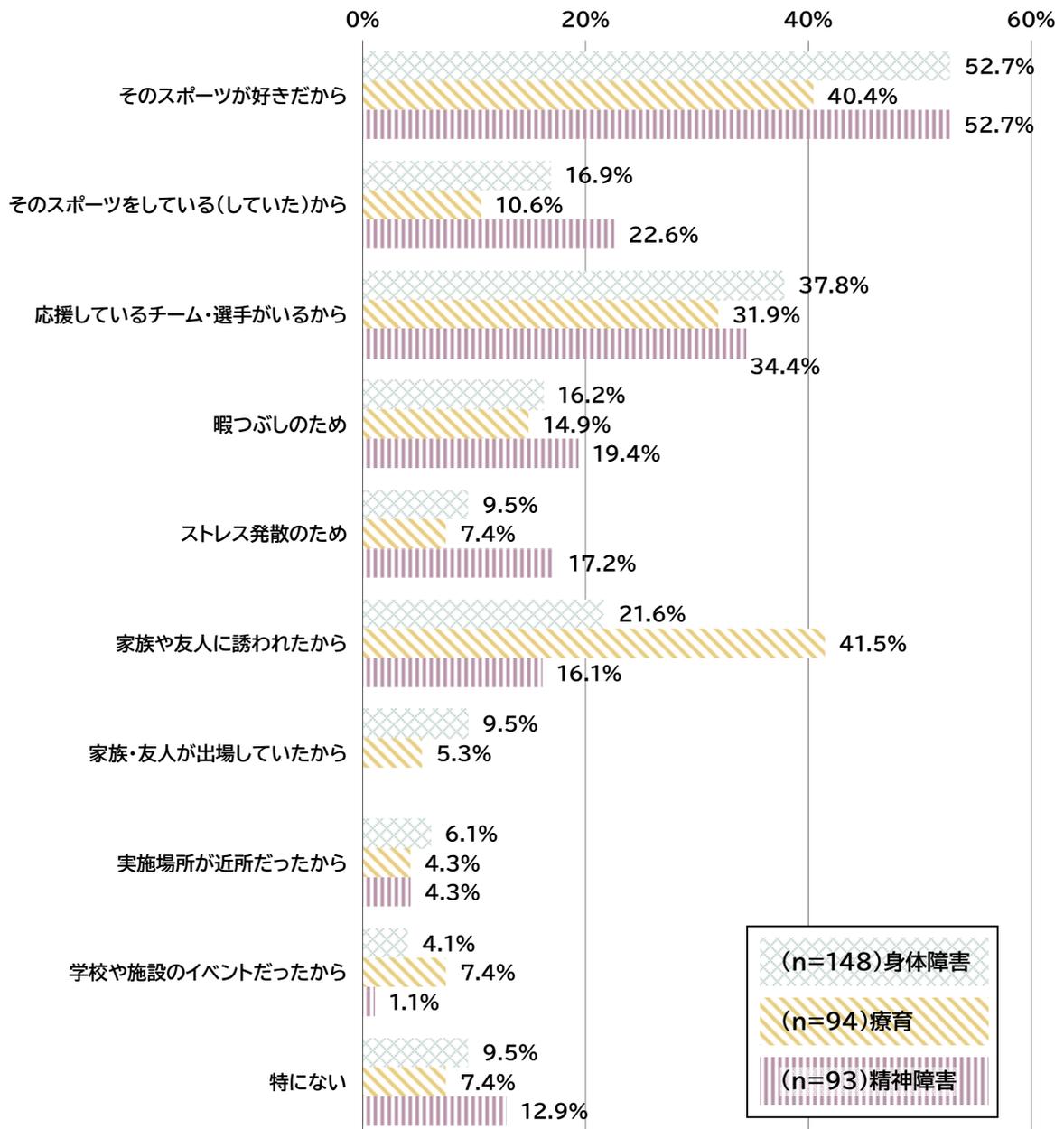
#### その他

- アニメ/漫画の影響でそのスポーツ（野球）に興味を持ったから
- オリンピックが盛り上がっていたから 等

(障害種別クロス集計結果)

- ・身体障害、精神障害は「そのスポーツが好きだから (52.7%)」の割合が最も高く、療育と比べて、10ポイント以上高い。
- ・療育は「家族や友人に誘われたから (41.5%)」の割合が最も高く、他の障害と比べて、20ポイント程度高い。

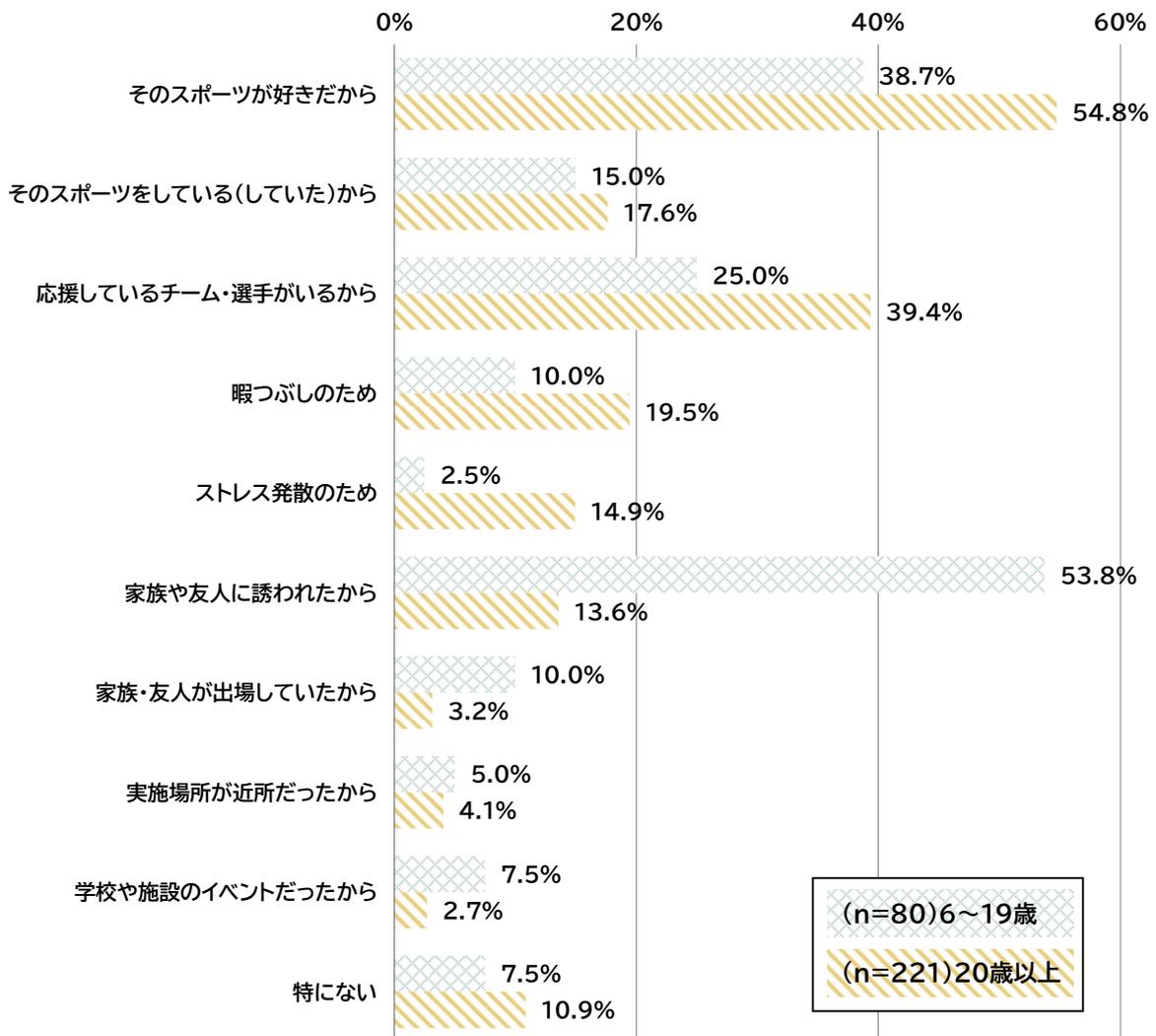
図表 3-2-58 スポーツを観戦した理由 (障害種別)



(6～19歳・20歳以上別クロス集計結果)

- ・6～19歳は「家族や友人に誘われたから(53.8%)」の割合が最も高く、20歳以上と比べて、40ポイント以上高い。
- ・20歳以上は「そのスポーツが好きだから(54.8%)」の割合が最も高く、6～19歳と比べて、15ポイント以上高い。次いで、「応援しているチーム・選手がいるから(39.4%)」の割合が高く、6～19歳と比べて、15ポイント程度高い。

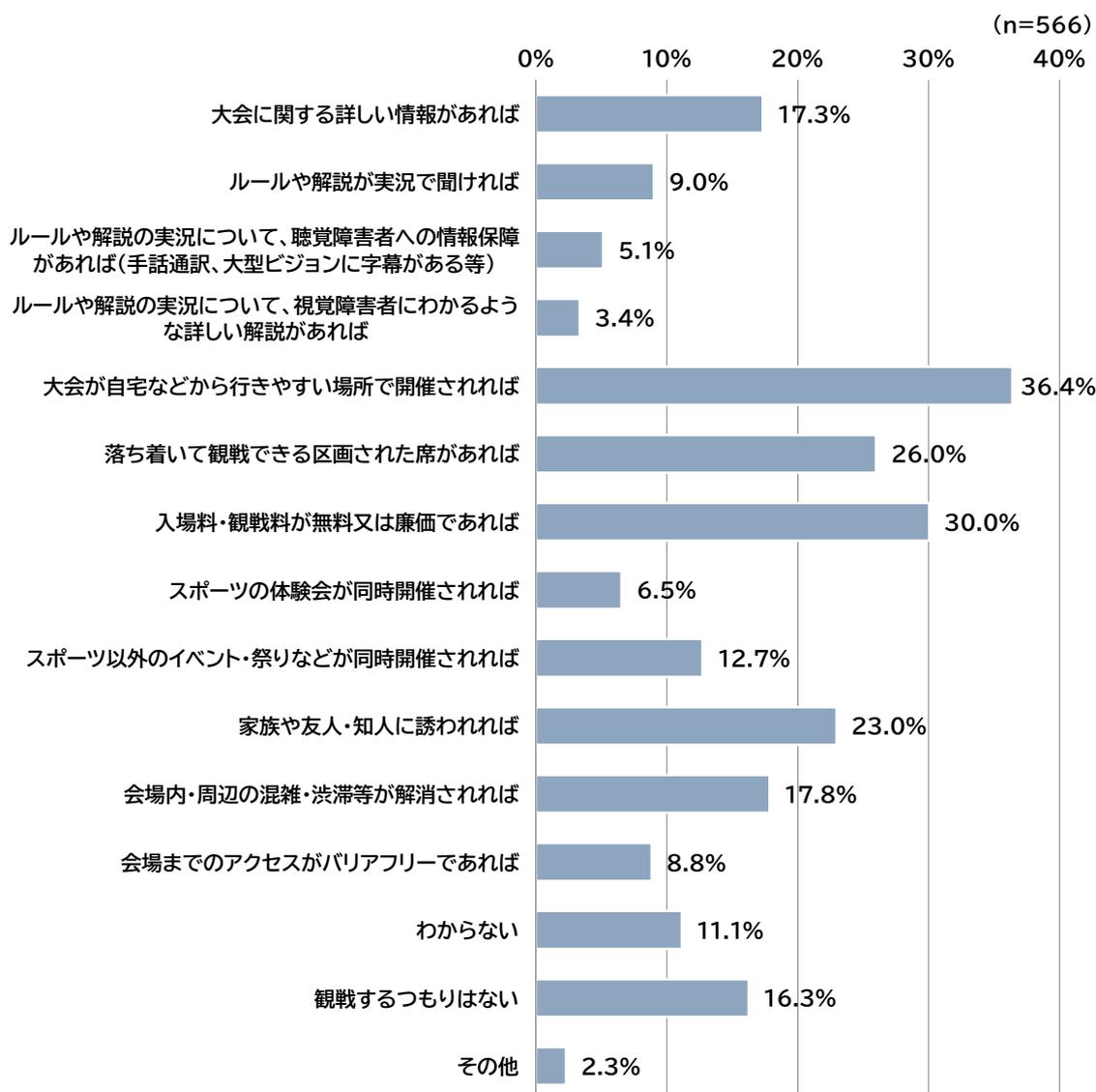
図表 3-2-59 スポーツを観戦した理由(6～19歳・20歳以上別)



### ③スポーツを実際に（さらに）観戦してみようと思う取組・工夫【MA】

「大会が自宅などから行きやすい場所で開催されれば」の割合が最も高く 36.4%である。次いで、「入場料・観戦料が無料又は廉価であれば（30.0%）」、「落ち着いて観戦できる区画された席があれば（26.0%）」の割合が高い。

図表 3-2-60 スポーツを実際に（さらに）観戦してみようと思う取組・工夫



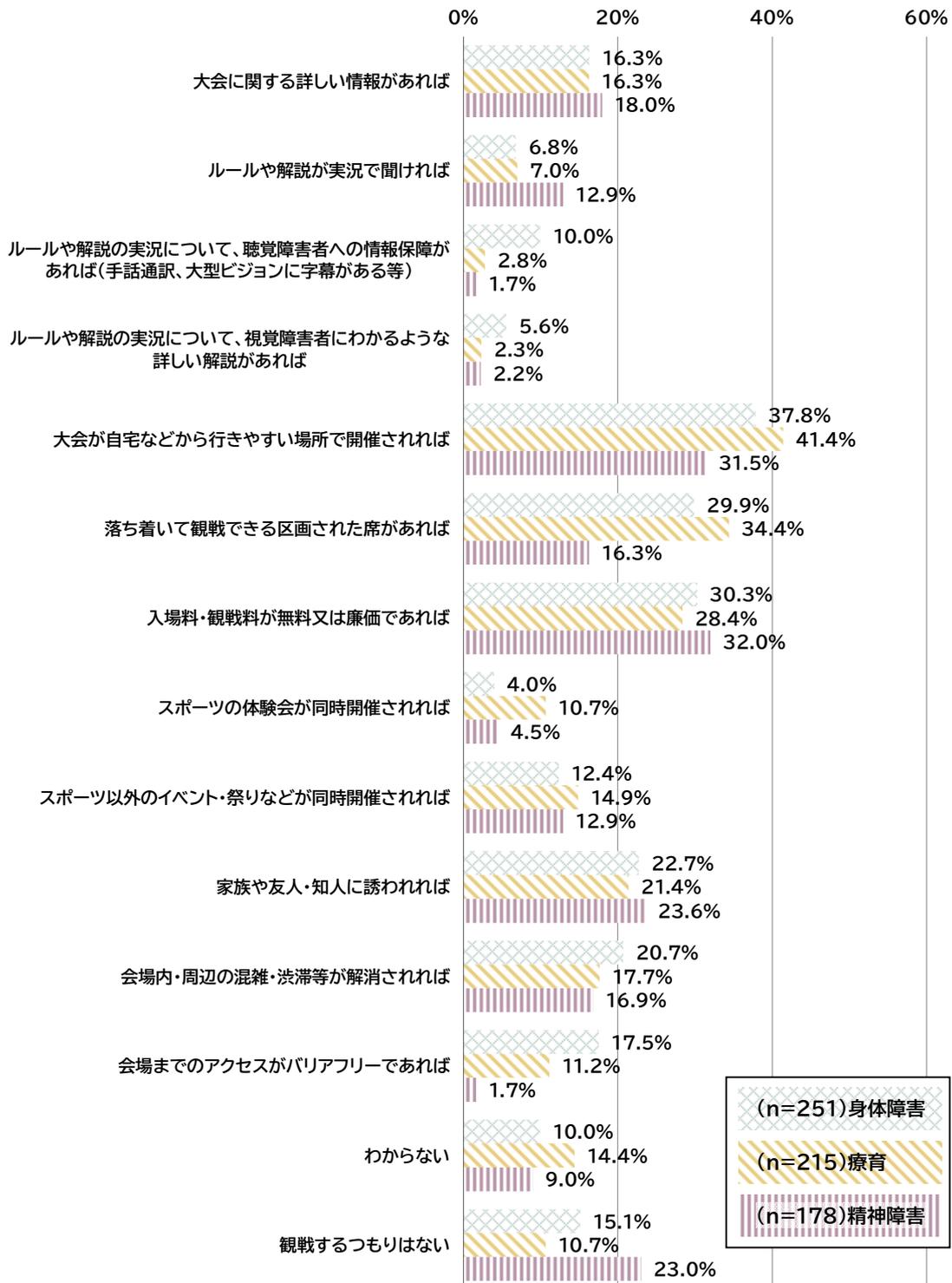
#### その他

- ルール理解できるようになれば
- 精神障害者が他人に干渉されることなく楽しめる環境があれば 等

(障害種別クロス集計結果)

- ・療育、身体障害は精神障害と比べて、「落ち着いて観戦できる区画された席があれば（それぞれ 34.4%、29.9%）」の割合が 10 ポイント以上高い。
- ・身体障害、療育は精神障害と比べて、「会場までのアクセスがバリアフリーであれば（それぞれ 17.5%、11.2%）」の割合が 10 ポイント程度高い。

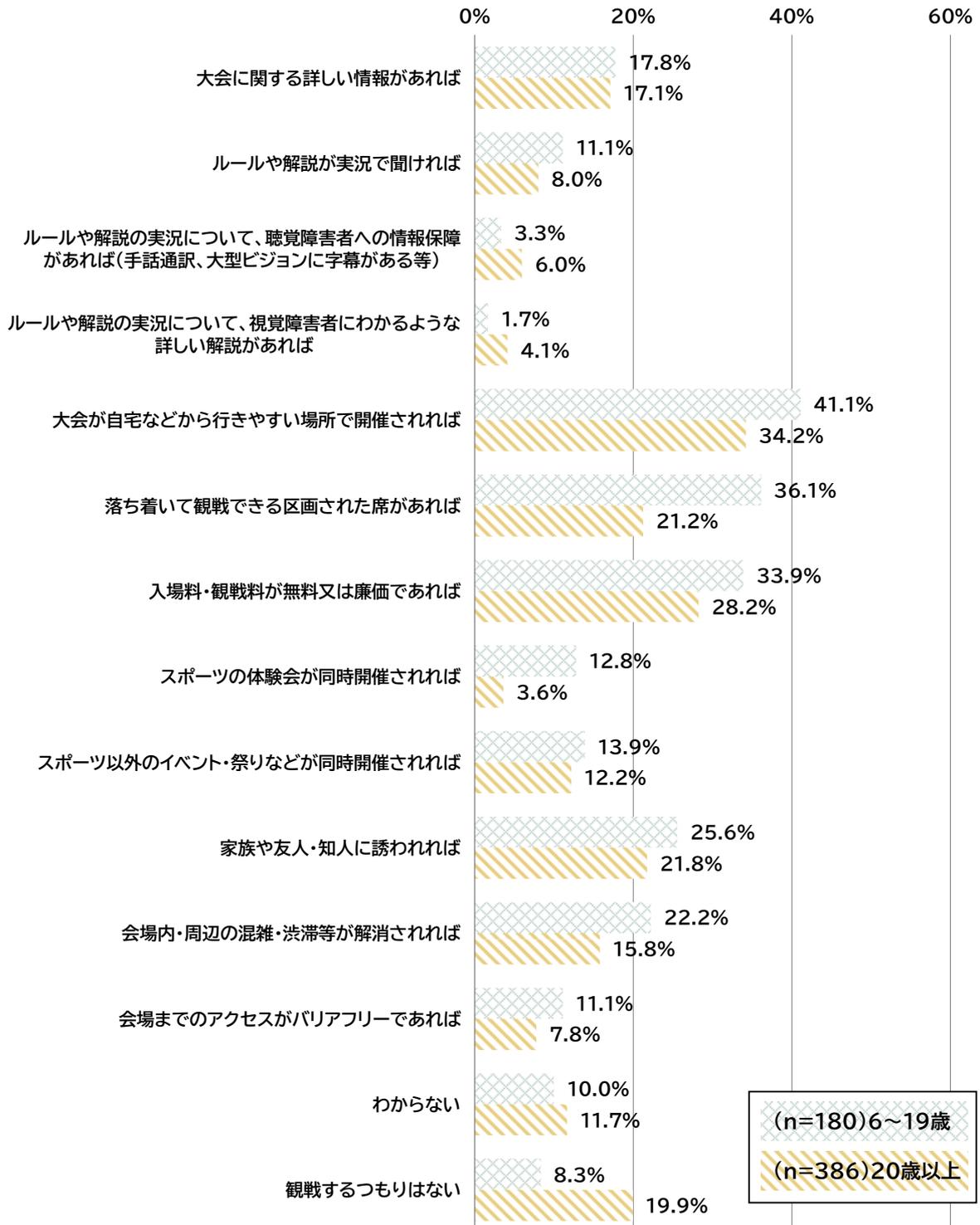
図表 3-2-61 スポーツを実際に（さらに）観戦してみようと思う取組・工夫（障害種別）



(6～19歳・20歳以上別クロス集計結果)

- ・6～19歳は20歳以上と比べて、「落ち着いて観戦できる区画された席があれば(36.1%)」の割合が10ポイント以上高い。
- ・20歳以上は6～19歳と比べて、「観戦するつもりはない(19.9%)」の割合が10ポイント以上高い。

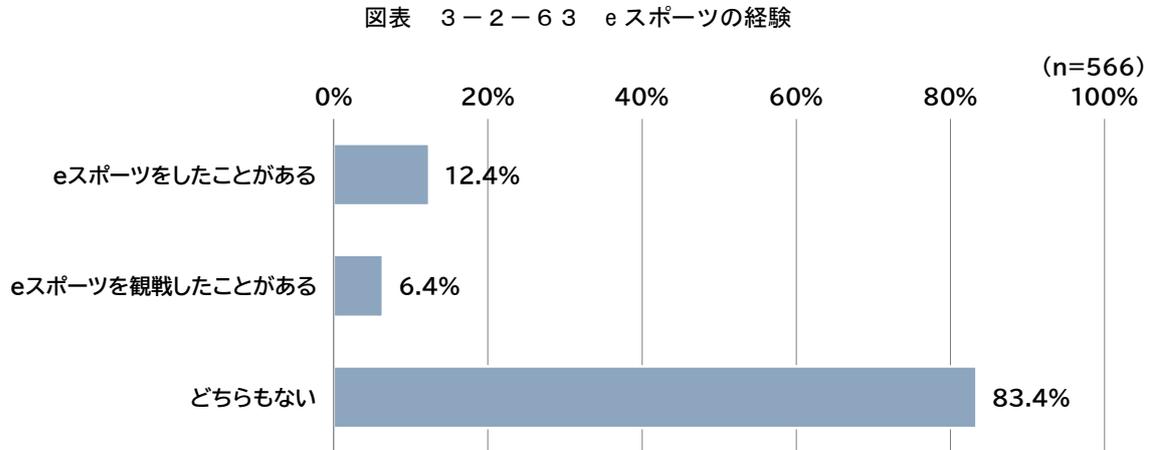
図表 3-2-62 スポーツを実際に(さらに)観戦してみようと思う取組・工夫(6～19歳・20歳以上別)



(5) eスポーツやマインドスポーツの実施・観戦状況

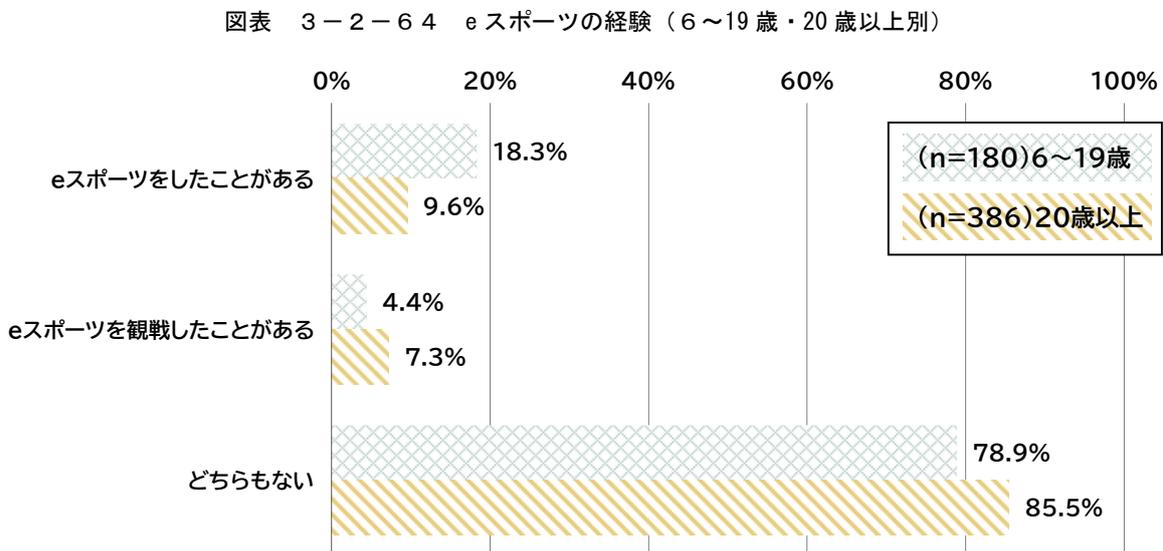
①eスポーツの経験【MA】

「どちらもない」の割合が突出して多く、83.4%である。



(6～19歳・20歳以上別クロス集計結果)

・6～19歳は20歳以上と比べて、「eスポーツをしたことがある (18.3%)」の割合が10ポイント程度高い。

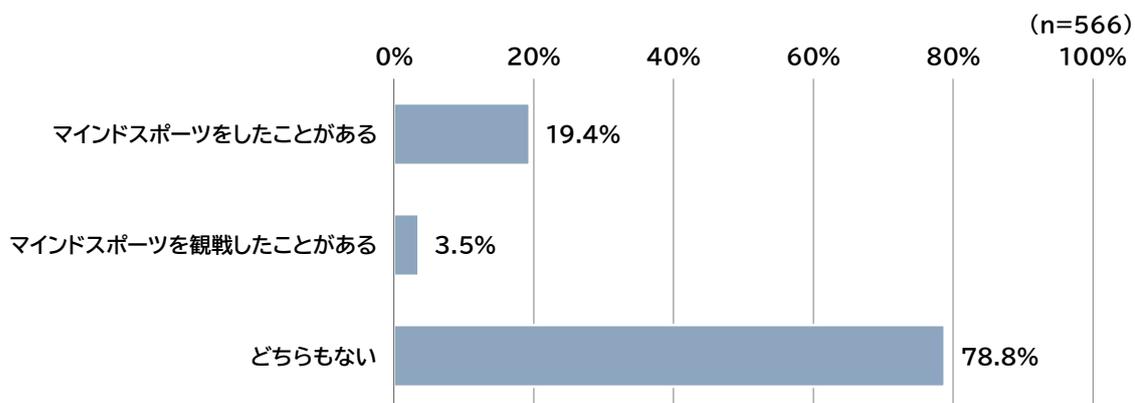


## ②マインドスポーツの経験【MA】

「どちらもない」の割合が突出して多く、78.8%である。

一方で、「マインドスポーツをしたことがある（19.4%）」の割合は「マインドスポーツを観戦したことがある（3.5%）」と比べて、10ポイント以上高い。

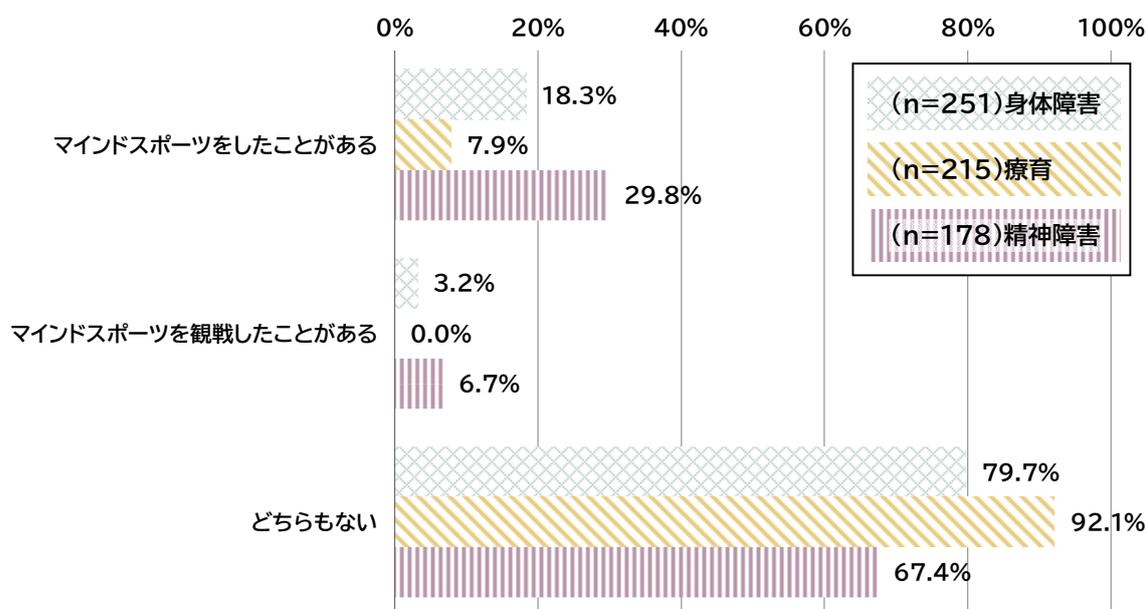
図表 3-2-65 マインドスポーツの経験



### (障害種別クロス集計結果)

- ・精神障害は他の障害と比べて、「マインドスポーツをしたことがある（29.8%）」の割合が10ポイント以上高い。

図表 3-2-66 マインドスポーツの経験（障害種別）

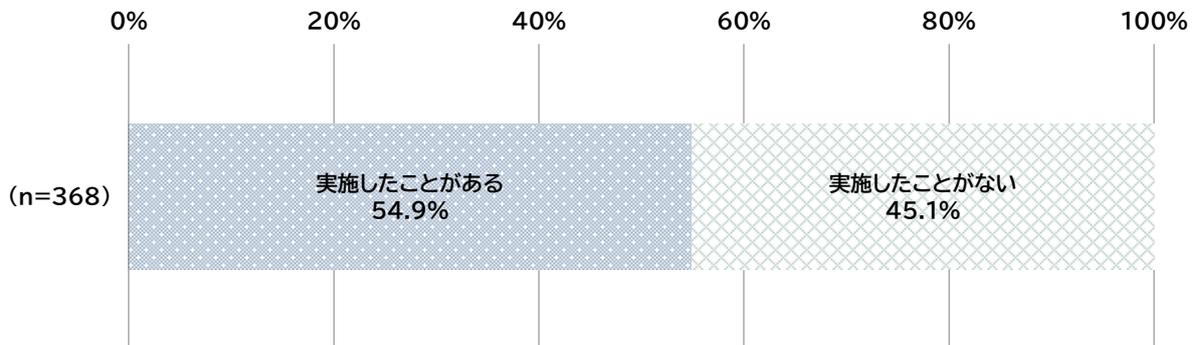


(6) 障害のない人との運動・スポーツの実施状況

①障害のない人と一緒に行う運動・スポーツの実施経験【SA】

「実施したことがある」が「実施したことがない」を10ポイント程度上回る。

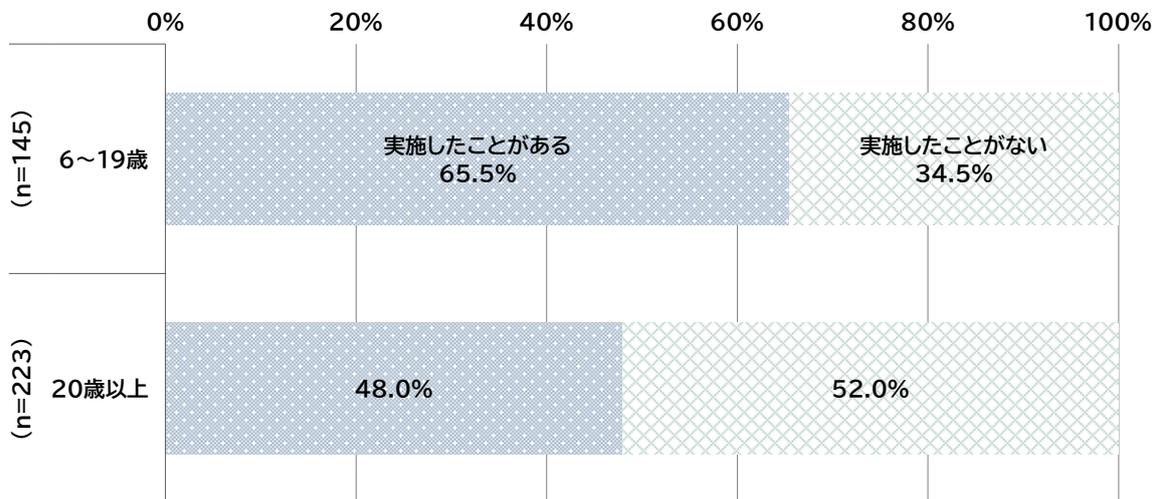
図表 3-2-67 障害のない人と一緒に行う運動・スポーツの実施経験



(6～19歳・20歳以上別クロス集計結果)

・6～19歳は「実施したことがある」の割合が65.5%で、20歳以上と比べて30ポイント以上高い。

図表 3-2-68 障害のない人と一緒に行う運動・スポーツの実施経験(6～19歳・20歳以上別)

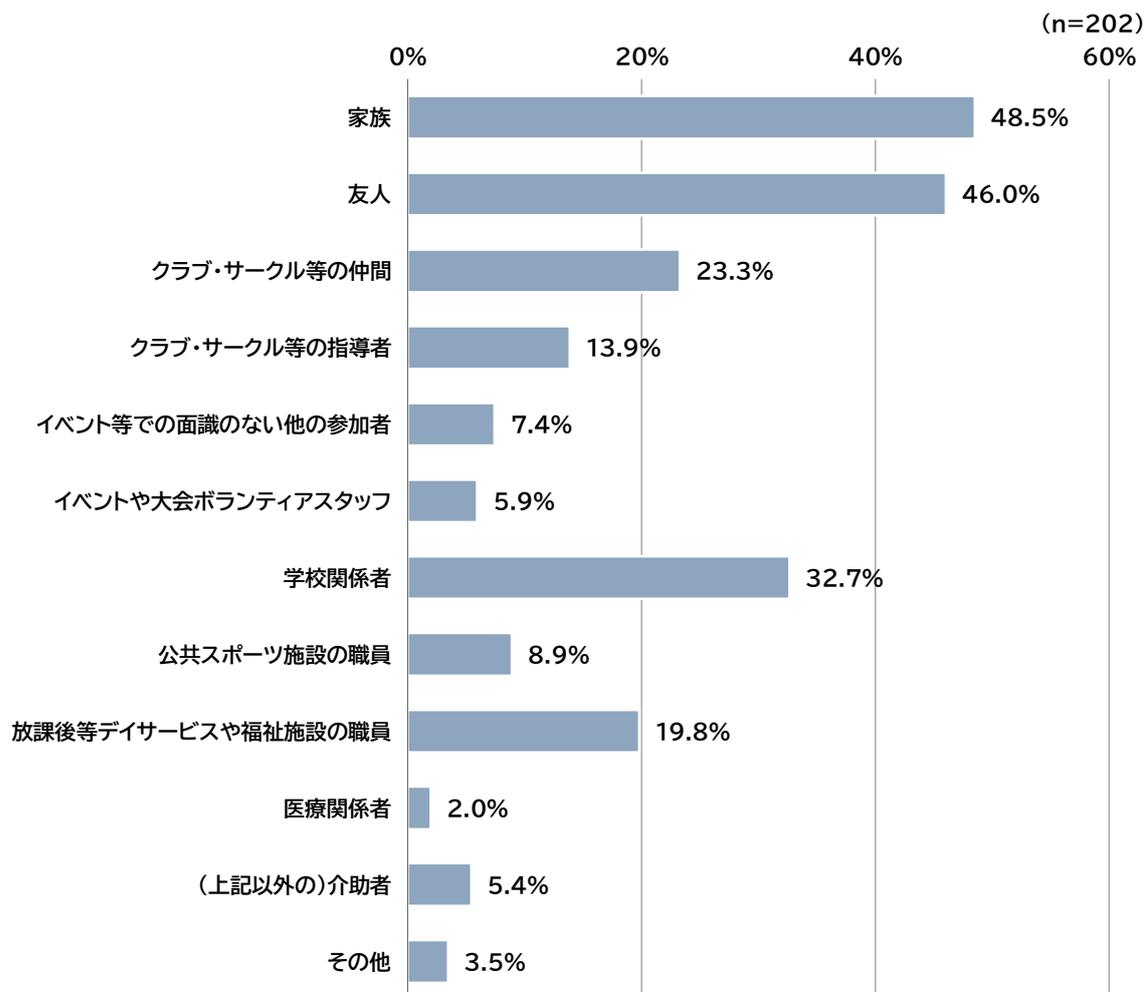


※（6）①で「実施したことがある」と回答した方のみ

②一緒に運動・スポーツをした障害のない人【MA】

「家族」の割合が最も高く 48.5%である。次いで、「友人（46.0%）」、「学校関係者（32.7%）」の割合が高い。

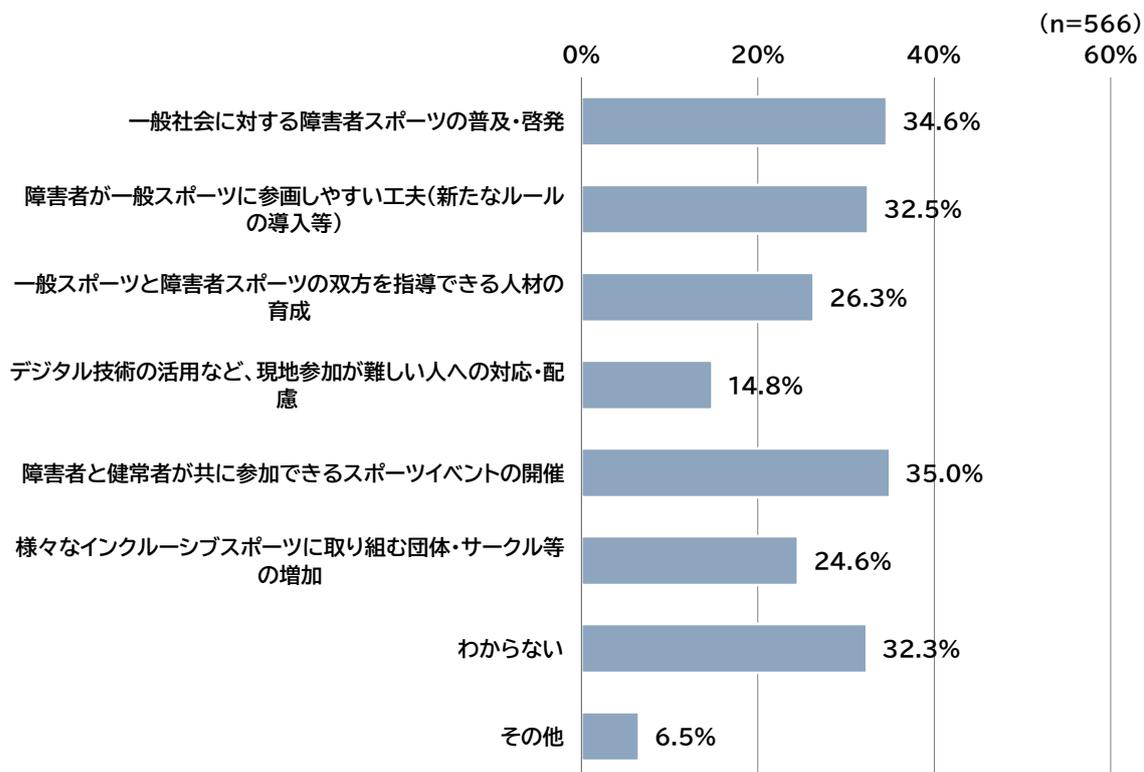
図表 3-2-69 障害のない人と一緒に行う運動・スポーツの実施経験



### ③今後さいたま市が、インクルーシブスポーツを推進するために必要なこと【MA】

「障害者と健常者が共に参加できるスポーツイベントの開催」の割合が最も高く35.0%である。次いで、「一般社会に対する障害者スポーツの普及・啓発（34.6%）」、「障害者が一般スポーツに参画しやすい工夫（新たなルールの導入等）（32.5%）」の割合が高い。

図表 3-2-70 今後さいたま市が、インクルーシブスポーツを推進するために必要なこと



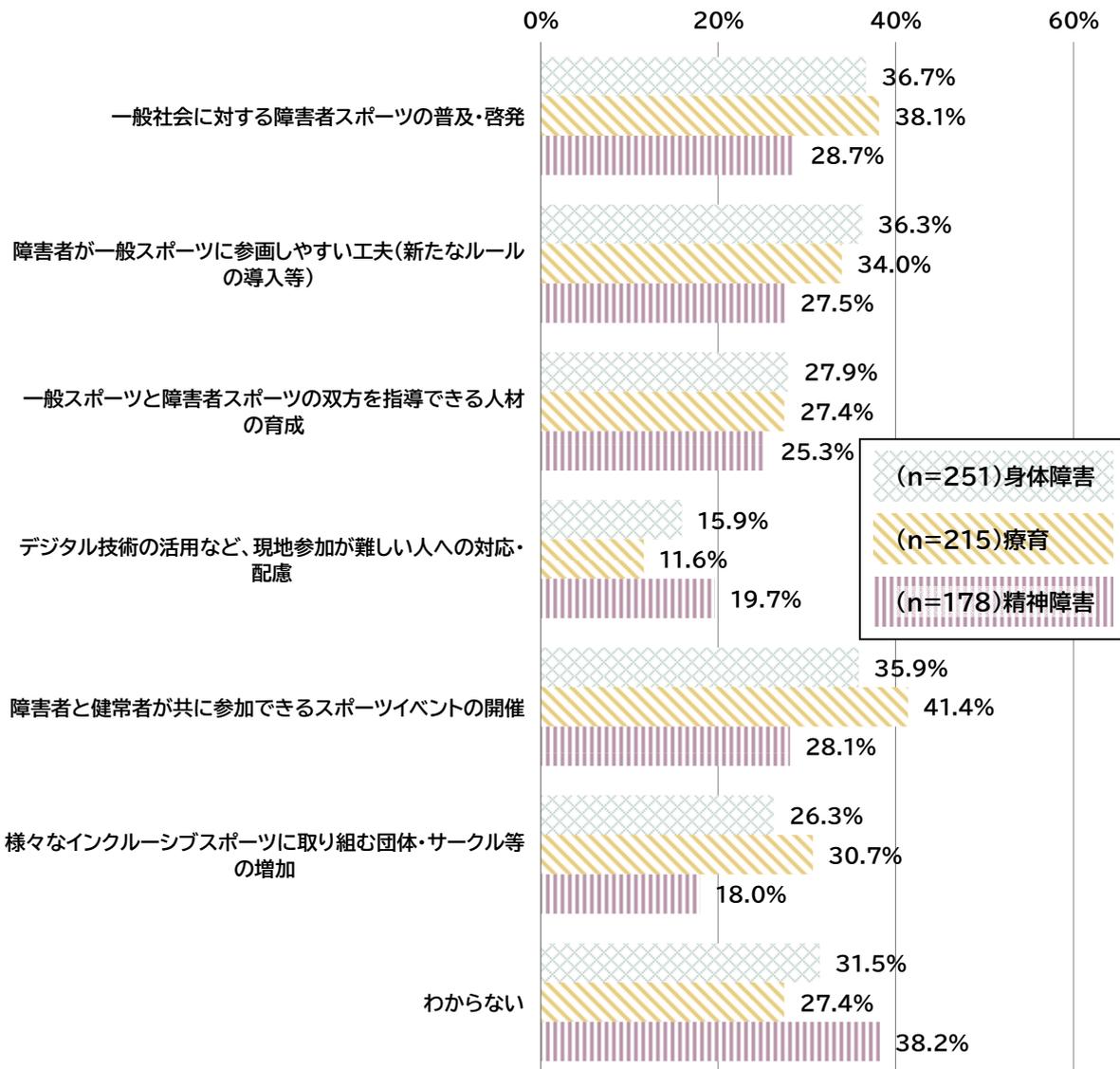
#### その他

- 参加可能な障害のラインを定めること
- 開催場所や参加者の詳細な情報（写真、配慮等） 等

(障害種別クロス集計結果)

- ・療育、身体障害は精神障害と比べて、「一般社会に対する障害者スポーツの普及・啓発（それぞれ 38.1%、36.7%）」の割合が 10 ポイント程度高い。
- ・療育、身体障害は精神障害と比べて、「様々なインクルーシブスポーツに取り組む団体・サークルの増加（それぞれ 30.7%、26.3%）」の割合が 10 ポイント程度高い。

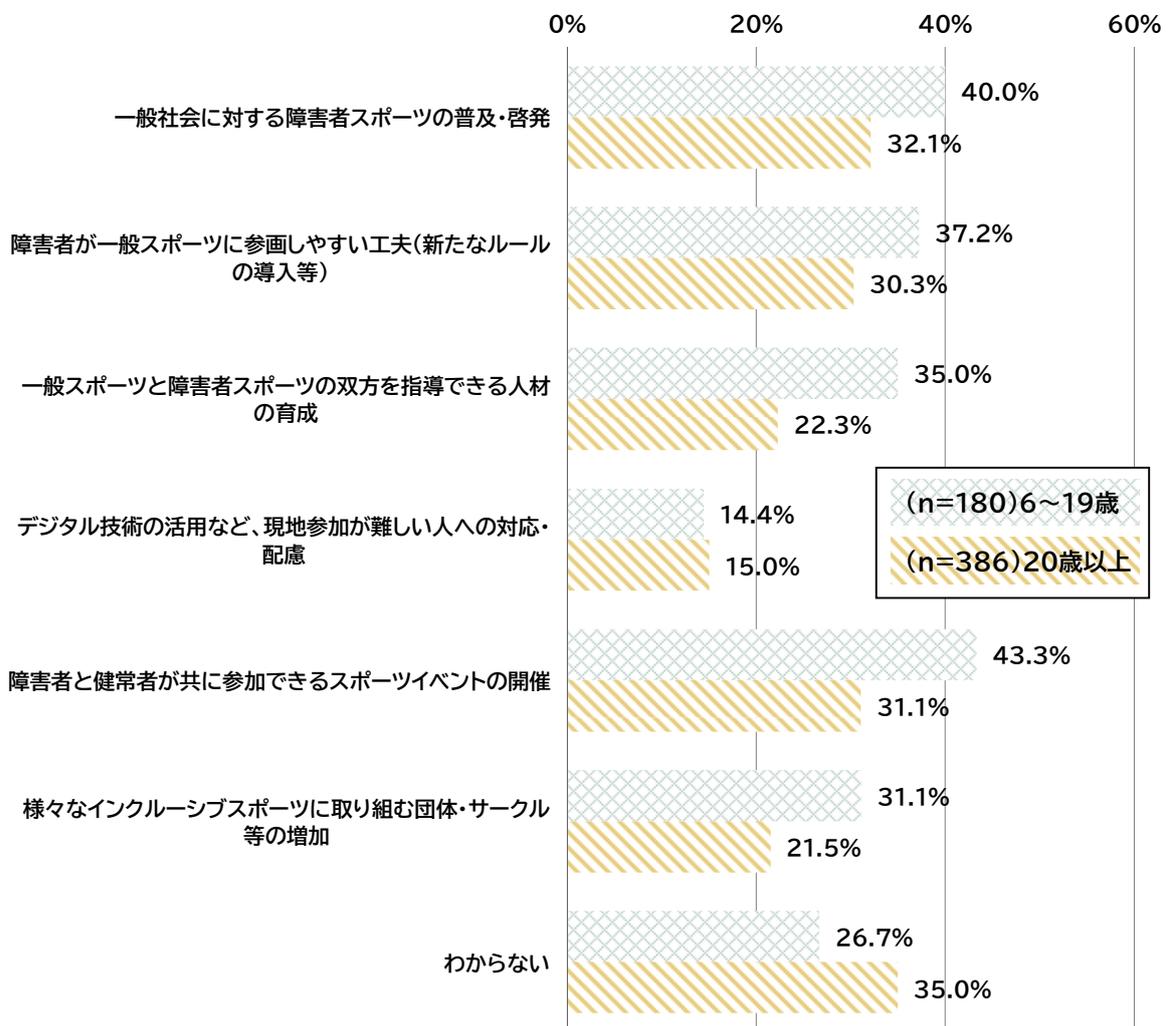
図表 3-2-71 今後さいたま市が、インクルーシブスポーツを推進するために必要なこと（障害種別）



(6～19歳・20歳以上別クロス集計結果)

- ・6～19歳は「障害者と健常者が共に参加できるスポーツイベントの開催（43.3%）」の割合が最も高く、20歳以上と比べて、10ポイント以上高い。
- ・6～19歳は20歳以上と比べて、「一般スポーツと障害スポーツの双方を指導できる人材の育成（35.0%）」の割合が10ポイント以上高い。
- ・20歳以上は6～19歳と比べて、「わからない（35.0%）」の割合が10ポイント程度高い。

図表 3-2-72 今後さいたま市が、インクルーシブスポーツを推進するために必要なこと（6～19歳・20歳以上別）



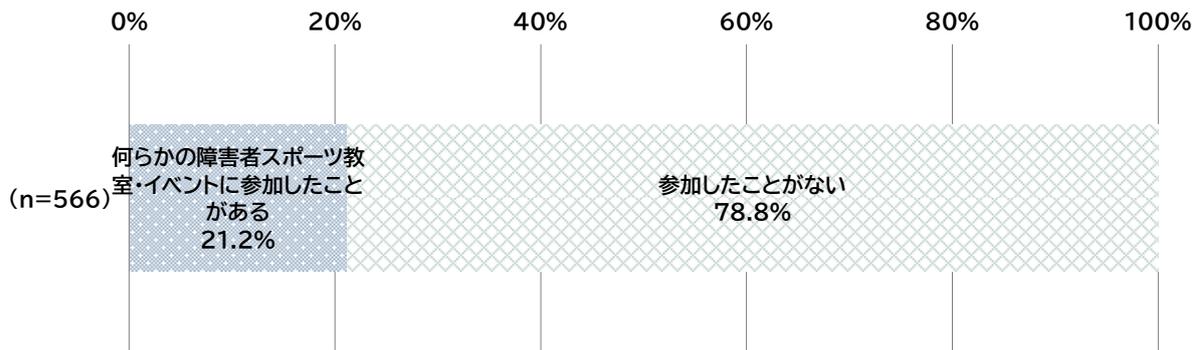
(7) さいたま市の障害者スポーツ教室・イベント

①さいたま市の障害者スポーツ教室・イベントの参加状況【MA】

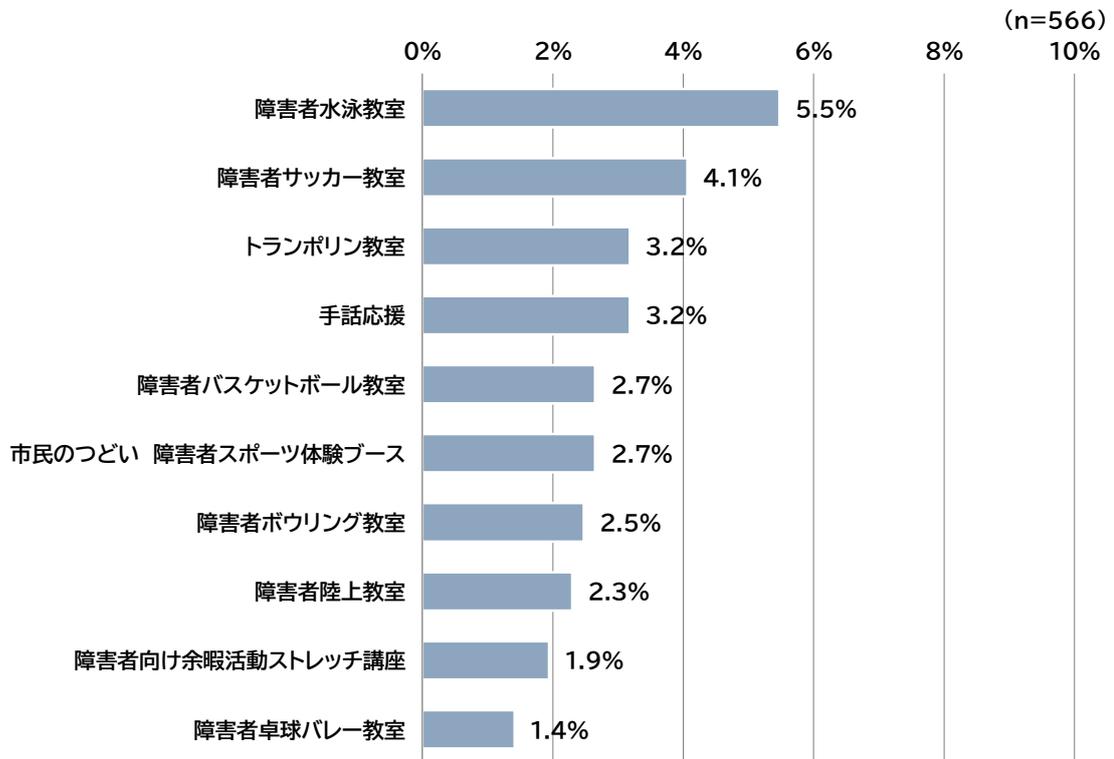
「参加したことがない」の割合が約80%である。

参加したことがある障害者スポーツ教室・イベントは「障害者水泳教室」の割合が最も高く、5.5%である。

図表 3-2-73 さいたま市の障害者スポーツ教室・イベントの参加状況



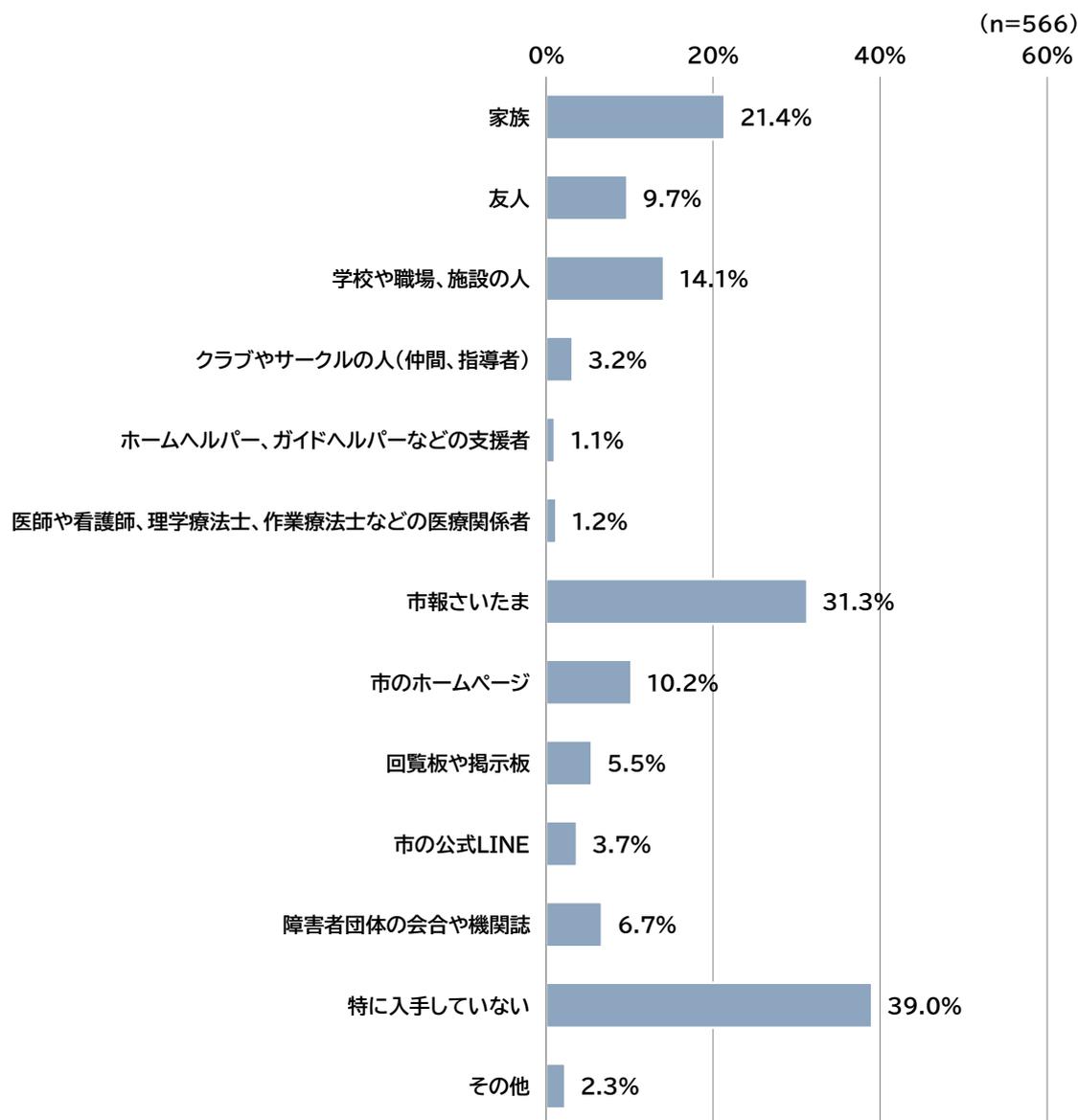
図表 3-2-74 参加したことがある障害者スポーツ教室・イベント（上位10位）



## ②さいたま市のスポーツ情報の入手方法【MA】

「特に入手していない」の割合が最も高く 39.0%である。次いで、「市報さいたま (31.3%)」、「家族 (21.4%)」の割合が高い。

図表 3-2-75 さいたま市のスポーツ情報の入手方法



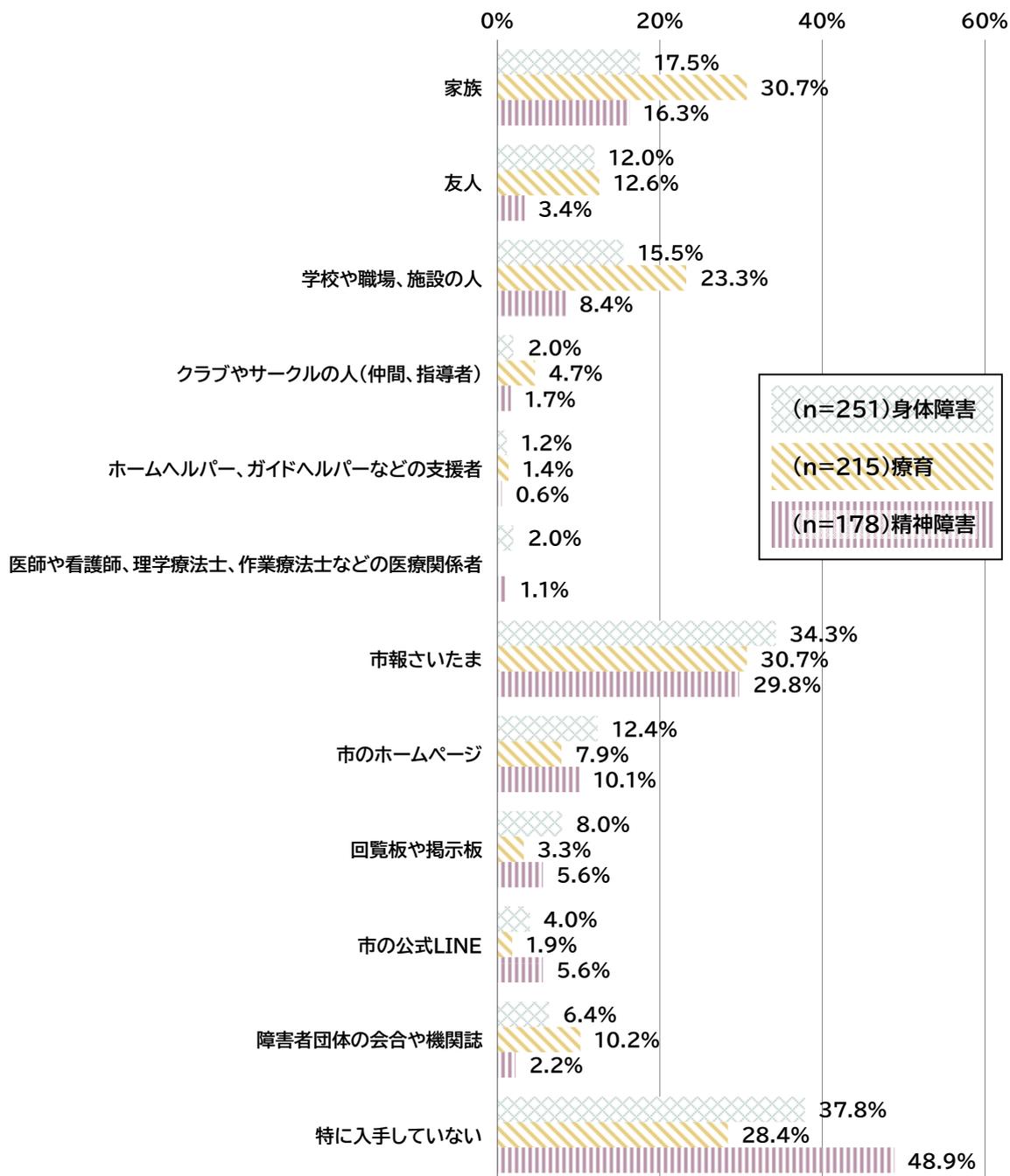
### その他

- 障害者交流センター（スタッフ、広報誌、アプリ等）（4）
- 公民館のチラシ 等

(障害種別クロス集計結果)

- ・療育は他の障害と比べて、「家族 (30.7%)」の割合が10ポイント以上高い。
- ・精神障害は「特に入手していない (48.9%)」の割合が最も高く、他の障害と比べて、10ポイント以上高い。約半数がさいたま市のスポーツ情報を入手していない。

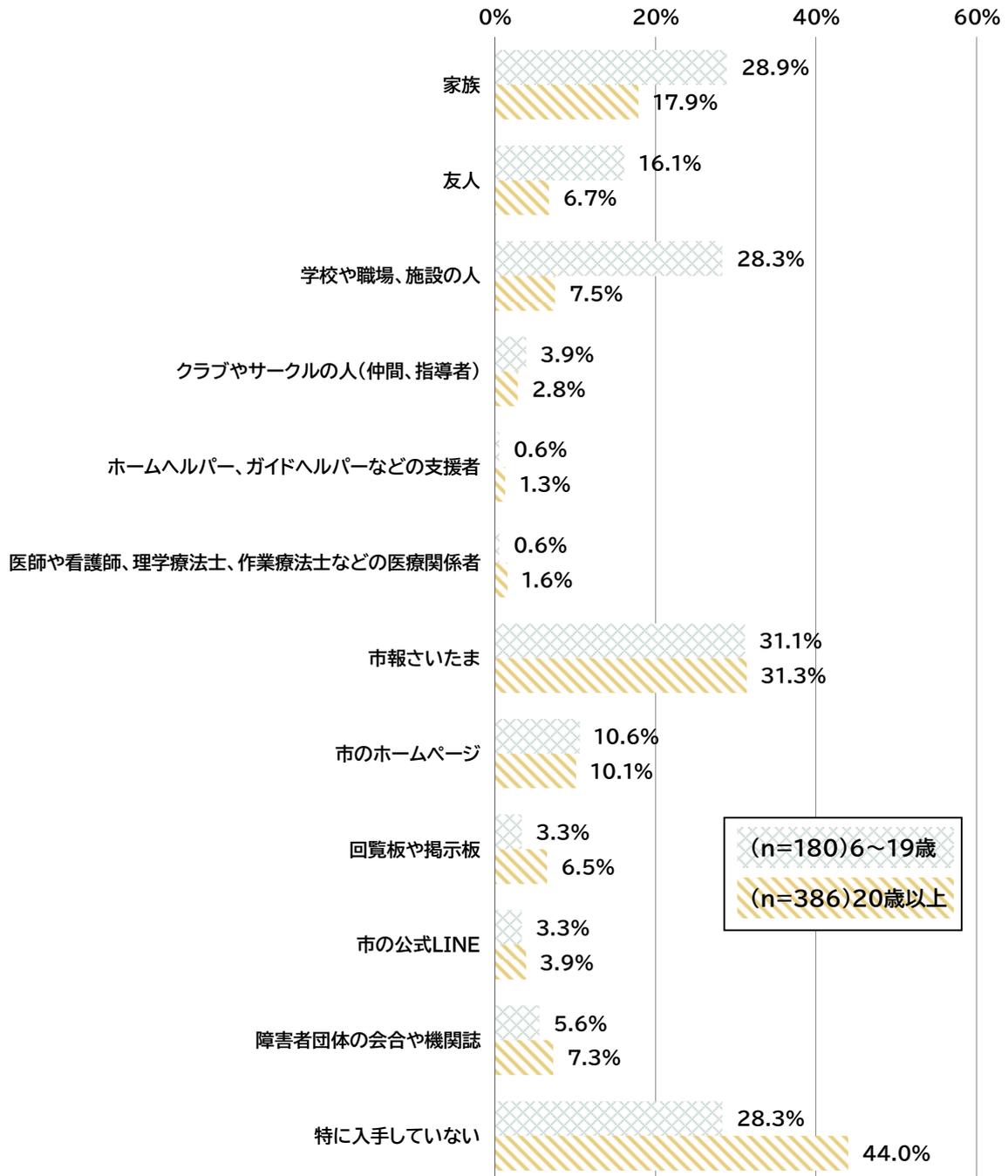
図表 3-2-76 さいたま市のスポーツ情報の入手方法 (障害種別)



(6～19歳・20歳以上別クロス集計結果)

- ・6～19歳は20歳以上と比べて、「家族(28.9%)」、「学校や職場、施設の人(28.3)」の割合が10ポイント以上高い。
- ・20歳以上は「特に入手していない(44.0%)」の割合が最も高く、6～19歳と比べて、10ポイント以上高い。

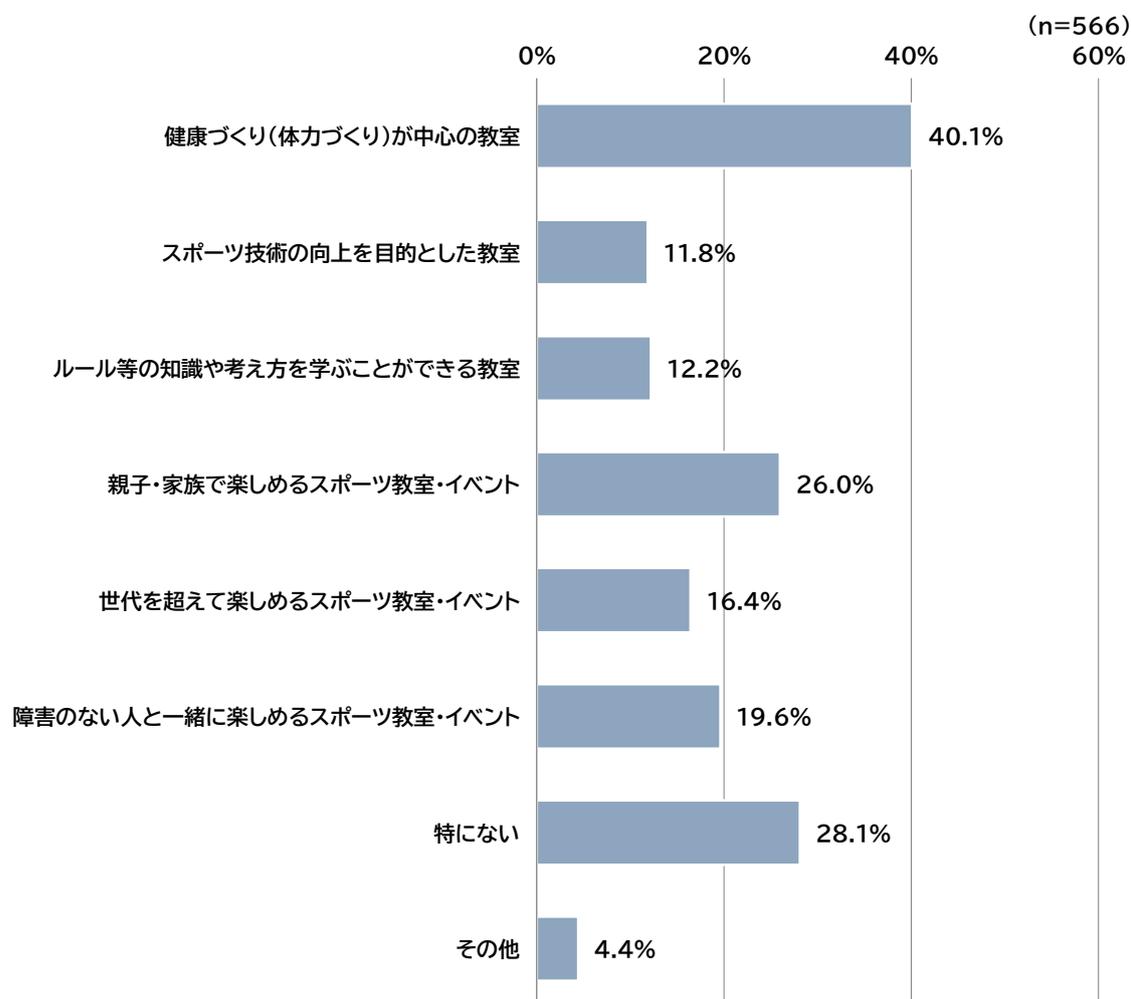
図表 3-2-77 さいたま市のスポーツ情報の入手方法(6～19歳・20歳以上別)



### ③参加してみたいスポーツ教室・イベント【MA】

「健康づくり（体力づくり）が中心の教室」の割合が最も高く40.1%である。次いで、「特  
にない（28.1%）」の割合が高い。

図表 3-2-78 参加してみたいスポーツ教室・イベント



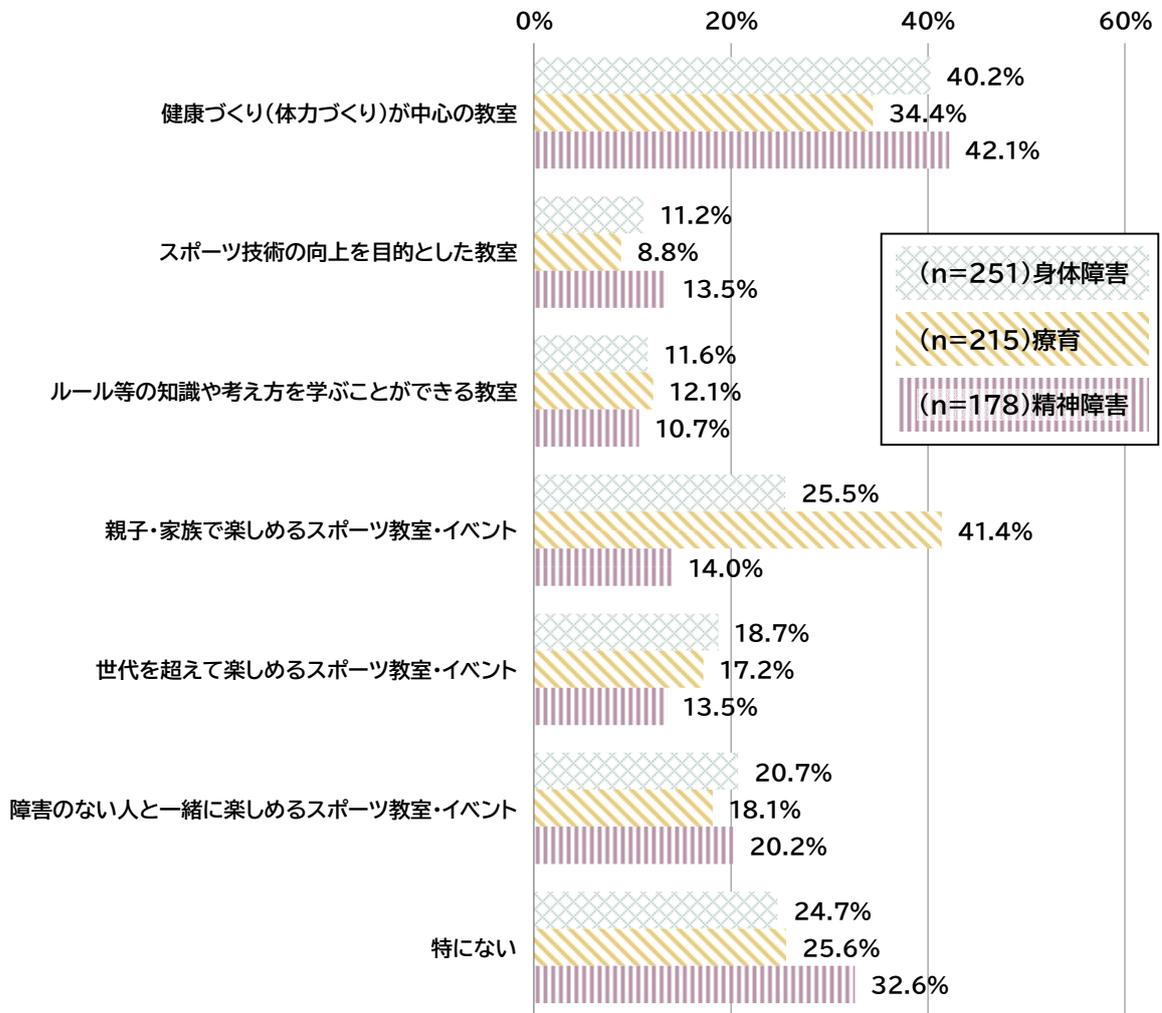
#### その他

- 勝敗がないスポーツ教室・イベント（2）
- サークル（生涯スポーツ）に繋がるイベント（2） 等

(障害種別クロス集計結果)

- ・療育は「親子・家族で楽しめるスポーツ教室・イベント (41.4%)」の割合が最も高く、他の障害と比べて、15ポイント以上高い。

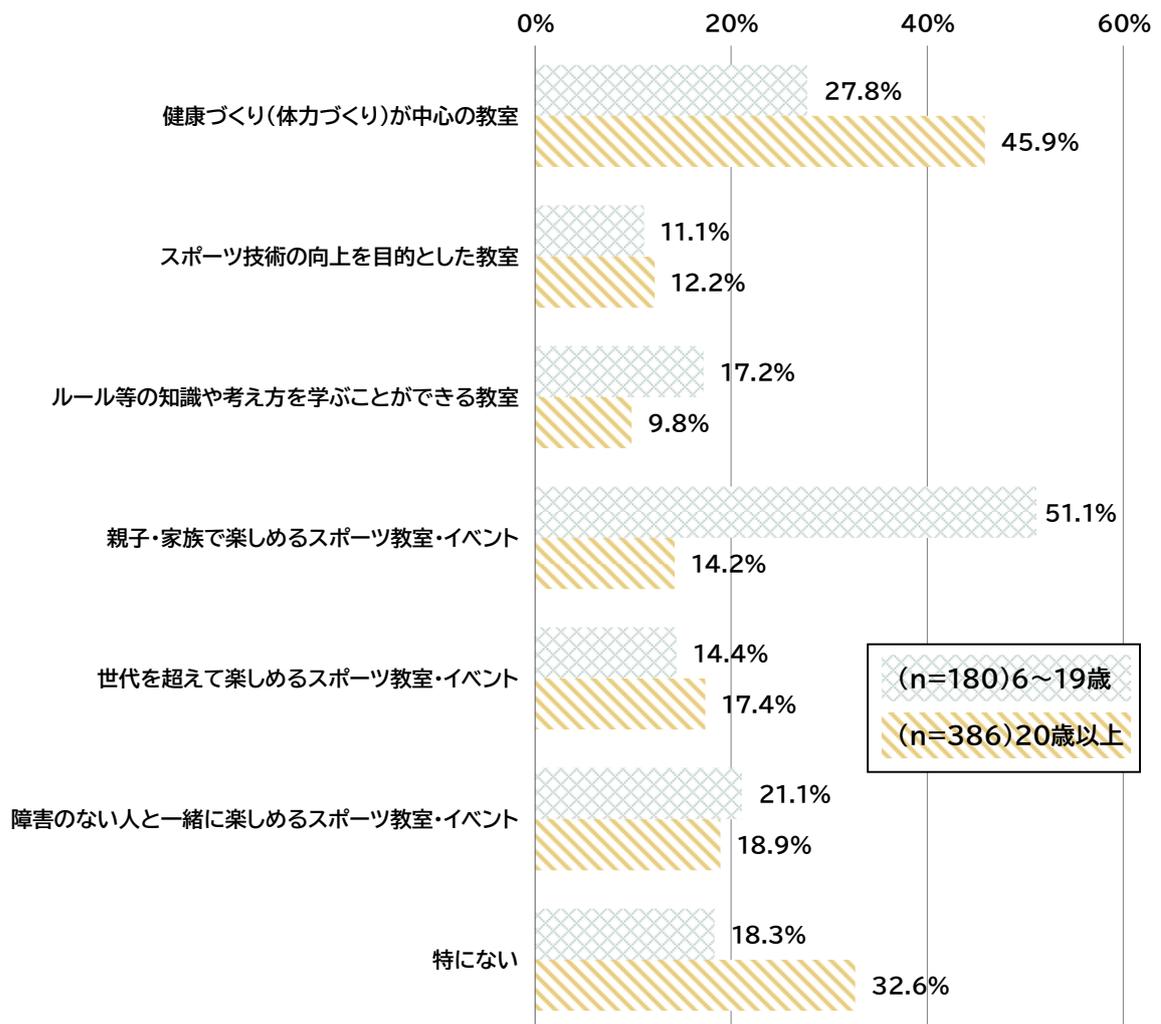
図表 3-2-79 参加してみたいスポーツ教室・イベント (障害種別)



(6～19歳・20歳以上別クロス集計結果)

- ・6～19歳は「親子・家族で楽しめるスポーツ教室・イベント (51.1%)」の割合が突出して高く、20歳以上と比べて、30ポイント以上高い。半数以上にニーズがある。
- ・20歳以上は「健康づくり(体力づくり)が中心の教室 (45.9%)」の割合が最も高く、6～19歳と比べて、15ポイント以上高い。次いで「特にない (32.6%)」の割合が高く、6～19歳と比べて、10ポイント以上高い。

図表 3-2-80 参加してみたいスポーツ教室・イベント (6～19歳・20歳以上別)



(8) 自由意見【FA】

項目	件数	主な意見
参加機会やプログラムの拡充・多様化	37	少しでも運動・スポーツを好きになったり、興味を持てる障害者教室などが頻繁に開催されると嬉しい。
		知的障害者が参加しやすいイベントがあるとよい。特別支援学校では体を動かす機会が多かったのが、卒業したら全く機会がない。
		障害を持つ子どもは学校では運動するが、大人になると運動することがなくなってしまふのが実情である。
		近くの公民館などで障害者が参加可能な教室を開催されたら、ぜひ参加したい。
		歩けなくても手にマヒがあっても参加できる新しい・楽しいスポーツを開発してほしい。
		体験機会（単発のレッスン）を定期的に行っていただきたい。良ければ、継続的に参加できるサークル等を紹介してもらいたい。
		本格的なスポーツではなく、重度の人でも気楽に体を動かせる機会・場所があるとよい。
		外出が困難な人向けにオンライン参加可能なイベントを増やしてほしい。
		働いている人が参加可能な時間帯でイベントを開催してほしい。
		高齢者で足が動かなくても簡単に参加できるようなスポーツイベントがあるとよい。
交流・仲間づくり・コミュニティ形成	10	少人数の定員で密にスポーツを通じて、人間関係が築けるとよい。
		友達作りや人と人とのつながりを持てるような機会があるとよい。
		身近に一緒に支え合う仲間がいる環境づくりが必要。
		スポーツ後に参加任意の親睦会のようなものがあるとよい。
指導者・サポート体制の充実	24	障害特性を理解している指導者が活動中に率先して声掛けを行ったり、わかりやすい言葉で伝えたりすることが必要。
		障害に対して理解のある指導者や見守りの方が複数人いることが必要。
		移動サポート、1対1対応があれば安心して、スポーツに取り組むことができる。

		<p>スポーツ中に不安に駆られた際に優しく駆け寄ってくれる介助者がいると、参加しやすい。</p> <p>障害者かつ競技経験者を配置することが必要。</p> <p>スポーツを楽しむ場所までの送迎や付き添いがないとスポーツ自体にもたどり着けない。</p> <p>手話通訳可能なインストラクターがいれば、聴覚障害者の方は参加してみたいと思う。</p> <p>水泳など家族の負担が大きいところでの支援があれば利用したい。</p> <p>グループホームなどに指導者を派遣する体制ができるとよい。</p>
ハード面の環境整備 (施設、設備等)	22	<p>トイレにオムツ替えをするユニバーサルシートが付いている施設が少ない。</p> <p>重症の肢体不自由の場合、大人のオムツ替えや着替えスペースの確保なども必要で、安心してスポーツに取り組める環境があることが大前提。</p> <p>駐車場が狭いため、車椅子での乗り降りが難しい。また、障害者専用駐車場がない(少ない)。</p> <p>異性介助ができる更衣室、誰でもトイレがどこにでもあるという環境も必要不可欠。</p> <p>運動しやすい装具があるとよい。</p>
移動環境の整備	23	<p>スポーツ実施場所までの交通手段の確保。</p> <p>移動支援の充実。</p> <p>障害者向けスポーツ施設に行く際の公共交通機関の情報をわかりやすくしてほしい。</p> <p>本人と介助者への送迎支援があるとよい。</p> <p>サイクリングの際の道路整備が必要。現状は危ないと感じる場面が多い。</p>
障害特性への配慮(合理的配慮)・個別対応	25	<p>障害の状態や程度は人によって異なるため、一律のルールを設けるのは難しい。障害特性に応じた対応が求められる。</p> <p>人目を気にせず、気軽に運動・スポーツができる環境があるとよい。</p> <p>発達障害の方は脳の構造上、口頭での説明や文章だけだと理解しきれない方もいる。動画で簡単にルール等を把握できるものがあるとよい。</p> <p>聴覚障害者のため、他の人とのコミュニケーションが容易になる工夫があるとよい。</p>

		<p>対人関係が苦手な人や外に出られない人のためのスポーツや運動があるとよい。</p> <p>合理的配慮に基づく指導をお願いしたい。</p> <p>知的障害の人のために独自の支援が必要。</p> <p>スポーツごとにルールや会話の手話辞典があるとよい。</p> <p>視覚障害者が優先して（あるいは専用で）利用可能な時間の確保。</p> <p>陸上競技において、精神障害者の出場枠を設けていただきたい（東京都は設けている）。</p>
種目・活動内容への要望	14	福祉施設やスポーツ施設にサウンドテーブルテニス台を設置していただきたい。
		Eスポーツの拡大
		走らないサッカーやタックルがないラグビー、ボッチャなど健常者や子どもと一緒にできるスポーツがあるとよい。
		スポーツフラダンスやバレエなど、勝ち負けがない種目があるとよい。
		重度かつ重複障害者が介助者と一緒に行えるスポーツが少ない。ルールを優しくするなどして、参加できるスポーツが増えるとありがたい。
経済的支援	7	スポーツに適した障害補助具への公金による金銭的補助があるとよい。
		発達障害者に対して、障害者割引料金を適用してほしい。
		フィットネスクラブやスイミング等の利用券の無料配布があると、やってみようという気持ちになる。
障害に対する理解促進	35	障害の有無に関わらず、障害への理解を皆が持ち、楽しく、切磋琢磨して取り組める環境の構築。
		障害者と健常者が一緒にスポーツをする際の留意点を健常者が理解することが重要。
		お互いの障害を理解し合える関係になれるとよい。
		健常者が自身の視点からではなく、障害を持つ方の話や声を直接聞く環境を作っていくべき。
		障害者を障害者扱いせずに、障害者が一般の人のように扱われる世の中になってほしい。
		健常者のインストラクターに障害に対する理解を促すなど、インクルーシブなスポーツ環境を作っていただきたい。

情報発信・周知や情報ツールの充実	23	さいたま市の広報において、障害者スポーツの特集ページがあるとよい。
		イベント開催の告知が可能なアプリを開発し、障害者手帳更新の際に紹介して参加を促すとよい。
		障害者が参加しやすい施設やスポーツ教室の紹介を定期的にDMで送付してくれるとありがたい。
		どこで、どんなスポーツができるのかを分かりやすく伝えることが重要。
		パラリンピックだけでなく、TV放送が増えるとよい。
		ハンディキャップがある人も参加可能であることを最初に提示していただきたい。問い合わせの時点で気後れしてしまう。
		障害者スポーツガイドブックの発行・配布。
		障害者にパラスポーツ指導員がいることを周知し、相談できる機会を増やす。
		障害の程度に合わせて、参加できるチームやサークルに関する情報を問い合わせできる機関があるとよい。
		それぞれの障害に応じた情報発信が効果的である。
その他	6	今回のアンケートはとても良い試みだと思います。障害の程度により難しさもありますが、ぜひ積極的に推進をお願いしたい。
		障害者全員がスポーツに興味があるわけではない。スポーツに偏るのではなく、それぞれ自分の好きなことに取り組めるような仕組みができるとよい。

第4章 スポーツ施設向け  
アンケート・ヒアリング調査結果



## 第4章 スポーツ施設向けアンケート・ヒアリング調査結果

### 1 スポーツ施設向けアンケート調査の概要

#### (1) 目的

今後のさいたま市における障害児・者の運動・スポーツ環境の充実に資するものとするため、市内の障害児・者のスポーツ実施環境に関する現状、受け入れ状況について、市内に所在する施設へのアンケートを通じて把握することを目的として実施した。

#### (2) 調査対象・サンプル数

##### ■調査対象

大分類	中分類	配布数
さいたま市内の 公共施設	スポーツ施設（公園含む）	55
	スポーツのできる多目的スペースを持つコミュニティセンター等	29
	公民館	60
さいたま市内の民間施設		311
計		455

■調査方法：PC・スマホ等によるWEB回答方式

■サンプル数：118（回答率：25.9%）

#### (3) 調査期間

令和7年7月28日（月）から令和7年8月22日（金）を調査期間とした。

#### (4) その他留意事項

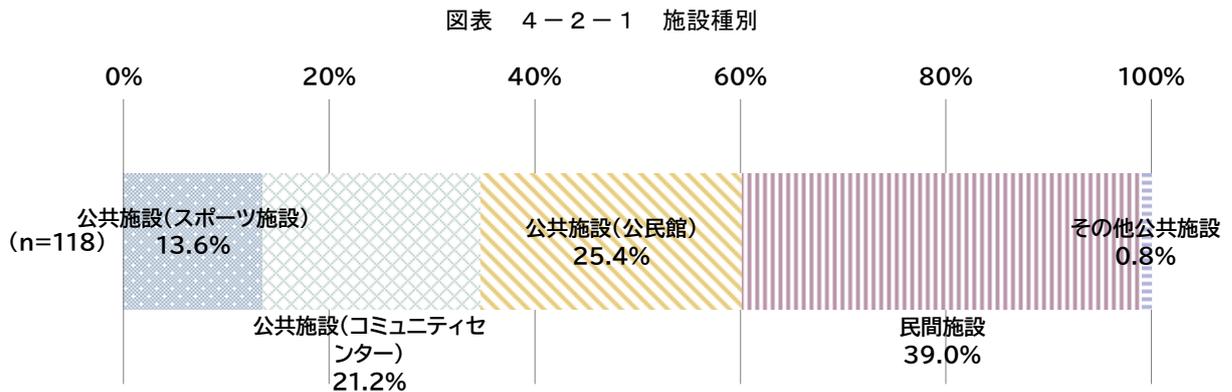
- ・選択肢にあるにも関わらず、その他自由回答に記載している場合など、適宜ローデータの修正を行っている。
- ・集計結果は有効回答数を母数として百分率で示している。また、その値は小数第一位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。
- ・この報告書の図表見出し及び文章中での回答選択肢は、本来の意味を損なわない程度に省略して掲載している場合がある。
- ・nは、回答者数とする。
- ・【SA】は単一回答、【MA】は複数回答可、【NA】は数値回答、【FA】は自由回答の設問を示す。

## 2 アンケート集計結果

### (1) 回答者の属性

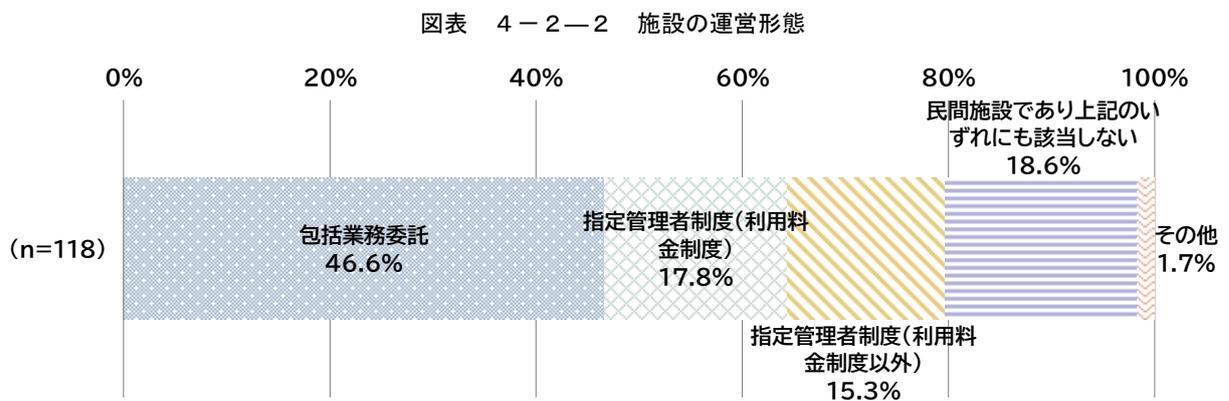
#### ①施設種別【SA】

「民間施設」の割合が最も高く 39.0%である。次いで、「公共施設（公民館）（25.4%）」、「公共施設（コミュニティセンター）（21.2%）」の割合が高い。



#### ②施設の運営形態【SA】

「包括業務委託」の割合が最も高く 46.6%である。次いで、「民間施設であり上記のいずれにも該当しない（18.6%）」、「指定管理者制度（利用料金制度）（17.8%）」の割合が高い。



#### その他

- 業種別健康保険組合
- 公益社団法人

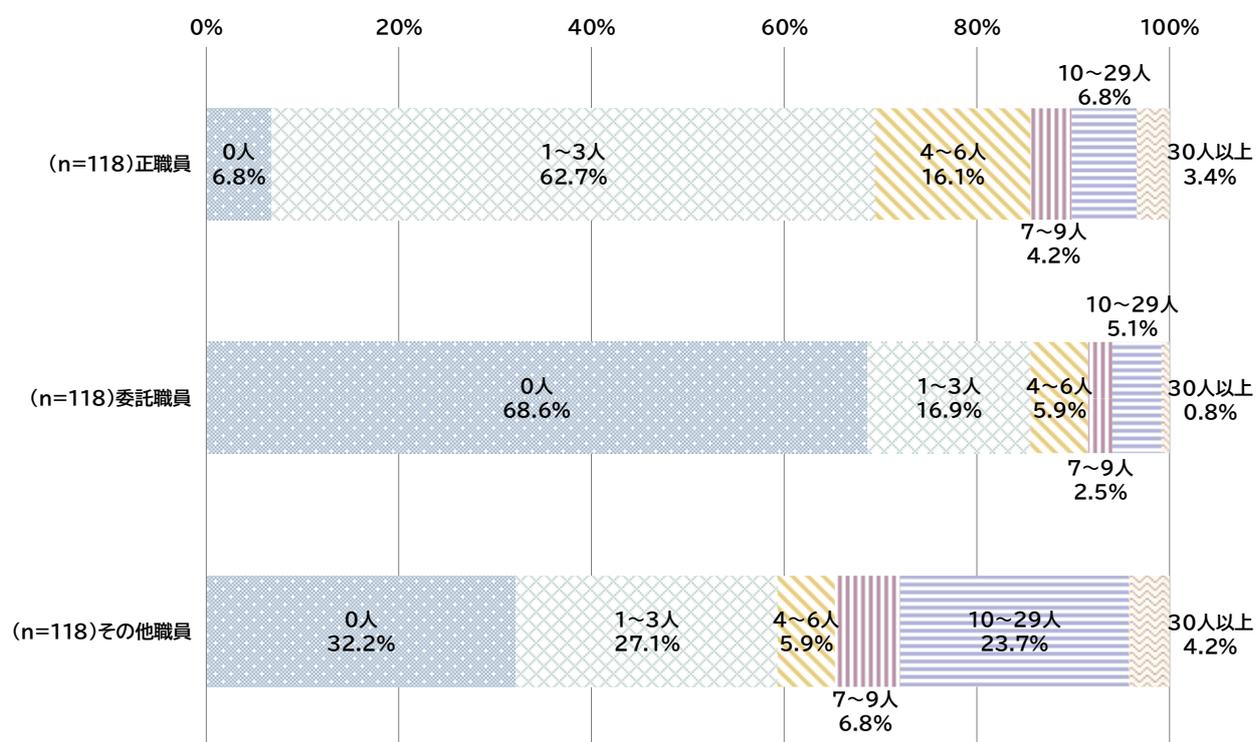
### ③運営人員数（正職員・委託職員・その他職員）【NA】

正職員は、「1～3人」の割合が最も高く62.7%である。次いで、「4～6人（16.1%）」の割合が高い。

委託職員は、「0人」の割合が最も高く68.6%である。次いで、「1～3人（16.9%）」の割合が高い。

その他職員は、「0人」の割合が最も高く32.2%である。次いで、「1～3人（27.1%）」、「10～29人（23.7%）」の割合が高い。

図表 4-2-3 運営人員数



#### ④有資格者数【NA】

(日本パラスポーツ協会公認資格)

初級パラスポーツ指導員の資格保有者数は、「0人」の割合が最も高く 96.6%である。

中級パラスポーツ指導員については、「0人」で 100%である。

上級パラスポーツ指導員については、「0人」の割合が最も高く 99.2%である。

公認スポーツコーチの資格保有者数は、「0人」の割合が最も高く 99.2%である。

公認スポーツトレーナーの資格保有者数は、「0人」で 100%である。

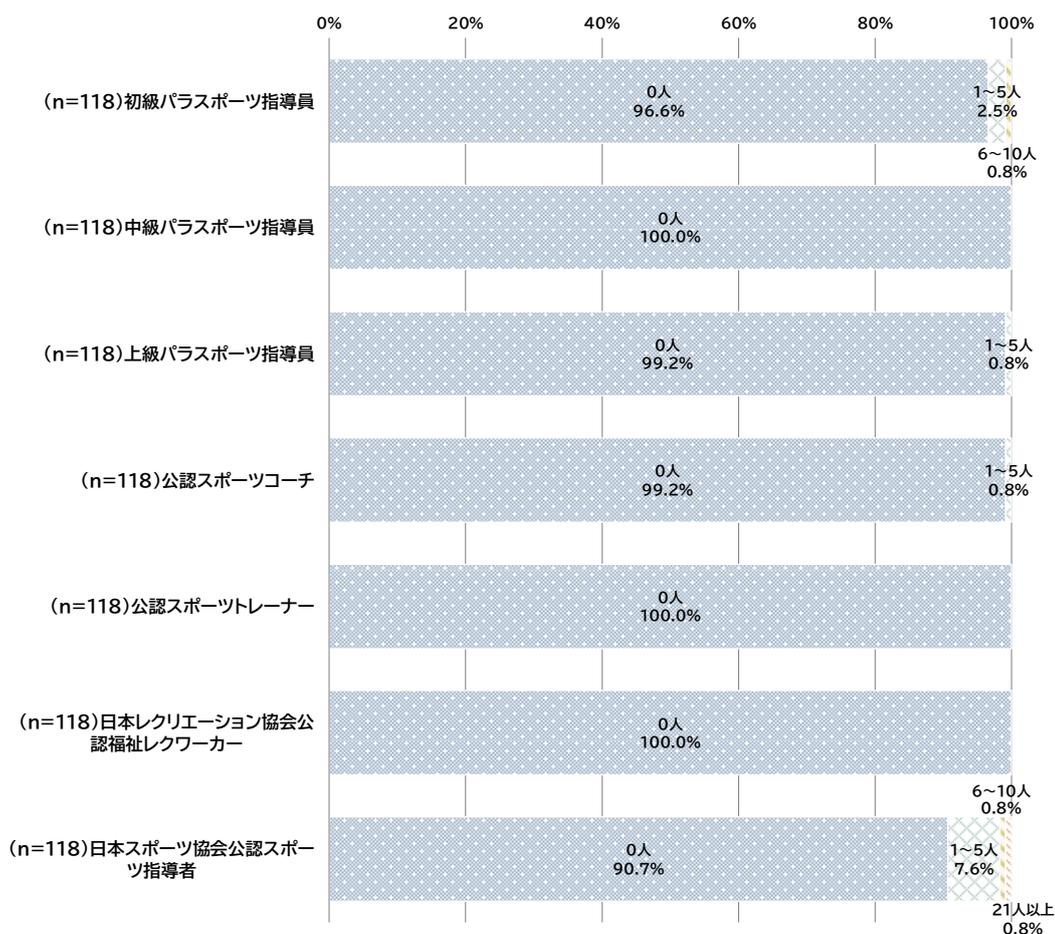
(日本レクリエーション協会公認資格)

福祉レクワーカーの資格保有者数は、「0人」で 100%である。

(日本スポーツ協会公認資格)

スポーツ指導者の資格保有者数は、「0人」の割合が最も高く 90.7%である。

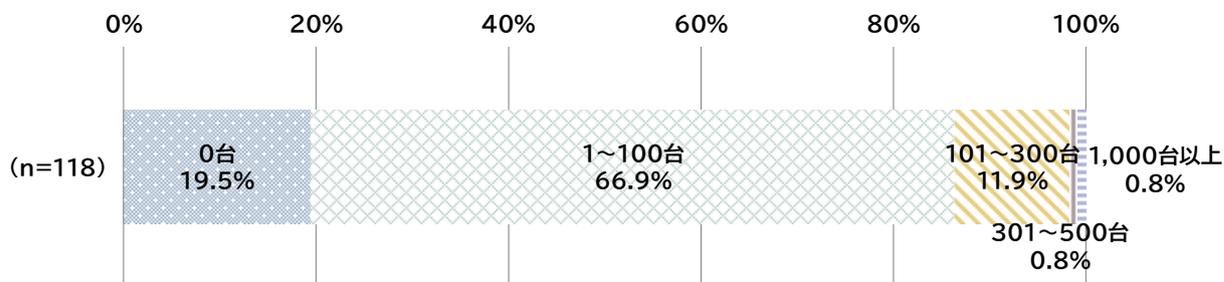
図表 4-2-4 有資格者数



⑤一般駐車場の個数【NA】

「1～100台」の割合が最も高く66.9%である。次いで、「0台（19.5%）」の割合が高い。

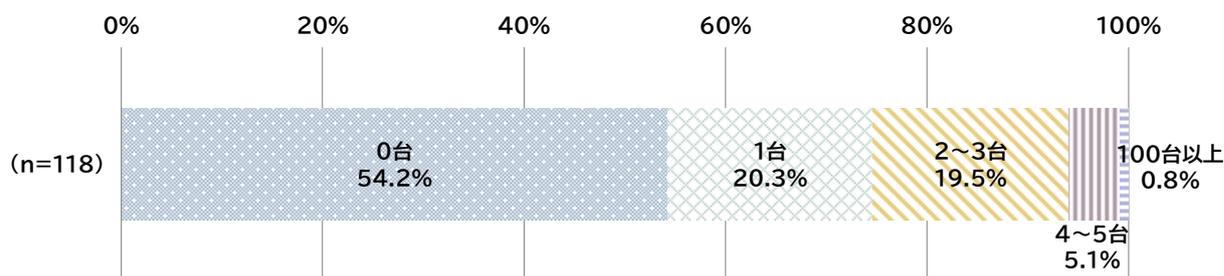
図表 4-2-5 一般駐車場の個数



⑥障害者等専用駐車場の個数【NA】

「0台」の割合が最も高く54.2%である。次いで、「1台（20.3%）」、「2～3台（19.5%）」の割合が高い。

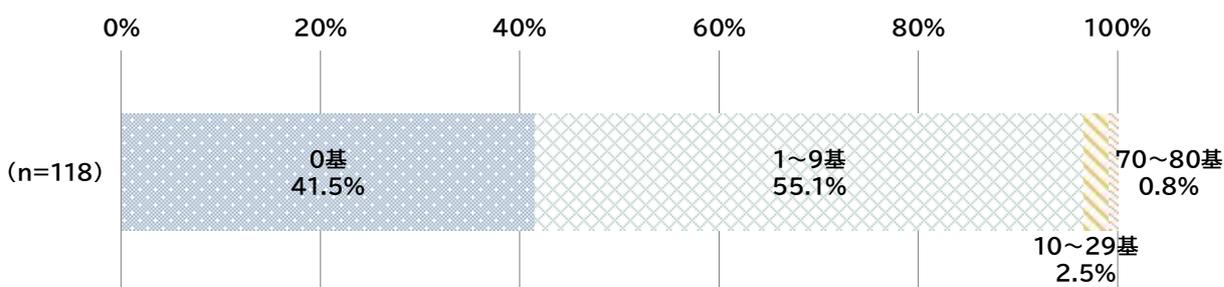
図表 4-2-6 障害者等専用駐車場の個数



⑦バリアフリースイールの個数【NA】

「1～9基」の割合が最も高く55.1%である。次いで、「0基（41.5%）」の割合が高い。

図表 4-2-7 バリアフリースイールの個数

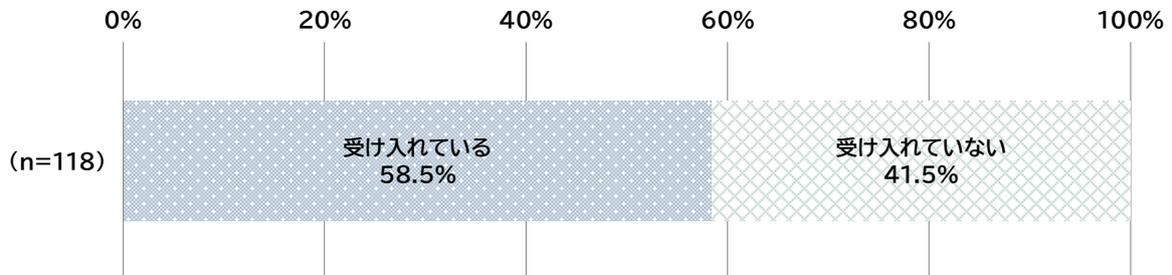


(2) 障害のある方の施設での受け入れ状況

①施設での障害のある方の受け入れの有無【SA】

「受け入れている」の割合が 58.5%で半数を超える。

図表 4-2-8 施設での障害のある方の受け入れの有無

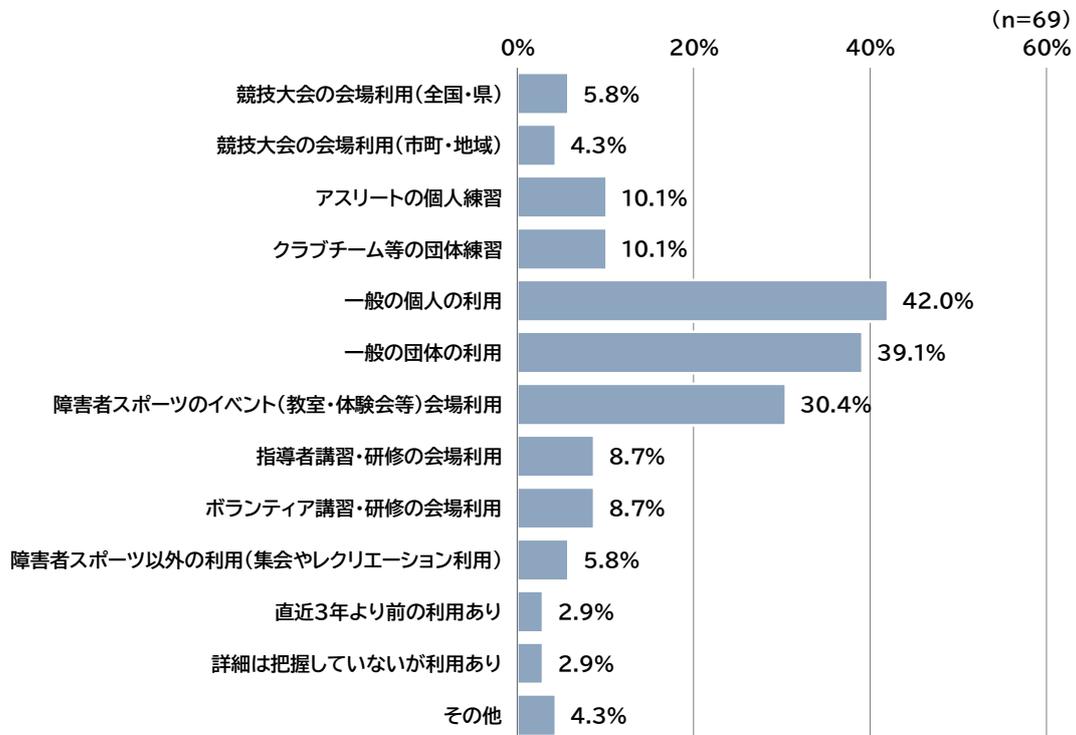


※ (2) ①で「受け入れている」と回答した方のみ

②直近3年間で、障害者の施設利用があった内容【MA】

「一般の個人の利用」の割合が最も高く 42.0%である。次いで、「一般の団体の利用 (39.1%)」、「障害者スポーツのイベント (教室・体験会等) 会場利用 (30.4%)」の割合が高い。

図表 4-2-9 直近3年間で、障害者スポーツに関する施設利用があった内容



その他

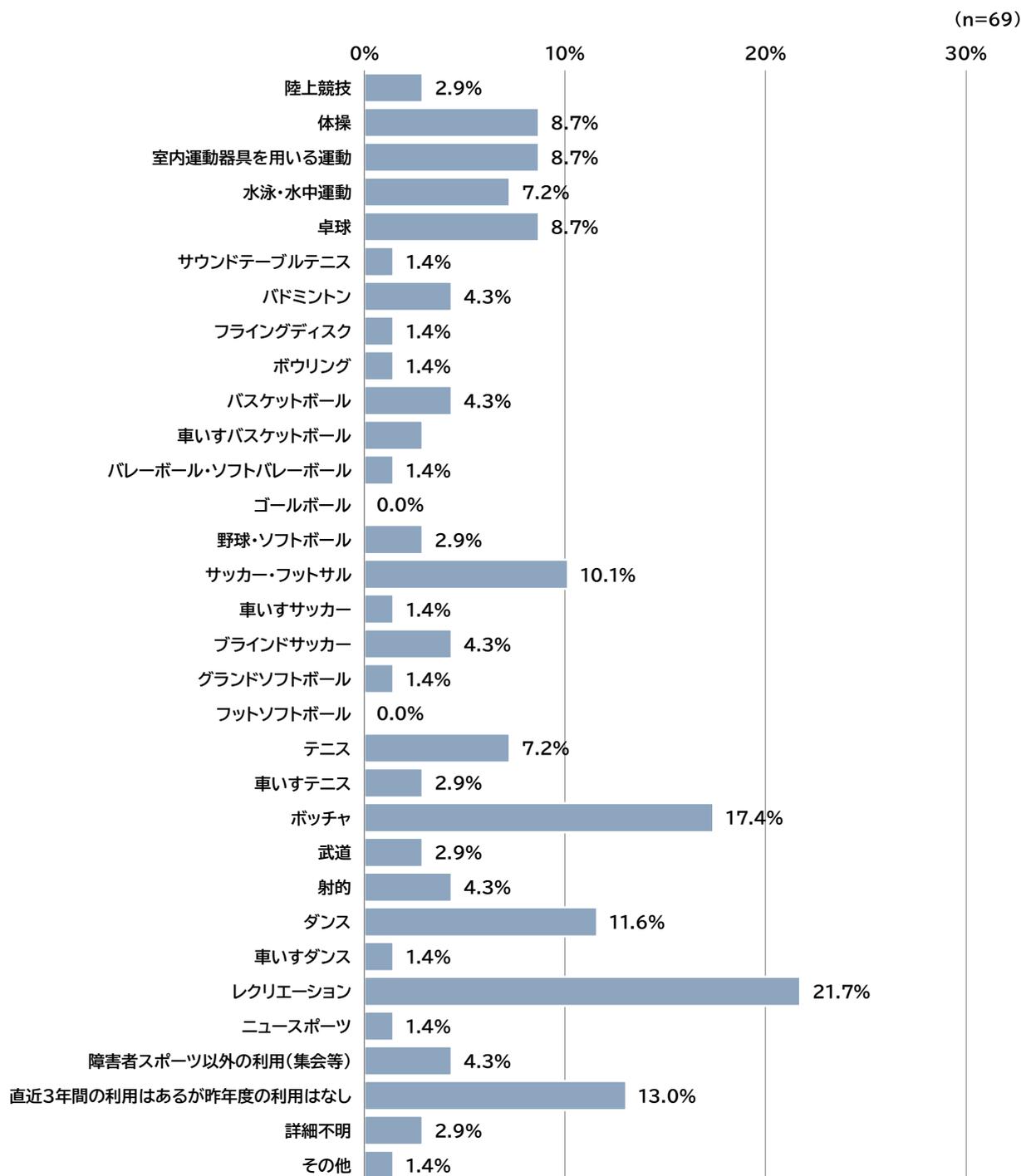
- アスリートのメンタルトレーニング
- 一般の団体利用で障害者の方が混ざって利用

※ (2) ①で「受け入れている」と回答した方のみ

③昨年度（2024年度）、障害者の利用があった主な種目【MA】

「レクリエーション」の割合が最も高く 21.7%である。次いで、「ボッチャ（17.4%）」の割合が高い。

図表 4-2-10 昨年度（2024年度）、障害者の利用があった主な種目



その他

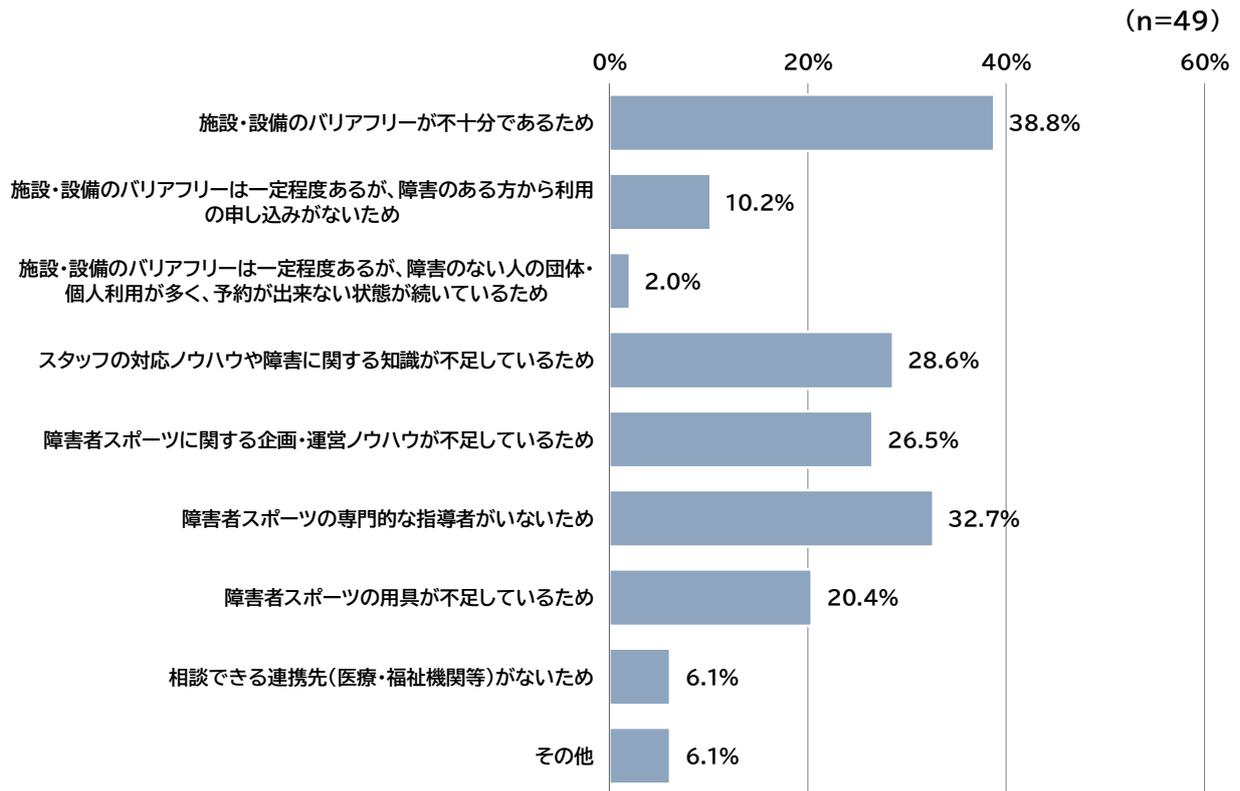
- グラウンドゴルフ

※（２）①で「受け入れていない」と回答した方のみ

#### ④施設で障害のある方を受け入れていない理由【MA】

「施設・設備のバリアフリーが不十分であるため」の割合が最も高く 38.8%である。次いで、「障害者スポーツの専門的な指導者がいないため（32.7%）」、「スタッフの対応ノウハウや障害に関する知識が不足しているため（28.6%）」の割合が高い。

図表 4-2-1 1 施設で障害のある方を受け入れていない理由



#### その他

- 過去に問い合わせや見学等 1 度もない
- 当施設は研修や事務所としての施設で、常駐での対応はなく、一般の皆様を使用して頂く主旨での施設ではないため

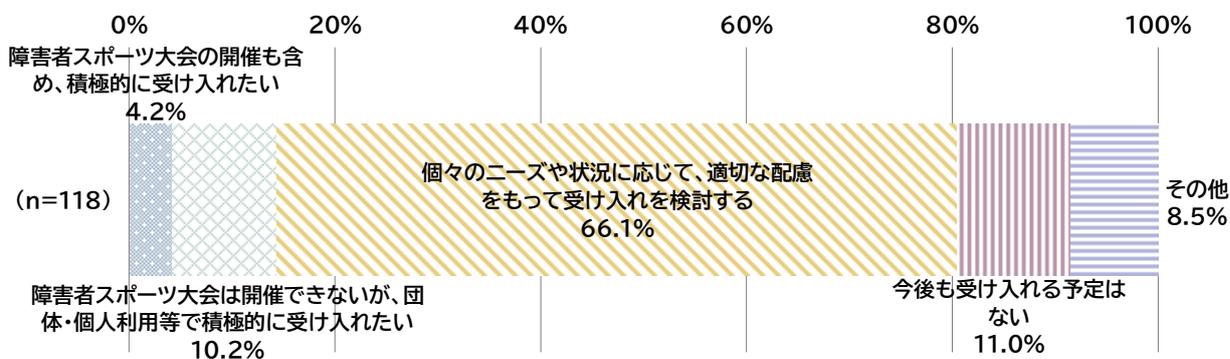
⑤障害のある方・関係者の方から、団体に寄せられたことのある意見【FA】

主な意見	
意見	障害のあるお客様の利用も一般客と変わりなく対応していただきありがたい。とご意見を頂いております。
	2023年にボッチャ体験を当施設の主催事業として開催したが、関係者より貴重な体験をさせていただいたと感謝の言葉が寄せられた
	障害のある方からの意見ではなく、一般の利用者からの意見ではあったが、体育室入り口のステップが高く、上がりにくいという指摘があった。
問い合わせ	ブラインドテニス利用。盲導犬の入館可否。
要望	障害のあるお子さんが運動できる場が少ないので、あると助かる
	(施設は体育館ではなく防球設備が無いのでお断りしていますが) ボール遊びもやらせたい。

⑥今後の施設での障害のある方の受け入れの考え【SA】

「個々のニーズや状況に応じて、適切な配慮をもって受け入れを検討する」の割合が最も高く66.1%である。次いで、「今後も受け入れる予定はない(11.0%)」、「障害者スポーツ大会は開催できないが、団体・個人利用等で積極的に受け入れたい(10.2%)」となっている。

図表 4-2-12 今後の施設での障害のある方の受け入れの考え



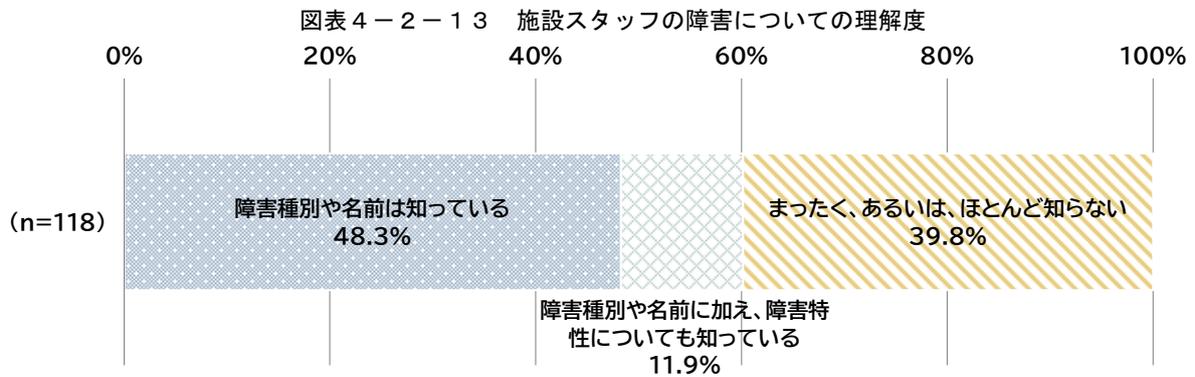
その他

- できる範囲で受け入れたい
- 現状としては、既存の設備や備品等を使用できる範囲内で受け入れている

### (3) 施設における障害及び障害のある方への理解、配慮

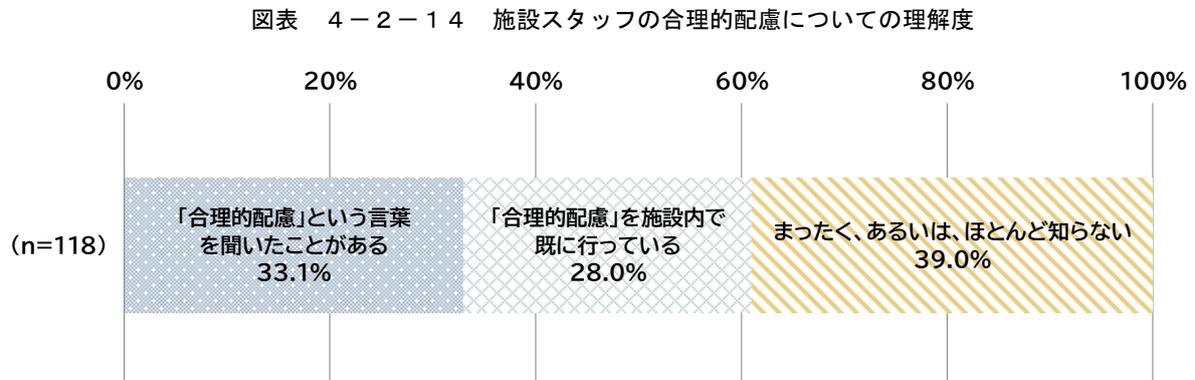
#### ①施設スタッフの障害についての理解度【SA】

「障害種別や名前は知っている」の割合が最も高く 48.3%である。次いで、「まったく、あるいは、ほとんど知らない (39.8%)」の割合が高い。



#### ②施設スタッフの合理的配慮についての理解度【SA】

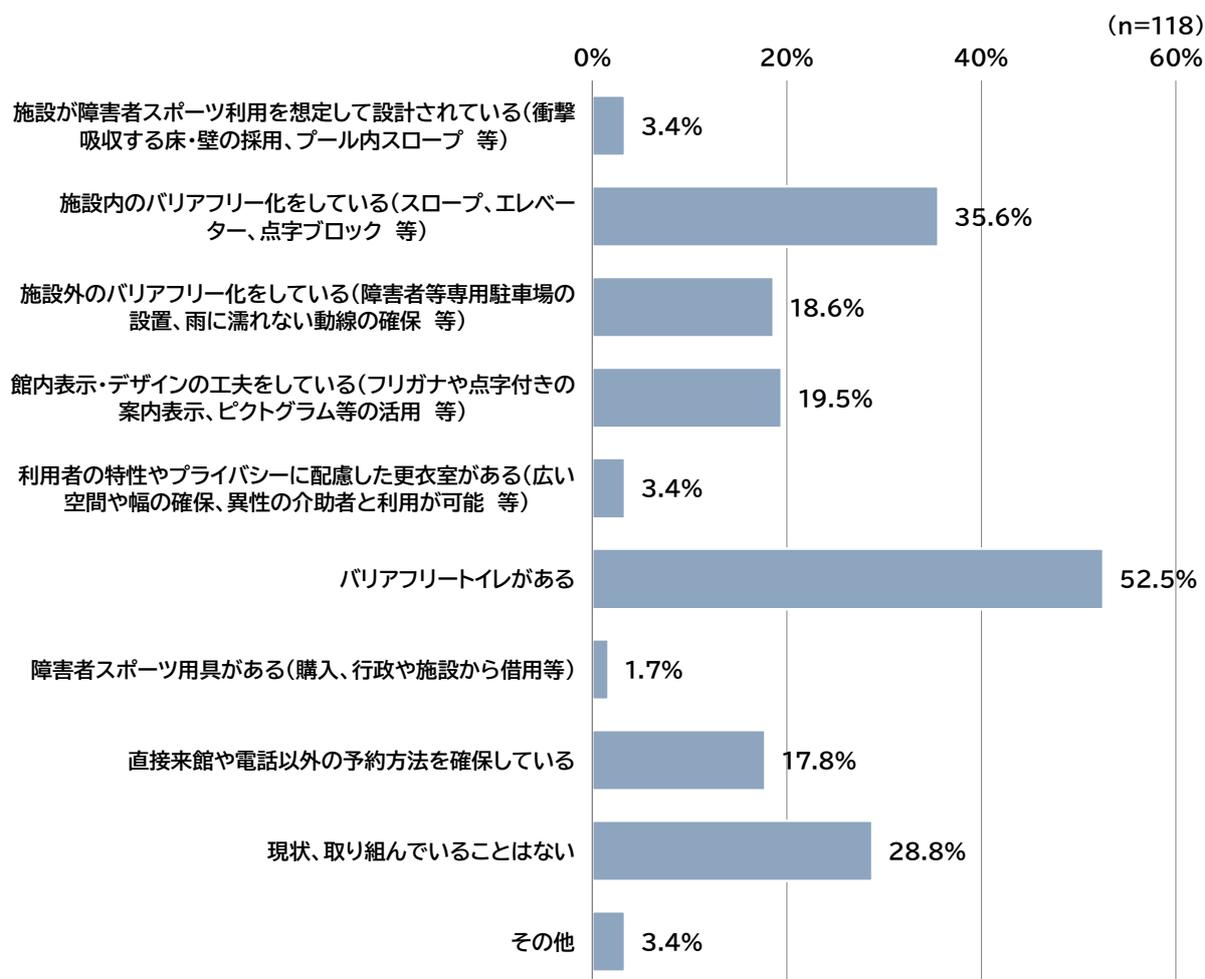
「まったく、あるいは、ほとんど知らない」の割合が最も高く 39.0%である。次いで、「合理的配慮」という言葉を聞いたことがある (33.1%)」となっている。



③【ハード面】現在施設で実施している、あるいは、すでに備えられている合理的配慮【MA】

「バリアフリートイレがある」の割合が最も高く 52.5%である。次いで、「施設内のバリアフリー化をしている（スロープ、エレベーター、点字ブロック 等）（35.6%）」、「現状、取り組んでいることはない（28.8%）」の割合が高い。

図表 4-2-15 【ハード面】現在施設で実施している、あるいは、すでに備えられている合理的配慮



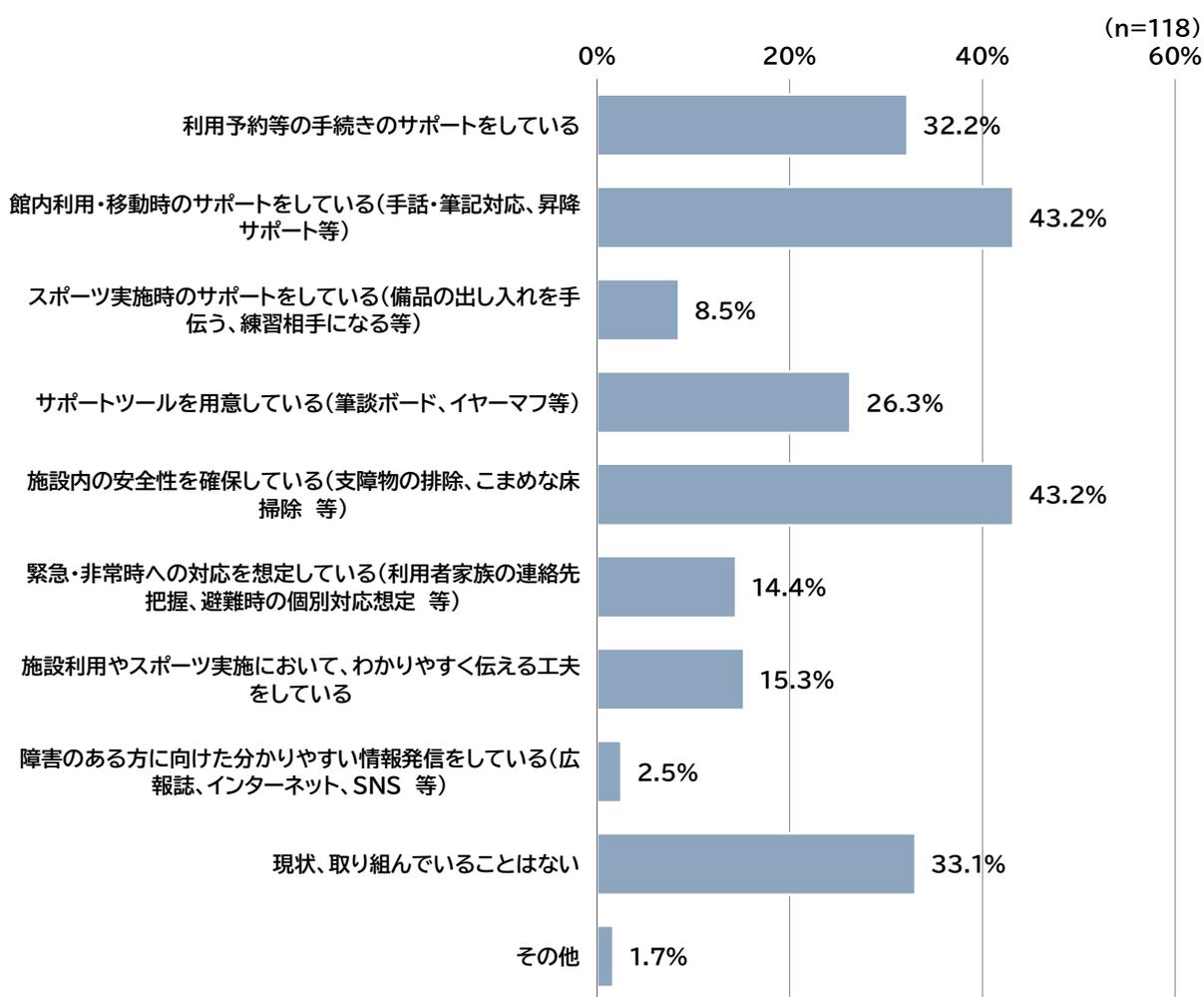
**その他**

- ニーズにあわせ、準備できることがあれば準備をするようにしている
- 一般の皆様を使用して頂くための施設ではないため行っていない
- 個々の要望に応じて、通常の体操クラスへの案内や、自社が運営する児童発達支援施設へのご案内をしている。
- 車椅子利用者用駐車区画を設定しているが、館内出入口まで屋根の設置なし。

④【ソフト面】施設の運営管理に携わるスタッフがすでに対応していること、あるいは、現在実施している合理的配慮【MA】

「館内利用・移動時のサポートをしている（手話・筆記対応、昇降サポート等）」、「施設内の安全性を確保している（支障物の排除、こまめな床掃除 等）」の割合が高く、それぞれ43.2%である。次いで、「現状、取り組んでいることはない（33.1%）」、「利用予約等の手続きのサポートをしている（32.2%）」、「サポートツールを用意している（筆談ボード、イヤーマフ等）（26.3%）」の割合が高い。

図表 4-2-16 【ソフト面】施設の運営管理に携わるスタッフがすでに対応していること、現在実施している合理的配慮



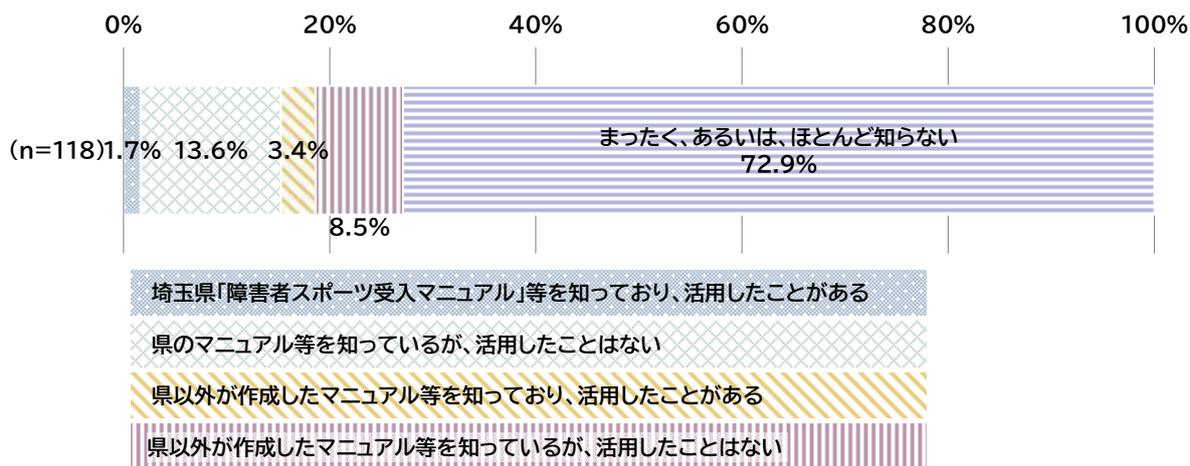
その他

- 講座に参加する障害者への配慮
- 一般の皆様を使用して頂くための施設ではないため配慮はなし

### ⑤障害のある方の受け入れや対応等に関するマニュアルの認知度等【SA】

「まったく、あるいは、ほとんど知らない」の割合が最も高く 72.9%である。次いで、「埼玉県「障害者スポーツ受入マニュアル」等を知っているが、活用したことはない (13.6%)」、「県以外が作成したマニュアルやガイドブック等を知っているが、活用したことはない (8.5%)」の割合が高い。

図表 4-2-17 障害のある方の受け入れや対応等に関するマニュアルの認知度等



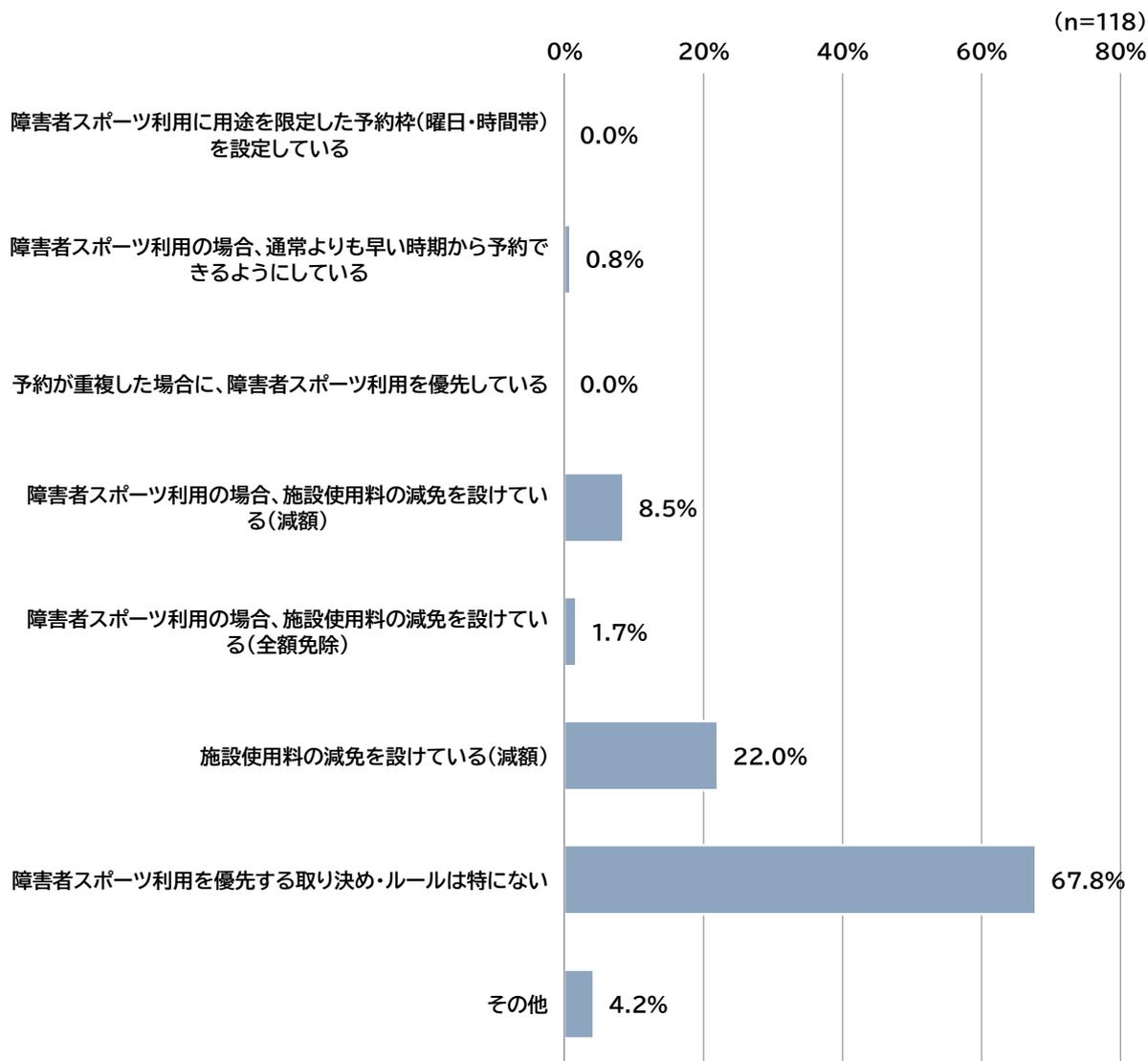
#### その他

- 記載なし。

## ⑥施設の障害者のスポーツの優先利用の状況や取り決め・ルール【MA】

「障害者のスポーツ利用を優先する取り決め・ルールは特にない」の割合が最も高く67.8%である。次いで、「施設使用料の減免を設けている（減額）（22.0%）」の割合が高い。

図表 4-2-18 施設の障害者スポーツの優先利用の状況や取り決め・ルール



### その他

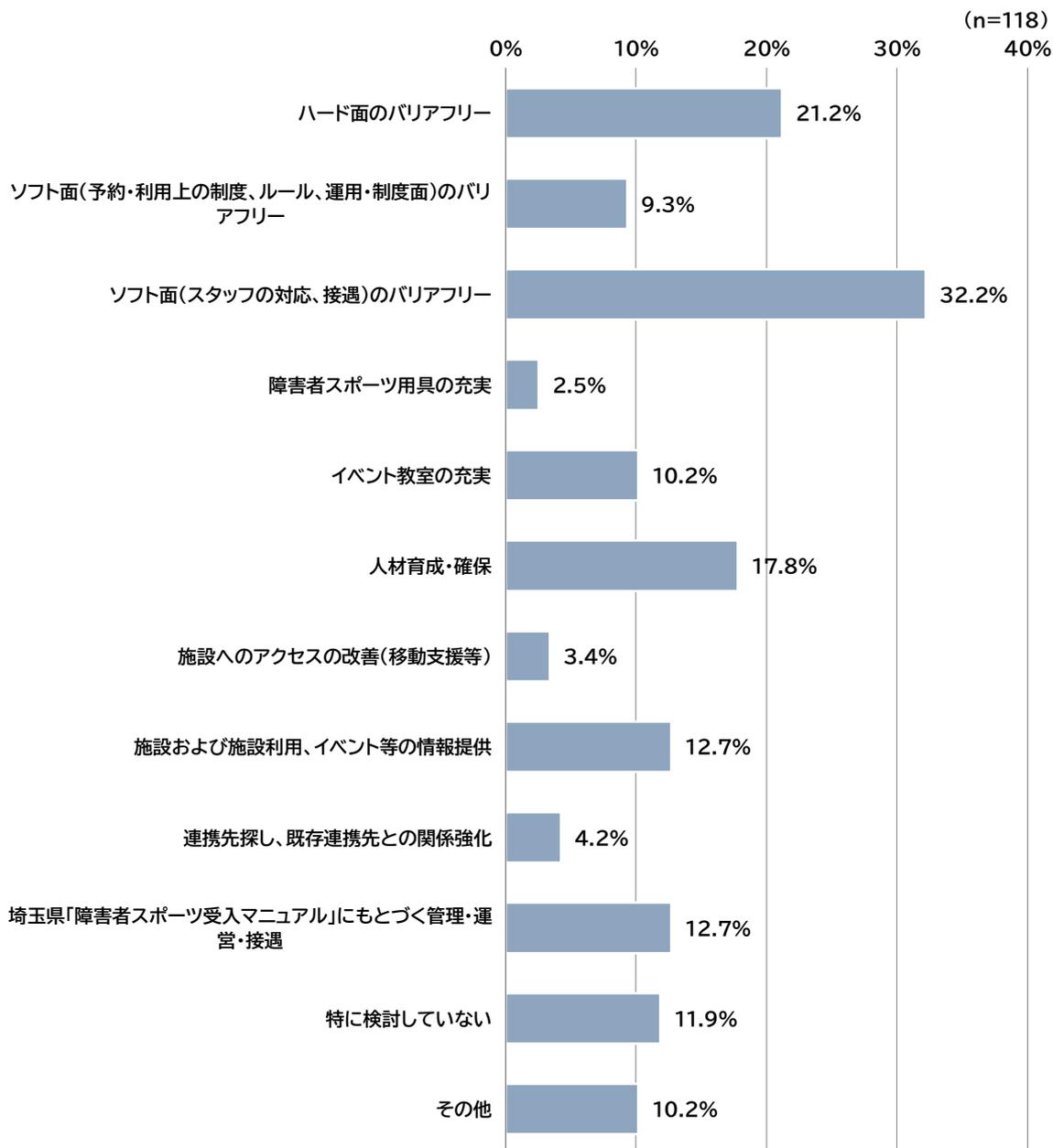
- クラスの人数が少ない時間の優先案内
- 障害の有無に関わらず個別のニーズに対応するので、取り立ててやっていることはない
- 一般開放なし
- 体育館仕様の部屋がないため、障害者スポーツ利用に制限がある。
- 文化施設利用として施設利用料の減免を設けている（半額）

#### (4) 今後について

##### ①施設として、今後、障害者の受け入れに際して特に取り組みたい内容（3つまで）【MA】

「ソフト面（スタッフの対応、接遇）のバリアフリー」の割合が最も高く32.2%である。次いで、「ハード面のバリアフリー（21.2%）」、「人材育成・確保（17.8%）」の割合が高い。

図表 4-2-19 施設として、今後、障害者の受け入れに際して特に取り組みたい内容（3つまで）



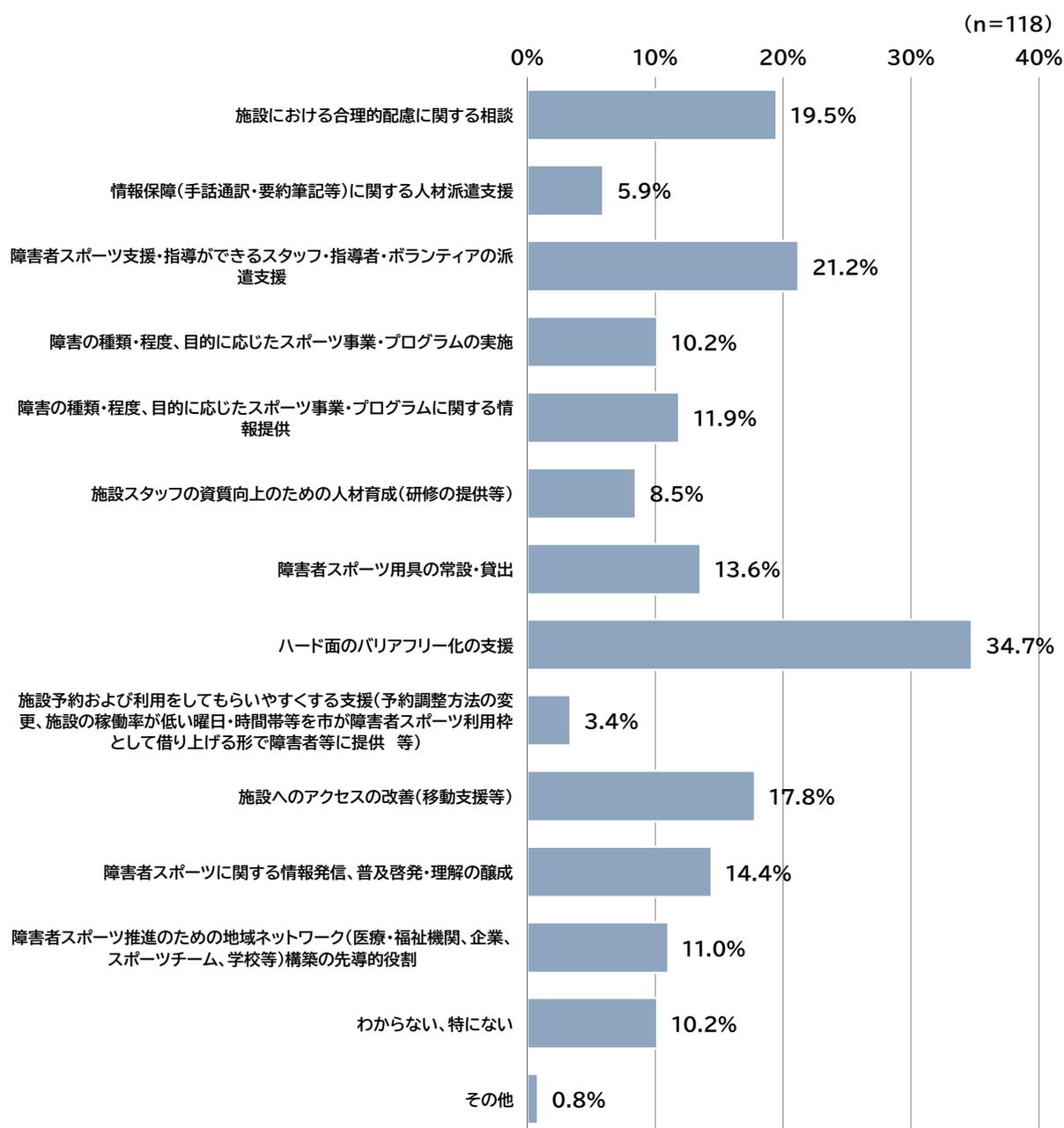
#### その他

- 「障害者スポーツ受入マニュアル」を読んでもみようと思う
- より多くの方々に利用して頂きたいです。
- 自社が運営する児童発達支援施設との連携の強化
- ニーズの把握を考えたい。エレベーター・昇降機がなくスポーツ利用は場合によっては難しい。

②さいたま市内の障害者のスポーツの実施場所・環境に関して、市に期待する事業・取組（3つまで）【MA】

「ハード面のバリアフリー化の支援」の割合が最も高く 34.7%である。次いで、「障害者スポーツ支援・指導ができるスタッフ・指導者・ボランティアの派遣支援（21.2%）」、「施設における合理的配慮に関する相談（19.5%）」の割合が高い。

図表 4-2-20 さいたま市内の障害者スポーツの実施場所・環境に関して、市に期待する事業・取組（3つまで）



その他

- 一般開放する施設ではない

### 3 スポーツ施設向けヒアリング調査の概要

#### (1) 目的

アンケート調査により判明した事実等を踏まえ、スポーツ施設における障害者のスポーツを取り巻く環境や解決すべき課題、障害者のスポーツの更なる普及に必要な要素などについて定性的に把握し、今後のさいたま市における障害者のスポーツ施策の方向性の検討等に際しての参考情報とすることを目的として実施した。

#### (2) 調査対象・調査期間

アンケート調査時に「ヒアリング調査への協力可」と回答があった施設の中から、ヒアリングを行うことによって何らかの示唆が得られる可能性が高いと思われる施設や、さいたま市における障害者のスポーツの関連施策の推進に資すると思われる施設等を調査対象とした。

対面またはオンラインで1時間程度の聞き取りを実施した。

図表4-3-1 ヒアリング対象先一覧

施設種別	実施日	実施方法
A 民間スイミングスクール	令和7年12月2日(火) 10:00~11:00	対面
B 武道系施設	令和7年12月2日(火) 16:15~17:15	オンライン
C 民間スポーツジム	令和7年12月3日(水) 10:15~11:15	対面
D 複合施設	令和7年12月3日(水) 14:00~15:00	オンライン

## 4 ヒアリング調査結果

### (1) A民間スイミングスクール

#### ①施設における障害者の受け入れ状況、今後の受け入れ意向

- ・当施設では障害のある方を受け入れるための専用の授業は設けていない。障害のある方から入校の相談があった場合、障害の程度や種別を踏まえ、一度授業を体験していただき、安全面に配慮でき、障害のない人と一緒に受講が可能である場合は受け入れている。
- ・(当施設とは別に存在している) 他校では以前から障害者限定の授業を設けている。その授業では幼少期から大人になるまで長期間水泳を継続している方もいて、職員も対応しやすく、障害のある方を受け入れやすい体制ができている。
- ・他校では自閉症の方が中心の放課後等デイサービスの利用者を受け入れている、放課後等デイサービスの職員と一緒に授業を行っている。特に問題なく受講されている方は、一般向けの授業に移行する場合もある。

#### ②障害者を受け入れるにあたって、不安に感じている点、悩んでいる点

- ・水泳施設であるため、安全面を配慮しなければならず、障害のある方を安全に受け入れるためには多くの職員を配置する必要がある場合もある。その場合、(利用者の大多数を占める) 障害のない人に対するサポート要員が手薄になってしまうこともあり、悩ましい点である。

#### ③施設において、障害者の利用を拡大するために必要なこと、今後取り組みたいこと

- ・幼稚園や小学校からの委託事業として、営業時間外にプールの一面を時間貸ししている。指導を教員にお願いする場合や、当施設の職員が一緒になって指導を行う場合等、いくつかのパターンを設けている。現在、受け入れている小学校の中には特別支援学級も含まれ、授業時は、当施設の職員と特別支援学級の先生が協力し、指導している。
- ・実際に受け入れている特別支援学級の生徒の保護者に水泳授業を見ていただき、対話をしたい。
- ・過去にさいたま市からの委託事業で、高齢者向けのプール教室を実施し、当施設で受け入れていた。その事業では、事業終了後に、その後継となる高齢者向けの授業を作り、希望者が引き続き授業を受けることができる環境を整えることで、当施設に入校するきっかけづくりをすることができた。同様にさいたま市で障害のある方のための水泳教室を実施する場合は、プールの一面を時間貸しする対応であれば、時期や頻度によって協力が可能である。
- ・他校では障害のある方の泳げるレベルによって3段階に授業を分けている。さいたま市で水泳教室等を実施する場合は、同様にレベル別で授業を分けた方が障害のある方は取り組みやすい。

## (2) B 武道系施設

### ①施設における障害者の受け入れ状況、今後の受け入れ意向

- ・今年度、さいたま市のボッチャの大会を当施設で2日間開催し、両日いずれも100名程度を受け入れた。大会当日は、重度の障害のある方も来ていたため、看護師が常駐し、温度管理や水分補給をしていたが、体調不良者が複数人出た。
- ・ボッチャの大会を受け入れたきっかけは、障害のない人のボッチャの講演会を実施したことである。その際にボッチャ連盟から施設が使いやすく大会を実施できないか相談を受けた。
- ・車椅子バドミントンは、タイヤ痕がついてしまうため、施設管理の都合上、予め特定の区画で行うことを決めて受け入れている。
- ・今後、障害のある方のための空手講座の実施について検討している。

### ②障害者を受け入れるにあたって、不安に感じている点、悩んでいる点

- ・観覧席に行くまでの間に昇降機は1台のみの設置で、エレベーターは設置されていないため、大会等で多数の車椅子利用者が来館された場合、対応が難しいところがある。エレベーターの設置については、さいたま市に要望している。
- ・施設や設備のバリアフリー化が万全ではない。

### ③何らかの障害がある方が来られた場合に備えて、やっていること

- ・スロープを設置し、車椅子を利用する方が可能な限り自由に出入りできるようにしている。

### ④施設において、障害者の利用を拡大するために必要なこと、今後取り組みたいこと

- ・現状、2種類の障害者スポーツ（ボッチャ、車椅子バドミントン）を受け入れているが、受け入れる種目が増えすぎると、施設職員の対応等の負担が大きくなるため、利用者等から相談を受けた場合のみ、適宜受け入れが可能であるかを検討する。
- ・今年度、デフリンピックの開催を受けて、規模を小さくしたデフアスリーの柔道大会の実施について検討中である。
- ・ボッチャ大会の参加者からは、バリアフリートイレや昇降機があること、空調が整っていること、大きな病院が近くにあり、安全面が整っていること、最寄り駅から近く交通アクセスが良いこと等を評価いただいた。これらをアピールし、今後も施設の利用促進に繋がっていききたい。

### (3) C民間スポーツジム

#### ①施設における障害者の受け入れ状況、今後の受け入れ意向

- ・当施設では、障害のある方の個人利用を受け入れるために、個別で相談を受けている。こどもの水泳教室で受け入れすることが多く、基本的に年齢で授業を分けているが、障害のある方を受け入れる際には、(障害の程度等に応じて) 実際の年齢とは異なる授業を受講していただく等の対応もしている。
- ・他の系列施設ではパラアスリートの個人・団体利用も受け入れている。

#### ②障害者を受け入れるにあたって、不安に感じている点、悩んでいる点

- ・施設内に多目的トイレやエレベーターの設置がなく、段差等もあるため、設備のバリアフリーの面が不安である。
- ・可能な範囲で対応してはいるが、障害の有無に関わらず、スポーツジムは自身で器具などを使用することを想定している施設のため、長い時間、一人の利用者のみに付き添ってサポートするような要望に応えることは難しい。

#### ③施設において、障害者の利用を拡大するために必要なこと、今後取り組みたいこと

- ・さいたま市が主催する障害者スポーツ教室や大会の会場で当施設を利用して欲しい。障害のある方がスポーツジムに通うことはハードルが高く見られるが、障害のある方のためのイベントを実施し、当施設を利用する体験ができれば、障害の有無にかかわらず、誰でも通えることが障害のある方にも伝わる。また、当施設としても、障害のある方と接する機会ができ、職員の障害のある方への理解が深まる。

#### ④さいたま市における障害者のスポーツの推進等に向けて、さいたま市が果たすべき役割、実施すべき支援

- ・当施設では、運動に関する様々なコンテンツを保有しているが、それを障害のある方に向けて情報発信をする手段がない。さいたま市には当施設が障害のある方に情報発信するための橋渡しの役割を担って欲しい。
- ・スポーツ施設に備えられている設備やコンテンツに関する情報などをまとめて障害のある方向けに発信するようなポータルサイトを作成して欲しい。
- ・補助金の申請に関する手続きが煩雑であるため、分かりやすくして欲しい。

#### ⑤今後の障害者のスポーツ推進のために必要な情報

- ・障害のある方や障害者関連機関・団体等に関する情報があれば、当施設の運動に関するコンテンツを発信できる。
- ・さいたま市主催の障害に関する知識を深めるための研修会等を実施してほしい。

#### (4) D複合施設

##### ①施設における障害者の受け入れ状況、今後の受け入れ意向

- ・定期的に利用している障害者団体が複数あり、今後も継続的に受け入れていきたい。

##### ②障害者を受け入れるにあたって、不安に感じている点、悩んでいる点

- ・施設の内部の導線や設備（トイレ等）がユニバーサルデザインになっていない点、障害のない利用者の中で、障害者が当施設を利用することの理解が進んでいない点に不安を感じている。
- ・知的障害者等の身体表現は、障害のない人からみると理解が難しいことが多く、障害者と触れ合う機会を増やし、理解していくことが重要である。

##### ③施設において、障害者の利用を拡大するために必要なこと、今後取り組みたいこと

- ・当施設では、施設の利用改善を目的に、地域住民や利用者が委員となる協議会を設置し、ご意見をいただきながら運営している。次年度に配慮や支援を必要とする方も利用している団体の方が委員となる予定であり、施設がどう評価されているかご意見いただき、検証する予定である。
- ・スポーツ事業ではないが、今後、障害のある方と障害のない人が同じ舞台上上がる市民劇団事業を実施する予定である。
- ・障害者を受け入れる体制は整備されているが、それが周知されていないため、広報を強化する必要がある。単に広報するだけではあまり効果がないため、市民劇団の事業を実施し、障害のある方が利用しているという実績を示した上で、当施設の受け入れ体制を周知していきたい。

##### ④さいたま市における障害者のスポーツの推進等に向けて、スポーツ施設が単独で取り組むべきこと、関係機関と連携して取り組むべきこと

- ・障害のある方と障害のない人を分けずに事業を実施したい。
- ・障害のある方は障害のない人と異なり、ただイベント等を周知するだけでは参加しない方が多いと感じる。熱心に取り組んでいる団体等と連携し、情報発信することが必要である。
- ・特別支援学校同士は連携が強いとは言い切れない面があり、その横のつながりを構築すれば、複数の学校が連携し、当施設の事業に参加していただける可能性が高い。



第5章 スポーツ団体向け  
アンケート・ヒアリング調査結果



## 第5章 スポーツ団体向けアンケート・ヒアリング調査結果

### 1 スポーツ団体向けアンケート調査の概要

#### (1) 目的

今後のさいたま市における障害児・者の運動・スポーツ環境の充実に資するものとするため、市内の障害児・者のスポーツ実施環境に関する現状、受け入れ状況について、市内で活動するスポーツ団体へのアンケートを通じて把握することを目的として実施した。

#### (2) 調査対象・サンプル数

##### ■調査対象

大分類	中分類	配布数
さいたま市内で活動するスポーツ団体	競技団体	37
	障害者スポーツ団体	16
さいたま市内で活動するレクリエーション団体		13
総合型地域スポーツクラブ		8
市立小学校・中学校の体育施設（校庭・体育館・武道場）を利用しているクラブ		—

■調査方法：PC・スマホ等によるWEB回答方式（一部Excel形式での回答提出）

■サンプル数：144

#### (3) 調査期間

令和7年7月28日（月）から令和7年8月22日（金）を調査期間とした。

#### (4) その他留意事項

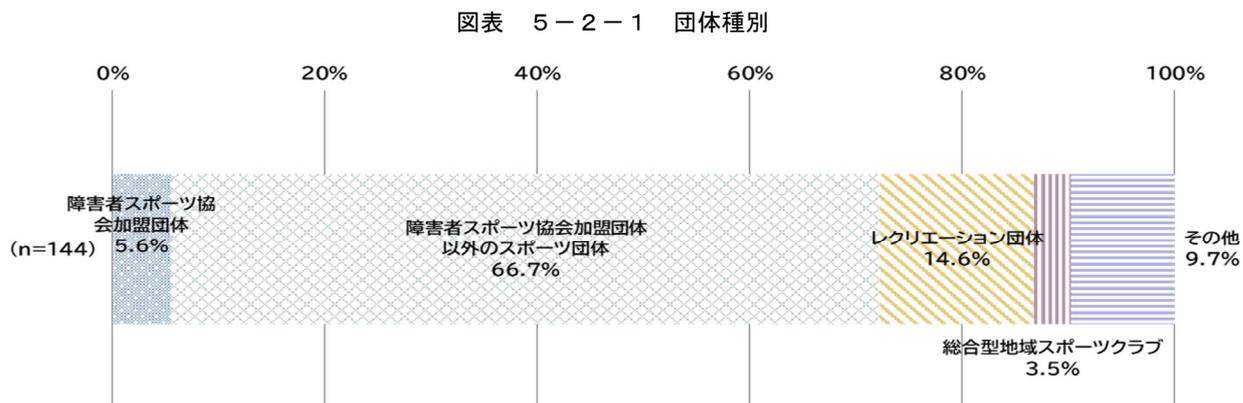
- ・選択肢にあるにも関わらず、その他自由回答に記載している場合など、適宜ローデータの修正を行っている。
- ・集計結果は有効回答数を母数として百分率で示している。また、その値は小数第一位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。
- ・この報告書の図表見出し及び文章中での回答選択肢は、本来の意味を損なわない程度に省略して掲載している場合がある。
- ・nは、回答者数とする。
- ・【SA】は単一回答、【MA】は複数回答可、【NA】は数値回答、【FA】は自由回答の設問を示す。

## 2 アンケート集計結果

### (1) 回答者の属性

#### ①団体種別【SA】

「障害者スポーツ協会加盟団体以外のスポーツ団体」の割合が最も高く 66.7%である。次いで、「レクリエーション団体 (14.6%)」、「その他 (9.7%)」の割合が高い。

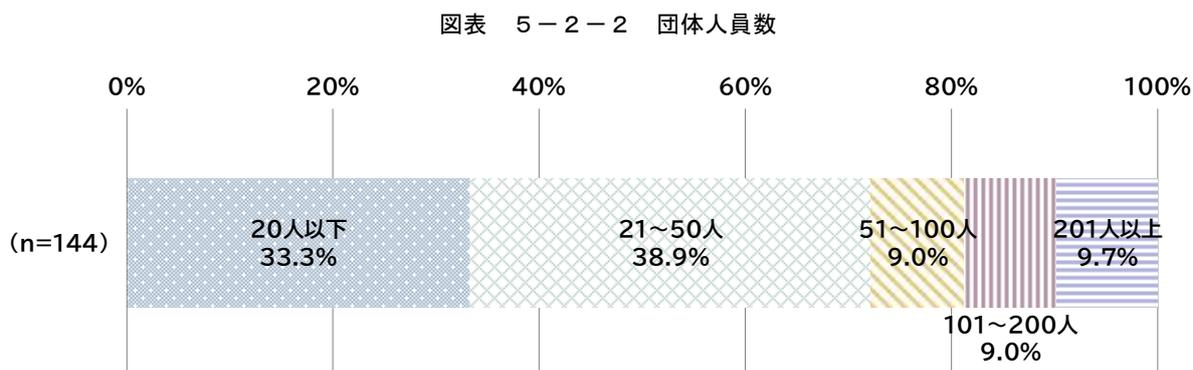


#### その他

- スポーツの普及・振興のための団体／サークル・部活／少年団 (2)
- 埼玉県パラスポーツ指導者協議会
- 障害者当事者団体 (組織内にスポーツ委員会)
- スポーツ推進委員会
- さいたま市学校開放事業の統括団体
- さいたま市内のテニス団体を統括する団体
- さいたま市立小学校及び埼玉大学教育学部附属小からなる団体
- 小学校のPTA から始まった団体
- 地域体操クラブ

#### ②団体人員数【NA】

「21～50人」の割合が最も高く 38.9%である。次いで、「20人以下 (33.3%)」の割合が高い。



### ③資格保有者数【NA】

(日本パラスポーツ協会公認資格)

初級パラスポーツ指導員の資格保有者数は、「0人」の割合が最も高く 93.1%である。

中級パラスポーツ指導員については、「0人」の割合が最も高く 96.5%である。

上級パラスポーツ指導員については、「0人」の割合が最も高く 97.9%である。

公認スポーツコーチの資格保有者数は、「0人」の割合が最も高く 98.6%である。

公認スポーツトレーナーの資格保有者数は、「0人」の割合が最も高く 99.3%である。

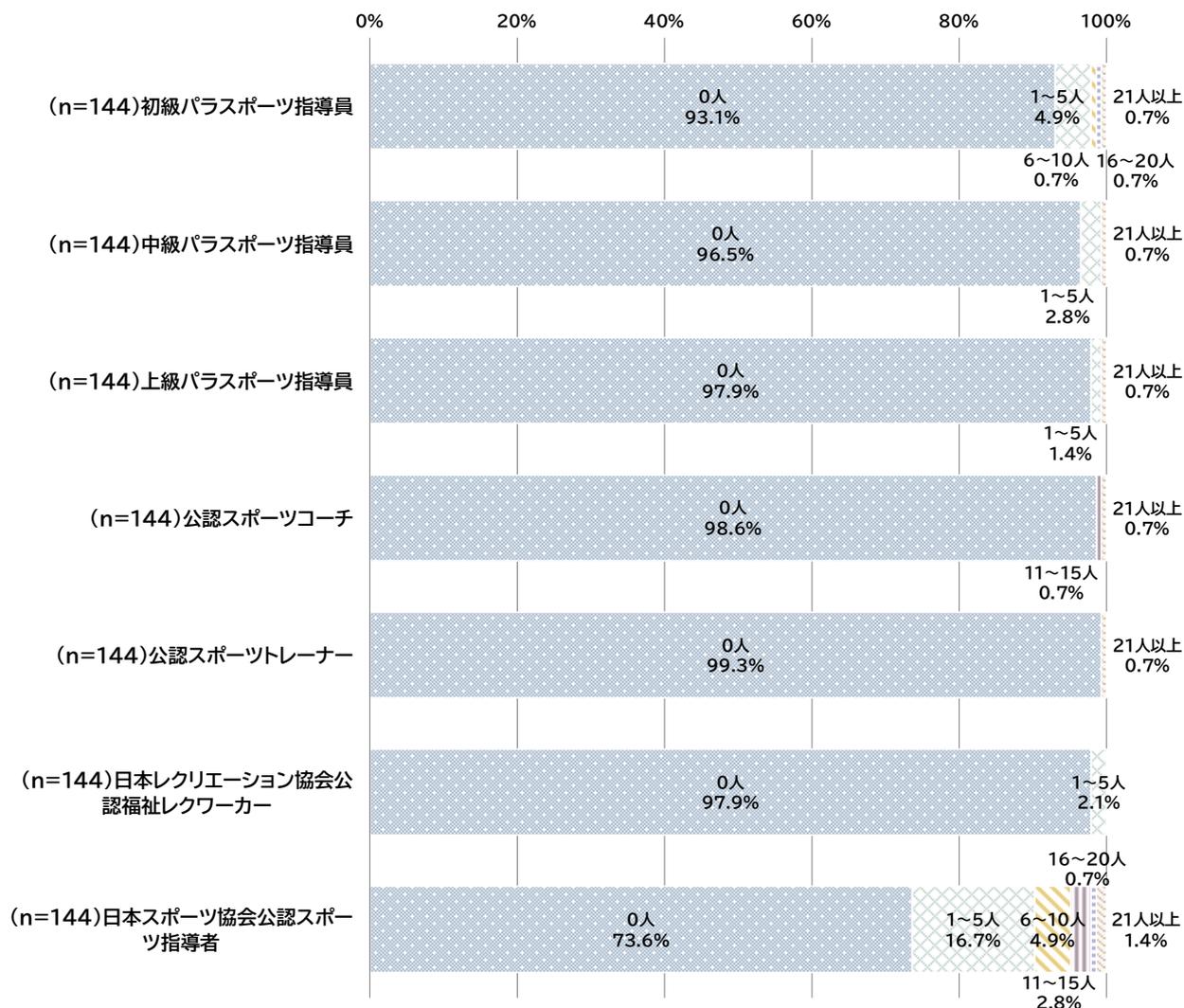
(日本レクリエーション協会公認資格)

福祉レクワーカーの資格保有者数は、「0人」の割合が最も高く 97.9%である。

(日本スポーツ協会公認資格)

スポーツ指導者の資格保有者数は、「0人」の割合が最も高く 73.6%である。

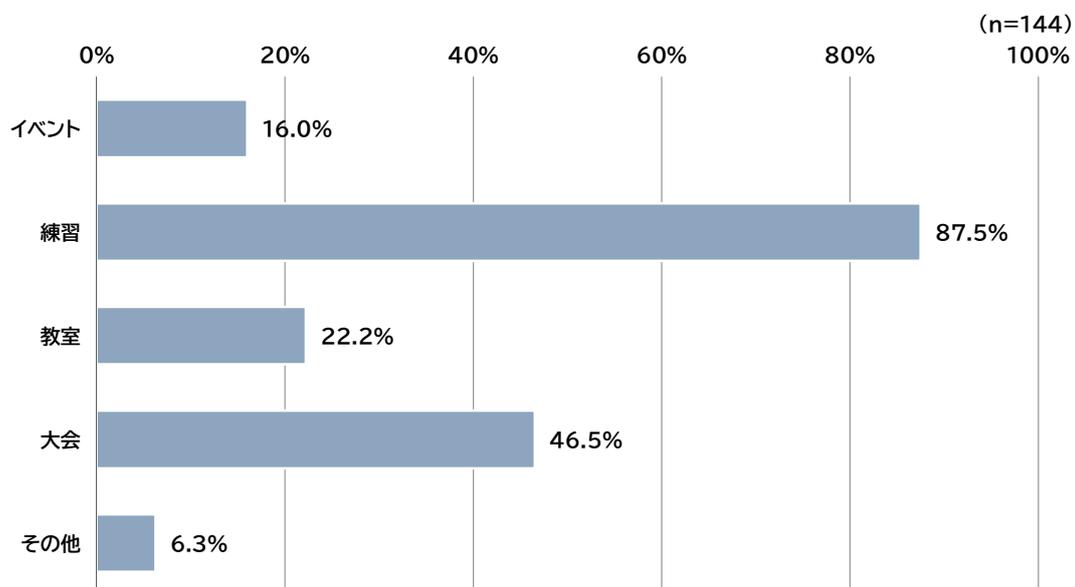
図表 5-2-3 資格保有者数



#### ④団体の主な活動内容【MA】

「練習」の割合が最も高く 87.5%である。次いで、「大会（46.5）」、「教室（22.2）」の割合が高い。

図表 5-2-4 団体の主な活動内容



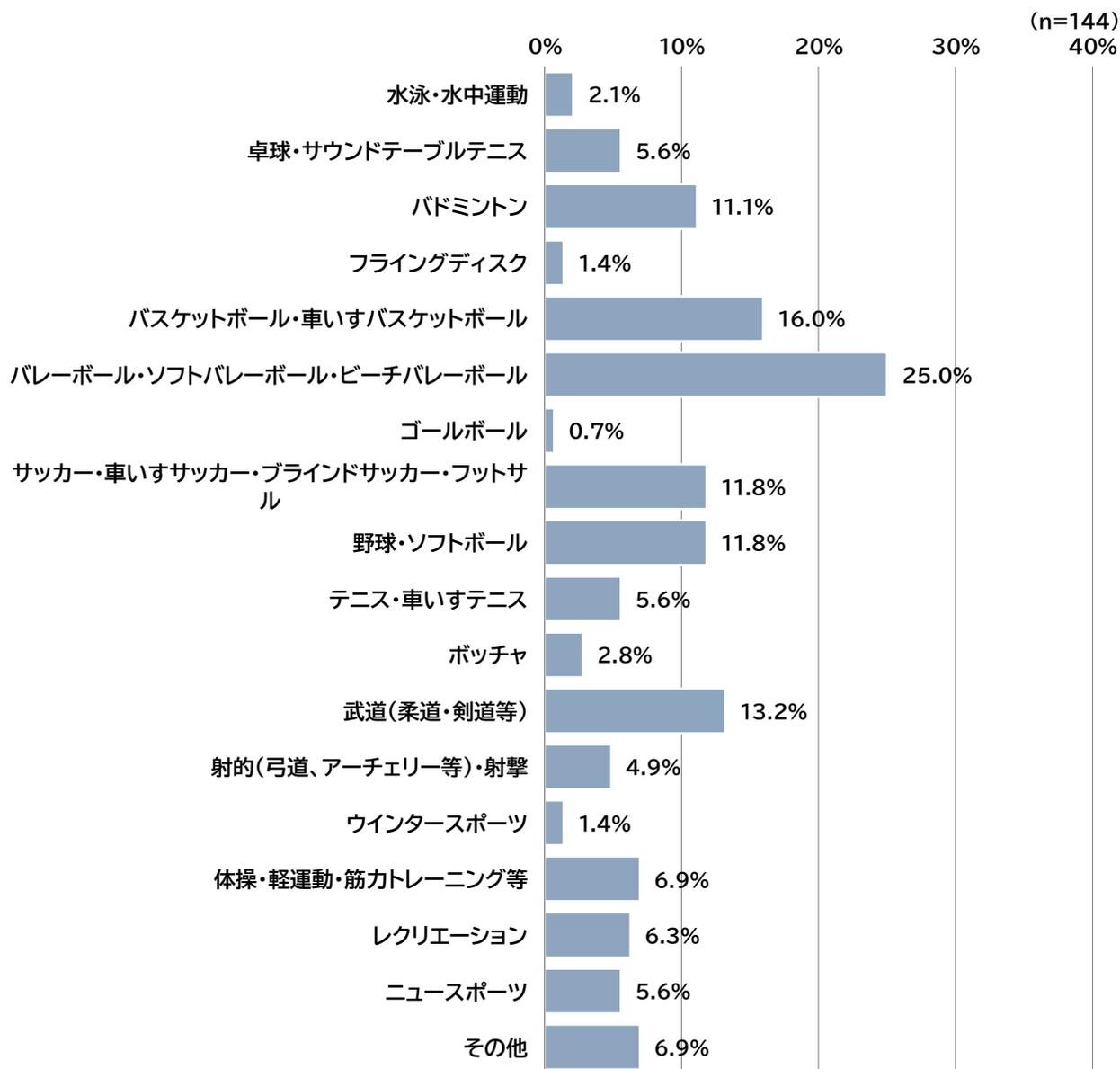
#### その他

- 講習・講座（2）
- スポーツ推進活動協力
- 合宿 等

### ⑤実施しているスポーツ・レクリエーション等の内容【MA】

「バレーボール・ソフトバレーボール・ビーチバレーボール」の割合が最も高く、25.0%である。次いで、「バスケットボール・車いすバスケットボール（16.0%）」、「武道（柔道・剣道等）（13.2%）」の割合が高い。

図表 5-2-5 実施しているスポーツ・レクリエーション等の内容



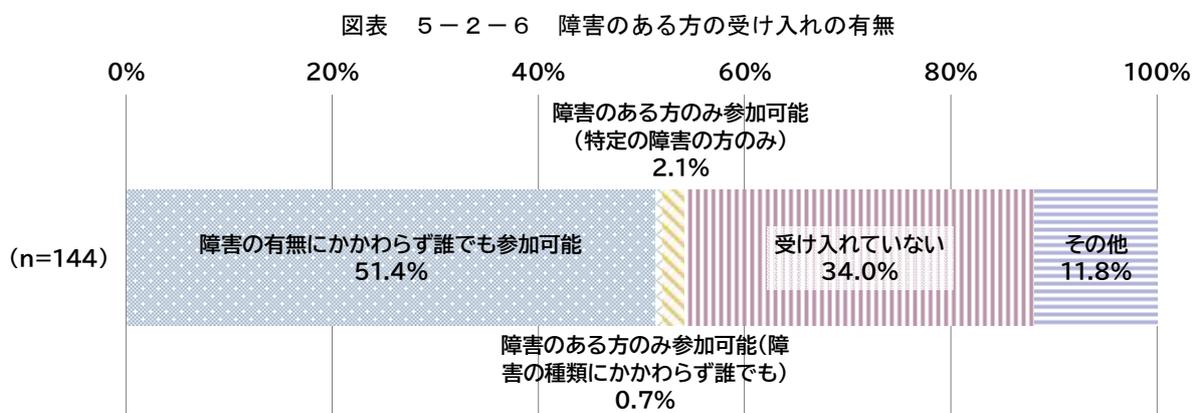
#### その他

- 車いすラグビー
- フットソフトボール
- ボウリング
- ゴルフ
- 社交ダンス
- 和太鼓の演奏、練習 等

## (2) 障害のある方の団体での受け入れ状況

### ①障害のある方の受け入れの有無【SA】

「障害の有無にかかわらず誰でも参加可能」の割合が最も高く 51.4%である。次いで、「受け入れていない (34.0%)」の割合が高い。



#### その他

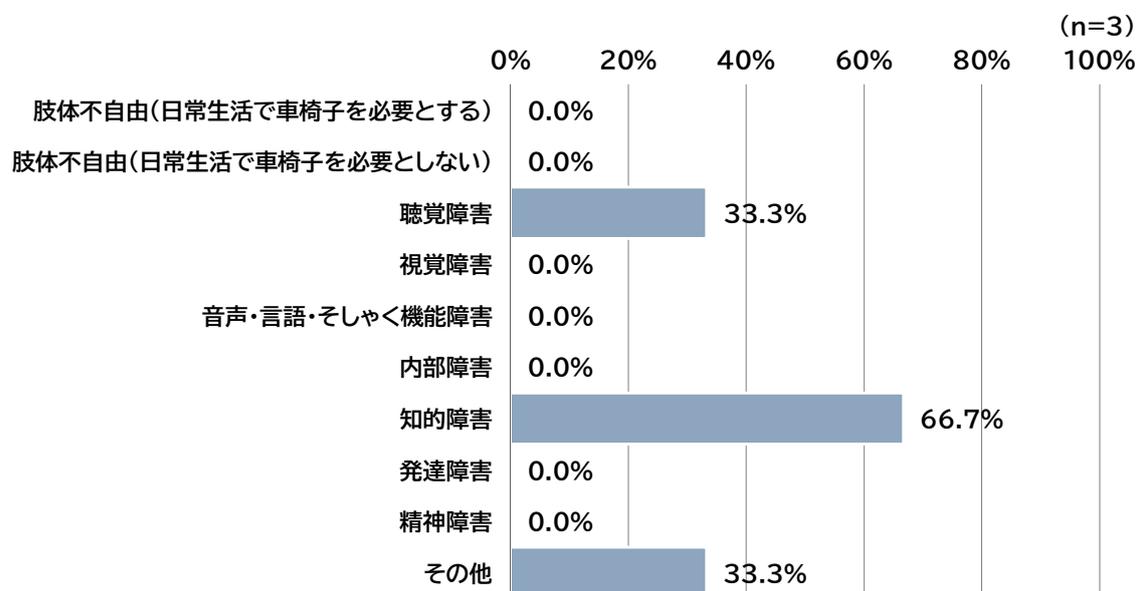
- 前例がなく、今後検討 (4)
- 状況や条件 (障害の程度本人のやる気 保護者の団活動へのご理解ご協力活動時間内における保護者の付き添い) 等に応じて判断し受け入れ可能な場合には、障害の有無にかかわらず参加可能 (3)
- 聴覚障がいの方であれば参加受入れ (2)
- 特に決めていない (2)
- 受け入れたいが、指導者不足のため受け入れ不可。
- 過去に障害 (発達障害) のある方を受け入れたことがあります。
- 今のところ障害のある方の参加希望がありません。
- 特に障害のある方を不参加とはしていませんが、現在、障害のある方は在籍していません。
- 受け入れていないことはありませんが、実施している競技のルールには身体的な障害者を対象とするものがないので難しいと思います。

※ (2) ①で「障害のある方のみ参加可能 (特定の障害の方のみ)」と回答した方のみ

② (参考<sup>3</sup>) 参加している方の障害の種類、受け入れが可能な障害の種類【MA】

「知的障害」が2件で、次いで、「聴覚障害1件)」である。なお、「聴覚障害」の回答者が「その他 (1件)」も回答している。

図表 5-2-7 参加している方の障害の種類、受け入れが可能な障害の種類



その他

- 重複障害

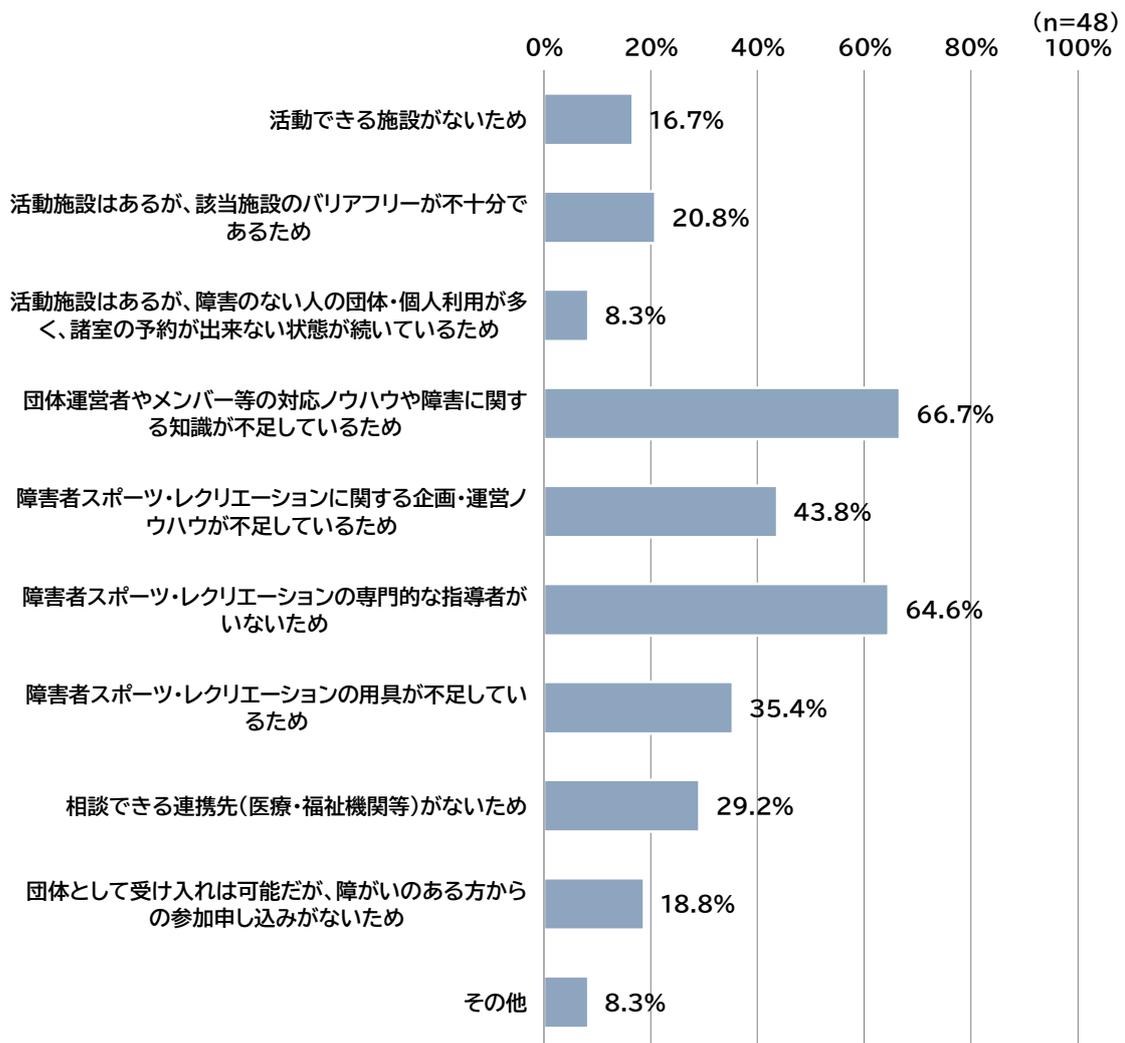
<sup>3</sup> サンプル数が極端に小さなことに留意する必要がある。

※（２）①で「受け入れていない」と回答した方のみ

### ③障害のある方の受け入れを行っていない理由【MA】

「団体運営者やメンバー等の対応ノウハウや障害に関する知識が不足しているため」の割合が最も高く 66.7%である。次いで、「障害者スポーツ・レクリエーションの専門的な指導者がいないため（64.6%）」、「障害者スポーツ・レクリエーションに関する企画・運営ノウハウが不足しているため（43.8%）」の割合が高い。

図表 5-2-8 障害のある方の受け入れを行っていない理由



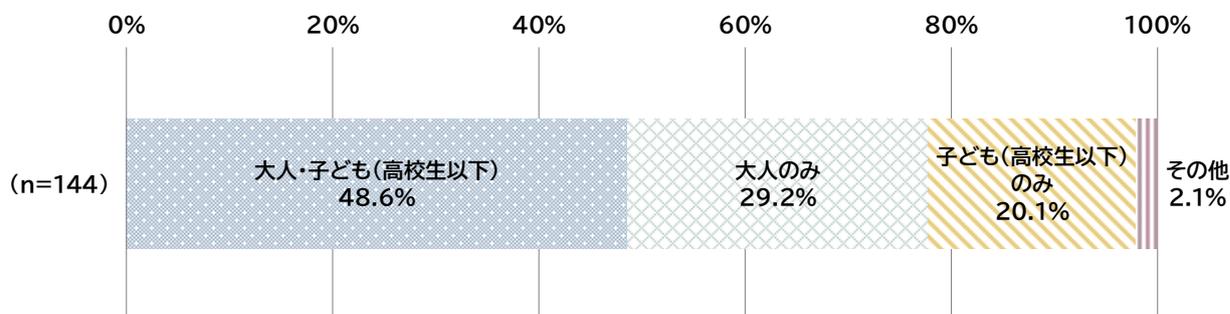
#### その他

- 種目内容的に難しい（２）
- 障害者参加のルール等がない
- 加入者過多で新規受入を制限している

#### ④団体活動の参加対象者の年齢【SA】

「大人・子ども（高校生以下）」の割合が最も高く 48.6%である。次いで、「大人のみ（29.2%）」、「子ども（高校生）のみ（20.1%）」の割合が高い。

図表 5-2-9 団体活動の参加対象者の年齢



#### その他

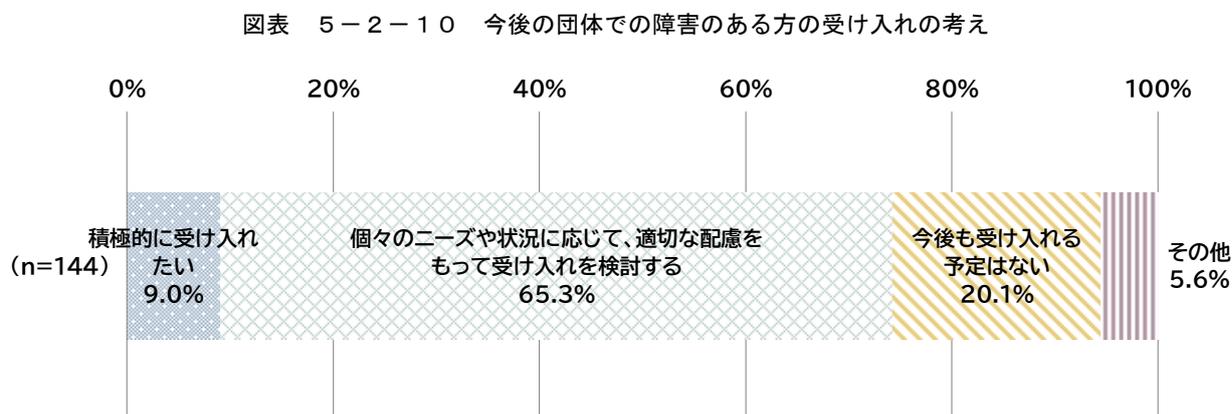
- 大人のみだが、子どもは親の同意という条件が必要
- 年齢問わず（2）

#### ⑤障害のある方・関係者の方から、団体に寄せられたことのある意見【FA】

主な意見
練習場所の確保が困難（2）
知的障害や視覚障害等でも参加できるか
聴覚障害者の方からチームに入って活動したいが受け入れてもらえるか
バリアフリーの射撃場が少ない。
利用施設のトイレについて（洋式トイレの有無）、肢体不自由者の方からの意見、体育館施設の空調設備について（冷房機器の有無）
複数の競技に参加可能か。年齢の低い人でも参加可能か。
会員より活動に関する情報提供方法についての意見あり
車いすテニス大会運営のお手伝いを要請
ニュースポーツの体験、指導をお願いしたい。
アーチェリーを始めたい。交流センターのアーチェリー場利用方法
競技もディスエイブル対応しているので、特に苦情等はありませんし、年に数回は参加してくる選手もいます。

## ⑥今後の団体での障害のある方の受け入れの考え【SA】

「個々のニーズや状況に応じて、適切な配慮をもって受け入れを検討する」の割合が最も高く 65.3%である。次いで、「今後も受け入れる予定はない (20.1%)」、「積極的に受け入れたい (9.0%)」となっている。



### その他

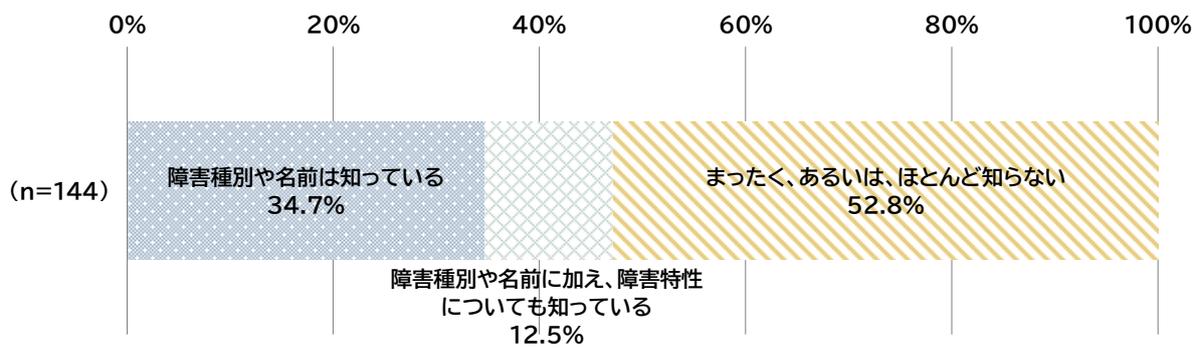
- 現状と変わらず行う
- 当会会員に入会という条件が必要
- 危害予防について理解できる方のみ
- 指導者の人数確保が出来次第、積極的に受け入れをしたい。
- チーム競技により様々
- 今まで考えたことがなかったため、メンバーに相談してからになる
- 以前に受けていない
- 正直今のままでは受け入れは難しいと思われます。実施している競技の日本協会に諮り、検討すべき事案だと思う。

### (3) 団体における障害及び障害のある方への理解、配慮

#### ①団体スタッフ・メンバーの障害についての理解度【SA】

「まったく、あるいは、ほとんど知らない」の割合が最も高く 52.8%である。次いで、「障害種別や名前は知っている (34.7%)」となっている。

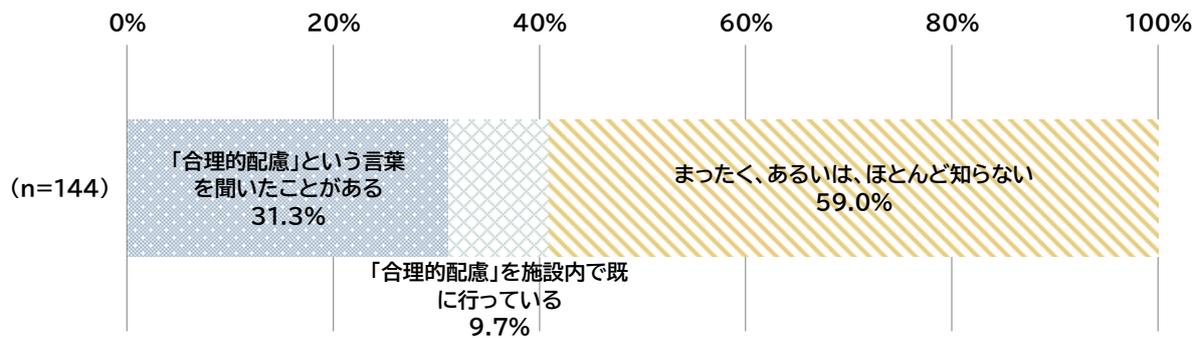
図表 5-2-1 1 団体スタッフ・メンバーの障害についての理解度



#### ②団体スタッフ・メンバーの合理的配慮についての理解度【SA】

「まったく、あるいは、ほとんど知らない」の割合が最も高く 59.0%である。次いで、「合理的配慮」という言葉を聞いたことがある (31.3%)」となっている。

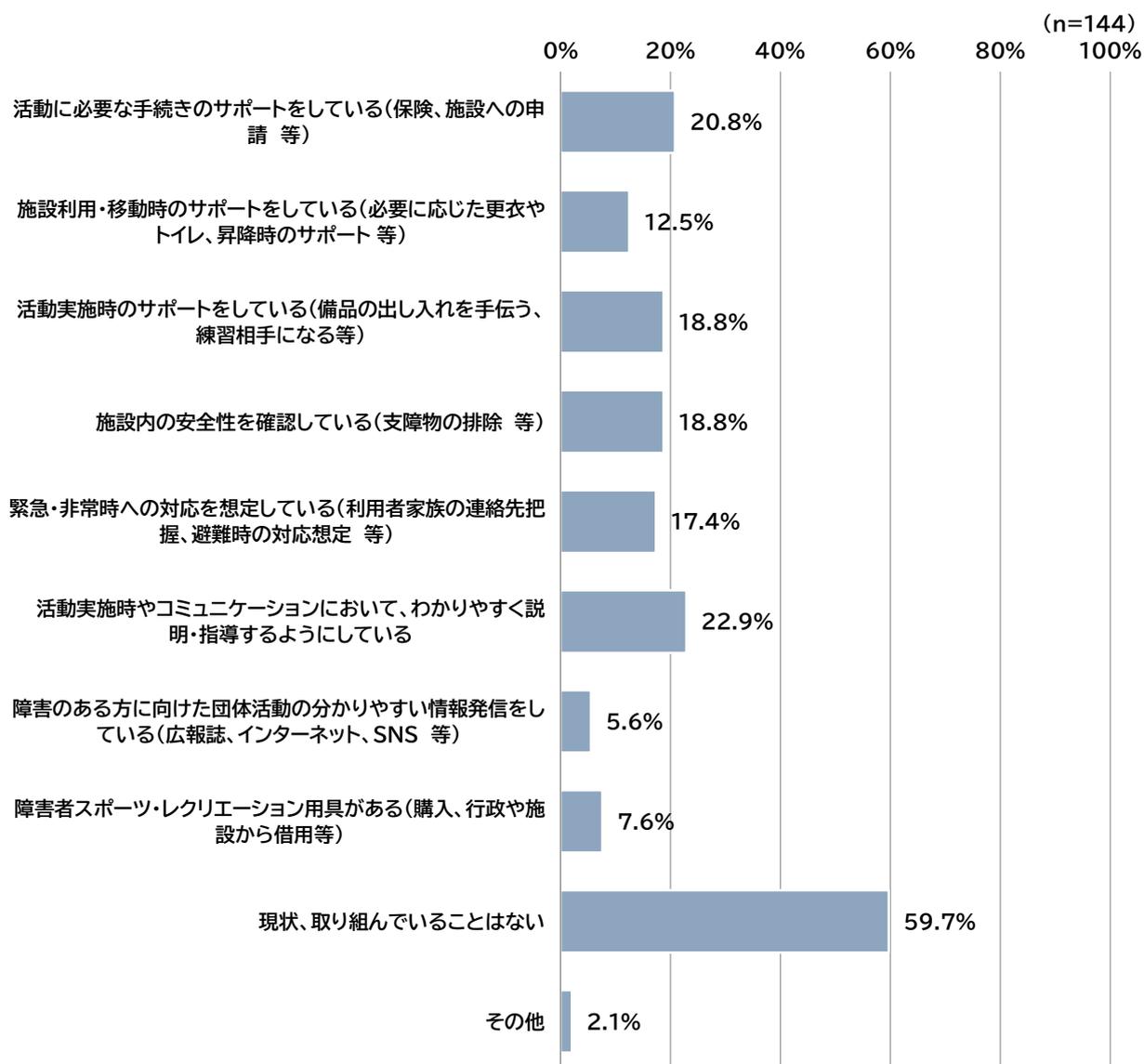
図表 5-2-1 2 団体スタッフ・メンバーの合理的配慮についての理解度



### ③団体スタッフ・メンバーがすでに対応していること、現在実施している合理的配慮【MA】

「現状、取り組んでいることはない」の割合が最も高く 59.7%である。次いで、「活動実施時やコミュニケーションにおいて、わかりやすく説明・指導するようにしている (22.9%)」、「活動に必要な手続きのサポートをしている(保険、施設への申請 等) (20.8%)」の割合が高い。

図表 5-2-13 団体スタッフ・メンバーがすでに対応していること、現在実施している合理的配慮



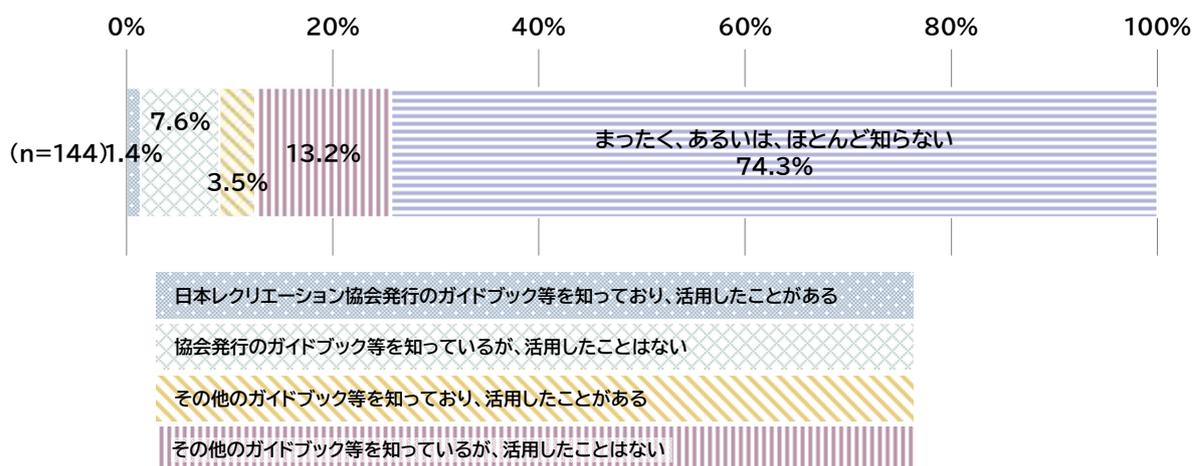
#### その他

- いわゆる障害者は参加しておりませんが、高齢者が多い団体ですので、そこに対する配慮を行っています
- 現在受け入れていないためなし (2)

#### ④障害のある方の受け入れや対応等に関するガイドブックの認知度等【SA】

「まったく、あるいは、ほとんど知らない」の割合が最も高く 74.3%である。次いで、「その他のマニュアルやガイドブック等を知っているが、活用したことはない（13.2）」、「協会発行のガイドブック等を知っているが、活用したことはない（7.6）」となっている。

図表 5-2-14 障害のある方の受け入れや対応等に関するガイドブックの認知度等



#### その他

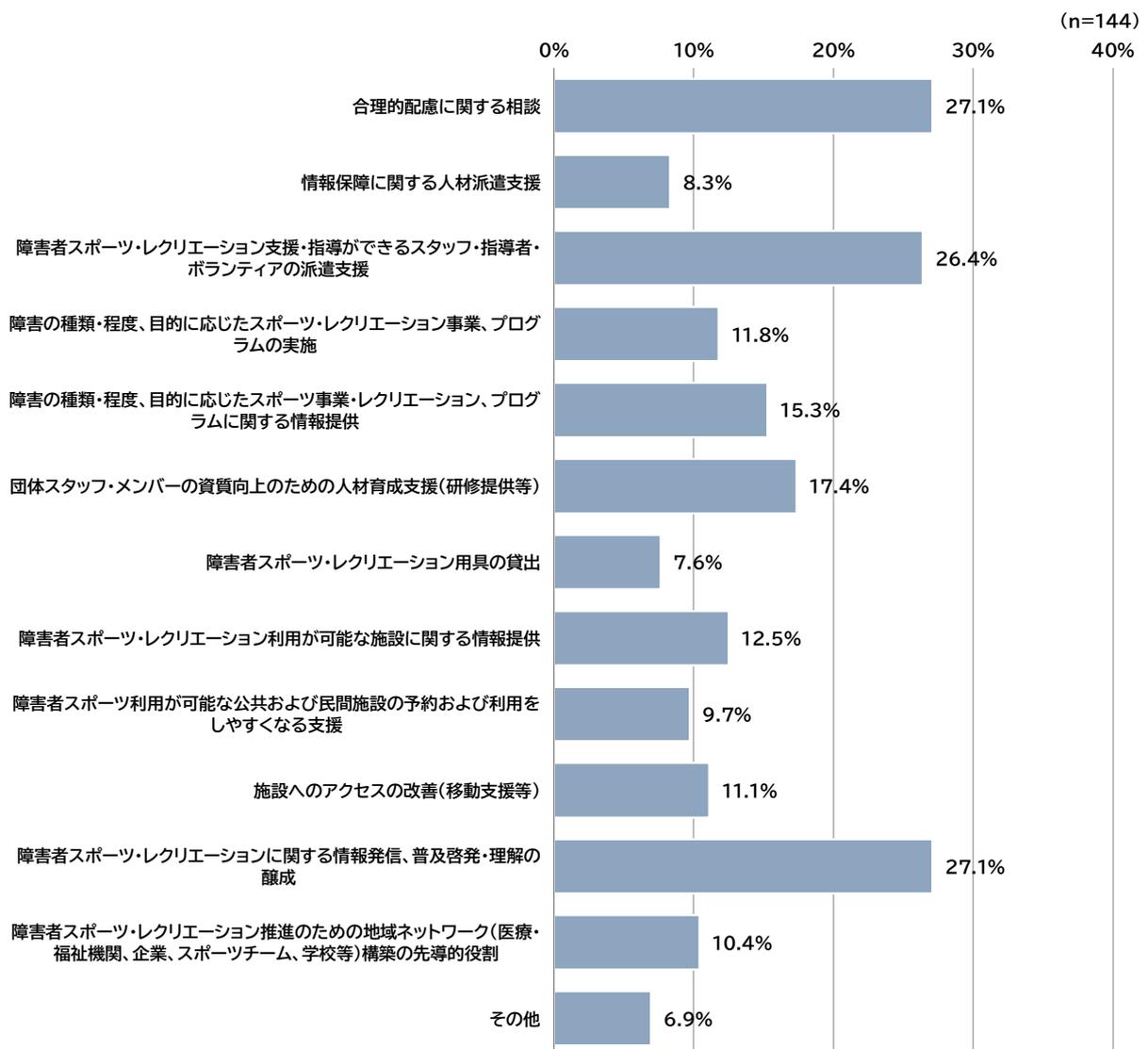
- 記載なし

(4) 今後について

①さいたま市内の障害者のスポーツの実施場所・環境に関して、市に期待する事業・取組（3つまで）【MA】

「合理的配慮に関する相談」、「障害者スポーツ・レクリエーションに関する情報発信、普及啓発・理解の醸成」の割合が高く、それぞれ27.1%である。次いで、「障害者スポーツ・レクリエーション支援・指導ができるスタッフ・指導者・ボランティアの派遣支援（26.4%）」の割合が高い。

図表 5-2-15 さいたま市内の障害者スポーツの実施場所・環境に関して、市に期待する事業・取組（3つまで）



その他

- きこえない・きこえにくい人が利用しやすい施設の整備
- バリアフリーのライフル射撃場（小口径ライフル、エアライフル）開設
- 障害者スポーツ・レクリエーション利用が可能な施設・拠点の整備
- 参加受け入れ時の補助金支給 等

### 3 スポーツ団体向けヒアリング調査の概要

#### (1) 目的

アンケート調査により判明した事実等を踏まえ、スポーツ団体における障害者のスポーツを取り巻く環境や解決すべき課題、障害者のスポーツの更なる普及に必要な要素などについて定性的に把握し、今後のさいたま市における障害者のスポーツ施策の方向性の検討等に際しての参考情報とすることを目的として実施した。

#### (2) 調査対象・調査期間

アンケート調査時に「ヒアリング調査への協力可」と回答があった団体の中から、ヒアリングを行うことによって何らかの示唆が得られる可能性が高いと思われる団体や、さいたま市における障害者のスポーツ関連施策の推進に資すると思われる団体等を調査対象とした。

対面またはオンラインで1時間程度の聞き取りを実施した。

図表5-3-1 ヒアリング対象先一覧

施設種別	実施日	実施方法
E 柔道競技団体	令和7年12月2日(火) 13:00~14:00	対面
F 障害者球技団体	令和7年12月3日(水) 9:00~10:00	対面
G スポーツ推進委員関連団体	令和7年12月3日(水) 18:00~19:00	対面
H 大学パラスポーツ研究会	令和7年12月4日(木) 10:15~11:15	オンライン
I レクリエーション関連団体	令和7年12月4日(木) 14:00~15:00	対面

## 4 ヒアリング調査結果

### (1) E柔道競技団体

#### ①団体における障害者の受け入れ状況、今後の受け入れ意向

- ・現在、小学校1年生から6年生の子どもを受け入れているが、その中に障害のある方はいない。以前チック症の子どもを受け入れたことはある。
- ・障害のある方から加入の希望があれば、受け入れる方針である。
- ・当団体に障害のある方が加入すれば、障害に対する理解が進んだり、一緒に競技に取り組む等の交流する場を作ることができるため、子どもたちの教育にも良いと考えている。

#### ②障害者を受け入れるにあたって、不安に感じている点、悩んでいる点

- ・柔道では、障害の有無にかかわらず、最初に受け身の指導を徹底しているため、特に安全面で不安を感じるようなことはない。

#### ③さいたま市における障害者のスポーツの推進等に向けて、さいたま市が果たすべき役割、実施すべき支援

- ・さいたま市には、スポーツ団体と障害のある方が交流できるイベントを実施して欲しい。
- ・東京都足立区には「あだちスポーツコンシェルジュ」という障害者の運動・スポーツ相談窓口があり、同様の取り組みをさいたま市でも実施して欲しい。

#### ④さいたま市における障害者のスポーツの推進等に向けて、スポーツ団体が単独で取り組むべきこと、関係機関と連携して取り組むべきこと

- ・障害への理解を深め、実際に障害のある方が来た際の対応をあらかじめ職員間で共有しておくことが重要である。

#### ⑤今後の障害者のスポーツ推進のために必要な情報

- ・地域の障害のある方や障害者関連機関・団体等に関する情報、行政や地域で募集している運動・スポーツのイベント情報、団体に対する補助金の情報等を簡単にみることができるポータルサイトを作成して欲しい。

## (2) F 障害者球技団体

### ① 団体における現在の障害者の受け入れ状況、今後の受け入れ意向

- ・ 団体への登録人数は 50 人程度で、そのうち、普段から活動に参加している者は 30 人程度である。知的障害者を中心に受け入れていて、精神障害者、身体障害者も登録している。
- ・ 年齢層は 30 代から 40 代が中心で、中学生から 70 代まで幅広い年代がいる。

### ② 何らかの障害がある方が来られた場合に備えて、やっていること

- ・ LINE の団体グループを作成すると、メンバー間の連絡先が共有され、個人同士で直接連絡が取れるようになる。団体内でのトラブル等防止のため、LINE グループを作成していない。
- ・ 団体に所属し、活動していることを家族に言わない方がいるため、家族にも活動状況が分かるように、活動の予定表（紙ベース）を自宅宛てに郵送している。

### ③ さいたま市における障害者のスポーツの推進等に向けて、さいたま市が果たすべき役割、実施すべき支援

- ・ さいたま市では、障害者野球教室を実施する際に、参加者が少ないと実施しないことがあるが、0 人でない限りは実施してほしい。
- ・ さいたま市には、子どもの野球チームは多くあるが、(子どもの) 障害者のチームがない。さいたま市の事業として (子どもの) 障害者のためのチームができるとよい。(野球という競技においては) 障害のある人と障害のない人を同じチームにすると、内部で隔たりが生じる可能性があるため、障害のある方のみを対象としたチームも作ることが望ましい。

### ④ さいたま市における障害者のスポーツの推進等に向けて、スポーツ団体が単独で取り組むべきこと、関係機関と連携して取り組むべきこと

- ・ スタッフの不足、会費収入の不足などで、団体の運営が難しくなっているため、団体の健全な維持が課題である。
- ・ 活動場所が少なく、競技が実施できる場所について情報提供をして欲しい。現在は活動場所が確保できないときは、市外の特別支援学校から活動場所を借りている状況である。

### ⑤ 今後の障害者のスポーツ推進のために必要な情報

- ・ 市報をみて、活動への参加を希望する方が一定数いるため、市報に継続して掲載したい。
- ・ 埼玉県から補助金の支給を受けているが、さいたま市からも補助金をいただきたい。

### (3) Gスポーツ推進委員関連団体

#### ①団体における障害者の受け入れ状況、今後の受け入れ意向

- ・団体の活動で障害のある方を受け入れた実績はないが、現在活動しているモルックについては、障害のある方でも取り組むことができる。

#### ②障害者を受け入れるにあたって、不安に感じている点、悩んでいる点

- ・例えば、障害のある方が体調不良になった際の対応等が分からない。障害者一人一人が異なる障害を持っているため、障害に関する知識がない点が不安である。

#### ③さいたま市における障害者のスポーツの推進等に向けて、さいたま市が果たすべき役割、実施すべき支援

- ・スポーツの活動場所を確保する際に、さいたま市がサポートをして欲しい。
- ・スポーツ教室等を実施するときには、障害のある方でも参加可能なことを声掛けすることが望ましい。
- ・障害のない人は障害のある方と接する方法が分からない方もいるため、そのサポートをしてくれる方等がいるとよい。

#### ④さいたま市における障害者のスポーツの推進等に向けて、スポーツ団体が単独で取り組むべきこと、関係機関と連携して取り組むべきこと

- ・普段の（障害のない人向けの）スポーツ活動に障害者が参加するよりも、障害ある方と一緒にスポーツを実施することを目的として事前に調整したイベントを開催した方が取り組みやすい。
- ・活動の場に障害者スポーツ指導者がいれば、障害のある方を受け入れる心構えや競技の工夫（例えば、自分で球を投げられない方への対応等）が分かるため、取り組みやすい。
- ・スポーツ関連団体が主催する大会の運営について依頼があれば、協力することは可能である。

#### ⑤今後の障害者のスポーツ推進のために必要な情報

- ・例えば、地域のお祭り等で、障害者でも参加できるブースがあれば、当団体だけでなく、他の地域団体の協力も増える。
- ・障害者スポーツ教室や市主催の研修等に関する情報を積極的に発信して欲しい。

#### (4) H大学パラスポーツ研究会

##### ①団体における障害者の受け入れ状況、今後の受け入れ意向

- ・現在、団体内メンバーに障害者はいない。
- ・通常行っているスポーツ活動の他に、昨年度からパラスポーツに関わる人材を育成するため、学生でも取得できるパラスポーツ指導者初級の資格取得に向けて取り組んでいる。
- ・埼玉県が主催している「プラチナエース発掘のための競技体験会・体力測定会」にボランティアとしてサポート活動に参加している。

##### ②何らかの障害がある方が来られた場合に備えて、やっていること

- ・競技で障害のある方と関わる際には、積極的にコミュニケーションをとり、どのようにサポートすれば障害のある方が上手く競技に取り組めるかを配慮している。

##### ③団体において、障害者の参加を拡大するために必要なこと、今後取り組みたいこと

- ・パラスポーツ指導者の育成を団体の大きな目的として活動している。
- ・大学でパラスポーツ指導員養成課程等を設置し、できるだけパラスポーツ指導員を増やしていくことが望ましい。

##### ④さいたま市における障害者のスポーツの推進等に向けて、さいたま市が果たすべき役割、実施すべき支援

- ・団体の活動資金の補助、用具の貸し出しを行って欲しい。
- ・障害者アーチェリーの用具は高額であるため、その器具を購入する際の費用の一部をさいたま市で負担して欲しい。例えば、市のイベント等で障害者アーチェリー用具を準備していただければ、出展しやすくなる。

##### ⑤今後の障害者のスポーツ推進のために必要な情報

- ・障害者や障害者関連機関・団体等に関する情報が一元化されておらず、情報の入手方法が分からない。さいたま市が情報を集約したポータルサイトを作成して欲しい。
- ・団体の活動を支援するスポンサー等をマッチングできる仕組みづくりをさいたま市が行って欲しい。

## (5) I レクリエーション関連団体

### ① 団体における障害者の受け入れ状況、今後の受け入れ意向

- ・ 団体が障害のある方を受け入れているわけではなく、障害のある方がいる団体からの依頼に基づき、その団体に指導者を派遣し、レクリエーションの指導をしている。
- ・ 体力に不安があるまたは普段運動をしない障害のある方に対しては、運動をする習慣をつくるためのスポーツレクリエーションを指導できる。
- ・ 障害者のある方向けではないが、所属団体の依頼で行ったレクリエーション教室は、継続してスポーツレクリエーションに取り組むことを目的に実施している。

### ② 障害者を受け入れるにあたって、不安に感じている点、悩んでいる点

- ・ 過去に障害者バレーボールの審判を行ったことがあるが、エネルギーのある方が非常に多く、指導にあたり自身の（年齢に起因する）体力的な面で不安がある。
- ・ 放課後児童デイサービスでレクリエーションスポーツを指導したが、保護者が同席したうえで指導した。協力的な保護者の同席があれば受け入れやすい。

### ③ さいたま市における障害者のスポーツの推進等に向けて、さいたま市が果たすべき役割、実施すべき支援

- ・ 例えば、障害福祉施設等でレクリエーション指導者を探している場合、さいたま市がその両者をマッチングしてくれると、当団体も派遣対応等が可能である。民生委員やボランティア等の方の研修を担当することも多く、以前指導した民生委員向けのレクリエーション講座は大変好評だった。

### ④ 団体において、障害者の参加を拡大するために必要なこと、今後取り組みたいこと

- ・ 当団体がレクリエーションを指導するときに工夫していることは、プレ教室を複数回実施することで、活動内容を知ってもらうことが重要である。
- ・ あるレクリエーション教室では、10回程度プレ教室を実施したことで、引き続き運動習慣をつけたい人が残り、その方が仲間を誘う流れで参加者が拡大したことがある。

第6章 特別支援学校・特別支援学級向け  
アンケート・ヒアリング調査結果



## 第6章 特別支援学校・特別支援学級向けアンケート・ヒアリング調査

### 1 特別支援学校・特別支援学級向けアンケート調査の概要

#### (1) 目的

今後のさいたま市における障害児・者の運動・スポーツ環境の充実に資するものとするため、特別支援学校・特別支援学級での運動・スポーツ実施の現状や卒業後のスポーツ習慣継続のための取組等について把握することを目的として実施した。

#### (2) 調査対象・サンプル数

##### ■調査対象

大分類	中分類	配布数
さいたま市を通学区域に含む、県内の特別支援学校	国立特別支援学校	1
	埼玉県立特別支援学校	14
	さいたま市立特別支援学校	2
	高等部（知的障害）	9
市内特別支援学級	小学校	104
	中学校	57
計		187

■調査方法：PC・スマホ等によるWEB回答方式

■サンプル数：105（回答率：56.1%）

#### (3) 調査期間

令和7年7月28日（月）から令和7年8月22日（金）を調査期間とした。

#### (4) その他留意事項

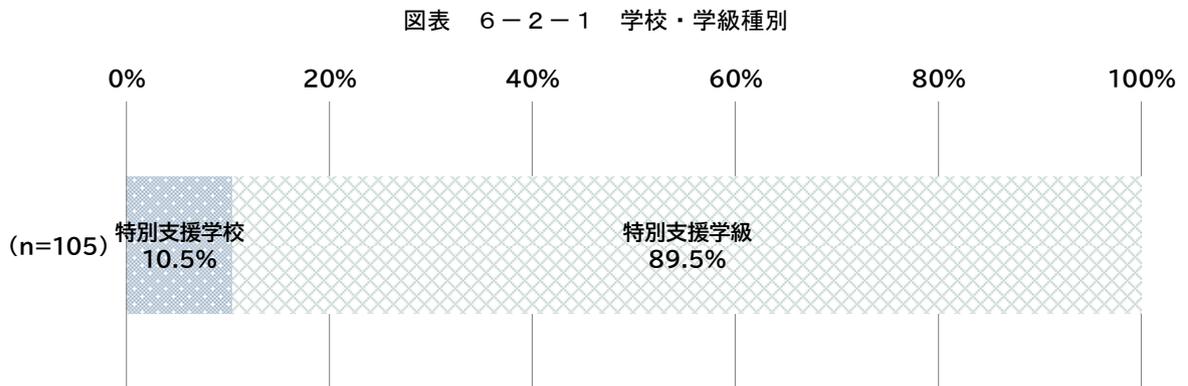
- ・選択肢にあるにも関わらず、その他自由回答に記載している場合など、適宜ローデータの修正を行っている。
- ・集計結果は有効回答数を母数として百分率で示している。また、その値は小数第一位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。
- ・この報告書の図表見出し及び文章中での回答選択肢は、本来の意味を損なわない程度に省略して掲載している場合がある。
- ・nは、回答者数とする。
- ・【SA】は単一回答、【MA】は複数回答可、【FA】は自由回答の設問を示す。

## 2 アンケート集計結果

### (1) 回答者の属性

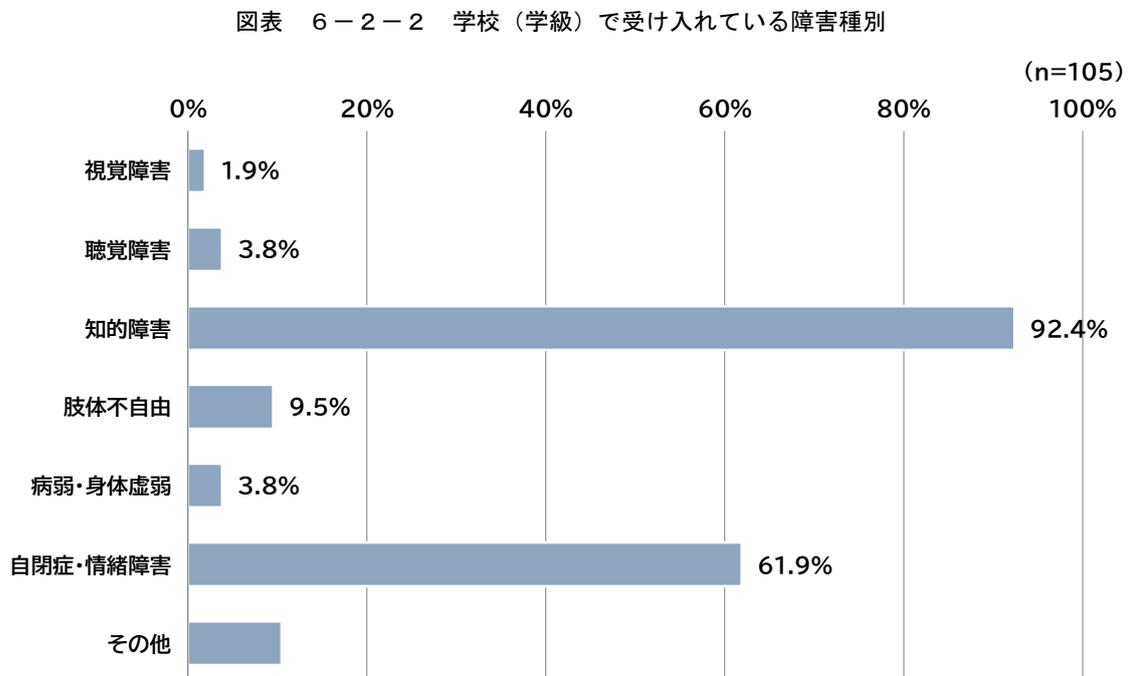
#### ①学校・学級種別【SA】

「特別支援学級」が89.5%で、「特別支援学校」が10.5%である。



#### ②学校（学級）で受け入れている障害種別【MA】

「知的障害」の割合が突出して高く92.4%である。次いで、「自閉症・情緒障害（61.9%）」の割合が高い。



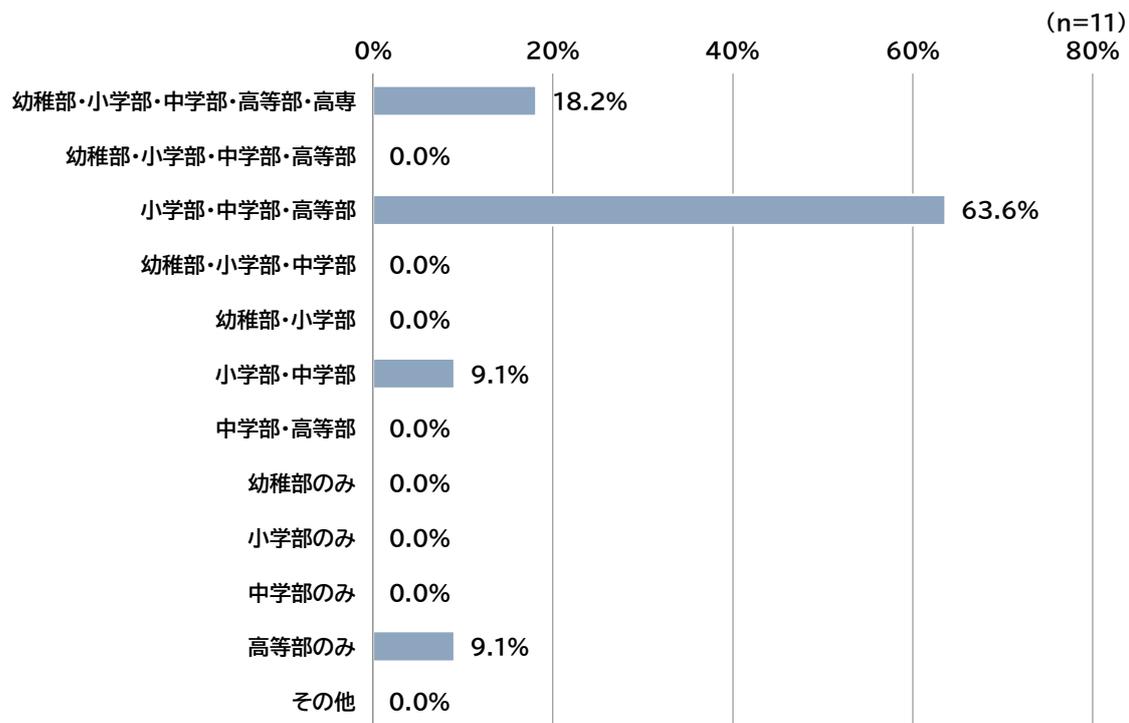
#### その他

- 発達障害（7）等

### ③学部タイプ【SA】

「小学部・中学部・高等部」の割合が最も高く63.6%である。次いで、「幼稚部・小学部・中学部・高等部・高専（18.2%）」、「小学部・中学部（9.1%）」、「高等部のみ（9.1%）」となっている。

図表 6-2-3 学部タイプ



#### ④幼児・児童・生徒数【SA】

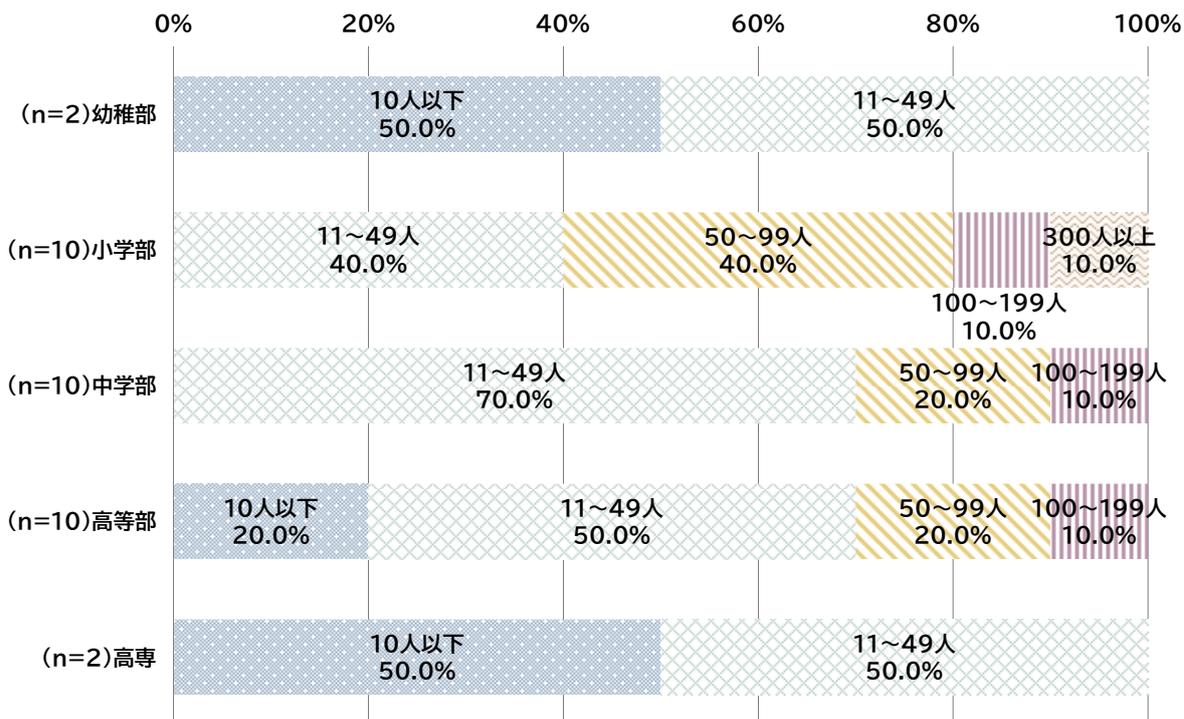
(特別支援学校)

小学部は「11～49人」、「50～99人」の割合が高く、それぞれ40.0%である。

中学部は「11～49人」の割合が最も高く70.0%である。

高等部は「11～49人」の割合が最も高く50.0%である。

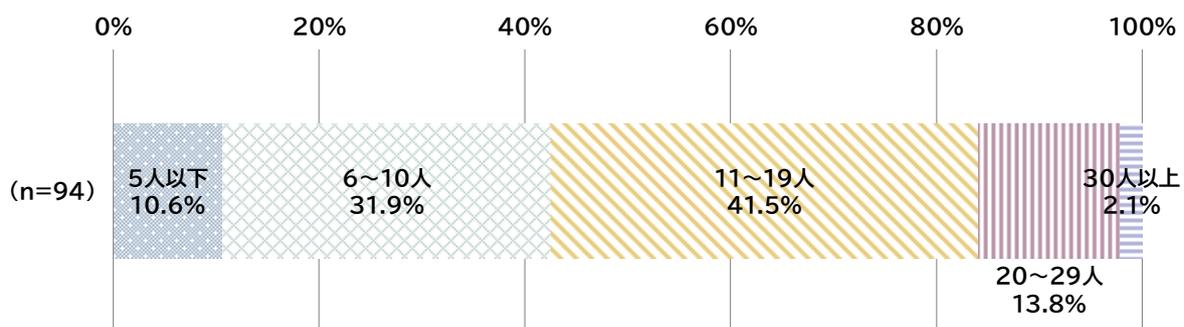
図表 6-2-4 幼児・児童・生徒数 (特別支援学校)



(特別支援学級)

「11～19人」の割合が最も高く41.5%である。次いで、「6～10人(31.9%)」の割合が高い。

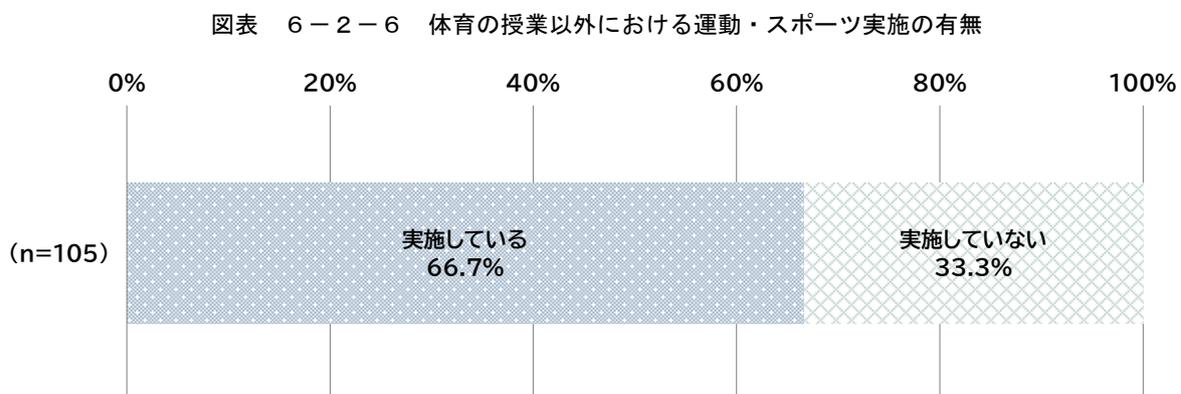
図表 6-2-5 児童・生徒数 (特別支援学級)



(2) 幼児・児童・生徒の運動・スポーツ実施状況等

①体育の授業以外における運動・スポーツ実施の有無【SA】

「実施している」の割合が66.7%である。

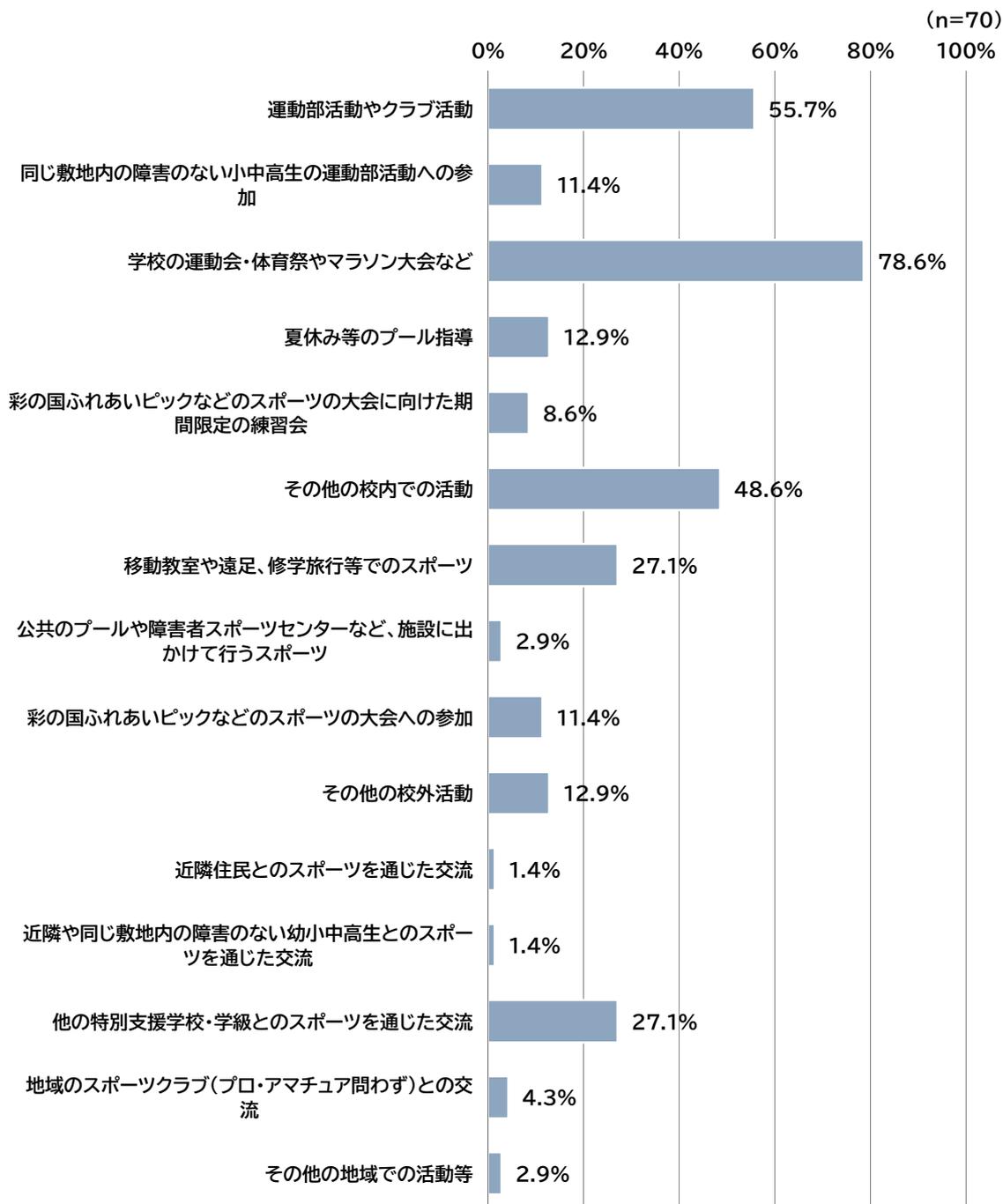


※ (2) ①で「実施している」と回答した方のみ

②体育の授業以外における運動・スポーツ機会の内容【MA】

「学校の運動会・体育祭やマラソン大会など」の割合が最も高く 78.6%である。次いで、「運動部活動やクラブ活動 (55.7%)」、「その他の校内での活動 (48.6%)」の割合が高い。

図表 6-2-7 体育の授業以外における運動・スポーツ機会の内容

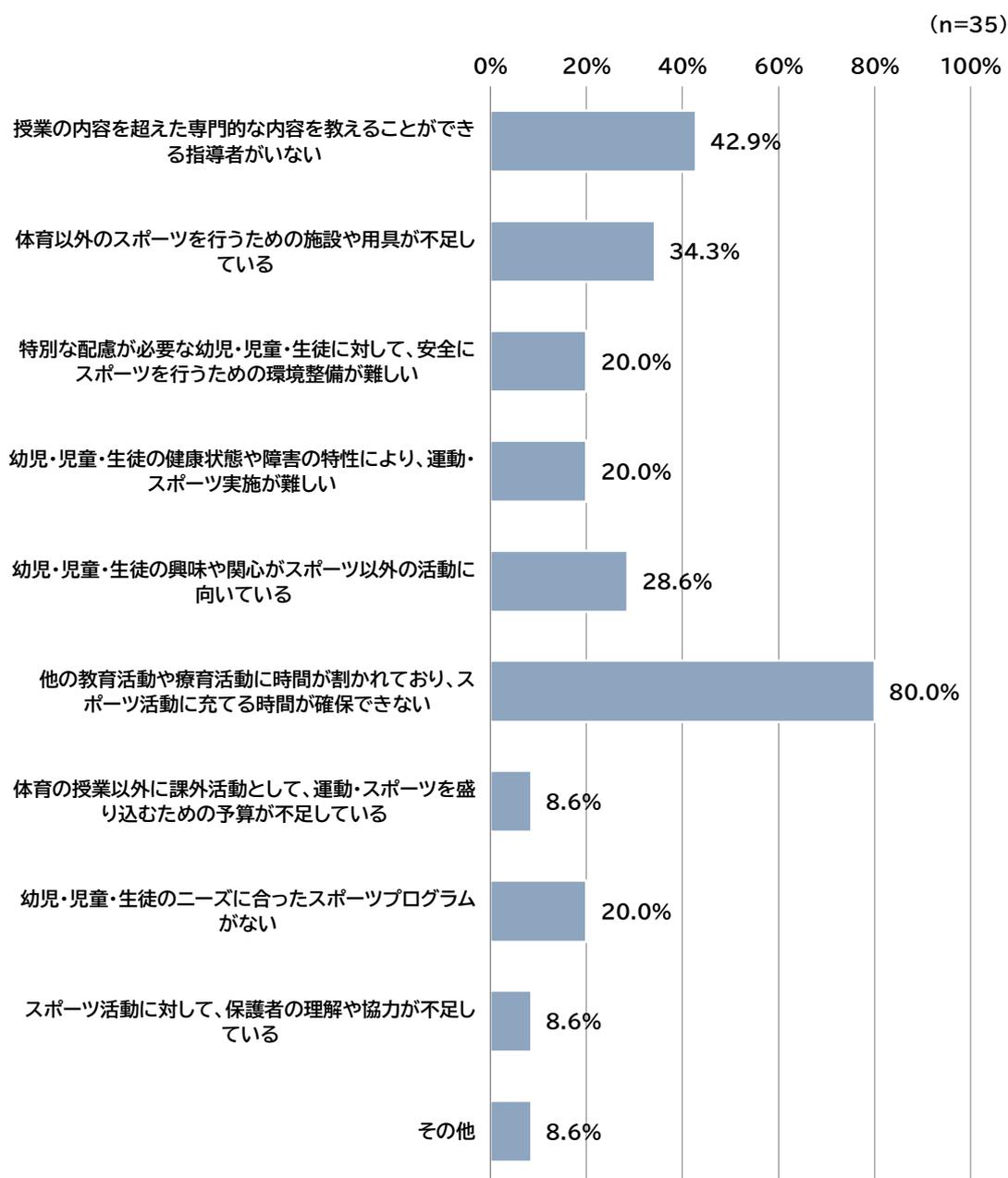


※ (2) ①で「実施していない」と回答した方のみ

### ③体育の授業以外で運動・スポーツを実施していない理由【MA】

「他の教育活動や療育活動に時間が割かれており、スポーツ活動に充てる時間が確保できない」の割合が最も高く 80.0%である。次いで、「授業の内容を超えた専門的な内容を教えることができる指導者がいない (42.9%)」、「体育以外のスポーツを行うための施設や用具が不足している (34.3%)」の割合が高い。

図表 6-2-8 体育の授業以外で運動・スポーツを実施していない理由



#### その他

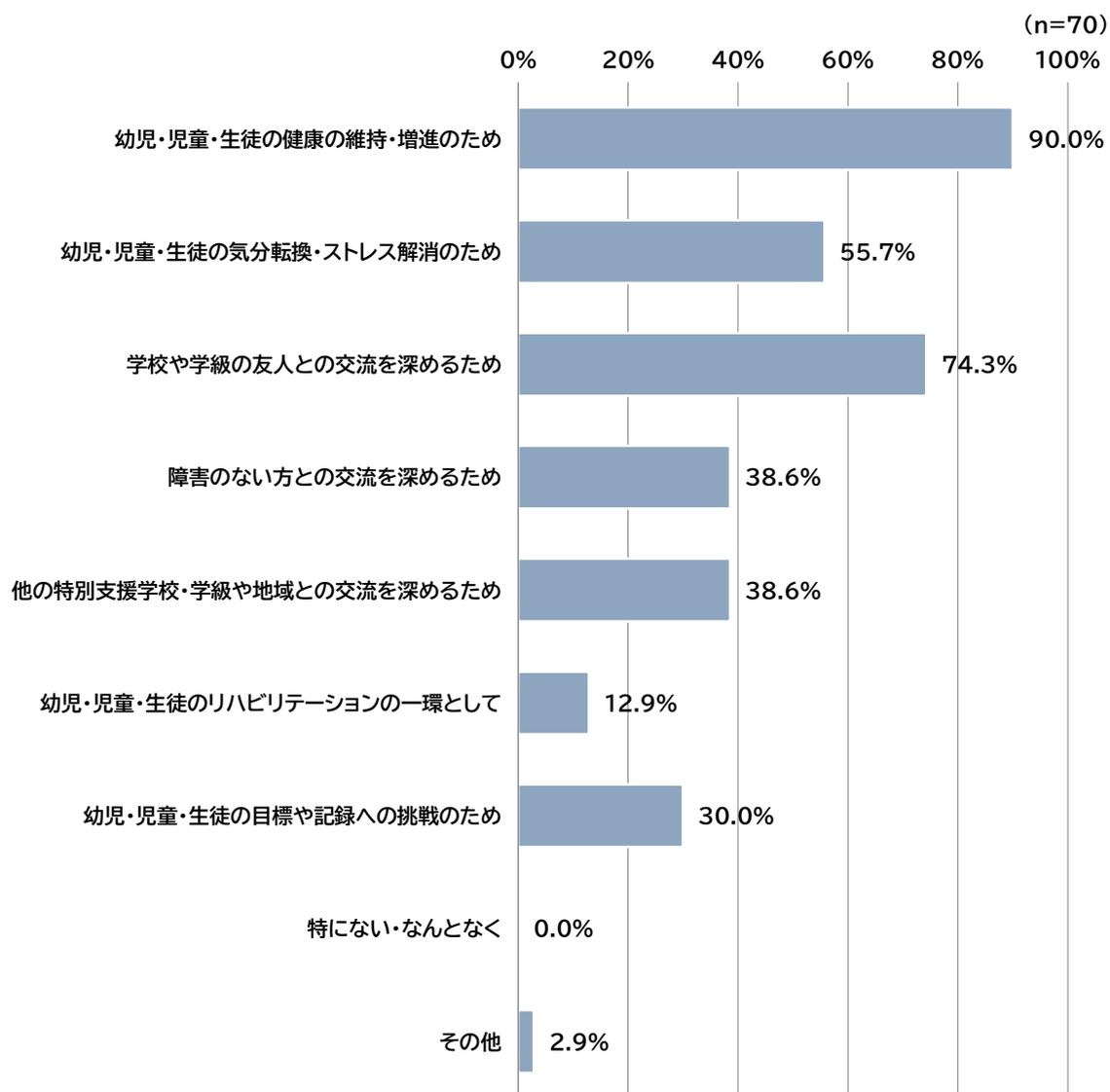
- 体育の授業は週 5 時間設定しており、十分である (2)

※ (2) ①で「実施している」と回答した方のみ

#### ④体育の授業以外で運動・スポーツに取り組む目的【MA】

「幼児・児童・生徒の健康の維持・増進のため」の割合が最も高く 90.0%である。次いで、「学校や学級の友人との交流を深めるため (74.3%)」、「幼児・児童・生徒の気分転換・ストレス解消のため (55.7%)」の割合が高い。

図表 6-2-9 体育の授業以外で運動・スポーツに取り組む目的



#### その他

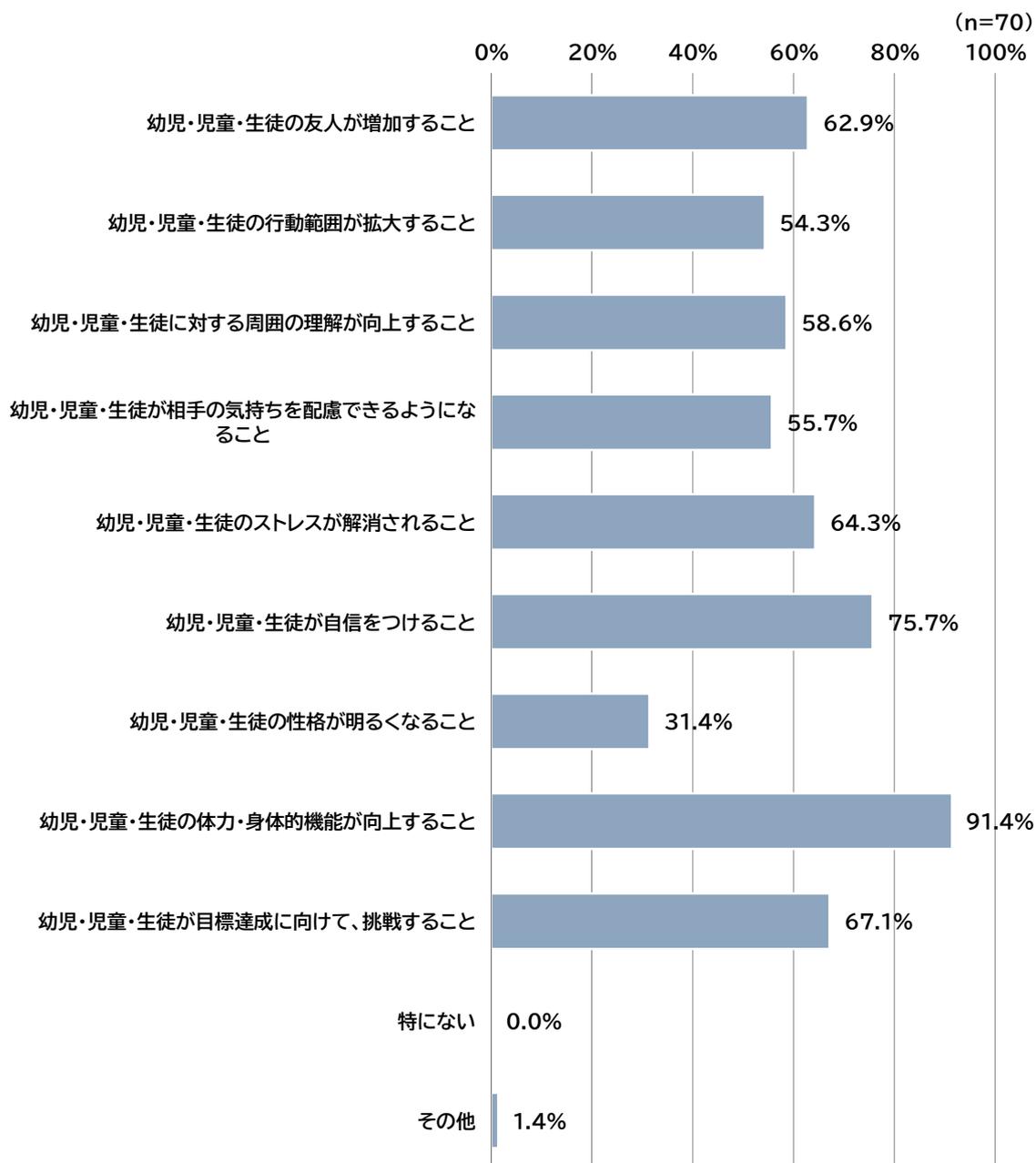
- 自立活動として
- 生徒達の生涯の余暇活動につなげるため

※ (2) ①で「実施している」と回答した方のみ

⑤体育の授業以外で運動・スポーツに取り組むことで期待している効果【MA】

「幼児・児童・生徒の体力・身体的機能が向上すること」の割合が最も高く 91.4%である。次いで、「幼児・児童・生徒が自信をつけること (75.7%)」、「幼児・児童・生徒が目標達成に向けて、挑戦すること (67.1%)」の割合が高い。

図表 6-2-10 体育の授業以外で運動・スポーツに取り組むことで期待している効果



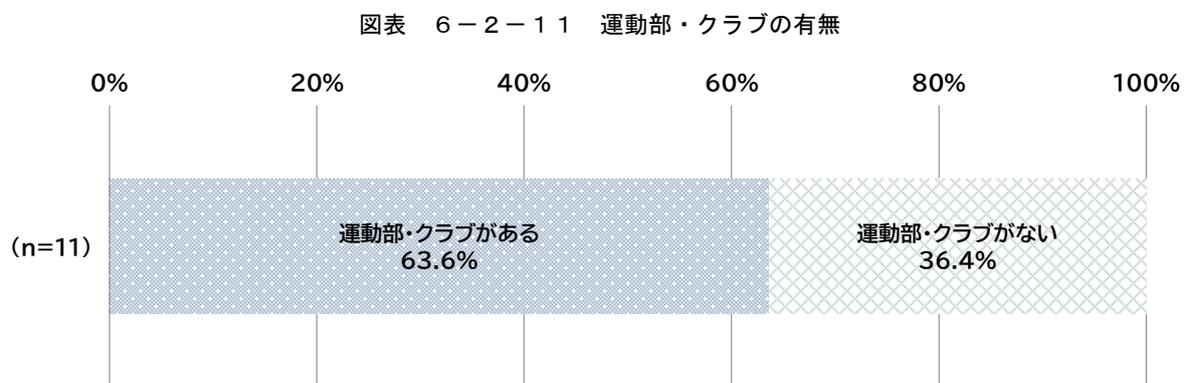
その他

- 本人の他者理解の向上

※（１）①で「特別支援学校」と回答した方のみ

⑥運動部・クラブの有無【SA】

「運動部・クラブがある」の割合が63.6%である。

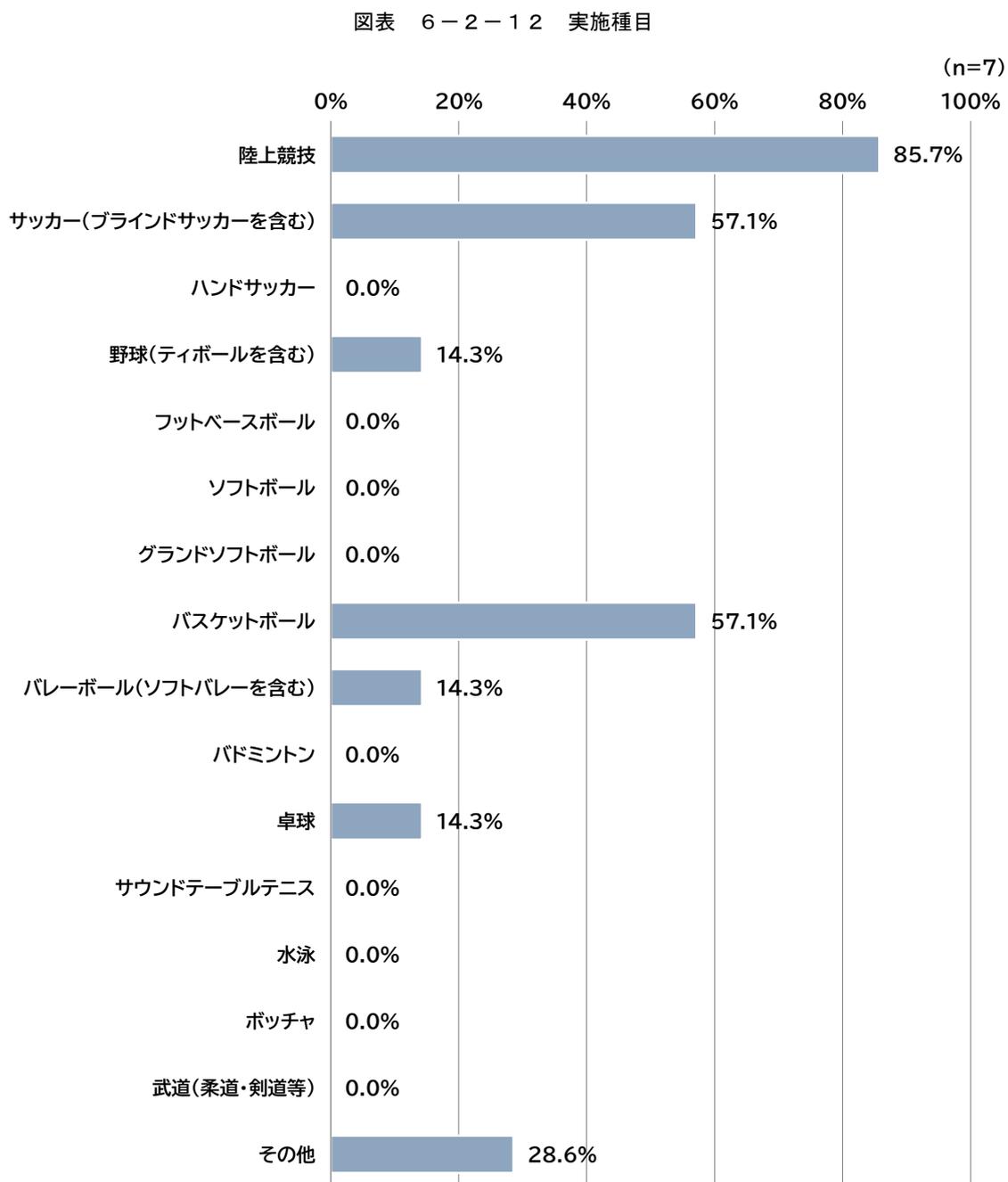


運動部員の総数	学校数
0～9人	0
10～19人	2
20～29人	2
30人以上	3

※ (2) ⑥で「運動部・クラブがある」と回答した方のみ

⑦実施種目【MA】

「陸上競技」の割合が最も高く 85.7%である。次いで、「サッカー（ブラインドサッカーを含む）（57.1%）」、「バスケットボール（57.1%）」の割合が高い。



その他

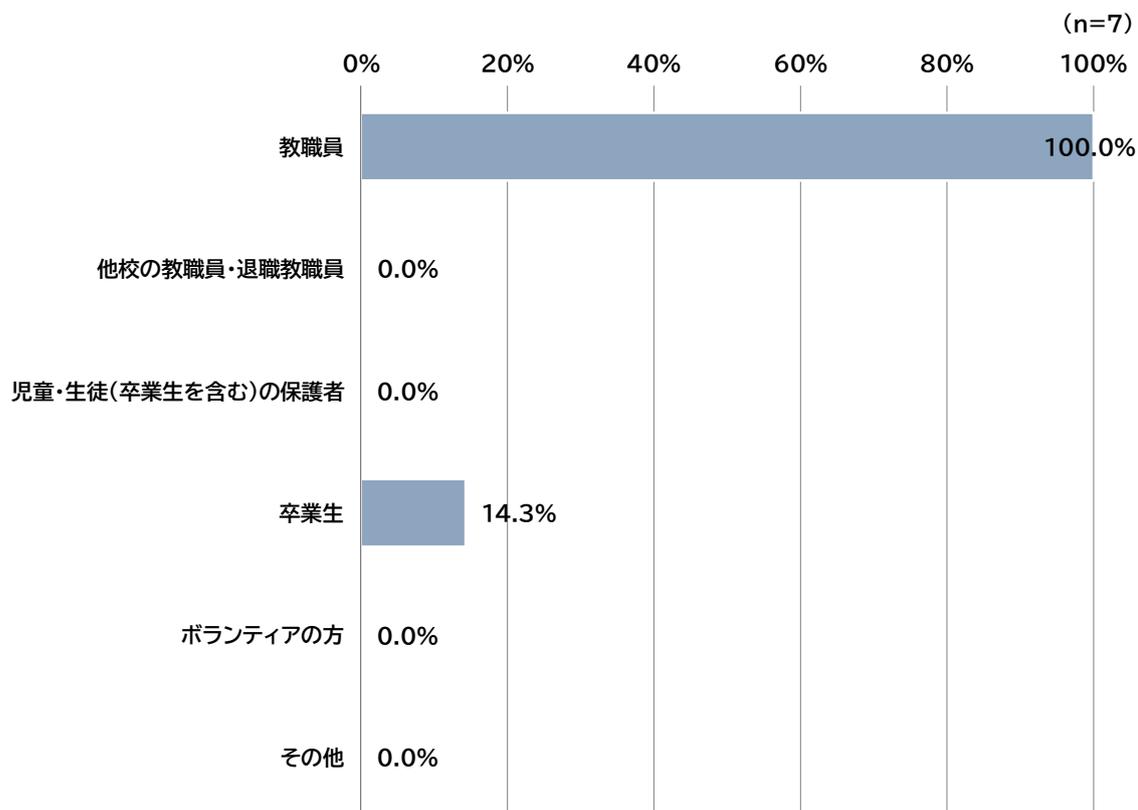
- フロアバレーボール
- クラブアクティビティ（生徒主体で実施したい活動を考える）

※（２）⑥で「運動部・クラブがある」と回答した方のみ

⑧指導者・サポートスタッフの状況【MA】

「教職員」が100.0%である。加えて、「卒業生」が指導に当たっているケースも見られる。

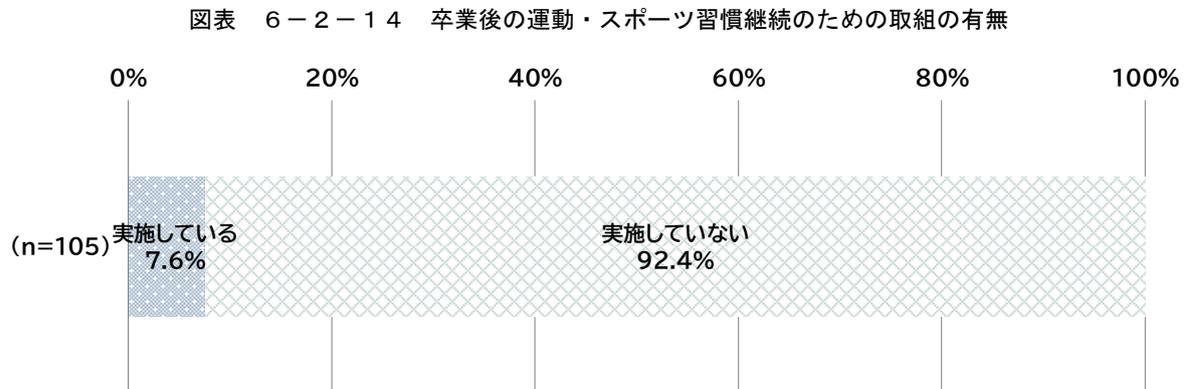
図表 6-2-13 指導者・サポートスタッフの状況



(3) 卒業後の運動・スポーツ習慣継続のための取組

①卒業後の運動・スポーツ習慣継続のための取組の有無【SA】

「実施していない」の割合が92.4%である。

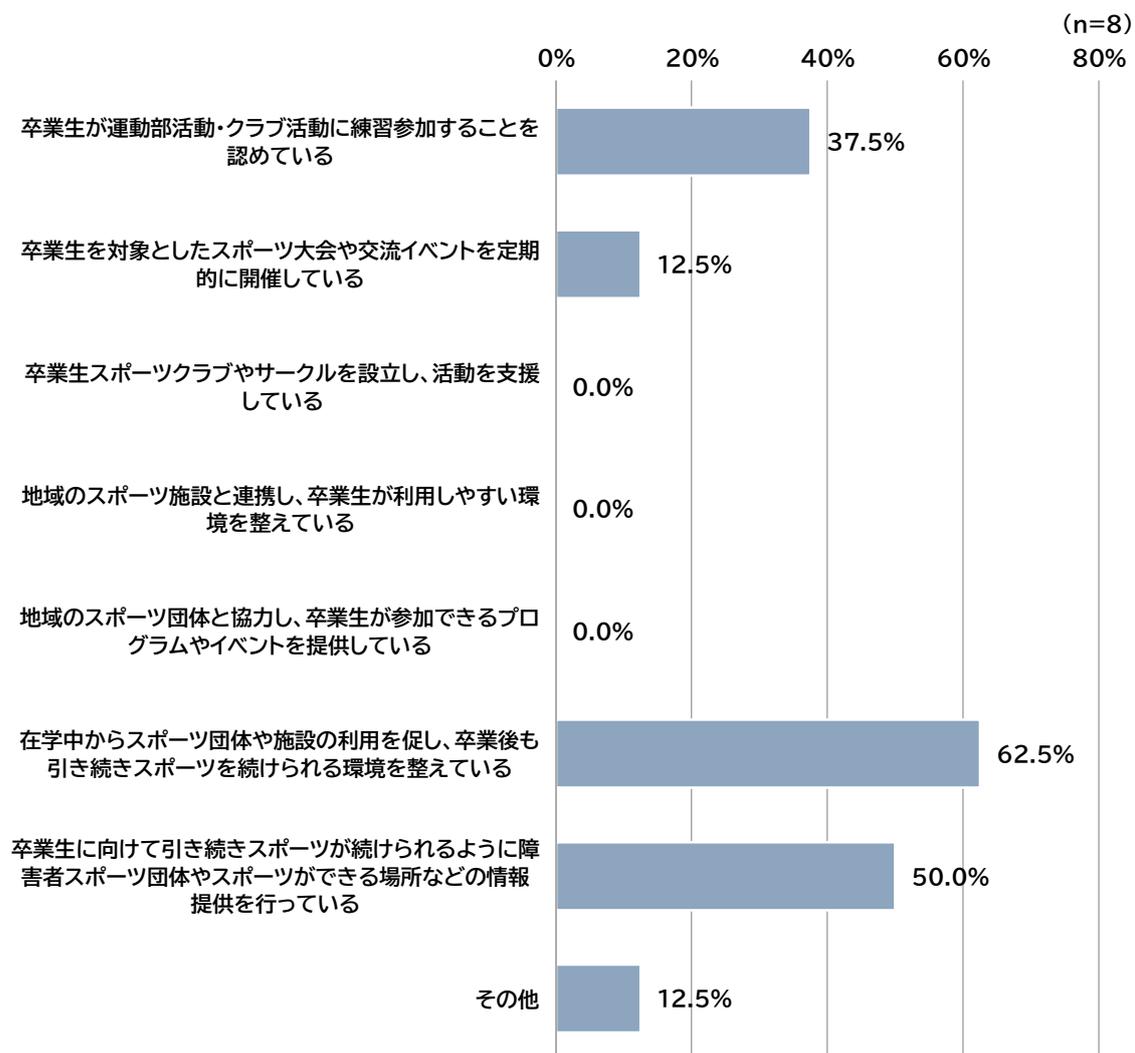


※（３）①で「実施している」と回答した方のみ

## ②卒業後の運動・スポーツ習慣継続のための取組内容【MA】

「在学中からスポーツ団体や施設の利用を促し、卒業後も引き続きスポーツが続けられる環境を整えている」の割合が最も高く62.5%である。次いで、「卒業生に向けて引き続きスポーツが続けられるように障害者スポーツ団体やスポーツができる場所などの情報提供を行っている（50.0%）」、「卒業生が運動部活動・クラブ活動に練習参加することを認めている（37.5%）」の割合が高い。

図表 6-2-15 卒業後の運動・スポーツ習慣継続のための取組内容



### その他

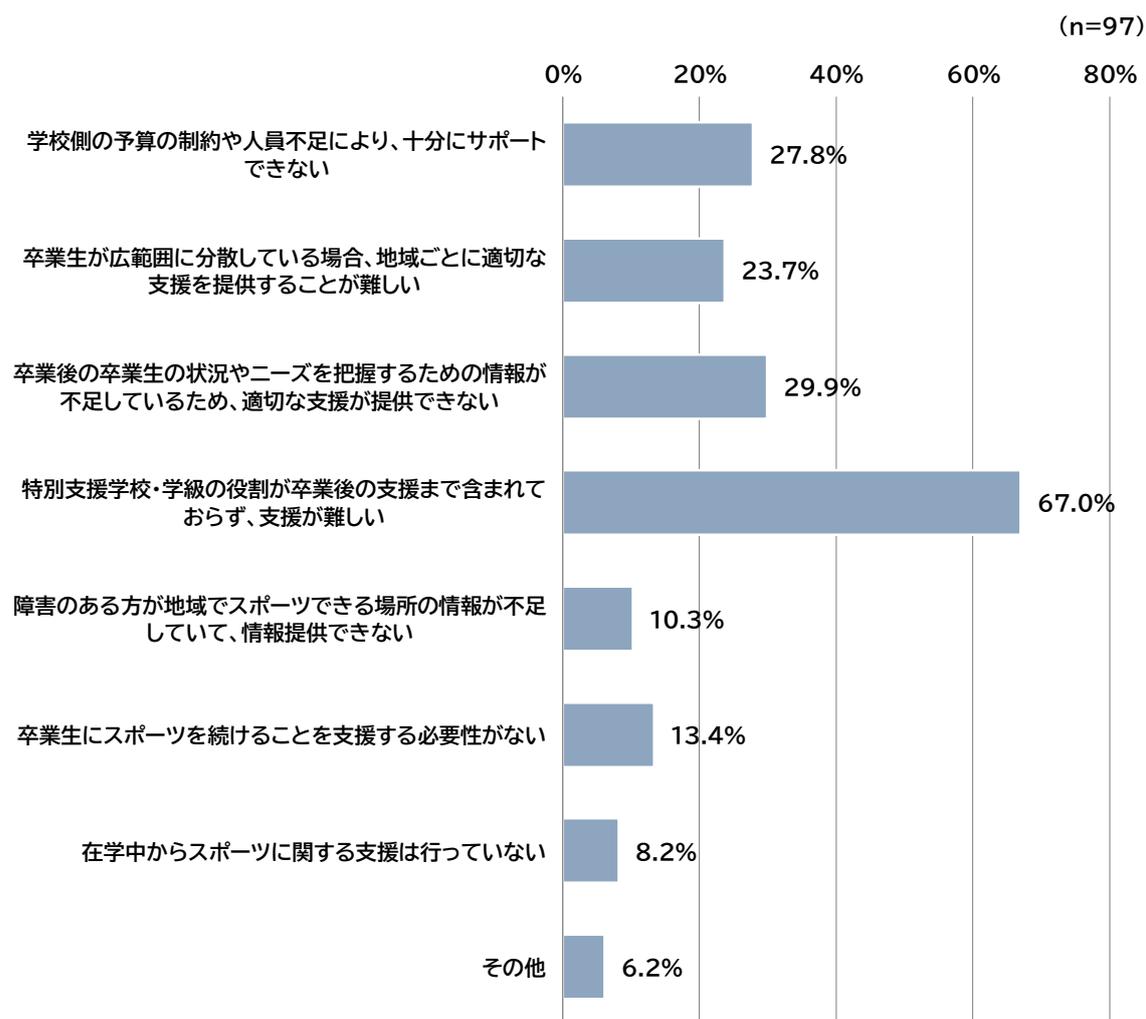
- 授業やその他活動を通して、今後も運動・スポーツに親しめるように努めている

※ (3) ①で「実施していない」と回答した方のみ

### ③卒業後の運動・スポーツ習慣継続のための取組を実施していない理由【MA】

「特別支援学校・学級の役割が卒業後の支援まで含まれておらず、支援が難しい」の割合が最も高く 67.0%である。次いで、「卒業後の卒業生の状況やニーズを把握するための情報が不足しているため、適切な支援が提供できない (29.9%)」、「学校側の予算の制約や人員不足により、十分にサポートできない (27.8%)」の割合が高い。

図表 6-2-16 卒業後の運動・スポーツ習慣継続のための取組を実施していない理由



#### その他

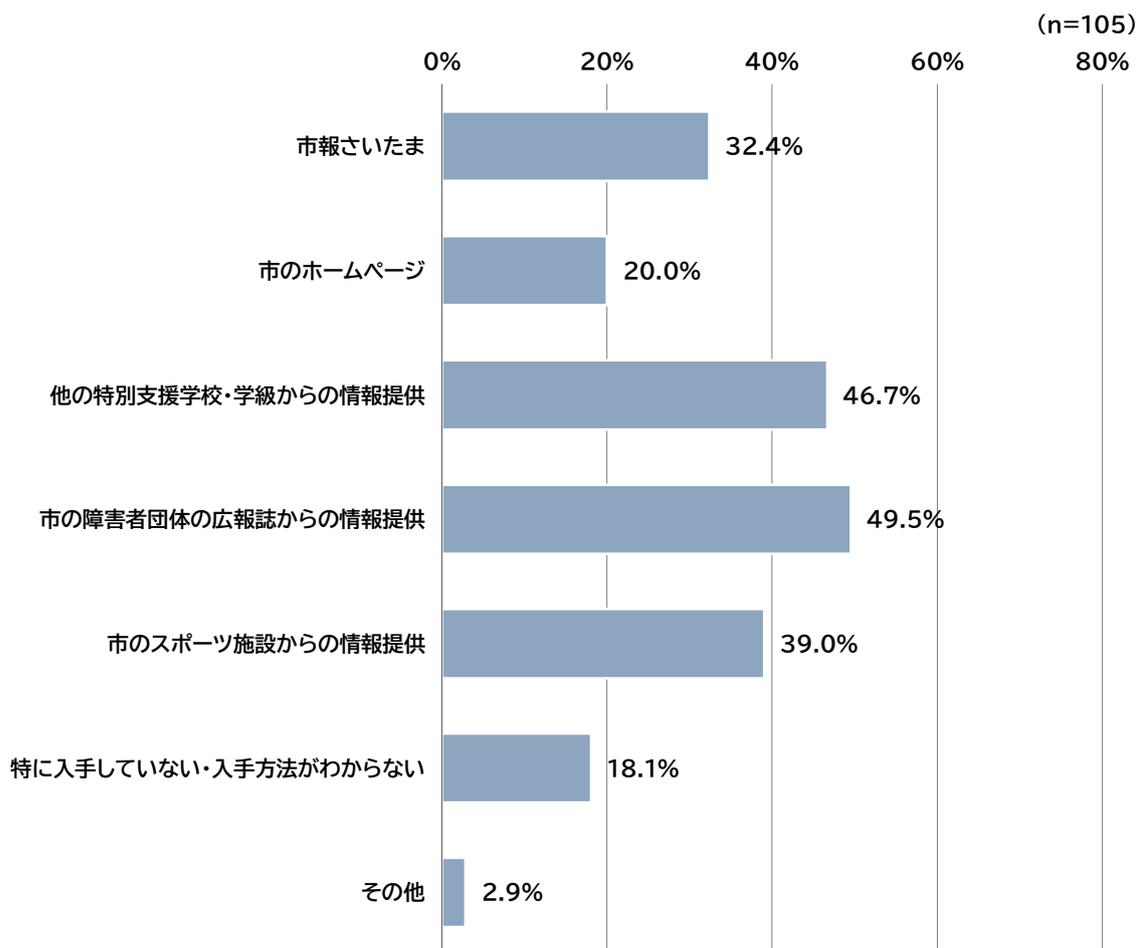
- 中学校でも体育の時間等を通して、運動を実施すると考えている (2)
- 卒業後に小学校へ相談等がこない

#### (4) スポーツに関する情報入手方法

##### ①スポーツに関する情報入手方法・入手先【MA】

「市の障害者団体の広報誌からの情報提供」の割合が最も高く 49.5%である。次いで、「他の特別支援学校・学級からの情報提供（46.7%）」、「市のスポーツ施設からの情報提供（39.0%）」の割合が高い。

図表 6-2-17 スポーツに関する情報入手方法・入手先



##### その他

- SNS やインターネット (2)

(5) 今後について

①今後のスポーツ活動の方針【FA】

項目	件数	主な意見
授業・教育課程の充実	10	授業を中心として、児童生徒の能力の向上に努める
		体育の授業の中でいろいろな運動に触れてもらい、運動に対する視野を広げる
部活動・クラブ活動の充実	4	様々な種類の軽スポーツを実施し、障害の実態にかかわらず体を動かす楽しさや良い動きやプレーができた達成感を味わえるようにする
		競技に応じた技術の習得や体力、運動能力、競技力の向上を目指し、一人ひとりが主体的に取り組める運動環境を整えていく
		卒業生が部活動に参加できる機会を提供し、スポーツを通じて体力や健康の維持・増進に努めるとともに在校生をはじめとする様々な人と交流することにより、幅広い人間関係を構築できるようにする
交流・連携（校内・校外・地域）	16	学部を超えた児童・生徒同士の交流が生まれる大切な機会としていく
		周囲の学校と連携して、運動の機会をつくりサポートしていく
		他校の特別支援学級とのスポーツによる交流や校内の通常学級とのボッチャ等の交流をしていきたい
生涯スポーツ・余暇活動の推進	10	生徒が色々なスポーツに触れ、卒業後もスポーツに興味関心を持ち、取り組もうとする心を育てる
		将来、仕事をする時に必要とされる体力の向上を目指す。また、スポーツ・体を動かすことが楽しいと実感してもらい、生涯スポーツへと繋げていきたい
		児童生徒の実態や課題を考慮しつつ、卒業後の生活を見据えスポーツ活動に取り組んでいく
		余暇活動の選択肢としてスポーツを挙げられる児童の育成
健康・体力・心身の発達	9	健康の保持増進と心の健康を目指し、子どもたちに運動・スポーツの場や機会をつくり、手具など工夫しながら取り組む
		心身を鍛えることで、ストレスの発散や、気持ちの整え方などを自分で知るきっかけを作る
スポーツの楽しさ・意欲・自信の育成	11	より多くの児童生徒がスポーツに親しみ、目標に向かって努力する力を養う

		体を動かす楽しさや喜びを味わうことができるようにする
		部員同士の切磋琢磨や自己の能力に応じてより高い水準の技能や記録に挑戦する中で、スポーツの楽しさや喜びを味わう
		チームゲームを通して、人と関わりながら運動することの楽しさ、達成感を味わえるようにする
個別最適化・特性への配慮	5	児童の心身の発達の状態に合わせ、成長に適したスポーツを心がけていきたい
		誰1人取り残されない個別最適なスポーツ指導を行う
情報収集・提供、外部連携・講師活用	14	県や市と連携して、スポーツに関する情報共有をしたい
		安全に行えるスポーツ活動について、他校の実践や地域の実践などの情報を収集し、活用を模索していく
		年に一度は外部の講師を招いて、さまざまなスポーツ活動を体験できるようにしたい
		市から提供されるスポーツプログラムも可能であれば活用していきたい
障害者スポーツ・パラスポーツの推進	3	様々なパラスポーツの取組に参加していきたい
その他	3	生徒の活動として、学級や学年を離れた集団の中で、互いに認め合い、励まし合いながら自己の存在や責任を見つめ、豊かな人間性や社会性を育成する
		子ども同士で関わり合うことで、良いことや悪いことの判別をつける

### 3 特別支援学校・特別支援学級向けヒアリング調査の概要

#### (1) 目的

アンケート調査により判明した事実等を踏まえ、特別支援学校・特別支援学級における障害者のスポーツを取り巻く環境や解決すべき課題、障害者のスポーツの更なる普及に必要な要素などについて定性的に把握し、今後のさいたま市における障害者のスポーツ施策の方向性の検討等に際しての参考情報とすることを目的として実施した。

#### (2) 調査対象・調査期間

アンケート調査時に「ヒアリング調査への協力可」と回答があった特別支援学校・特別支援学級の中から、ヒアリングを行うことによって何らかの示唆が得られる可能性が高いと思われる特別支援学校・特別支援学級を調査対象とした。

オンラインで1時間程度の聞き取りを実施した。

図表6-3-1 ヒアリング対象先一覧

施設種別	実施日	実施方法
J 特別支援学校	令和7年12月2日(火) 14:15~15:15	オンライン
K 特別支援学校	令和7年12月2日(火) 15:15~16:15	オンライン
L 特別支援学級	令和7年12月3日(水) 16:00~17:00	オンライン

## 4 ヒアリング調査結果

### (1) J特別支援学校

#### ①特別支援学校・特別支援学級における運動・スポーツの実施内容

- ・体育の授業以外では、部活動（部活動への参加率は100%であり、そのうち運動部は7割）が中心で、外部のクラブチームによる交流会で、走り方を指導する教室やサッカーの試合を見学する等のスポーツイベント等がある。

#### ②運動・スポーツに取り組む児童・生徒数を増やすために必要なこと

- ・マラソン大会等の学校行事は、子どもたちが「目標に向かって頑張った」、「目標を達成した」経験を得られる機会であるため、安易に廃止せず、時代や保護者を取り巻く環境等とのバランスを取りながら維持・継続していくことが重要である。

#### ③さいたま市における障害者のスポーツの推進等に向けて、さいたま市が果たすべき役割、実施すべき支援

- ・障害のある方にとっては、自立して目的地に集合すること、自らホームページ等から情報収集することが難しい場合もある。例えば、障害福祉施設等が介助員を連れていくようなスポーツイベントをさいたま市と実施すれば障害のある方も参加しやすいのではないか。

#### ④さいたま市の障害者のスポーツの推進等に向けて、特別支援学校・特別支援学級が単独で取り組むべきこと、関係機関と連携して取り組むべきこと

- ・体育の授業等を通じて、運動・スポーツの楽しさや、みんなで協力することの楽しさを伝達できるとよい。
- ・例えば、さいたま市がイベントを実施する際に、当校にご相談いただければ、障害のある方が参加しやすい合理的配慮について助言できる。関係者間で障害に関する知識等を含め情報共有ができるとよい。

#### ⑤今後の障害者のスポーツ推進のために必要な情報

- ・さいたま市が主催しているイベント等の情報については周知している。チラシに合理的配慮を行っている旨の文言があれば、障害のある方も参加しやすい。
- ・特別支援学校における教員の人事異動では部活動の指導の可否について配慮があることはあまりないので、指導者が特定の分野に偏る場合があるが、指導にあたり合理的配慮が必要のため、外部の指導者の活用が難しい。スポーツの専門的な知識をもつ地域別の指導者情報をいただき、必要時にサポートをお願いしたい。

## (2) K特別支援学校

### ①特別支援学校・特別支援学級における運動・スポーツの実施内容

- ・体育の授業以外では、特別支援体育連盟主催の体育の大会で、ボッチャ、ローリングバレーボール、バスケットボール、陸上大会に参加している。

### ②運動・スポーツに取り組む児童・生徒数を増やすために必要なこと

- ・身体を動かしたい児童・生徒はたくさんいると思うが、自己表現を思い通りにすることが難しい生徒が多い。
- ・保護者に対して、こどもの運動・スポーツのイベントについての情報が届いていない。
- ・特別支援体育連盟主催の体育の大会は、対象が中学部と高等部のため、小学部でも参加できるような行事があれば、運動・スポーツに触れる機会が増える。

### ③さいたま市における障害者のスポーツの推進等に向けて、さいたま市が果たすべき役割、実施すべき支援

- ・運動・スポーツに興味がある子どもは多くいるが、情報収集の手段が分からない子どもも多いため、広く情報発信をして欲しい。

### ④さいたま市における障害者のスポーツの推進等に向けて、特別支援学校・特別支援学級が単独で取り組むべきこと、関係機関と連携して取り組むべきこと

- ・それぞれの担任が、生徒に応じた体の動かし方や運動・スポーツの参加の方法を、工夫して指導している。こどもの運動・スポーツに関わるきっかけや参加方法等は、学校で指導すべきである。
- ・学校単独での運動・スポーツの実施には限界がある。外部の方と連携すれば、幅広く、深く楽しむことができる。

### ⑤今後の障害者のスポーツ推進のために必要な情報

- ・障害者のスポーツが実施可能な場所、地域別（活動拠点別）の指導者情報、さいたま市主催の教室・イベントに関する情報を発信してほしい。
- ・（共働き等で）運動・スポーツが実施可能な場所（会場）に子どもを連れて行くことが難しい家庭が多いため、その会場に行くための移動支援策等がさいたま市にあれば、大会等に参加する可能性がある。

### (3) L 特別支援学級

#### ①特別支援学校・特別支援学級における運動・スポーツの実施内容

- ・体育の授業以外では、休み時間に子どもを外に遊びに行かせ、通常学級と交流させる活動を行っている。その他には運動会やさいたま市内でのハートフルサッカーへの参加等がある。

#### ②運動・スポーツに取り組む児童・生徒数を増やすために必要なこと

- ・最初に活動のルールを守ることを指導してから授業に参加させること、できたことを分かりやすく目で見確認できるようにすること、小さなことでもその場で瞬間的に褒め、肯定感を高めることが重要である。
- ・小学校での学校外の運動・スポーツの情報は手紙の配布程度しかなく、保護者も全ての手紙を見ているわけではない。子ども本人が自分で運動をしたいと思うより、保護者がチラシ等を見て子どもに体験させてみようと思わせた方が効果的である。例えば、駅から近い参加しやすい場所、知っている場所等で運動・スポーツのイベントを開催し、大人の目に入りやすく気かけられるような情報発信を行うことが望ましい。
- ・保護者に対して、運動することの有用性を手紙やコラム等で伝え、家でも運動してみたいと思わせることが重要である。

#### ③特別支援学校・特別支援学級で運動・スポーツに取り組んでいる児童・生徒が、卒業後も運動・スポーツを続ける習慣を維持するために必要なこと

- ・小さな自信の積み重ねが運動する意欲に直結する。習慣の維持は目で確認できるものが必要である。例えば小学校でスタンプカードを配り、運動したら保護者がスタンプを押すという流れを作ると、こどもは自分の成果を目で見て分かるようになり、親も小さな積み重ねを褒めやすくなるため、運動・スポーツに取り組みやすい。

#### ④今後の障害者のスポーツ推進のために必要な情報

- ・さいたま市から教育委員会に対し、「地域のスポーツ施設の周知」をカリキュラムに組み込むように働きかけることで、学校は子どもたちに情報を教える・伝える機会を確保できる。子どもたちが学校で情報を得ることは、結果として保護者に情報を伝えることにも繋がる。

第7章 障害福祉施設等向け  
アンケート・ヒアリング調査結果



## 第7章 障害福祉施設等向けアンケート・ヒアリング調査

### 1 障害福祉施設等向けアンケート調査の概要

#### (1) 目的

今後のさいたま市における障害児・者の運動・スポーツ環境の充実化に資するものとするため、障害福祉施設等での運動・スポーツ実施の現状や退所後のスポーツ習慣継続のための取組等について把握することを目的として実施した。

#### (2) 調査対象・サンプル数

##### ■調査対象

大分類	中分類	小分類	配布数
障害者総合支援法に基づく市内の施設	福祉サービス事業所・障害者支援施設	日中活動系	290
		グループホーム日中活動支援型	14
	地域生活支援事業	日中一時支援事業	13
		地域活動支援センターⅠ型・Ⅲ型	25
障害児のための施設	障害児入所施設		2
	放課後等デイサービス		231
その他	精神デイケア		16
	身体障害者福祉センター		1
	心身障害者地域デイケア施設		1
計			593

■調査方法：PC・スマホ等によるWEB回答方式

■サンプル数：83（回答率：14.0%）

#### (3) 調査期間

令和7年7月28日（月）から令和7年8月22日（金）を調査期間とした。

#### (4) その他留意事項

- ・選択肢にあるにも関わらず、その他自由回答に記載している場合など、適宜ローデータの修正を行っている。
- ・集計結果は有効回答数を母数として百分率で示している。また、その値は小数第一位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。
- ・この報告書の図表見出し及び文章中での回答選択肢は、本来の意味を損なわない程度に省略して掲載している場合がある。
- ・nは、回答者数とする。
- ・【SA】は単一回答、【MA】は複数回答可、【FA】は自由回答の設問を示す。

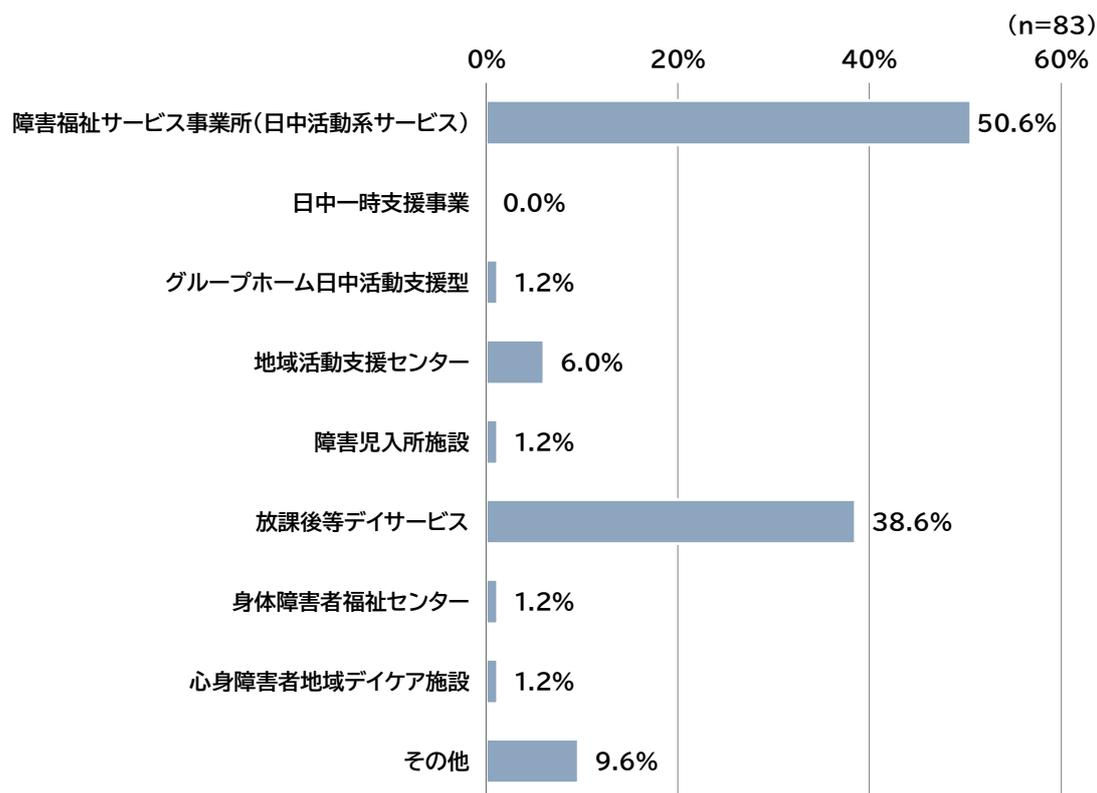
## 2 アンケート集計結果

### (1) 回答者の属性

#### ①施設・事業所種別【MA】

「障害福祉サービス事業所（日中活動系サービス）」の割合が最も高く 50.6%である。次いで、「放課後等デイサービス（38.6%）」である。

図表 7-2-1 施設・事業所種別

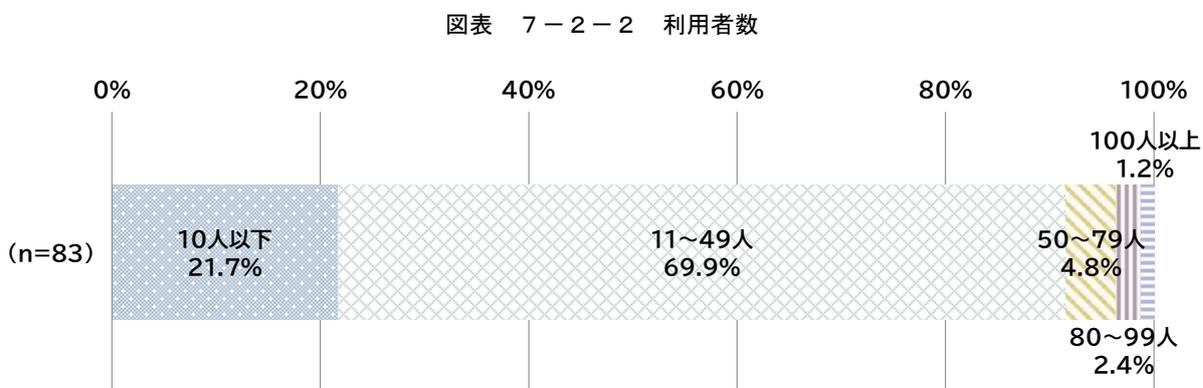


#### その他

- 児童発達支援（4）
- 共同生活援助（日中サービス支援型） 等

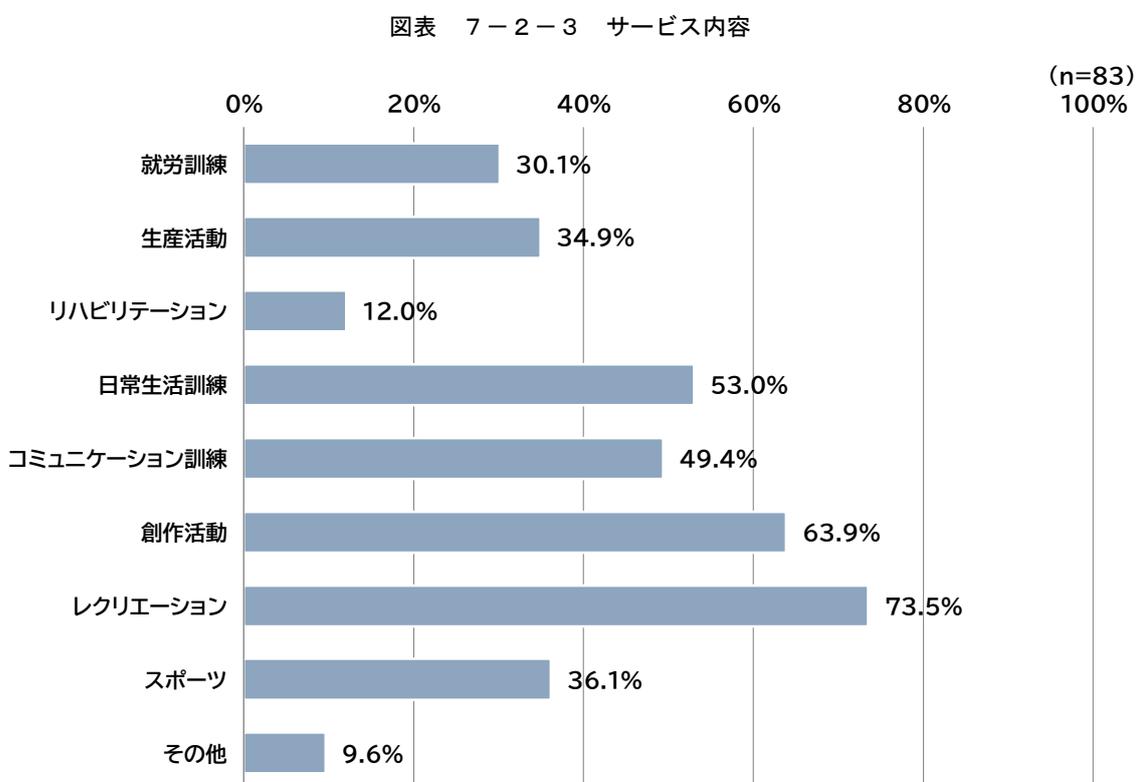
## ②利用者数【SA】

「11～49人」の割合が最も高く69.9%である。次いで、「10人以下（21.7%）」となっている。



## ③サービス内容【MA】

「レクリエーション」の割合が最も高く73.5%である。次いで、「創作活動（63.9%）」、「日常生活訓練（53.0%）」の割合が高い。



### その他

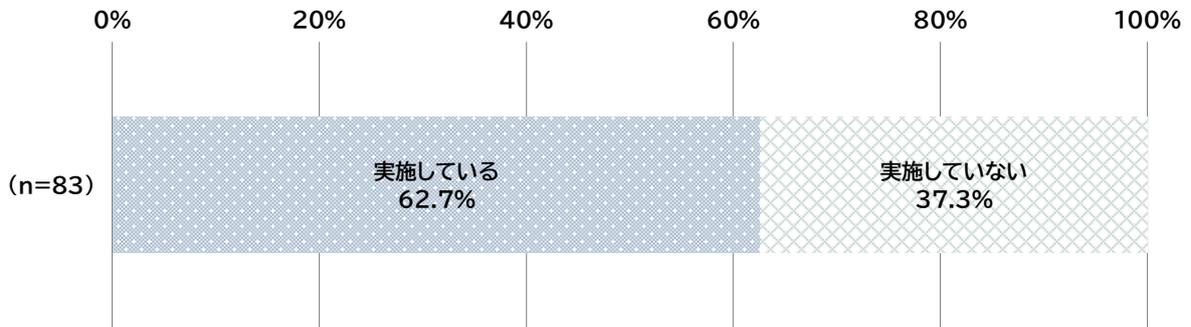
- 相談（2）
- 外出活動 等

(2) 利用者の運動・スポーツ実施状況等

①訓練プログラムにおける運動・スポーツ実施の有無【SA】

「実施している」の割合が62.7%である。

図表 7-2-4 訓練プログラムにおける運動・スポーツ実施の有無

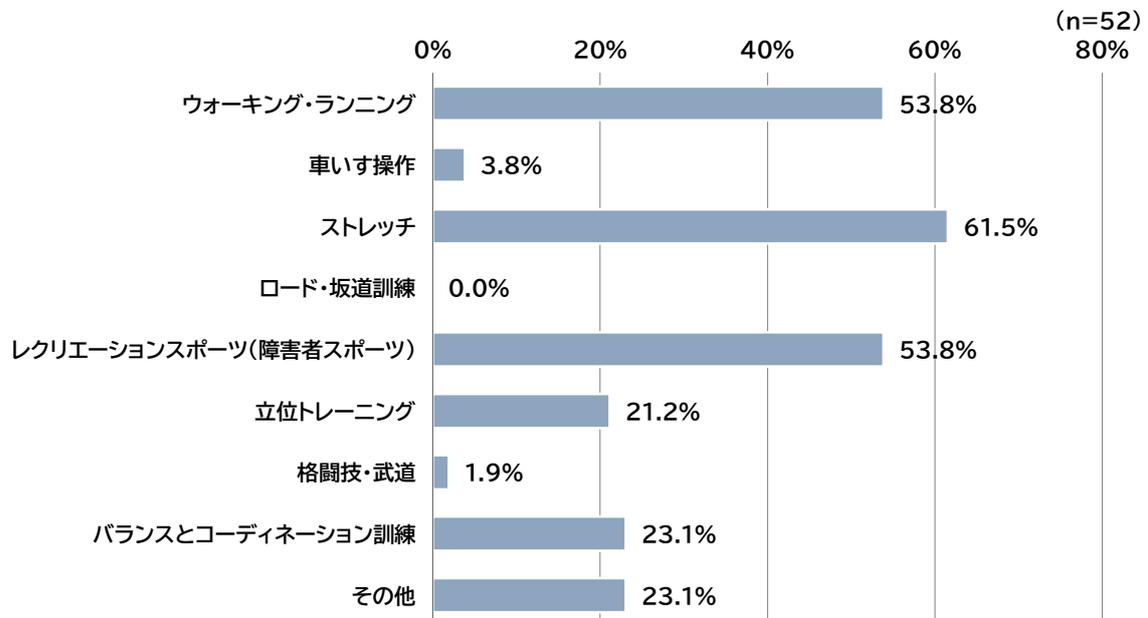


※ (2) ①で「実施している」と回答した方のみ

②訓練プログラムにおける運動・スポーツ機会の内容【MA】

「ストレッチ」の割合が最も高く61.5%である。次いで、「ウォーキング・ランニング (53.8%)」、「レクリエーションスポーツ (障害者スポーツ) (53.8%)」の割合が高い。

図表 7-2-5 訓練プログラムにおける運動・スポーツ機会の内容



その他

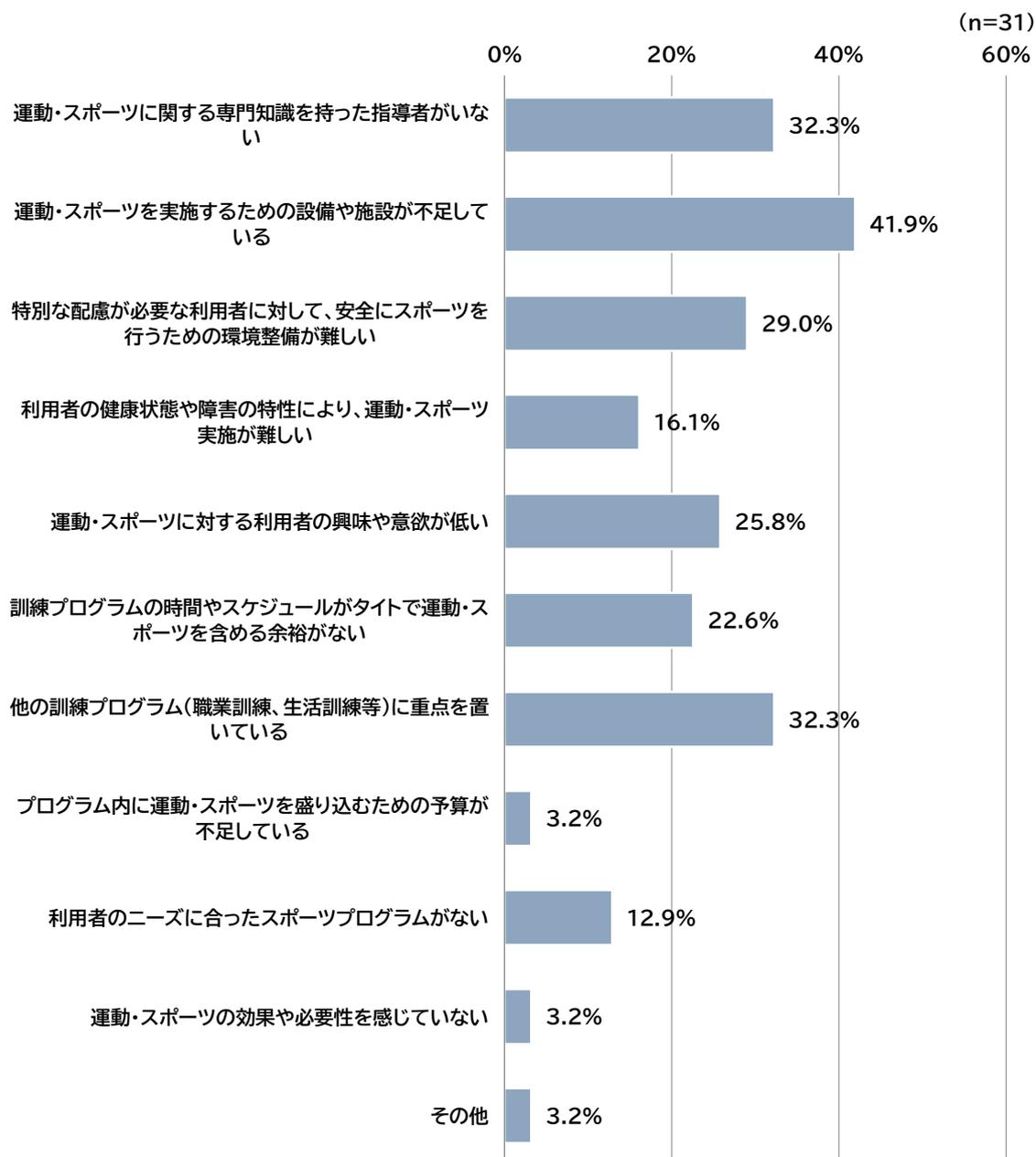
- ダンス (5)
- ヨガ (3) 等

※ (2) ①で「実施していない」と回答した方のみ

### ③訓練プログラムで運動・スポーツを実施していない理由【MA】

「運動・スポーツを実施するための設備や施設が不足している」の割合が最も高く 41.9% である。次いで、「運動・スポーツに関する専門知識を持った指導者がいない (32.3%)」、「他の訓練プログラム (職業訓練、生活訓練等) に重点を置いている (32.3%)」の割合が高い。

図表 7-2-6 訓練プログラムで運動・スポーツを実施していない理由

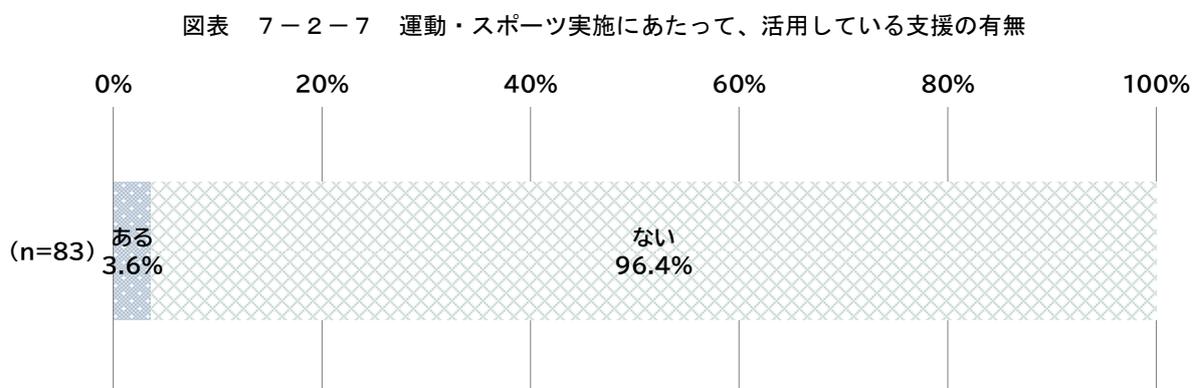


#### その他

- スポーツ関心層は限定的かつ少数派で、施設側の体制も不十分であるため。

#### ④運動・スポーツ実施にあたって、活用している支援の有無【SA】

「ない」の割合が96.4%である。



※(2) ④で「ある」と回答した方のみ

#### ⑤活用している支援の内容【FA】

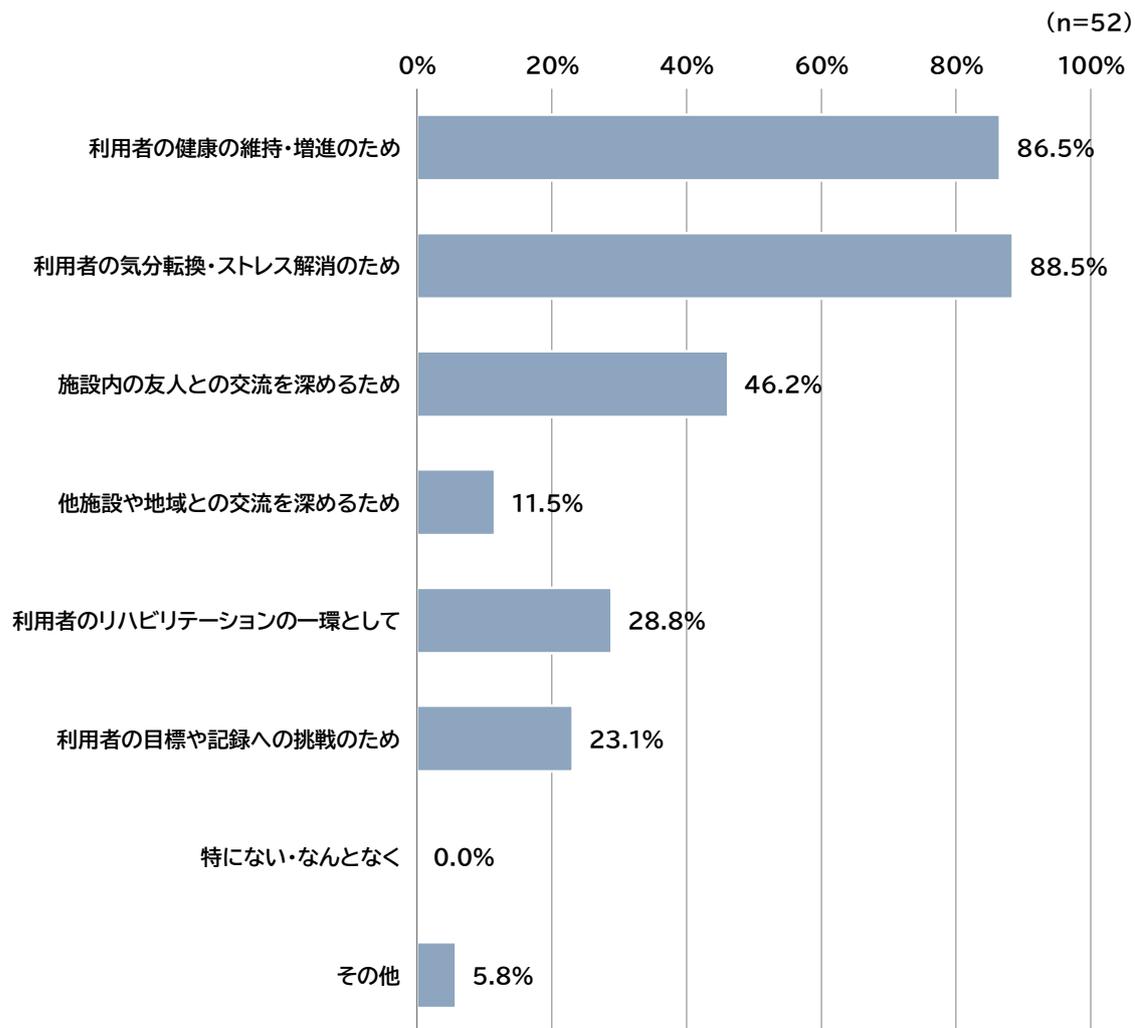
- レクリエーション講師の招聘
- さいたま市 体を動かすレクリエーションの活用

※（２）①で「実施している」と回答した方のみ

### ⑥訓練プログラムで運動・スポーツに取り組む目的【MA】

「利用者の気分転換・ストレス解消のため」の割合が最も高く 88.5%である。次いで、「利用者の健康の維持・増進のため（86.5%）」、「施設内の友人との交流を深めるため（46.2%）」の割合が高い。

図表 7-2-8 訓練プログラムで運動・スポーツに取り組む目的



#### その他

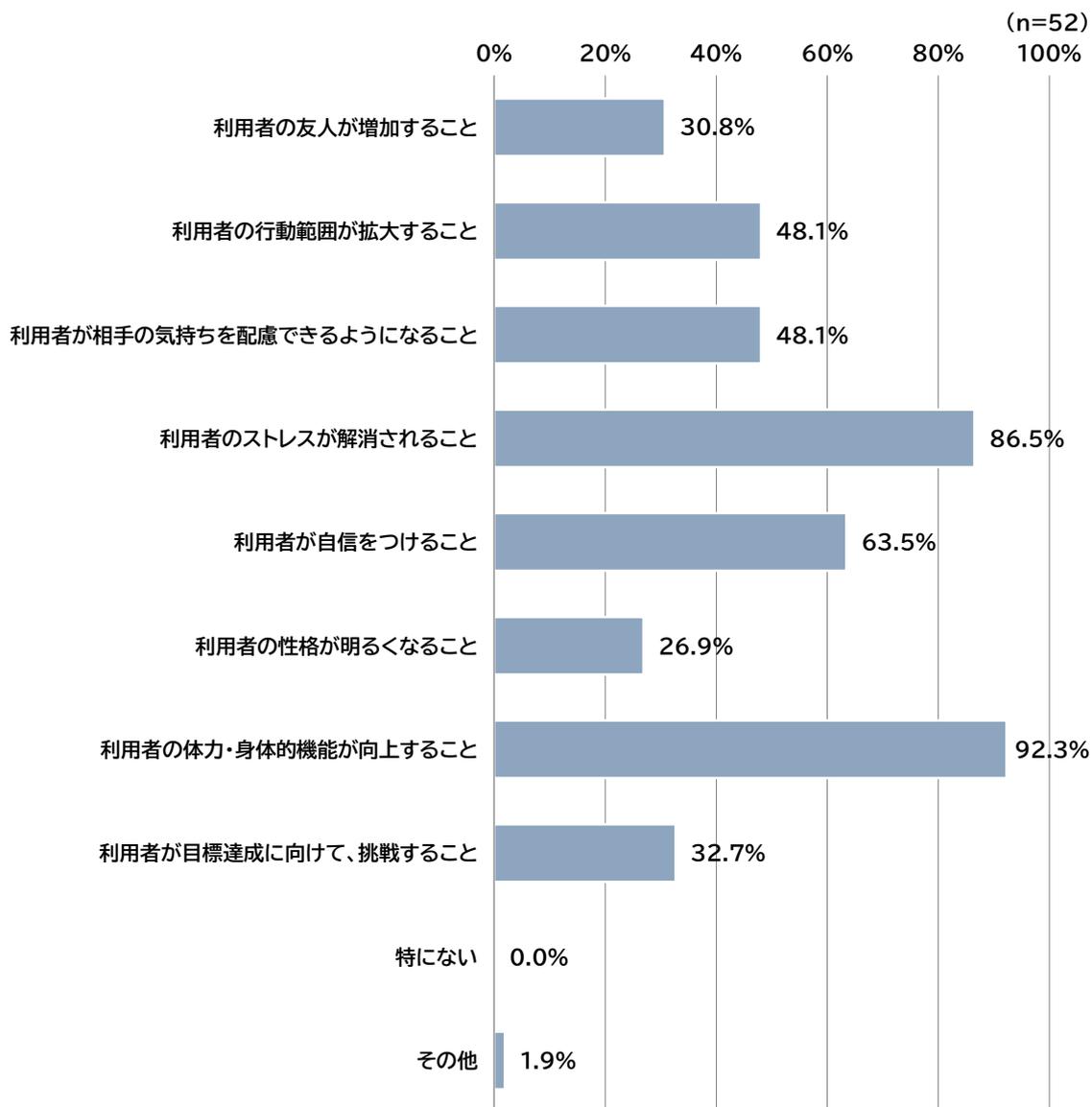
- 体幹の強化や集中力の向上
- 施設内の他利用者とのコミュニケーション訓練の一環として

※ (2) ①で「実施している」と回答した方のみ

### ⑦訓練プログラムで運動・スポーツに取り組むことで期待している効果【MA】

「利用者の体力・身体的機能が向上すること」の割合が最も高く 92.3%である。次いで、「利用者のストレスが解消されること (86.5%)」、「利用者が自信をつけること (63.5%)」の割合が高い。

図表 7-2-9 訓練プログラムで運動・スポーツに取り組むことで期待している効果



#### その他

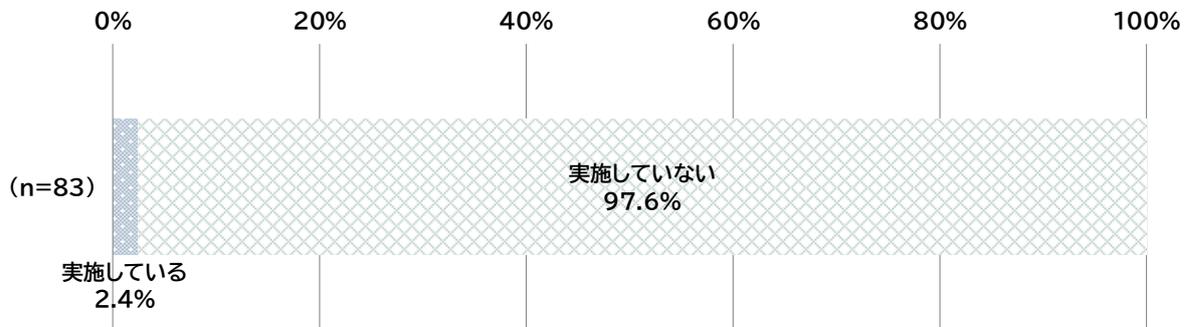
- 基礎体力維持

(3) 利用者の退所、利用終了後の運動・スポーツ習慣継続のための取組

①利用者の退所、利用終了後の運動・スポーツ習慣継続のための取組の有無【SA】

「実施していない」の割合が97.6%である。

図表 7-2-10 利用者の退所、利用終了後の運動・スポーツ習慣継続のための取組の有無

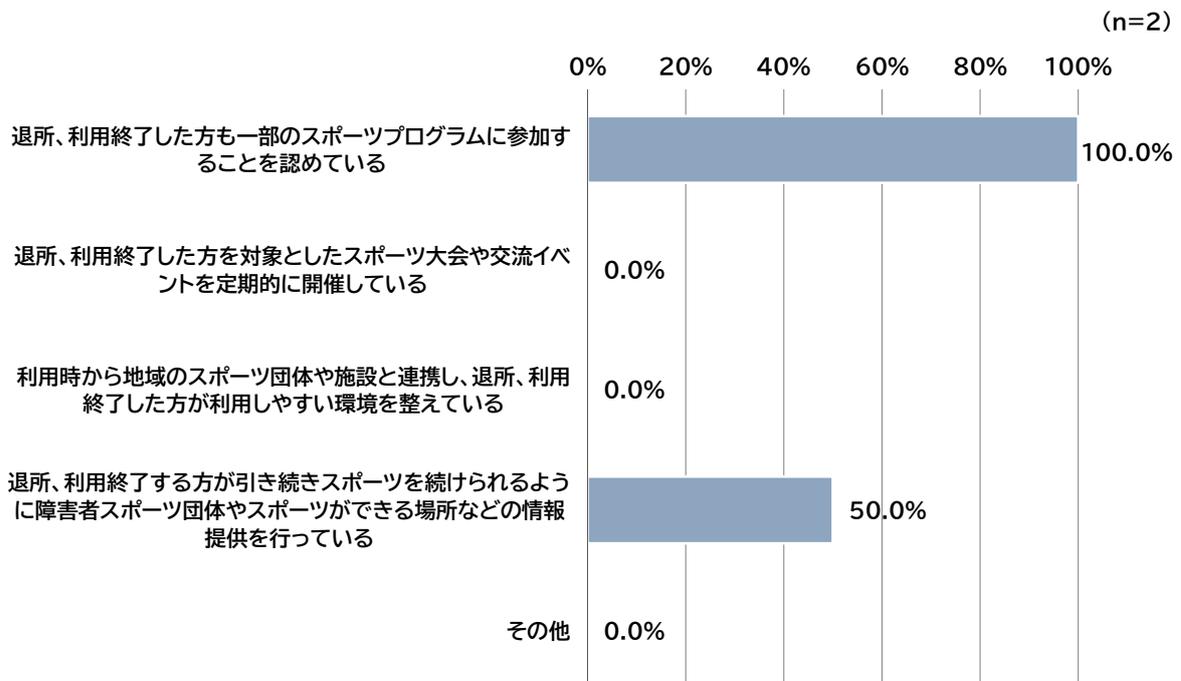


※ (3) ①で「実施している」と回答した方のみ

② (参考<sup>4</sup>) 利用者の退所、利用終了後の運動・スポーツ習慣継続のための取組内容【MA】

「一部のスポーツプログラムに参加することを認めている」、「引き続きスポーツを続けられるように障害者スポーツ団体やスポーツができる場所などの情報提供を行っている」施設・事業所が見られる。

図表 7-2-11 利用者の退所、利用終了後の運動・スポーツ習慣継続のための取組内容



<sup>4</sup> サンプル数が極端に小さいことに留意する必要がある。

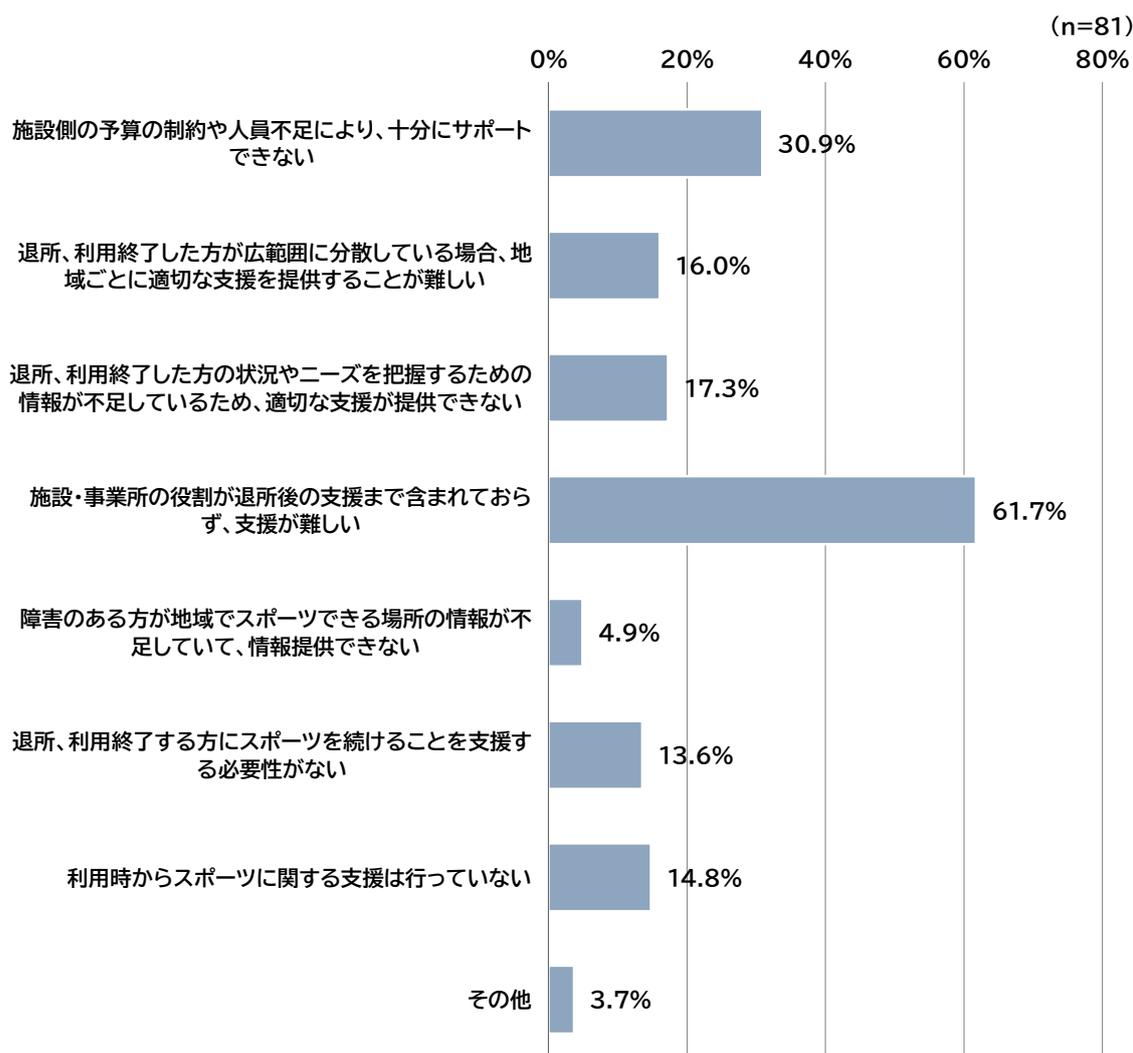
※（３）①で「実施していない」と回答した方のみ

③利用者の退所、利用終了後の運動・スポーツ習慣継続のための取組を実施していない理由

【MA】

「施設・事業所の役割が退所後の支援まで含まれておらず、支援が難しい」の割合が突出して高く 61.7%である。次いで、「施設側の予算の制約や人員不足により、十分にサポートできない（30.9%）」の割合が高い。

図表 7-2-12 利用者の退所、利用終了後の運動・スポーツ習慣継続のための取組を実施していない理由



その他

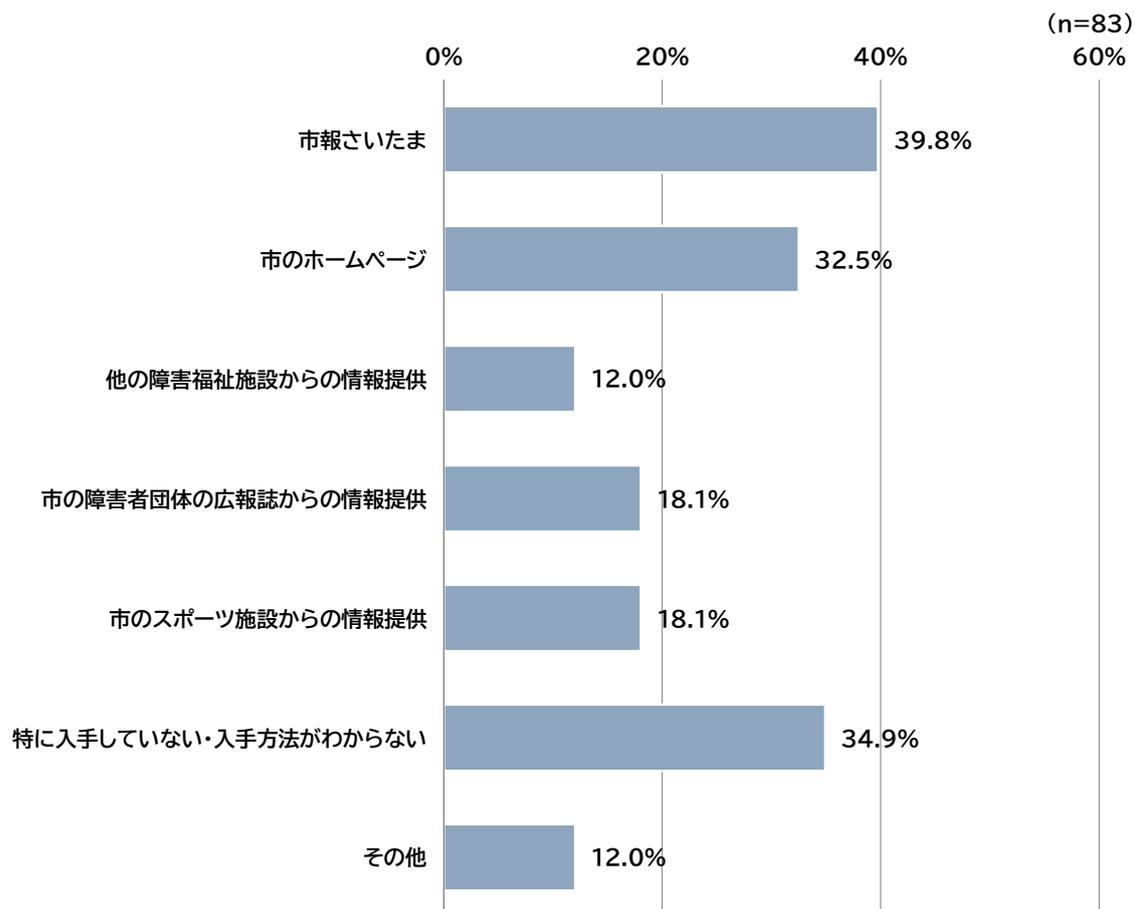
- 退所後の支援は主に就労に関する定着サポート支援が中心となるため。
- 次の利用施設において、何らかの運動を継続していると思われるから。 等

#### (4) スポーツに関する情報入手方法

##### ①スポーツに関する情報入手方法・入手先【MA】

「市報さいたま」の割合が最も高く 39.8%である。次いで、「市のホームページ (32.5%)」の割合が高い。一方で、「特に入手していない・入手方法がわからない」は 34.9%である。

図表 7-2-13 スポーツに関する情報入手方法・入手先



##### その他

- 埼玉県障害者交流センターの広報誌 (2)
- 市や区からのメール (2)
- SNS (Youtube や Instagram など) (2) 等

(5) 今後について

①今後のスポーツ活動の方針【FA】

項目	件数	主な意見
訓練プログラムの充実	4	定期的に運動プログラムを提供していく
交流・連携(所内・所外・地域)	7	集団活動を通じて、気持ちの切り替えや、周りのお友達とのコミュニケーション能力を向上させたい
		他事業所と連携し、交流を図りながら様々な活動に取り組みたい
		地域との交流が図れるような催しがあれば積極的に参加し、地域交流の機会や、スポーツ活動に興味を持ってもらう
余暇活動・生活の充実	2	日常生活でちょっとした時間にできるストレッチやボール遊びを友達や家族と一緒にできるようにきっかけを与える
健康・体力の維持・増進	14	ストレッチや基礎的な運動を継続して行い、体力の維持向上に努める
		室内でできる簡単な基礎体力維持の運動のレパトリーを増やす
レクリエーション重視	6	パークゴルフなど利用者が容易に理解、参加して楽しめることに重点を置いたスポーツをレクリエーションとして実施していきたい
		ヨガ等無理せずに行えるスポーツを実施していきたい
		レクリエーション活動の一環として利用者の楽しみ、生活の豊かさを充実させる
個別最適化・特性への配慮	3	利用者のニーズを踏まえて気楽に始められるものから取り入れていきたい
		子どもの発達の特性に合わせた運動療育を提供する
情報収集・提供、外部連携	4	市や区からの情報のほか、有用な情報があれば、積極的に活用したい
		ダンス・ヨガにおいて、業界の第一線で活躍する専門家による質の高いレッスンを行う
障害者スポーツ・パラスポーツの推進	3	障がい者スポーツのことを学び、日々の活動に取り入れられそうなら積極的に取り入れていきたい
		ボッチャの大会に参加することを目標に取り組む
その他	4	eスポーツの実施

### 3 障害福祉施設等向けヒアリング調査の概要

#### (1) 目的

アンケート調査により判明した事実等を踏まえ、障害福祉施設等における障害者のスポーツを取り巻く環境や解決すべき課題、障害者のスポーツの更なる普及に必要な要素などについて定性的に把握し、今後のさいたま市における障害者のスポーツ施策の方向性の検討等に際しての参考情報とすることを目的として実施した。

#### (2) 調査対象・調査期間

アンケート調査時に「ヒアリング調査への協力可」と回答があった障害福祉施設等の中から、ヒアリングを行うことによって何らかの示唆が得られる可能性が高いと思われる就労継続支援A型事業所と生活介護事業所を各1施設、調査対象とした。

オンラインで1時間程度の聞き取りを実施した。

図表 7-3-1 ヒアリング対象先一覧

施設種別	実施日	実施方法
M就労継続支援A型事業所	令和7年12月4日(木) 13:00~14:00	オンライン
N生活介護事業所	令和7年12月4日(木) 9:00~10:00	オンライン

## 4 ヒアリング調査結果

### (1) M就労継続支援A型事業所

#### ①障害福祉施設等における運動・スポーツの実施内容

- ・事業所内の取組としては、運動・スポーツに割く時間がなく、運動等を行っていないが、利用者の中には、スポーツジムに通う方、自宅で筋力トレーニング等を行っている方が1割から2割程度いる。
- ・利用者にはスポーツイベントの案内等の情報提供を行っている。

#### ②障害福祉施設等で運動・スポーツを実施することによる効果・メリット

- ・運動・スポーツを実施することで、体力づくり、ストレス解消、コミュニケーションの向上等に繋がる。
- ・利用者は体力がない方が多く、必要に応じて運動する必要があることを、個別支援計画に記載している。

#### ③障害福祉施設等における運動・スポーツの取組を拡大するために必要なこと

- ・運動・スポーツではないが、利用者はお祭りや市民の集い、マルシェなどのイベントには行く傾向がある。コミュニケーション能力や関わりに不安を感じている方が多いが、スポーツイベントは一緒に参加する知り合いが少ないため、参加しない傾向にある。
- ・例えば、地域の施設利用者が集まれるような場所で1時間から2時間程度のスポーツイベント等を企画すると、利用者は参加しやすい。1回運動・スポーツに取り組めば、2回目にも繋がりやすいため、当事業所としては、その最初の一步を踏み出させるためのサポートに力をいれたい。

#### ④さいたま市における障害者のスポーツの推進等に向けて、さいたま市が果たすべき役割、実施すべき支援

- ・障害者が運動・スポーツを実施できる公共施設の情報発信をして欲しい。
- ・障害者手帳を保有していれば、施設利用料の一部が減免されるが、一部ではなく全額の利用料の減免化が望ましい。

#### ⑤今後の障害者のスポーツ推進のために必要な情報

- ・公共施設の情報不足している。公共施設の事業や障害者手帳保有に伴う減免等に関するポスター等をいただければ、他の事業所とも共有し、情報を広げることができる。

## (2) N生活介護事業所

### ①障害福祉施設等における運動・スポーツの実施内容

- ・行動障害のある方のメンタル面を落ち着かせるための散歩や体をほぐすためのストレッチ、重度の医療的ケアが必要な方への運動・スポーツとしての散歩、重度の障害のある方の気分転換を目的としたボッチャや風船バレーに取り組んでいる。
- ・なるべく外に出て運動することを意識しているが、利用者の中でも身体を動かしたい人と動かしたくない人がいる、職員数が足りないなどの理由により、実施することが難しい。

### ②障害福祉施設等で運動・スポーツに取り組んでいる方が、退所後も運動・スポーツを続ける習慣を維持するために必要なこと

- ・重度の障害のある方が多いため、本人だけで運動・スポーツを継続することは難しく、ヘルパーの確保が必要である。また、運動・スポーツを継続するためには、本人の意思や家族の支えが重要である。

### ③さいたま市における障害者のスポーツの推進等に向けて、さいたま市が果たすべき役割、実施すべき支援

- ・障害種別・程度に合わせた運動・スポーツを提案していただけると、当事業所として取り組みやすい。また、運動・スポーツを指導できるボランティアの方を紹介して欲しい。

### ④さいたま市における障害者のスポーツの推進等に向けて、障害福祉施設等が単独で取り組むべきこと、関係機関が連携して取り組むべきこと

- ・スポーツという言葉から、身体をたくさん動かす活動をイメージしがちであるため、重度の障害がある場合には取り組みづらいことがあるが、そのイメージを変える取組が進めば、運動・スポーツに取り組む人が増えていくと考えられる。
- ・以前、近くの公園を借用し、運動会を実施したところ、利用者の評価が高かった。特別支援学校等と連携し、運動・スポーツを実施する場所を借用したい。

### ⑤今後の障害者のスポーツ推進のために必要な情報

- ・利用者と一緒に取り組むために、Y o u t u b e等の動画で、運動の方法や限られたスペースでできる運動・スポーツについて情報発信して欲しい。
- ・コロナの影響によって、当事業所内のイベントがなくなり、イベントの企画や外部との調整に苦手意識を持つ職員が増えた。パッケージ化された運動・スポーツのイベントプログラム等を情報発信していただければ、当事業所でも取り組むことができる。



## 第8章 障害者スポーツ指導者向け ヒアリング調査結果



## 第8章 障害者スポーツ指導者向けヒアリング調査結果

### 1 障害者スポーツ指導者向けヒアリング調査の概要

#### (1) 目的

各種アンケート調査により判明した事実等を踏まえ、障害者スポーツ指導者の活動状況、取り巻く環境、解決すべき課題、さらなる障害者のスポーツの普及に必要な要素などについて定性的に把握し、今後のさいたま市における障害者のスポーツ施策の方向性の検討等に際しての参考情報とすることを目的として実施した。

#### (2) 調査対象・実施期間

障害者スポーツ指導者として埼玉県内で活動している会員を有し、障害者スポーツ指導者の活動状況等を把握している団体を調査対象とした。

対面で1時間程度の聞き取り調査を実施した。

図表8-1-1 ヒアリング対象先一覧

団体種別	実施日	実施方法
○障害者スポーツ指導者団体	令和7年12月3日(水) 12:30~13:30	対面

## 2 ヒアリング調査結果

### (1) 障害者スポーツ指導者の活動実態

- ・現在、埼玉県内で指導者登録されている人数は950人程度であるが、日頃から活動している指導者は2割程度と推測される。
- ・学生が授業を通じて障害者スポーツ指導者（初級・中級）の資格取得ができる資格取得認定制度を設けている大学等は、埼玉県内では11校程度あるが、学生の中に指導者資格を取得しても、卒業後に資格を更新せず退会することが多い。
- ・埼玉県内で指導者登録されている学生は300人程度であるが、卒業直後の社会人は多忙であり、活動することが難しい。例えば、早めの大学2年から3年時に指導者資格を取得すれば、在学中のボランティア活動等で活動する機会を作れる可能性がある。
- ・従前までは、イベント情報等のお知らせを、年3回指導者に郵送していたが、近年の郵送料の値上がりの影響で対応が難しくなったため、原則ホームページへの掲載やメール等による情報発信に切り替えているが、正しいメールアドレスの登録がされていない方が一定数いることから、情報伝達について課題がある。
- ・今年は、埼玉県内の30件程度のイベントに、延べ200人程度の指導者を派遣した。関連団体、自治体、社会福祉協議会等からの依頼に基づき派遣した。依頼のない団体にはアプローチする必要があるが、市町村によって管轄する部署や団体が異なり、アプローチ先を把握しきれていない。（指導者の活動は、他団体からの依頼によるものだけでなく、地域のクラブ、サークル、職場等での指導・運営等の自主的活動も含まれる。）

### (2) 初級指導者が中級以上にステップアップしていくために必要なことなど

- ・指導者資格を取得した2年以内に活動に参加し、本人のモチベーションを高めることが重要である。（JPSAより資格取得後2年間活動がないと登録継続がされないという情報がある）
- ・従前には資格取得をして2年以内の方を対象とした研修を実施していたが、参加者が少ない等の問題が発生し、今では実施していない状況である。
- ・東京都では、指導者資格を取得後に活動に参加したことがない方、以前の活動から期間が経過した方を対象に、活動開始に向けた不安を解消するための「リ・スタート研修会」を実施している。当団体でも同様の取り組みは必要である。

### (3) 指導者不足を解消するために必要な連携等について

- ・スポーツ基本法改正により、地域で障害者のスポーツに取り組むこととされ、スポーツ推進委員がパラスポーツ指導者初級の資格を取得するケースが増加しており、研修会実施の要望を受けて、開催した地域もある。

- ・スポーツ推進委員が中心となって障害者のスポーツに取り組む地域もあるが、推進委員は本来業務の定例のイベントが多く、障害者のスポーツのイベントを新たに実施することが難しい地域もある。
- ・ユニバーサルスポーツという取り組み方であれば、スポーツ推進委員と連携し、活動できる可能性がある。

(4) **さいたま市における障害者のスポーツの推進等に向けて、さいたま市が果たすべき役割、実施すべき支援**

- ・さいたま市が、指導者が活動できるイベント、指導者養成講座を主催して欲しい。
- ・さいたま市が、指導者を必要とする団体と指導者をマッチングする場を創出して欲しい。

(5) **さいたま市における障害者のスポーツの推進等に向けて、スポーツ指導者団体が単独で取り組むべきこと、関係機関と連携して取り組むべきこと**

- ・指導者資格は、学校の教員や施設・団体の職員等の様々な方が保有している。それぞれの立場で単独で活動するのではなく、連携して活動できるとよい。



## 第9章 各種調査結果から判明したこと



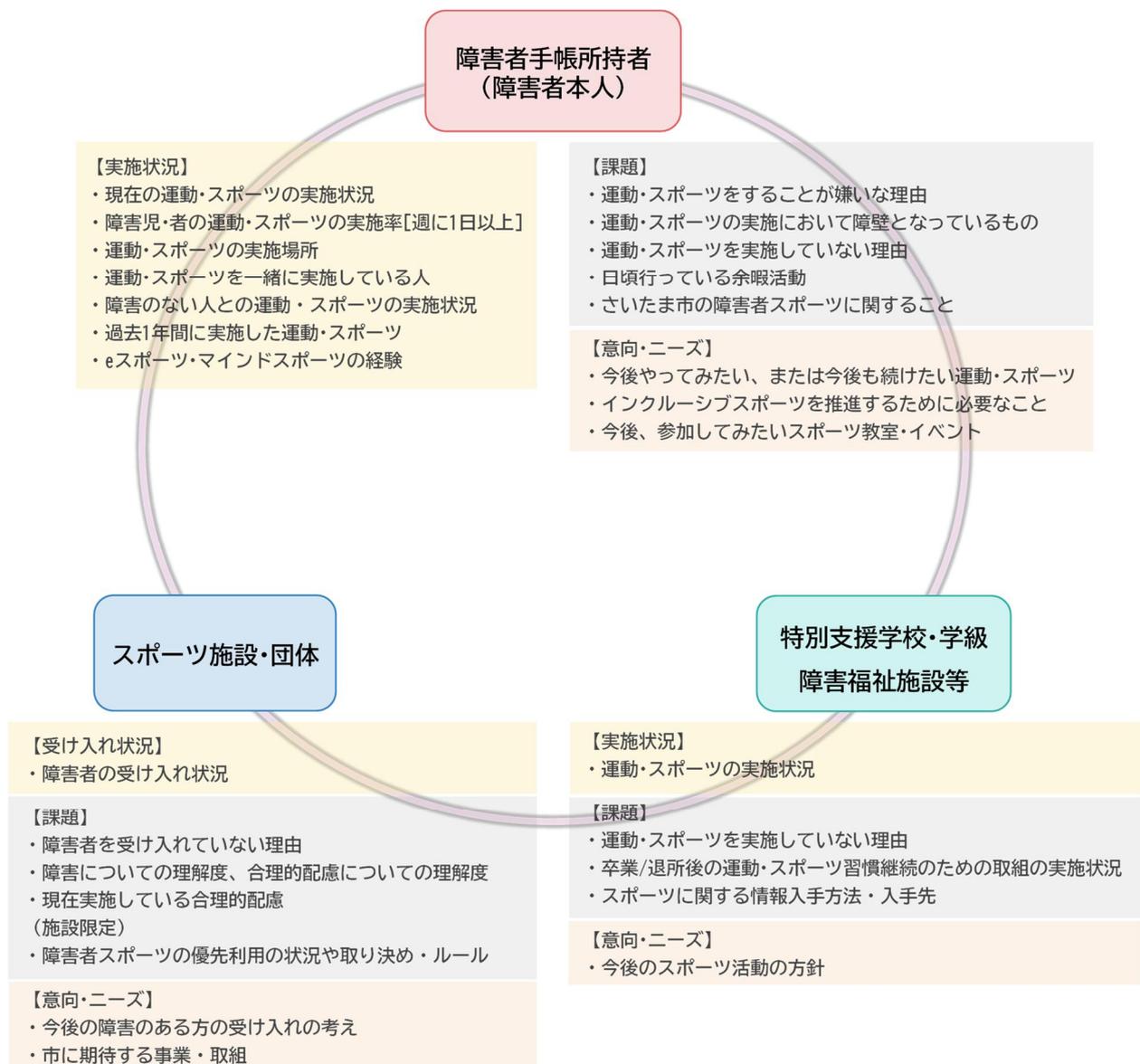
## 第9章 各種調査結果から判明したこと

### 1 各種アンケート調査結果を踏まえた考察および示唆

#### (1) とりまとめの視点

障害者手帳所持者、スポーツ施設、スポーツ団体、特別支援学校・特別支援学級、障害者福祉施設等向けのアンケート集計結果をもとに、それぞれの運動・スポーツの現状（実施状況、受け入れ状況）、課題及び意向・ニーズを整理する。

図表 9-1-1 障害者のスポーツ推進に向けた各主体の現状/課題/意向・ニーズの整理



(2) とりまとめ結果

(1) とりまとめの視点及び項目に基づくと、障害者手帳所持者、スポーツ施設、スポーツ団体、特別支援学校・学級、障害者福祉施設等の運動・スポーツの現状（実施状況、受け入れ状況）、課題及び意向・ニーズは、それぞれ以下のように整理することができる。

図表 9-1-2 各主体の運動・スポーツの現状/課題/意向・ニーズ一覧（障害者手帳所持者）

	障害者手帳所持者
現状	<p>(現在の運動・スポーツの実施状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「運動・スポーツをしたいと思うができない・できていない」と回答した割合が約 40%を占める。一方で、「関心はない」を除いた割合は約 80%、<u>運動・スポーツに対する意識が高い</u>。【p48】</li> <li>● 療育は「運動・スポーツをしているが、もっと行いたい」の割合が相対的に高く、<u>障壁が他の障害と異なる可能性</u>も考えられる。【p48】</li> </ul>
	<p>(障害児・者の運動・スポーツの実施率[週に1日以上])</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● さいたま市の障害者の 20 歳以上の運動・スポーツの実施率（週に 1 日以上）は約 31.3%で、令和 4 年度から令和 8 年度を計画期間とする <u>第 3 期スポーツ基本計画の目標値 (40%) に達していない</u>。【p54】</li> <li>● 6～19 歳と 20 歳以上を比較すると、週に 1 日以上実施している層（「週に 1～2 日」と「週に 3 日以上」）の合計において、<u>大きな差が見られる (約 30%)</u>。また、<u>20 歳以上では定期的に運動・スポーツを行う人と行わない人の二極化が生じている</u>。【p54】</li> </ul>
	<p>(運動・スポーツの実施場所)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 療育は「特別支援学校 (36.2%)」、精神障害は「自宅 (入所施設を含む) (31.5%)」で最も高く、障害種別によって実施場所に違いがある。【p59】</li> <li>● 6～19 歳は、「<u>特別支援学校</u>」や「<u>小・中・高等学校</u>」で<u>運動・スポーツを実施する割合が突出して高いが、卒業に伴い、スポーツを継続する機会が失われている</u>ことが推察される。【p60】</li> </ul>
	<p>(運動・スポーツを一緒に実施している人)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 療育は「学校の仲間や教職員 (42.8%)」、精神障害は「一人で (67.6%)」が突出して高く、障害種別によって違いがある。【p64】</li> <li>● 精神障害は「自宅 (入所施設を含む)」かつ「一人で」運動・スポーツを実施している人が多いことが想定される。<u>意向・ニーズに応じて、適切に運動・スポーツを実施できる環境を整備、提供</u>していくことが求められる。【p59、p64】</li> </ul>
	<p>(障害のない人との運動・スポーツの実施状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 運動・スポーツを実施している人のうち、障害のない人と一緒に運動・スポーツを行ったことがある人は約 55%。【p91】</li> <li>● 一緒に運動・スポーツを行った障害のない人は「<u>家族</u>」、「<u>友人</u>」、「<u>学校関係者</u>」が多い。【p92】</li> </ul>
	<p>(過去1年間に実施したスポーツ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 障害種別、年齢区分によらず、「ウォーキング、散歩」、「体操」、「水泳・水中運動」といった比較的低強度、かつ競い合いの少ない種目が上位を占める。【p66、p67】</li> </ul>
	<p>(e スポーツ・マインドスポーツの経験)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 6～19 歳の e スポーツ実施経験は 20 歳以上と比べて、約 10 ポイント高く、約 20%。【p89】</li> <li>● 精神障害のマインドスポーツ実施経験は他の障害と比べて、10 ポイント以上高く、約 30%。【p90】</li> </ul>

障害者手帳所持者	
課題	<p>(運動・スポーツをすることが嫌いな理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「面倒くさいから (50.0%)」、「身体的な負担が大きいと感じるから (43.6%)」が上位を占める。運動・スポーツを好きになってもらうためには、<u>身体的負担の軽減に資する取組</u>が求められる。【p42】</li> </ul> <p>(運動・スポーツの実施において障壁となっているもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 療育は、「<u>家族の負担が大きい (36.3%)</u>」が最も高く、<u>家族の支えが前提</u>となっていると考えられる。一方、精神障害は「<u>体力がない (37.6%)</u>」と「<u>体調に不安がある (28.7%)</u>」の割合が高い。【p51、p52】</li> <li>● 20歳以上は、「<u>体力がない (29.3%)</u>」、「<u>体調に不安がある (22.0%)</u>」の割合が上位かつ、6～19歳と比べて10ポイント以上の差があり、<u>卒業等を経て、運動・スポーツを実施する機会が失われている可能性</u>が示唆される。【p53】</li> <li>● その他、「<u>どんな運動・スポーツをできるのか情報が得られない</u>」、「<u>運動・スポーツがどこでできるのか情報が得られない</u>」がそれぞれ約20%で、<u>情報提供の工夫</u>が求められる。【p50】</li> <li>● また、「<u>運動・スポーツをできる場所がない (16.1%)</u>」が相対的に高いことから、県障害者交流センターなど運動・スポーツ実施が可能な場所の周知や、<u>障害者が優先的に利用可能な場所や時間の設定</u>など、ソフト施策の拡充が必要。【p50】</li> </ul> <p>(運動・スポーツを実施していない理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「<u>疲れるから (25.7%)</u>」、「<u>自分にはできないから (23.6%)</u>」の割合が高く、<u>運動・スポーツには体力が必要なもの、ハードルが高いものと捉えている可能性</u>があり、そのような<u>マインドを払拭</u>することが求められる。【p77】</li> <li>● 一方、「<u>障害が発生してから、運動・スポーツをやってみる機会がなかったから</u>」の割合も20%以上であり、<u>気軽に始められる運動・スポーツの実施機会を提供</u>することで、参画促進が期待できる。【p77】</li> </ul> <p>(運動・スポーツ非実施者が日頃行っている余暇活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 映画・ドラマ・音楽鑑賞やゲームが多い (それぞれ30%以上)。<u>各々の余暇活動をフックとして、“無意識に”“気軽に”スポーツに参画する仕掛け</u>が必要である。また、「特に何もしていない人も一定数いる (14.6%)」ことから、運動・スポーツの実施率向上に向けて、<u>メリット訴求や始めるきっかけづくり</u>が求められる。【p78】</li> </ul> <p>(さいたま市の障害者のスポーツに関すること)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <u>約80%</u>の人がさいたま市の障害者スポーツ教室・イベントに<u>参加したことがない</u>と回答している。【p96】</li> <li>● また、<u>約40%</u>の人がさいたま市のスポーツ情報を<u>特に入手していない</u>と回答している。市としては、今後、<u>障害者スポーツ教室・イベントへの参加促進と情報周知を一体的に推進</u>していくことが求められる。【p97】</li> </ul>
意向・ニーズ	<p>(今後やってみたい、または今後も続けたい運動・スポーツ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 現在の実施状況同様、「ウォーキング、散歩」、「体操」、「水泳・水中運動」といった比較的<u>低強度、かつ競い合いの少ない種目</u>が上位を占めるが、「<u>ボッチャ</u>」や「<u>ボウリング</u>」の順位が上がっており、<u>ゲーム性がある競技が選好</u>されている。【p79、p80】</li> </ul> <p>(今後さいたま市が、インクルーシブスポーツを推進するために必要なこと)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 6～19歳は「<u>障害者と健常者が共に参加できるスポーツイベントの開催</u>」の割合が最も高いが、20歳以上は「<u>わからない</u>」の割合が最も高い。【p95】</li> </ul> <p>(今後、参加してみたいスポーツ教室・イベント)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 障害種別、年齢によらず、「<u>健康づくり (体力づくり)</u>」が中心の教室の割合が高く、療育や6～19歳は「<u>親子・家族で楽しめるスポーツ教室・イベント</u>」の割合が最も高いことから、「<u>気軽に</u>」「<u>身近な人と</u>」「<u>楽しく</u>」参加できるスポーツ教室・イベントの開催が求められる。【p100、p101、p102】</li> </ul>

図表 9-1-3 各主体の運動・スポーツの現状/課題/意向・ニーズ一覧（スポーツ施設/スポーツ団体）

	スポーツ施設	スポーツ団体
現状	<p>(障害者の受け入れ状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 施設全体の約 60%が、障害のある方を受け入れている。【p114】</li> <li>● 直近 3 年間で施設利用があった内容は、「<u>一般の個人の利用</u>」、「<u>一般の団体の利用</u>」が約 40%が多い。【p114】</li> </ul>	<p>(障害者の受け入れ状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「<u>障害の有無にかかわらず誰でも参加可能</u>」である団体が最も多い（約 50%）。【p138】</li> </ul>
課題	<p>(障害者を受け入れていない理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <u>施設・設備のバリアフリーが不十分である</u>ことが、最も主な理由。その他、<u>障害および障害者スポーツに関する人材や知識不足</u>に起因するものが多い。【p116】</li> </ul> <p>(障害及び合理的配慮についての理解度)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 障害及び合理的配慮についての理解度ともに、「まったく、あるいは、ほとんど知らない」と回答した割合が約 40%で、理解促進が求められる。【p118】</li> </ul> <p>(現在実施している合理的配慮)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ハード面での合理的配慮において、施設自体が一定程度以上バリアフリー化されていることがわかった。一方で、「<u>現状、取り組んでいることはない</u>」と回答した割合が約 30%となっており、<u>障害者が利用する際の障壁になっている</u>と考えられる。【p119】</li> </ul> <p>(優先利用の取り決め・ルールについて)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「障害者のスポーツ利用を優先する取り決め・ルールは<u>特にない</u>」と回答した割合が約 70%となっており、<u>20 歳以上のスポーツ実施率（週に 1 日以上）が低い要因のひとつになっている</u>と考えられる。【p122】</li> </ul>	<p>(障害者を受け入れていない理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 施設で受け入れていない理由と同様に、<u>障害および障害者スポーツに関する人材や知識不足</u>に起因するものが多い。【p140】</li> </ul> <p>(障害及び合理的配慮についての理解度)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 障害及び合理的配慮についての理解度ともに、「まったく、あるいは、ほとんど知らない」と回答した割合が半数以上で、理解促進が求められる。【p143】</li> </ul> <p>(現在実施している合理的配慮)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 団体スタッフ・メンバーが実施している合理的配慮について、「<u>現状、取り組んでいることはない</u>」と回答した割合が約 60%となっており、<u>障害者が参加する際の障壁になっている</u>と考えられる。【p144】</li> </ul>
意向・ニーズ	<p>(今後の障害のある方の受け入れの考え)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 施設全体の約 80%が、障害のある方の受け入れ意向を持っている。【p117】</li> <li>● 受け入れに向けて、「<u>ソフト面（スタッフの対応、接遇）のバリアフリー</u>」に取り組みたい施設が最も多いことから、<u>障害政策課として支援する余地が多分にある</u>。【p123】</li> </ul> <p>(市に期待する事業・取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「ハード面のバリアフリー化の支援」のニーズが最も高い。その他、「<u>スタッフ・指導者・ボランティアの派遣支援</u>」等を期待している。【p124】</li> </ul>	<p>(今後の障害のある方の受け入れの考え)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 団体全体の <u>70%以上</u>が、障害のある方の受け入れ意向を持っている。【p142】</li> </ul> <p>(市に期待する事業・取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 受け入れ状況や障害及び障害のある方への理解、配慮の項目の結果に現れているように、「<u>障害および障害者スポーツに関する知識や人材の不足を補うような内容</u>への期待が大きい。【p146】</li> </ul>

図表 9-1-4 各主体の運動・スポーツの現状/課題/意向・ニーズ一覧

(特別支援学校・学級/障害者福祉施設等)

	特別支援学校・学級	障害者福祉施設等
現状	<p>(運動・スポーツの実施状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 全体の約 <b>66.7%</b>が、体育の授業以外に運動・スポーツを実施している。【p159】</li> <li>● 校内での一般的な取組を実施している学校・学級が多いが、中には、校外や地域で活動を実施している学校・学級も見られる。【p160】</li> </ul>	<p>(運動・スポーツの実施状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 全体の約 <b>62.7%</b>が、訓練プログラムにおいて運動・スポーツを実施している。【p182】</li> <li>● 具体的には、「ストレッチ」「ウォーキング・ランニング」「レクリエーションスポーツ」の割合が高く、「<u>気軽に</u>」「<u>安全に</u>」「<u>楽しく</u>」行えるものを取り入れている傾向にある。【p182】</li> </ul>
課題	<p>(運動・スポーツを実施していない理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <u>スポーツ活動に充てる時間が確保できない</u>ことが、最も主な理由。その他、<u>設備や施設、指導者</u>といったリソース不足が多い。【p161】</li> </ul> <p>(卒業後の運動・スポーツ習慣継続のための取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <u>ほぼ全ての学校・学級が実施していない</u>ことから、<u>20歳以上のスポーツ実施率(週に1日以上)</u>が低い要因のひとつになっていると考えられる。【p167】</li> <li>● 実施していない理由としては、学校・学級の役割に関する課題が指摘されている。そのため、<u>在学中からスポーツ施設や団体と連携し、卒業後もスポーツを継続できる可能性を広げることが肝要</u>である。【p169】</li> </ul> <p>(スポーツに関する情報入手方法・入手先)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「特に入手していない・入手方法がわからない」と回答した割合が約20%である。情報が行き届いていない学校・学級に対して、<u>プッシュ型の情報発信や情報の集約・一元化など、情報提供方法の工夫</u>が求められる。【p170】</li> </ul>	<p>(運動・スポーツを実施していない理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <u>設備や施設、指導者</u>といったリソース不足が多い。【p183】</li> </ul> <p>(退所後の運動・スポーツ習慣継続のための取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <u>ほぼ全ての施設・事業所が実施していない</u>ことから、<u>20歳以上のスポーツ実施率(週に1日以上)</u>が低い要因のひとつになっていると考えられる。【p187】</li> <li>● 実施していない理由としては、施設・事業所の役割に関する課題が指摘されている。そのため、<u>利用中からスポーツ施設や団体と連携し、退所後もスポーツを継続できる可能性を広げることが肝要</u>である。【p188】</li> </ul> <p>(スポーツに関する情報入手方法・入手先)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「特に入手していない・入手方法がわからない(34.9%)」と回答した割合が特別支援学校・学級と比べて、10ポイント以上高い。情報が行き届いていない障害福祉施設等に対して、<u>プッシュ型の情報発信や情報の集約・一元化など、情報提供方法の工夫</u>が求められる。【p189】</li> <li>● また、特別支援学校・学級に比べ、他の障害福祉施設や市の障害者団体、スポーツ施設からの情報提供の機会が少なく、<u>スポーツに関する情報共有の場が十分に確保されていない</u>ことが示唆される。【p189】</li> </ul>
意向・ニーズ	<p>(今後のスポーツ活動の方針)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <u>卒業後の継続的なスポーツ活動の機会の確保</u>をはじめ、他校や他学級との連携、スポーツに関する情報収集・活用など、幅広い観点からあり方が示された。【p171】</li> </ul>	<p>(今後のスポーツ活動の方針)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 施設内で安全かつ無理なく実施できるスポーツ活動をはじめ、<u>他事業所や地域との連携、スポーツに関する情報の収集・活用</u>など、幅広い観点からあり方が示された。【p190】</li> </ul>

## 2 各種ヒアリング調査結果を踏まえた考察および示唆

スポーツ施設、スポーツ団体、特別支援学校・特別支援学級、障害福祉施設等、障害者スポーツ指導者向けのヒアリング調査結果で得られた主な意見及び示唆は、以下のとおり整理することができる。

図表 9-2-1 ヒアリング調査結果で得られた主な意見及び示唆

<p>障害者を受け入れるにあたって、不安に感じている点、悩んでいる点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <u>スポーツ施設からは、障害者の安全面への懸念や、障害者の安全を確保するための要員配置（例：障害者に1対1で付き添うこと）が難しいこと、施設のバリアフリー化が不十分</u>であることなどの意見が聞かれた。</li> <li>● 特に民間施設においては、障害者を受け入れたい意向はあるものの、<u>収益確保や採算性の観点から、障害のある人の受け入れ環境の整備や体制構築等がしにくい</u>実情がある。「障害者」と「合理的配慮を必要としない利用者」に対するサポート等の比重の置き方に悩んでいる様子も見られた。</li> <li>● スポーツ団体からは、<u>スタッフの障害に関する知識不足や、知識不足のため、体調不良等の有事の際の対応が困難</u>であるなどの意見が聞かれた。</li> <li>● 障害者の受入れに際しては、<u>施設のバリアフリー化が進んでいないことが物理的障壁、スタッフの障害に対する知識が不十分である（又は自信がない）ことが心理的障壁</u>となっていることが明らかとなった。</li> <li>● <u>障害者が施設を利用することに対する理解、家族や保護者の同席</u>などがあると、障害者を受け入れやすいとの意見も聞かれた。</li> </ul>
<p>障害者のスポーツの推進等に向けて、さいたま市が果たすべき役割、実施すべき支援</p> <p>さいたま市が果たすべき役割、実施すべき支援として、大別すると、以下の事項が挙げられた。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 障害者のスポーツに関する<u>諸情報の集約・一元化と発信（例：障害者のスポーツ関連ポータルサイトの開設）</u></li> <li>2. 指導者を必要とする施設・団体等と指導者など<u>関係者間のマッチング</u>や、スポーツに関する<u>障害者本人向け相談窓口の設置、障害の種別・程度に合わせた障害者向けスポーツ教室・イベントの開催</u>等による、<u>障害者のスポーツ活動全般の活性化</u></li> <li>3. 施設・団体等に向けた、障害や合理的配慮に関する研修会の開催、障害の知識を有した人材派遣支援など、<u>障害に特有の「多様性」や「難解さ」に起因する心理的ハードルを引き下げ、障害に対する理解や合理的配慮を促進する役割</u></li> <li>4. 活動場所の確保、障害者の移動手段に関する支援、活動資金の補助、指導者の養成支援など、<u>継続的なスポーツ活動を支えるための側面支援</u></li> </ol>
<p>障害者のスポーツの推進等に向けて、必要なこと、取り組みたいこと、取り組むべきこと</p> <p>障害者のスポーツの推進等に向けて、必要なこと、取り組みたいこと、取り組むべきこととして、大別すると、以下の事項が挙げられた。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 施設・団体等が有する障害者向けの設備やコンテンツ、運動・スポーツの楽しさ等に関する<u>情報発信体制の強化</u></li> <li>2. 障害者が運動・スポーツに取り組む「きっかけづくり」としての<u>障害の種別や程度に応じて気軽に参加できるスポーツ教室・イベント等の開催</u></li> <li>3. 障害者が運動・スポーツに取り組む「環境づくり」としての<u>施設・団体等が有するリソース（施設・設備・人材・コンテンツ等）の有効活用</u></li> <li>4. 障害者が運動・スポーツに取り組む「ネットワークづくり」としての<u>関係機関・関係者間の連携体制の強化</u></li> </ol>

今後の障害者のスポーツの推進のために必要な情報

- 多岐にわたる障害者のスポーツ関連情報（地域の障害者や障害者関連団体、スポーツができる場所、障害者向けのスポーツ教室・イベント、施設・団体スタッフ向けの研修会、地域の指導者、各種補助金に関する情報等）を集約・一元化して、広く発信するための仕組み（例：障害者のスポーツ関連ポータルサイトの開設）を求める声が多く聞かれ、今後対応が望まれる点である。
- 限られたスペースでも可能な運動方法を YouTube 等で動画配信したり、パッケージ化された運動プログラムの情報を提供したりすることで、障害者が運動・スポーツに取り組むハードルを引き下げることができる。
- 地域にあるスポーツ施設等、スポーツ関連情報の周知を教育カリキュラムに組み込むことで、学校から、子どもたちを経由して、保護者へ運動・スポーツ関連情報を届けることができる。

卒業後（又は退所後）も、運動・スポーツを続ける習慣を維持するために必要なこと

- 障害児は、運動・スポーツの継続的实施を通じて自信を持たせることが、その後の運動・スポーツ継続の意欲につながる。そのためには保護者へのアプローチが重要である。
- 障害者は、家族・ヘルパー等による支え（移動手段の支援含む）や、一緒にスポーツに取り組む仲間の存在等が運動・スポーツ継続のカギとなる。

障害者スポーツ初級指導者が中級以上にステップアップするために必要なこと、必要な連携

- 障害者スポーツ指導者の初級資格を取得しても、資格取得後2年以内に活動しなければ、資格を更新せず退会することが多いため、資格取得後の早期に活動に参加する機会をつくり、指導者本人のモチベーションを高めていくことが重要である。
- 東京都では、資格取得後に活動に参加したことがない方、前回の活動から期間が経過した方を対象に、活動の開始・再開に向けた不安を解消するための「リ・スタート研修会」を実施している。そのような取組ができることが望ましい。
- 指導者不足という課題の解決のため、「ユニバーサルスポーツ」を切り口として、「障害者スポーツ指導者」と「スポーツ推進委員」が連携して活動することなどが考えられる。



## 第 10 章 今後の方向性の整理



## 第10章 今後の方向性の整理

本章では、次期さいたま市障害者総合支援計画の策定を見据え、さいたま市における障害者のスポーツ推進の今後の方向性について整理する。

### (1) 上位計画における障害者のスポーツに関する施策及び取組の整理

さいたま市における障害者のスポーツ推進の方向性を検討するにあたっては、埼玉県及びさいたま市の上位計画における「障害者のスポーツ」に関する施策や取組を確認し、それらを方向性に反映させていく必要がある。

確認の結果、第2期さいたま市スポーツ振興まちづくり計画及びさいたま市障害者総合支援計画 2024～2026 には、埼玉県スポーツ推進計画で掲げられている「障害に応じたスポーツの機会の創出」という要素が十分に盛り込まれていないことが明らかとなった。

図表10-1 さいたま市障害者総合支援計画 2024～2026 と上位計画における  
障害者のスポーツに関する施策及び取組の比較

	埼玉県スポーツ推進計画	第2期さいたま市スポーツ振興まちづくり計画	さいたま市障害者総合支援計画 2024～2026
計画期間	令和5～令和9年度	令和3～令和12年度	令和6～令和8年度
施策名	パラスポーツの機会の充実	障害者スポーツ等の振興	文化・スポーツ活動の促進
取組①	<b>障害に応じたスポーツの機会の創出</b> (具体的な事業) ・市町村への先進事例の情報提供 ・障害者が地域でスポーツに親しむ環境の整備 ・障害者のスポーツ施設利用や観戦のしやすさの向上促進 ・障害者に対するスポーツ関連情報の提供	— (記載なし)	— (記載なし)
取組②	<b>パラスポーツの推進</b> (具体的な事業) ・障害のある方もない方も参加できるパラスポーツの普及・啓発 ・パラスポーツを支える人材の養成・活用 ・パラスポーツの推進体制の整備	・ノーマライゼーションカップの開催 ・ふれあいスポーツ大会の開催 ・全国障害者スポーツ大会の意識啓発及び参加 ・障害者スポーツ教室の開催	・全国障害者スポーツ大会への参加 ・スポーツ教室の充実

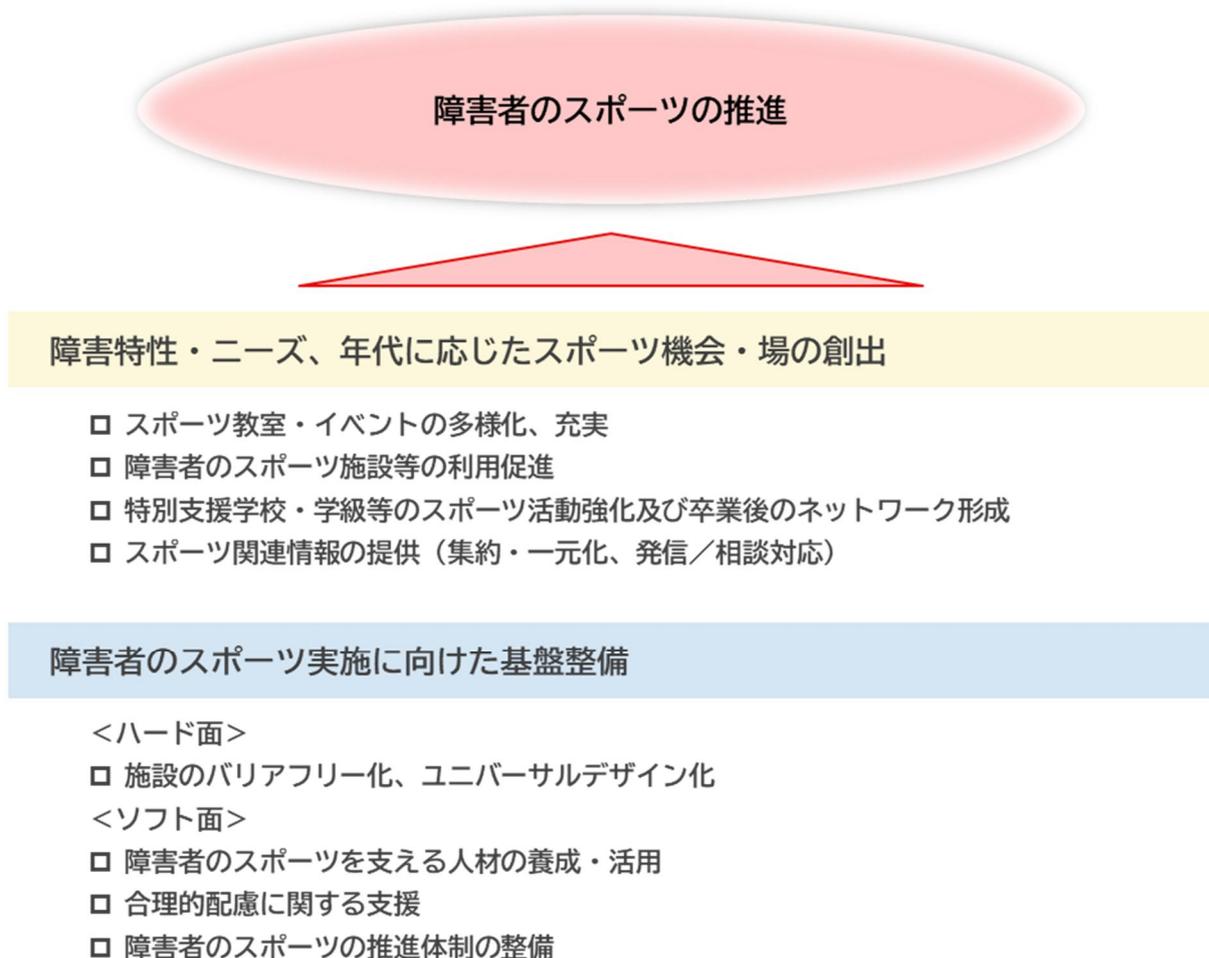
出所：埼玉県「埼玉県スポーツ推進計画（令和5年度～令和9年度）」、さいたま市「第2期 さいたま市スポーツ振興まちづくり計画」、「さいたま市障害者総合支援計画 2024～2026（令和6～8年度）」より作成

## (2) さいたま市における障害者のスポーツ推進の方向性

埼玉県及びさいたま市の上位計画の動向を踏まえつつ、第9章で整理した各種アンケート調査結果やヒアリング調査結果、さらに調査研究委員会における有識者の意見等をもとに、さいたま市における障害者のスポーツ推進の方向性を検討した。

その結果、障害者のスポーツの推進にあたっては、「障害特性・ニーズ、年代に応じたスポーツ機会・場の創出」と「障害者のスポーツ実施に向けた基盤整備」の2つの視点が重要であると考えられる。

図表 10-2 さいたま市における障害者のスポーツ推進の方向性



## ① 障害特性・ニーズ、年代に応じたスポーツ機会・場の創出

障害者の特性やニーズ、年代に応じた課題解決に取り組、障害者がスポーツを「する」ことを中心に、機会と場の創出を図ることが求められる。

### ア スポーツ教室・イベントの多様化、充実

さいたま市においては、障害者スポーツ教室やイベントに参加したことがある障害者は約20%にとどまっている。教室やイベントをきっかけにして、スポーツに取り組む障害者を増やすためには、既存の教室等の開催数や会場数の拡充が出発点になると考えられる。

加えて、障害の種類や程度、個々のニーズに応じた多様なプログラムの提供が求められる。その際には、身体を動かすこと自体を目的としたものから、競技志向の強いものまで、幅広いプログラムを用意することが重要である。さらに、障害者自身が自ら希望する種目を選択できることや、新たな種目に取り組めるような仕組みを導入することも、障害者のスポーツ実施を促進および定着させていく上で有効である。例えば、東京都杉並区では、地域の体育施設において月1回「ユニバーサルタイム」というプログラムを実施している。ボッチャや体操、ボール種目など複数の種目の中から、参加者がその日の体調や気分に合わせて自分のやりたいことや、できそうなことを自由に選択でき、「気軽に」「楽しく」スポーツができる環境を地域内に創出している。

また、スポーツ施設内での実施にとどまらず、地域行事の際にレクリエーション団体等と連携し、スポーツの体験ブースを設けるなど、障害者が「リフレッシュ」や「余暇」、「楽しみ」といったスポーツ本来の魅力を、より身近な場所で体験できる機会を創出することも重要である。

図表 10-3 東京都杉並区 ユニバーサルタイムの概要

主体	杉並区障害者スポーツネットワーク（関係部署：杉並区スポーツ振興課）
事業概要	<p>障害の種類・程度や本人希望に応じて、サウンドテーブルテニスやボッチャ、体操などの複数種目から参加者が自由に選択したプログラムを行う事業。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■開催場所：区内3ヶ所（荻窪体育館、永福体育館、TAC 杉並区上井草スポーツセンター）</li> <li>■開催頻度：月に1回、2時間程度</li> <li>■参加費：無料</li> <li>■その他：事前申し込み不要、入退場自由、見学のみ参加も可</li> </ul>
配置人員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療関係者（理学療法士および看護師）〔常駐〕</li> <li>・実技サポーター（参加者とともに運動を実施）</li> <li>・誘導サポーター（最寄り駅等と体育施設との間の道案内や同行を実施）</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユニバーサルタイムサポーター養成講座を実施</li> <li>・大学生、高校生向けにちよこっとボランティアを募集</li> </ul>

出所：東京都杉並区ホームページより作成

## イ 障害者のスポーツ施設等の利用促進

運動・スポーツの実施において障壁となっている要因として、「運動・スポーツをできる場所がない」と回答した割合が相対的に高かったことから、埼玉県障害者交流センターに加え、市立の運動場や体育館、プール、公民館等においても各種運動・スポーツが実施可能であることを周知することが求められる。一方で、スポーツが実施可能な会場までの移動が困難な家庭も多い現状がある。したがって、会場への移動支援を充実させることで、施設利用のきっかけを創出できる可能性がある。

将来的には、障害者のスポーツの専用利用や優先利用の制度を導入することで、スポーツ施設等の利用促進につながり、ひいては運動・スポーツ実施率（週1日以上）の向上に寄与するものと考えられる。例えば、神戸市立市民福祉スポーツセンターは、埼玉県障害者交流センターと同様に「障がい<sup>5</sup>者優先施設」であり、常時障害者料金で施設利用が可能である。さらに、障害者専用利用日を週に1日（土曜日）設け、当日は利用料金を無料としている。市において「障がい者専用・優先施設」の新設あるいは既存施設の優先施設化が難しい場合であっても、市の施設において障害者専用利用日を週あるいは月に一度でも設けることは利用促進につながると考えられる。また、東京都江戸川区や江東区、練馬区のプールでは、日時によって障がいのある方専用のレーンを設定している。このように、専用利用や優先利用の仕組みを導入し、障害者がスポーツに取り組める場所や時間を柔軟に確保している施設も増えている。

## ウ 特別支援学校・学級等のスポーツ活動強化及び卒業後のネットワーク形成

6～19歳と20歳以上を比較すると、後者の運動・スポーツ実施率（週1日以上）は前者よりも約30%低くなっており、両者に大きな差が見られる。幼少期にいかに関心・スポーツに触れたかは、成人後の運動習慣に大きな影響を及ぼすことから、特別支援学校・学級等におけるスポーツ活動の強化や、ニーズに応じた運動部・クラブ活動の再編が求められる。

また、6～19歳においては、「特別支援学校」や「小・中・高等学校」で運動・スポーツを実施している児童・生徒が突出して多いことから、卒業後にはスポーツを継続する機会や場が失われ、運動・スポーツ実施率（週1日以上）が低下していると考えられる。例えば、出身校において卒業生向けのスポーツイベントを定期的を開催することで、卒業生やその保護者が安心して参加できる環境を整えることが可能である。一方で、特別支援学校・学級等の立場からは、学校や学級が卒業後の支援まで担うことは難しいという意見も聞かれる。そのため、卒業後も運動・スポーツを継続できるよう、在学中からスポーツ施

---

<sup>5</sup> 公益財団法人日本パラスポーツ協会の表記に準じ、「障がい」と表記した。

設や団体とのネットワークを構築し、児童・生徒が将来にわたって運動・スポーツを実施できる可能性を広げていくことが重要である。

## エ スポーツ関連情報の提供（集約・一元化、発信／相談対応）

各種アンケートやヒアリングを通じて、さいたま市における障害者のスポーツに関する情報が一元化されていないため、必要な情報が入手しにくいことが明らかとなった。こうした状況を踏まえ、障害者のスポーツに関する情報を一元的に集約し、受け手（障害者本人、施設、団体、特別支援学校等）ごとに適切な情報を発信することが求められる。

例えば、静岡県では、障がい者文化芸術の魅力を発信するポータルサイト「Findart（ふあいんだー）」を作成しており、集約された情報が「やりたいことで探す」「イベントを探す（イベント一覧）」「事業から探す」といったカテゴリごとに整理され、利用者が必要な情報に辿り着きやすい構成となっている。

図表 10-4 Findart（ふあいんだー）の構成

				
あなたのお気に入りが見つかる	セミナー情報や受け入れ企業などを紹介	ここに行けばあなたの心を豊かにするアートに会える	あなたの発表する場をサポートします	制作意欲を応援するオープンアトリエやワークショップ
<a href="#">ふあいんだー美術館</a> » <a href="#">作家一覧</a> » <a href="#">識者によるおすすめ作品コメント</a> »	<a href="#">まちじゅうアートのご案内</a> » <a href="#">まちじゅうアート応援企業紹介</a> » <a href="#">セミナー情報</a> »	<a href="#">まちじゅうアートマップ</a> » <a href="#">ふじのくに芸術祭 障害者文化芸術部門のご案内</a> »	<a href="#">作品・出演者等募集情報</a> » <a href="#">ふじのくに芸術祭 障害者文化芸術部門 公募情報</a> »	<a href="#">オープンアトリエ情報</a> » <a href="#">ワークショップ情報</a> »

出所：静岡県「障がい者文化芸術の魅力を発信するポータルサイト Findart（ふあいんだー）」

また、一方的な情報発信にとどまらず、障害者本人やスポーツ施設、団体等が気軽に市へ相談でき、必要な情報や支援を受けられる窓口や拠点を設置することも重要である。

例えば、東京都足立区では、スポーツ振興課が主体となり、「あだちスポーツコンシェルジュ」という障害者の運動・スポーツに関する相談窓口を設け、さまざまな相談に対応している。

図表 10-5 あだちスポーツコンシェルジュにおける相談例

相談者	相談内容
障がいのある方ご本人（ご家族）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分に合う運動・スポーツがわからない。</li> <li>・体験会に参加したい。</li> <li>・一緒にスポーツする仲間を見つけたい。</li> <li>・地域の体育館やプールの利用方法を教えてほしい。</li> </ul>
団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者やボランティアを紹介してほしい。</li> <li>・施設の利用者が楽しめる運動・スポーツを紹介してほしい。</li> </ul>

出所：東京都足立区ホームページより作成

## ② 障害者のスポーツ実施に向けた基盤整備

障害者にスポーツの機会や場を提供するにあたっては、前提として、障害者が安心してスポーツに参加できる環境を整備することが重要である。そのためには、関係部局や施設・団体等と連携し、ハード・ソフトの両面から障害者を受け入れるための基盤整備に取り組むことが求められる。

### <ハード面>

#### ア 施設のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化

スポーツ施設が市に期待する事業・取組として、最も多く挙げられたのは「ハード面のバリアフリー化の支援」であることが明らかとなった。

施設の新設あるいは大小さまざまな改修を行う際には、施設ごとに必要なバリアフリー・ユニバーサルデザイン化の方策を選択し、適切に組み合わせて実施していくことが重要である。新設や大規模改修が難しい場合は、スポーツを「する」場（体育館、プール等）に限らず、誰もが利用する供用部や諸室（更衣室、シャワー室、廊下等）、館内表示等、着手できるところからバリアフリー・ユニバーサルデザイン化の工夫を取り入れることが効果的である。

また、施設内に加えて、駐車場や施設出入口までの歩道等のバリアフリー・ユニバーサルデザイン化も求められる。

例えば、出入口に至近で幅の広い駐車区画の設定や、その駐車区画から出入口まで雨に濡れない動線の確保等が挙げられる。市における駐車スペース確保に関する既存の取組としては、埼玉県版パーキング・パーミット制度<sup>6</sup>「埼玉県思いやり駐車場制度」が令和5年11月1日より開始されており、さらなる導入施設の増加が期待される。

障害者を受け入れる施設側の視点だけでなく、日頃から（イベント開催時なども含めて）施設利用者（当事者）のニーズや要望を丁寧に聞き取り、施設の改修や新設等の際に参照できるよう、あらかじめ準備しておくことが求められる。

なお、スポーツ庁の「スポーツ施設のユニバーサルデザイン化ガイドブック」では、施設の「構想・計画」段階から「設計・建設」、「管理・運営」、「改修等」の各フェーズにおける留意点や工夫例が示されていることから、各部署で参照しながらバリアフリー・ユニバーサルデザイン化を庁内全体で推進していくことが望ましい。

---

<sup>6</sup> 障害のある方や要介護高齢者、妊産婦の方など歩行が困難な方や移動の際に配慮が必要な方のための駐車区画について、対象者に利用証を交付することで、区画の適正利用を推進する制度。

## <ソフト面>

### ア 障害者のスポーツを支える人材の養成・活用

スポーツ施設や団体において障害者の受け入れが進まない理由や、特別支援学校等で体育の授業以外で運動・スポーツの実施が十分に行われていない理由として、「障害者のスポーツに関する知見を有した指導者等の不足」が課題であることが明らかとなった。

さいたま市内では各所でスポーツ推進委員が活躍しているが、障害者のスポーツや合理的配慮に関する研修の機会は不十分との意見もあるため、研修の充実を図るとともに、埼玉県パラスポーツ指導者協議会等との連携を強化し、さいたま市における障害者のスポーツの指導体制の充実を図ることが求められる。

一方、障害者スポーツの資格を有していても、資格取得からブランクがある等、実際の活動に関わることに不安を感じている方に対しては、障害者のスポーツの基本や現場でのサポート方法などをアドバイスし、安心して活動できる環境を整えることが重要である。

例えば、東京都ではパラスポーツ指導員の資格を取得した後、実際にパラスポーツ事業に参加したことがなく活動に不安を感じている方や、以前活動してから年月が経っている方などを対象に、活動に向けての不安を解消するための「リ・スタート研修会」を開催している。

図表 10-6 リ・スタート研修会の概要

研修内容	実技・講義・グループワークから学ぶ！ 1. 実技を通して、障害のある人へのサポート方法を考えよう 2. 講義で不安を解消しよう ・障害別のコミュニケーションのポイント ・すぐに始められるように活動情報を紹介 3. 先輩指導員からきっかけや活動内容を聞こう 4. みんなで情報交換をして、つながりを作ろう
参加対象	以下①②の要件を満たす方 ①活動登録地が「東京都」のパラスポーツ指導員又は TOKYO 障スポ&サポート登録者 ②パラスポーツに関わる活動に不安がある方や、以前活動してから年月が経っている方で、パラスポーツを支える人材として継続的に活動する意欲のある方

出所：東京都障害者スポーツ協会ポータルサイトより作成

また、市内で障害者のスポーツを支える人材の中でも、実際に活動できる人材の把握と活用が十分でない可能性があるため、オンライン人材ネットワークの整備などにより、人材情報を集約し、効果的な人材活用を図ることが必要である。

例えば、鳥取県では「スポーツ Fun ネット」という人材ネットワークを構築し、指導者やボランティア等の人材を一元管理している。障害者を受け入れる側であるスポーツ施設・団体等は、「スポーツ Fun ネット」を通じて、必要な時にボランティアの派遣依頼を行うことが可能となっている。

図表 10-7 障がい者スポーツのサポート支援サイト 「スポーツ Fun ネット」



**研修を受ける**

ボランティアやスポーツ指導を希望されている方は、1年に1度以上の研修を受けるようにしてください。

**ボランティアをする**

ボランティアに参加したい方は、こちらをご覧ください。

**施設・団体、学校等向け**

**スポーツFUNネットに登録する**

新たにスポーツFUNネットに登録を希望される方は、こちらから登録をお願いします。

**ボランティアの派遣を依頼する**

スポーツFUNネットにボランティアの派遣を依頼したい方はこちらに登録用紙があります。

出所：鳥取県「障がい者スポーツのサポート支援サイト スポーツ Fun ネット」を一部加工

さらには、既存人材の活用に加え、指導者やボランティアの新規養成も求められる。

単に養成することを目的とするのではなく、例えば、特別支援学校の運動部やクラブ活動、障害者スポーツ教室のサポートを担う人材の養成など、最終的な目標を見据えた指導者養成が必要となる。その際には、講習会の受講によって簡易な肩書きを付与するなど、支援活動への参加意欲を高めるための工夫も重要である。

例えば、神奈川県障害者スポーツサポーター養成講習会では、障害者スポーツの体験を含む2日間のカリキュラムで修了できる構成となっている。

図表 10-8 神奈川県 令和7年度障害者スポーツサポーター養成講習会カリキュラム（予定）

	時間	科目	内容
1 日 目	9:30～ 9:40	開講式	養成講習会受講にあたって・ボランティアとしての心得
	9:40～11:00	身体障がい者の理解	身体が不自由な人とは
	11:10～12:10	聴覚障がい者の理解	基礎知識とコミュニケーション法
	13:00～14:30	介助方法の体験	車いす利用者への介助体験・安全管理
	14:40～16:00	介助方法の体験	視覚障がい者への誘導法体験・安全管理
2 日 目	9:30～10:30	知的障がい者の理解	特性・対応・配慮について
	10:40～11:40	精神障がい者の理解	特性・対応・配慮について
	11:50～12:30	神奈川県の取組み	神奈川県における障がい者スポーツへの取組み
	13:30～14:50	障がい者スポーツの体験	車いすバスケットボールの体験
	15:00～16:20	障がい者スポーツの体験	ボッチャの体験
	16:20～16:30	閉講式	修了証交付

出所：神奈川県「令和7年度障害者スポーツサポーター養成講習会」

加えて、市全体でスポーツ指導に対する考え方や理念を醸成していくことも重要である。スポーツができたという実感を持てるような声かけが、多くの人々がさまざまなスポーツに挑戦するきっかけになると考えられる。

## イ 合理的配慮に関する支援

スポーツ施設や団体において、障害や合理的配慮に対する理解が十分でないことに加え、施設の運営管理スタッフや団体スタッフ・メンバーによる合理的配慮の実施が限定的であるため、障害者が利用・参加する際の障壁となっている可能性があることが明らかとなった。

このような状況を踏まえ、市内の施設や団体に対して、埼玉県が作成する「スポーツ施設向け障害者スポーツ受入マニュアル」等の内容の周知、障害特性や合理的配慮に関する情報提供などを行い、各所で合理的配慮が適切に行われるよう、支援していくことが求められる。

## ウ 障害者のスポーツの推進体制の整備

障害者のスポーツの推進を図るためには、行政のみならず、学校教育機関（特別支援学校・学級、小・中学校、高等学校、大学）、スポーツ施設、スポーツ活動団体（地域スポーツクラブ、レクリエーション団体等）、スポーツ支援団体（指導者やスポーツコミッション等）、民間企業（トップスポーツチーム、フィットネスクラブ等）など、多様な関係主体が連携し、障害者がスポーツを実施しやすい環境を整備することが重要である。

さいたま市の地域資源を効果的に活用しつつ、関係機関が一体となって取り組むことが可能となるよう、今後、障害者のスポーツの推進体制の整備に向けた検討を進めていく必要がある。

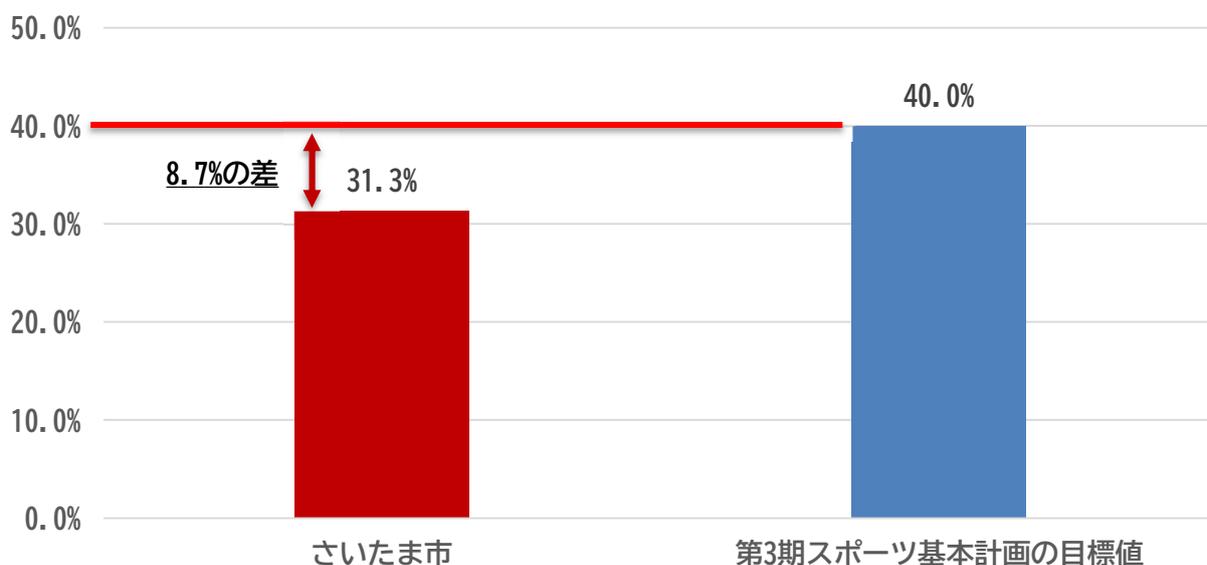
### (3) 障害者のスポーツ推進の成果を測るための指標について

令和4年3月25日に策定された第3期スポーツ基本計画<sup>7</sup>では、障害者のスポーツの実施環境の整備や理解の啓発等を推進し、その効果を測る指標として「障害者（20歳以上）の週1回以上のスポーツ実施率」が設定されている。計画では、障害者（20歳以上）の週1回以上のスポーツ実施率を40%とすることを目標としている。

しかしながら、さいたま市においては、これまで詳細な調査が実施されておらず、障害者のスポーツ実施率に関する目標も未設定の状況である。今後、障害者のスポーツを推進していくにあたっては、取組の成果を測る指標として「障害者（20歳以上）の週1回以上<sup>8</sup>のスポーツ実施率」を設定し、適切に進捗管理を行うことが重要である。

本調査研究で実施した障害者手帳所持者向けアンケートの結果、さいたま市における障害者（20歳以上）の週1回以上のスポーツ実施率は31.3%であり、第3期スポーツ基本計画の目標値には達しておらず、8.7%の差があることが明らかとなった。このことから、さいたま市においても障害者（20歳以上）の週1回以上のスポーツ実施率を40%と設定することが妥当であると考えられる。

図表 10-9 さいたま市における障害者（20歳以上）の週1回以上のスポーツ実施率



出所：障害者手帳所持者向けアンケート調査、スポーツ庁「第3期スポーツ基本計画」より作成

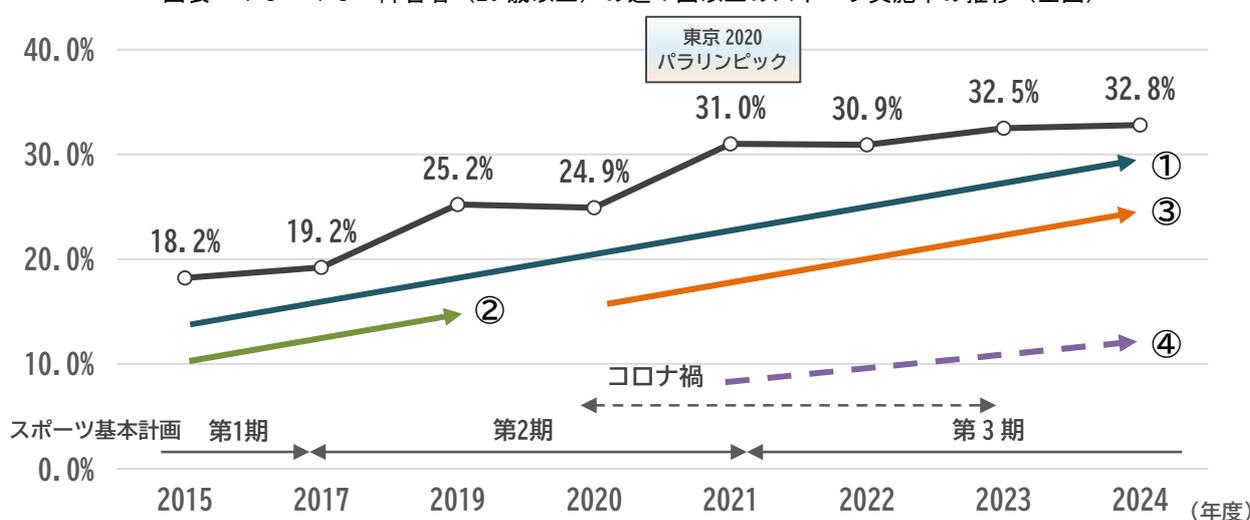
<sup>7</sup> 今後のスポーツの在り方を見据え、令和4年度（2022年度）から令和8年度（2026年度）までの5年間で国等が取り組むべき、施策や目標等を定めた計画。

<sup>8</sup> スポーツ庁の取扱いと同様に、アンケート調査では「週1日以上」、数値目標（成果指標）では「週1回以上」と表記しているが、いずれも同じ意味（週に1日以上運動・スポーツを行うこと）を指す。

障害者（20歳以上）の週1回以上のスポーツ実施率（全国）は、過去10年間で大きく向上している。さいたま市においても、今後施策や取組を推進することで、全国の過去の傾向と同様の伸びを示すと仮定した場合、シナリオ①～③の推移から、2030年度に障害者（20歳以上）の週1回以上のスポーツ実施率40%という目標を達成するシナリオが妥当である。なお、2021年度以降のトレンドを採用したシナリオ④を見ると、目標値である40%の達成は容易でないことがうかがえる。

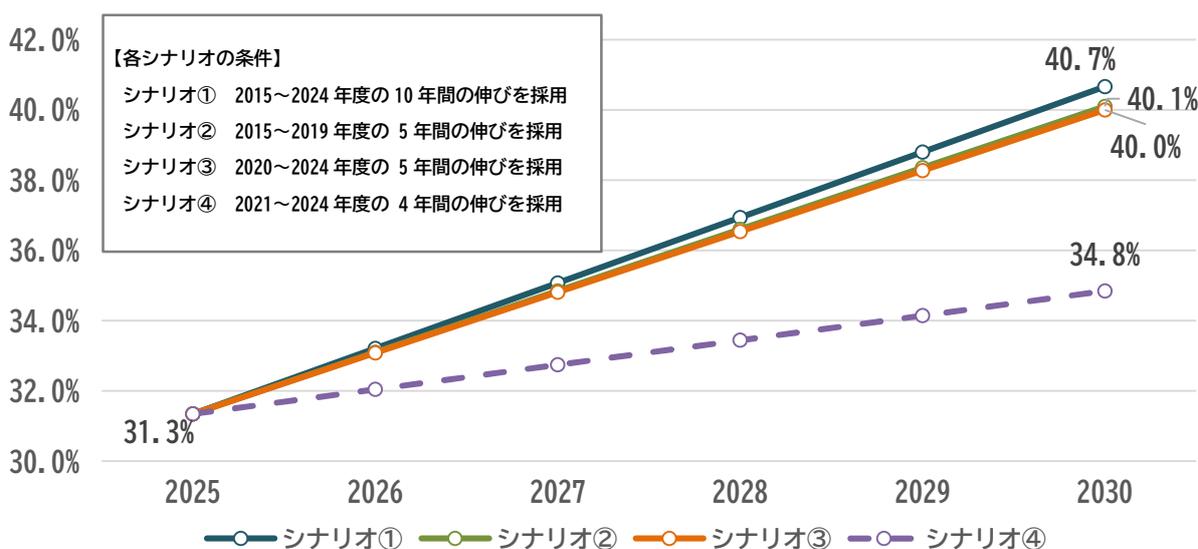
目標値の達成に向けては、「障害特性・ニーズ、年代に応じたスポーツ機会・場の創出」と「障害者のスポーツ実施に向けた基盤整備」の2つの視点から、これらを一体的に推進していくことが求められる。

図表 10-10 障害者（20歳以上）の週1回以上のスポーツ実施率の推移（全国）



出所：スポーツ庁「令和6年度 障害児・者のスポーツライフに関する調査研究の調査結果」より作成

図表 10-11 さいたま市における障害者（20歳以上）の週1回以上のスポーツ実施率の将来予測



出所：障害者手帳所持者向けアンケート調査、スポーツ庁「令和6年度 障害児・者のスポーツライフに関する調査研究の調査結果」より作成

## 調査研究委員会名簿



## 調査研究委員会名簿

<b>委員長</b>	信太 奈美	東京都立大学 健康福祉学部 理学療法学科 准教授
<b>委員</b>	片山 昭義	浦和大学 社会学部 総合福祉学科 学科長・教授
	菊原 伸郎	埼玉大学 教育学部 身体文化講座 准教授
	門脇 翠	東京パワーテクノロジー株式会社所属 一般社団法人日本デフ陸上競技協会 強化指定選手
	矢作 公佑	株式会社SMART 理学療法士
	遠藤 祐治	一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会 事務局長
	河野 章	埼玉県パラスポーツ指導者協議会 会長
	長谷川 司	公益財団法人さいたま市スポーツ協会 副会長兼専務理事
	大久保 貴至	さいたま市 福祉局 障害福祉部 参事兼障害政策課長
	日向 和史	一般財団法人地方自治研究機構 調査研究部長
<b>事務局</b>	荒木 成郎	さいたま市 福祉局 障害福祉部 障害政策課 課長補佐兼ノーマライゼーション推進係長
	真野 哲	さいたま市 福祉局 障害福祉部 障害政策課 主査
	樫淵 安彩	さいたま市 福祉局 障害福祉部 障害政策課 主事
	今村 真二	一般財団法人地方自治研究機構 主任研究員
	岩淵 諒	一般財団法人地方自治研究機構 研究員

## 基礎調査機関

	上田 義人	三菱UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社 主任研究員
	伊藤 瑞萌	三菱UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社 研究員
	植木 瞭	三菱UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社 研究員



## 参考 1 障害者手帳不所持者からの意見聴取結果



## 参考 1 障害者手帳不所持者からの意見聴取結果

### 1 障害者手帳不所持者からの意見聴取の概要

#### (1) 目的

今後のさいたま市における障害児・者の運動・スポーツ政策の方向性を検討する際の定性要素とするため、障害者手帳は所持していないものの、心身の障害や支障により活動に制限のある方から、スポーツの実施に関する意見を聴取することを目的として実施した。

#### (2) 調査対象・サンプル数

調査対象	心身の障害や支障により活動に制限のある障害者手帳不所持者
調査方法	・PC・スマホ等によるWEB回答方式 (備考) 2つの方法で調査を依頼した。 ①さいたま市ホームページ、学校周知用ホームページ、催事システム、SNS等による周知。 ②障害者団体や福祉サービス事業所に対して個別に協力を依頼。 ・本人が回答を入力することが困難な場合は、家族や介助者等が回答入力を補助いただくよう依頼した。(42.1%は本人が回答し、57.9%は家族や介助者等の補助により回答がなされた)
サンプル数	19

#### (3) 調査期間

令和7年7月28日(月)から令和7年8月22日(金)を調査期間とした。

#### (4) その他留意事項

- ・本調査は、必要なサンプル数を収集・分析することで全体の傾向を掴むことを目的とするアンケート調査ではなく、対象者(サンプル数19)1人ひとりの意見を聴取・整理することを目的とした調査(調査方法はヒアリングではなく書面回答方式)である。
- ・集計結果は有効回答数を母数として百分率で示している。また、その値は小数第一位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。
- ・nは、回答者数とする。

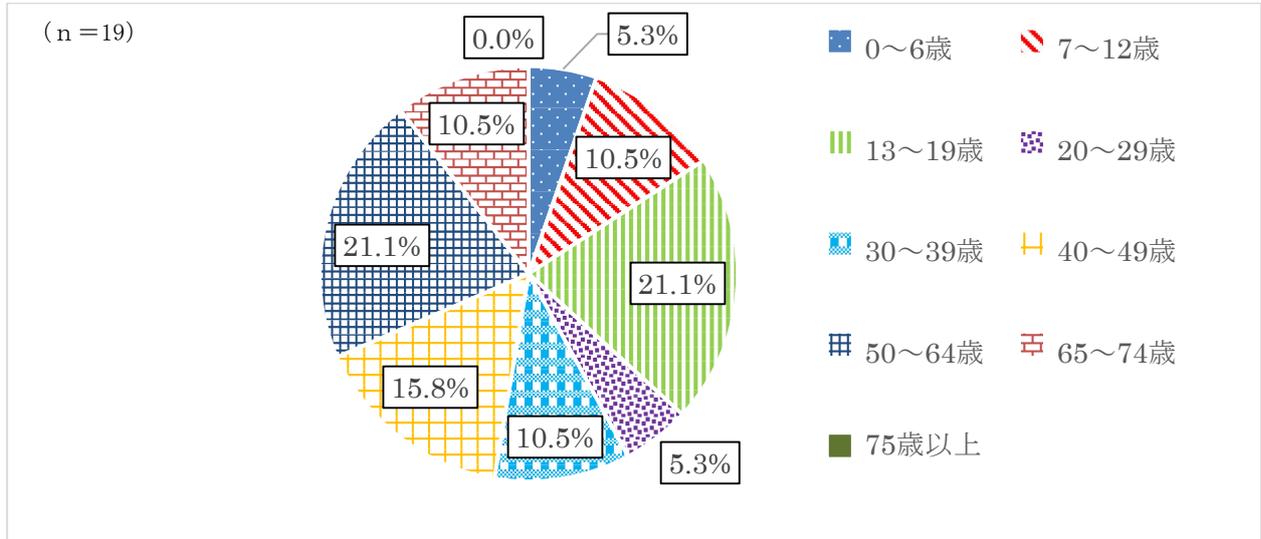
## 2 意見聴取集計結果

### (1) 回答者の属性

#### ①年齢【単一回答】

回答者の年齢は、以下図表のとおりであった。

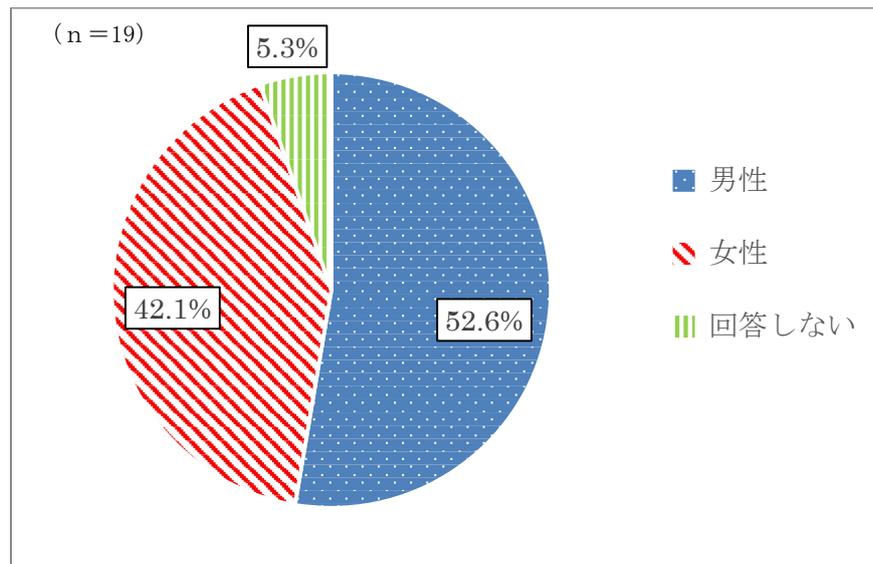
図表 参-2-1 年齢



#### ②性別【単一回答】

回答者の性別は、「男性」(52.6%)、「女性」(42.1%)、「回答しない」(5.3%) という結果であった。

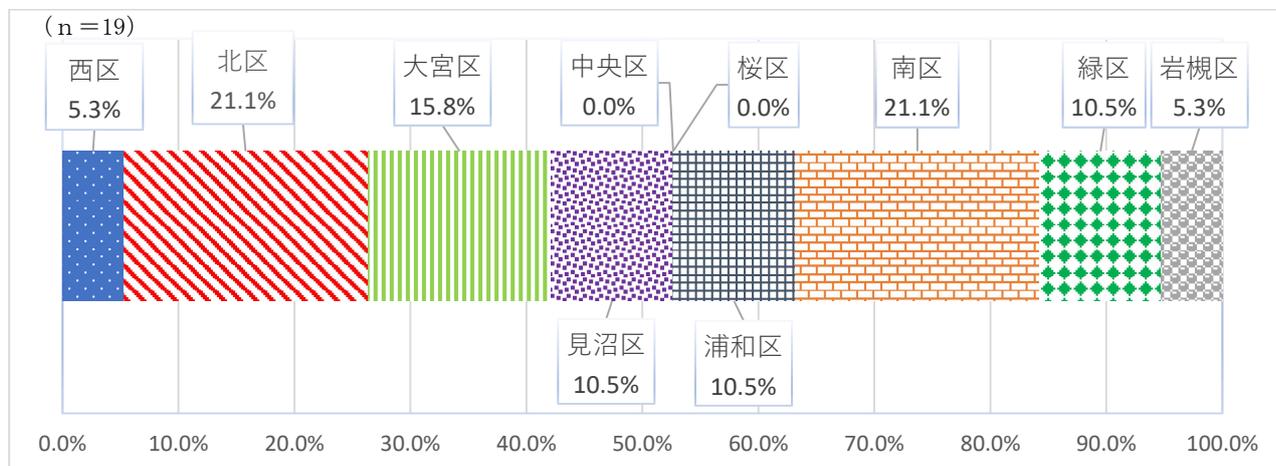
図表 参-2-2 性別



### ③居住区【単一回答】

回答者の居住区は、以下図表のとおりであった。

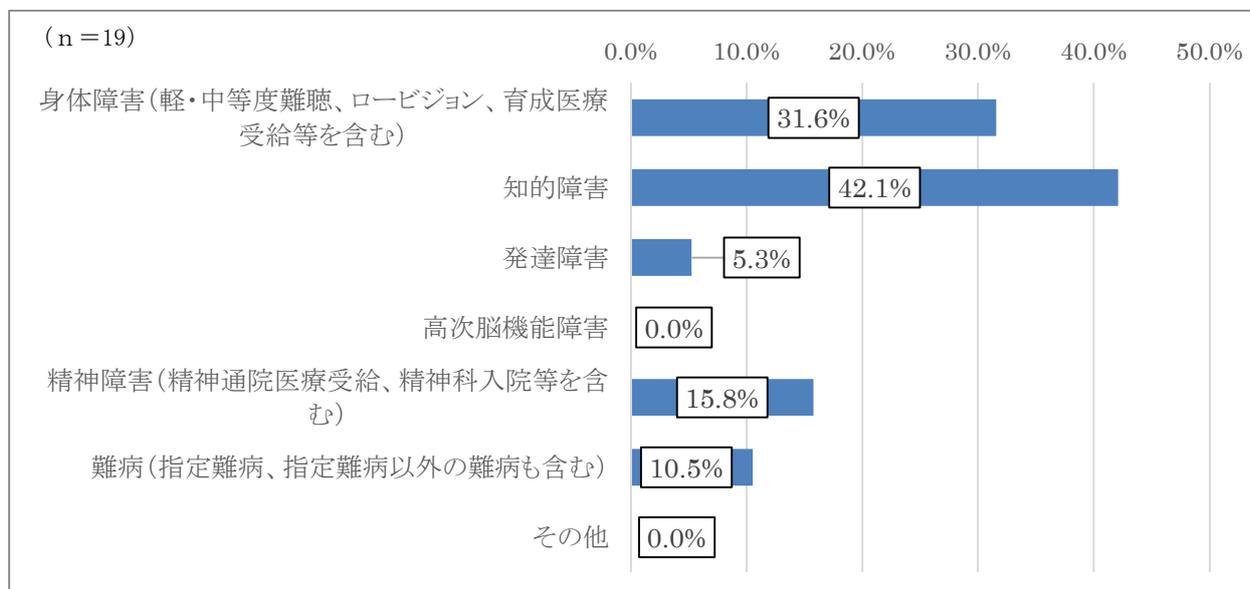
図表 参-2-3 居住区



### ④障害等の種別【複数回答】

あてはまる障害等の種別をたずねたところ、「知的障害」(42.1%)が最多、次いで「身体障害(軽・中等度難聴、ロービジョン、育成医療受給等を含む)」(31.6%)、「精神障害(精神通院医療受給、精神科入院等を含む)」(15.8%)という結果であった。

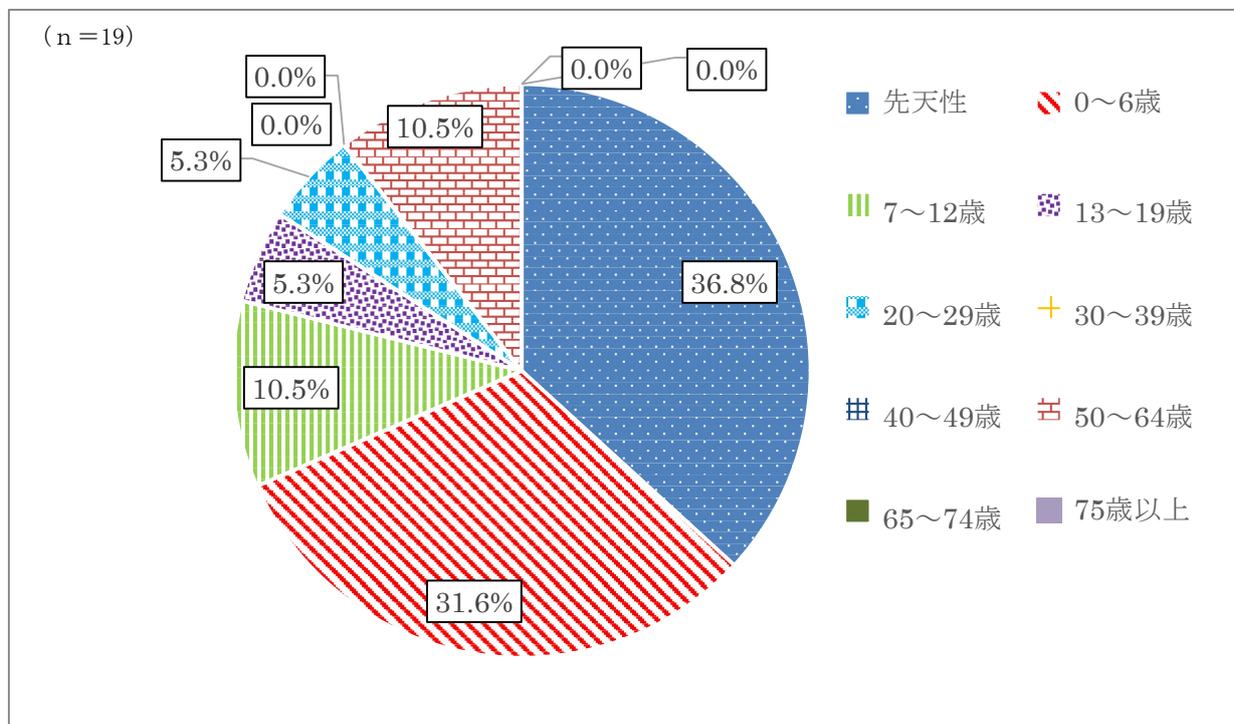
図表 参-2-4 障害等の種別



⑤障害等が発生した年齢【単一回答】

障害等が発生した年齢をたずねたところ、「先天性」(36.8%)が最多、次いで「0～6歳」(31.6%)、「7～12歳」「50～64歳」(10.5%)という結果であった。

図表 参-2-5 障害等が発生した年齢

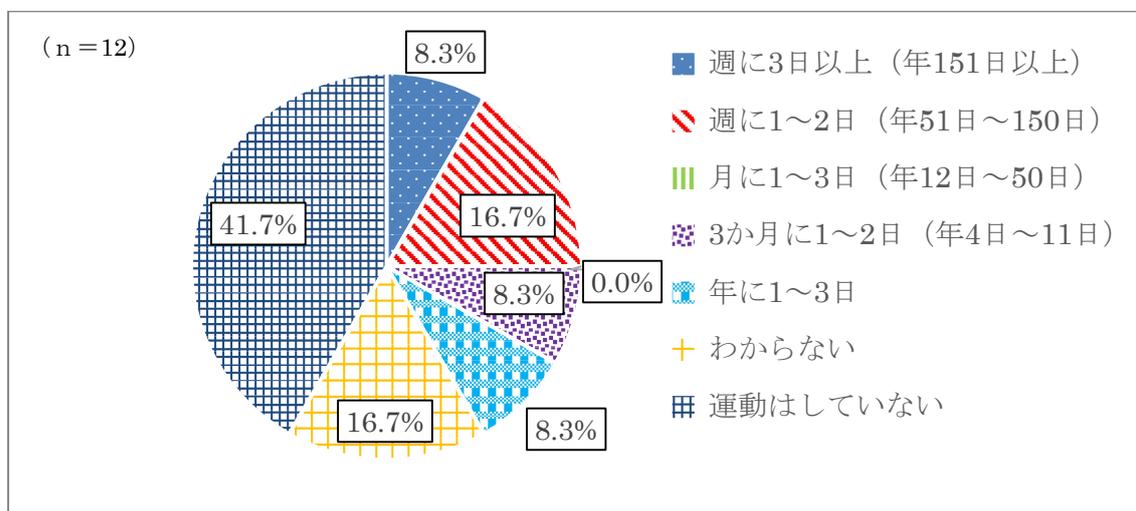


※⑤で「先天性」と回答した方以外のみ

⑥障害等が発生する前における運動・スポーツを行った日数【単一回答】

⑤で「先天性」と回答した方以外に、障害等が発生する前の運動・スポーツを行った日数をたずねたところ、「運動はしていない」(41.7%)が最多、次いで「週に1～2日(年51日～150日)」という結果であった。

図表 参-2-6 障害等が発生する前に運動・スポーツを行った日数

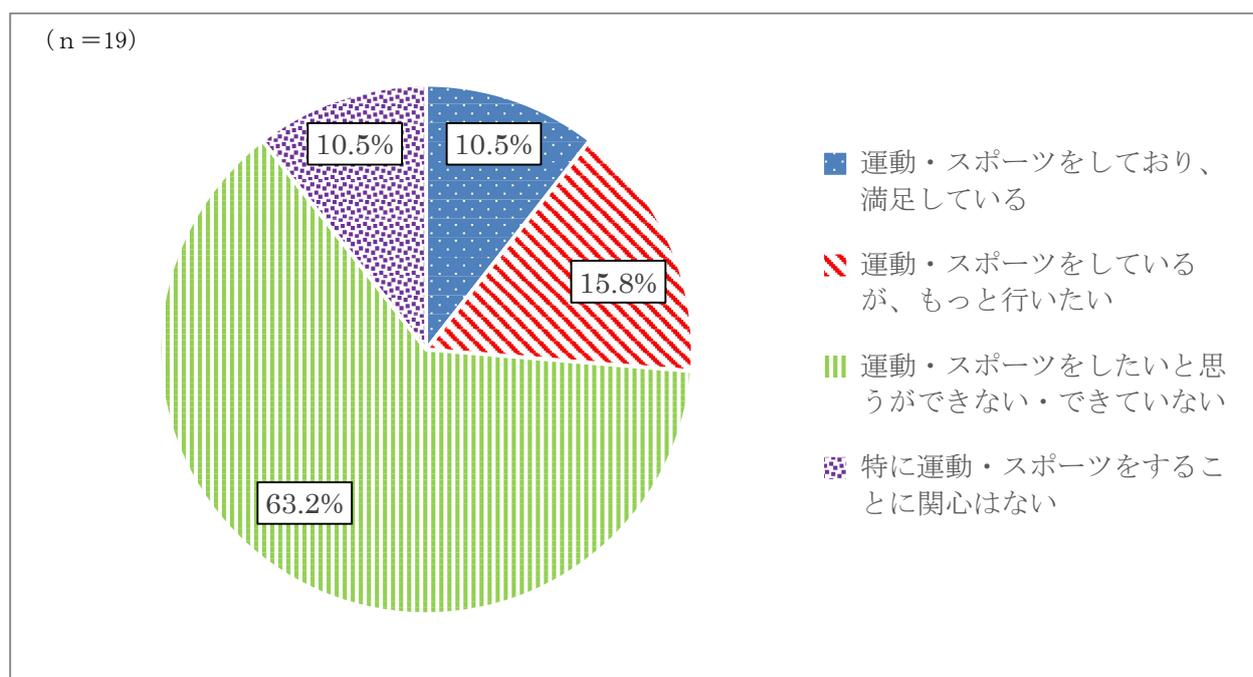


## (2) 運動・スポーツの実施状況

### ①現在の運動・スポーツの実施状況【単一回答】

現在の運動・スポーツの実施状況をたずねたところ、「運動・スポーツをしたいと思うができない・できていない」(63.2%)が最多、次いで「運動・スポーツをしているが、もっと行いたい」(15.8%)という結果であった。

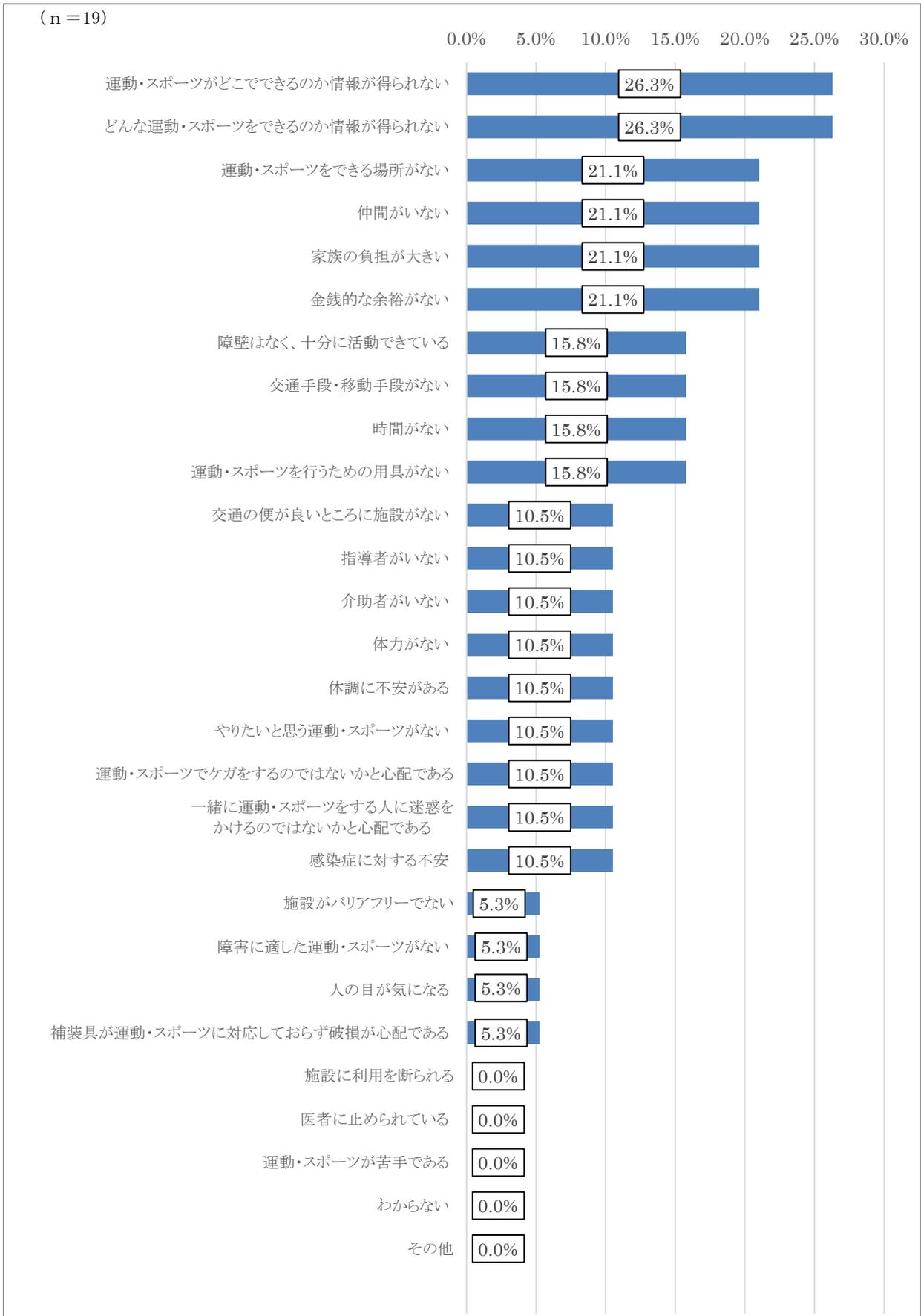
図表 参-2-7 現在の運動・スポーツの実施状況



### ②運動・スポーツの実施において障壁となっているもの【複数回答】

運動・スポーツの実施において障壁となっているものをたずねたところ、「運動・スポーツがどこでできるのか情報が得られない」「どんな運動・スポーツをできるのか情報が得られない」(26.3%)が最多、次いで「運動・スポーツをできる場所がない」「仲間がいない」「家族の負担が大きい」「金銭的な余裕がない」(21.1%)という結果であった。

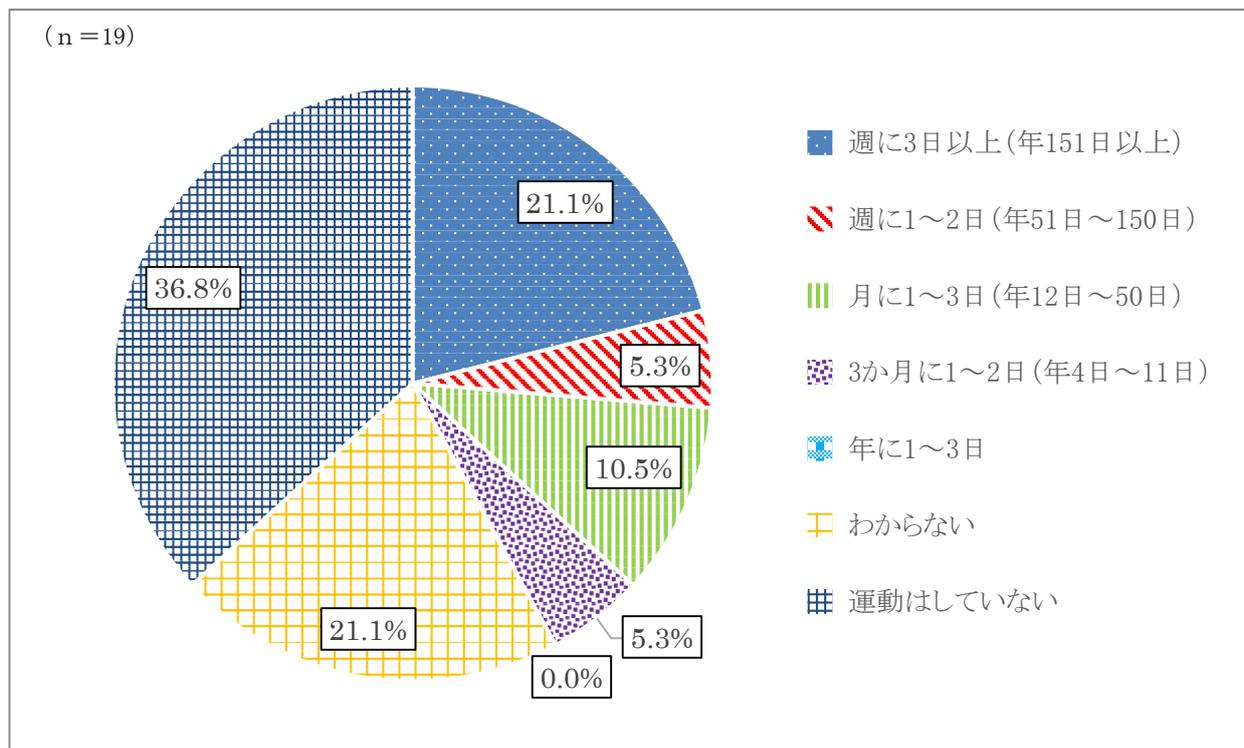
図表 参-2-8 運動・スポーツの実施において障壁となっているもの



### ③運動・スポーツを行った日数【単一回答】

運動・スポーツを行った日数をたずねたところ、「運動はしていない」(36.8%)が最多、次いで「週に3日以上(年151日以上)」「わからない」(21.1%)、「月に1~3日(年12日~50日)」(10.5%)という結果であった。

図表 参-2-9 運動・スポーツを行った日数

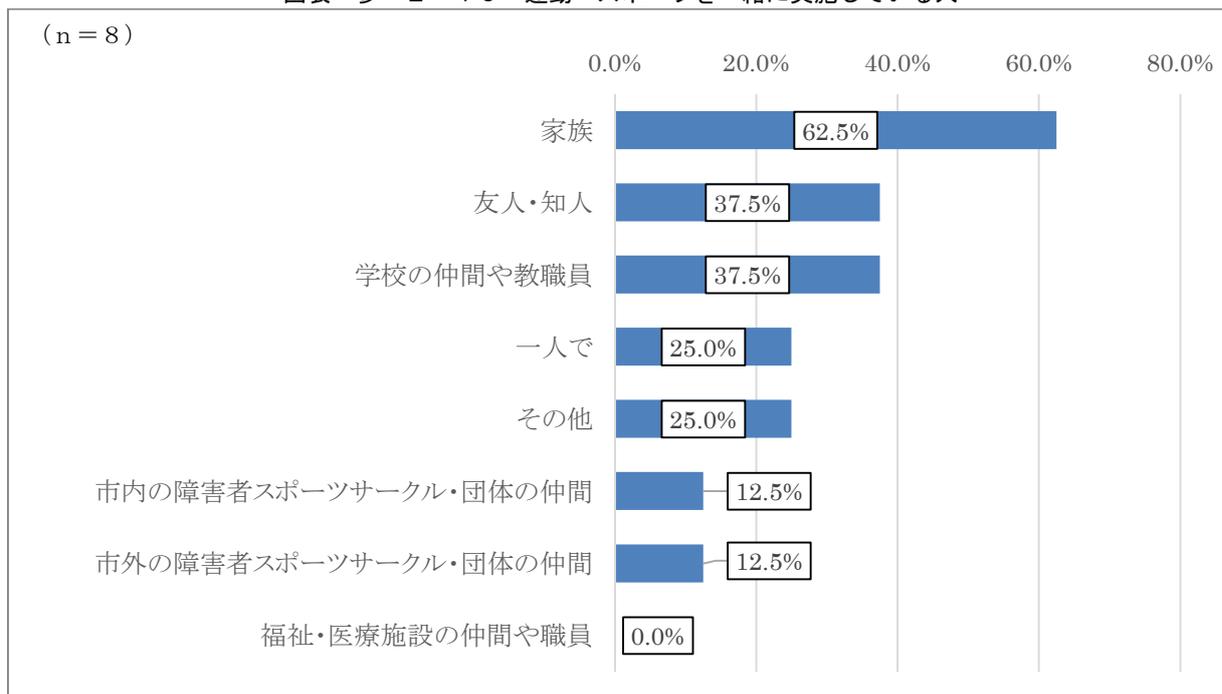


※③で「週に3日以上」、「週に1~2日」、「月に1~3日」、「3か月に1~2日」、「年に1~3日」(以下、「定期的に実施している」と回答した方のみ)

④運動・スポーツと一緒に実施している人【複数回答】

③で「定期的に実施している」と回答した方に、運動・スポーツと一緒に実施している人をたずねたところ、「家族」(62.5%)が最多、次いで「友人・知人」、「学校の仲間や教職員」(37.5%)という結果であった。

図表 参-2-10 運動・スポーツと一緒に実施している人



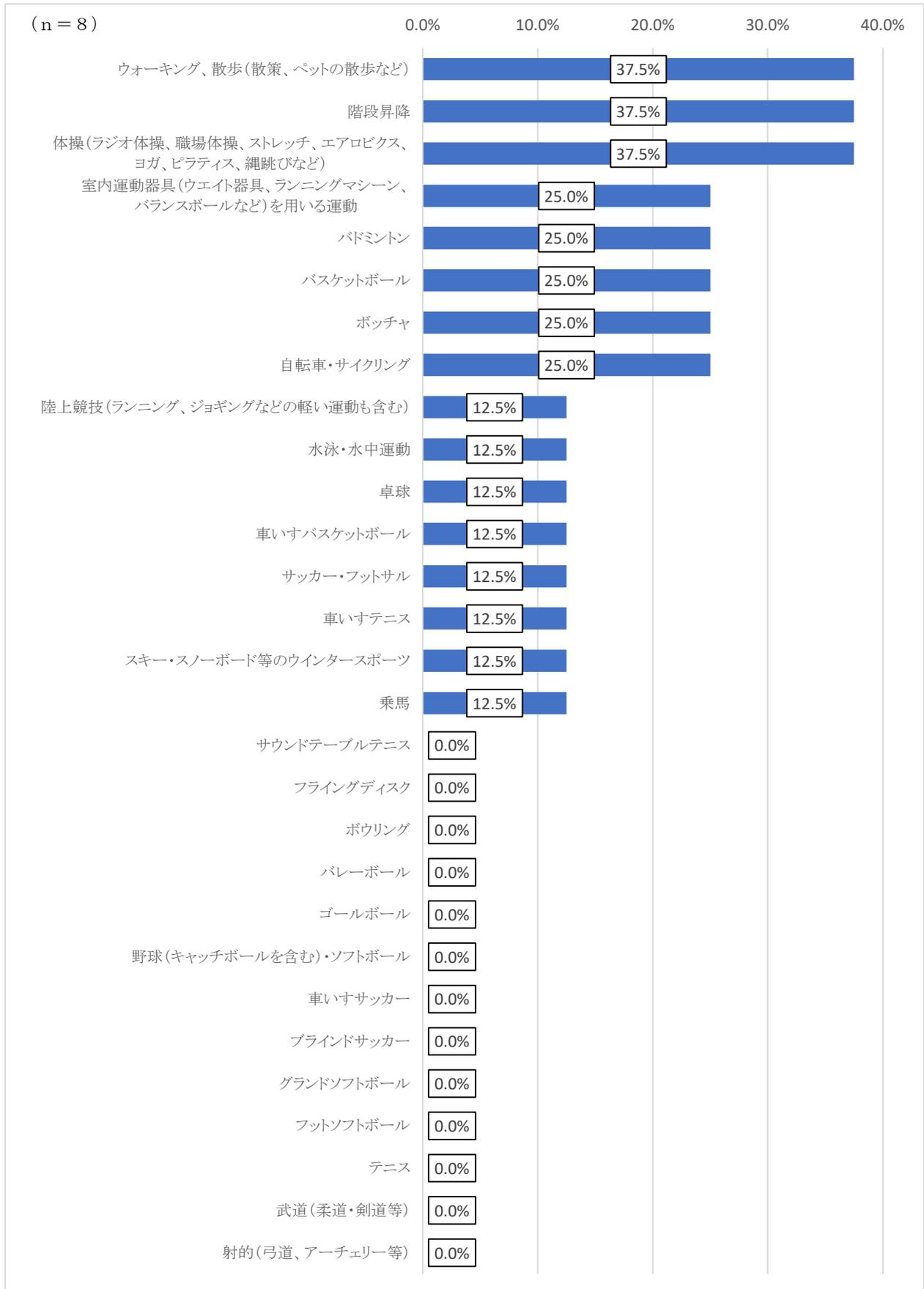
「その他」の回答について

その他の回答	件数
整体院で体のメンテナンスを受けながら	1
学校外のクラブチーム	1

⑤過去1年間に実施した運動・スポーツの種類【複数回答】

③で「定期的な実施している」と回答した方に、過去1年間に実施した運動・スポーツの種類をたずねたところ、「ウォーキング、散歩(散策、ペットの散歩など)」「階段昇降」「体操(ラジオ体操、職場体操、ストレッチ、エアロビクス、ヨガ、ピラティス、縄跳びなど)」(37.5%)などが挙げられた。

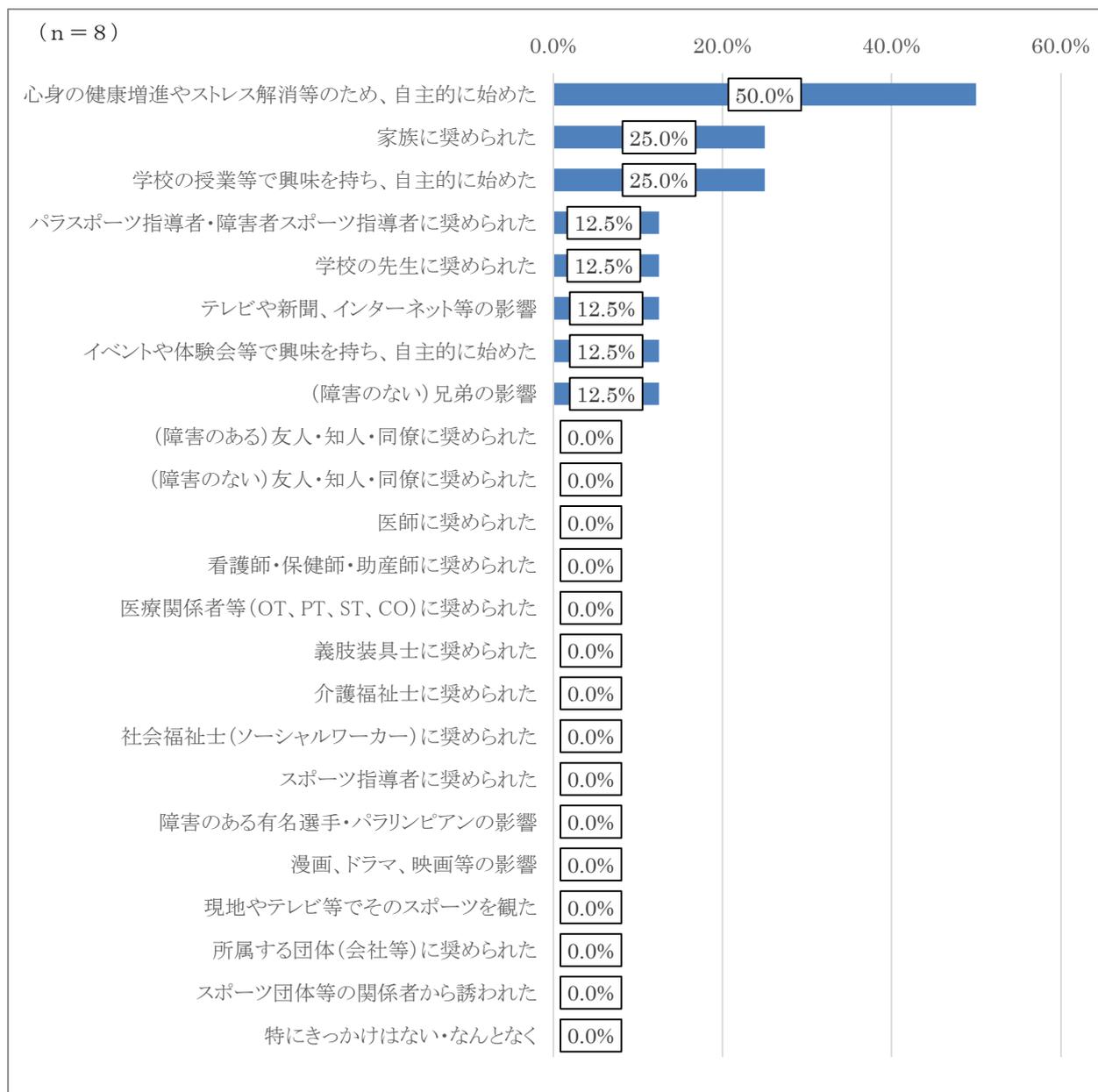
図表 参-2-1-1 過去1年間に実施した運動・スポーツの種類



⑥障害等発生後に運動・スポーツを始めたきっかけ【複数回答】

③で「定期的を実施している」と回答した方に、障害等発生後に運動・スポーツを始めたきっかけをたずねたところ、「心身の健康増進やストレス解消等のため、自主的に始めた」(50.0%)が最多、次いで「家族に奨められた」「学校の授業等で興味を持ち、自主的に始めた」(25.0%)という結果であった。

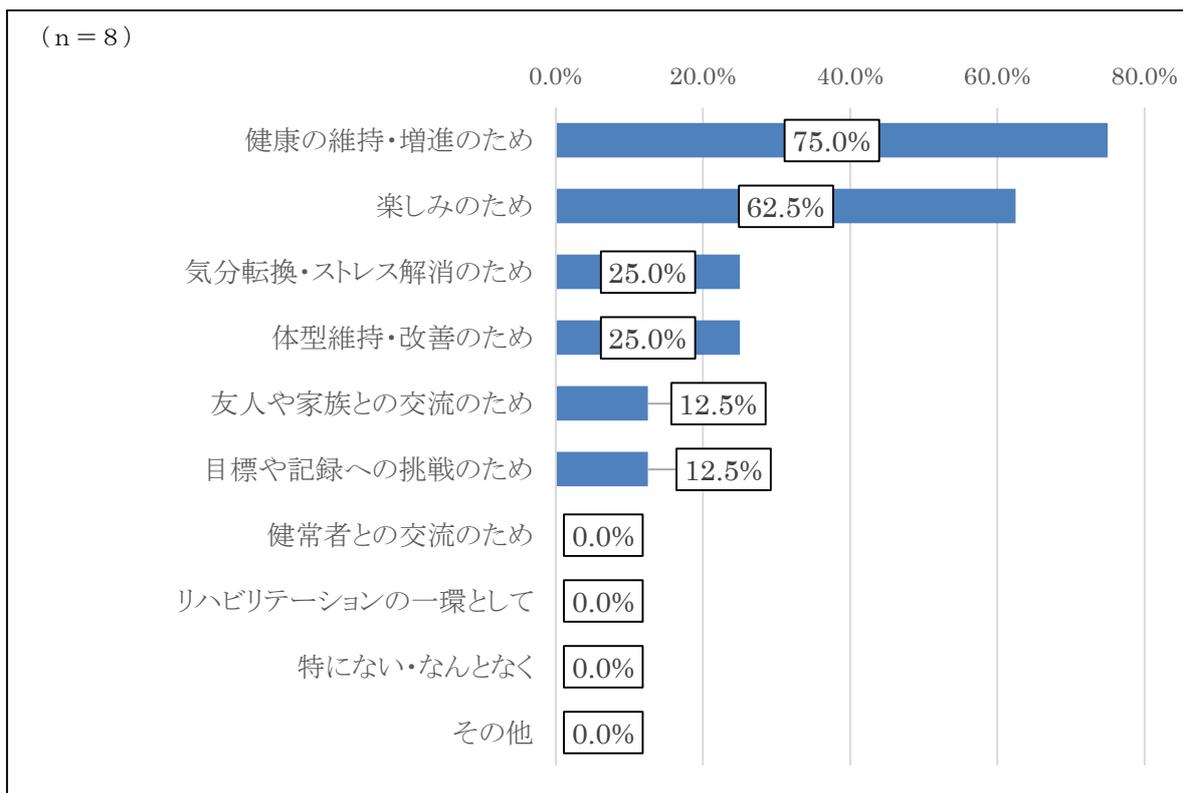
図表 参-2-12 障害等発生後に運動・スポーツを始めたきっかけ



### ⑦運動・スポーツを実施する目的【複数回答】

③で「定期的実施している」と回答した方に、運動・スポーツを実施する目的についてたずねたところ、「健康の維持・増進のため」(75.0%)が最多、次いで「楽しみのため」(62.5%)、「気分転換・ストレス解消のため」「体型維持・改善のため」(25.0%)という結果であった。

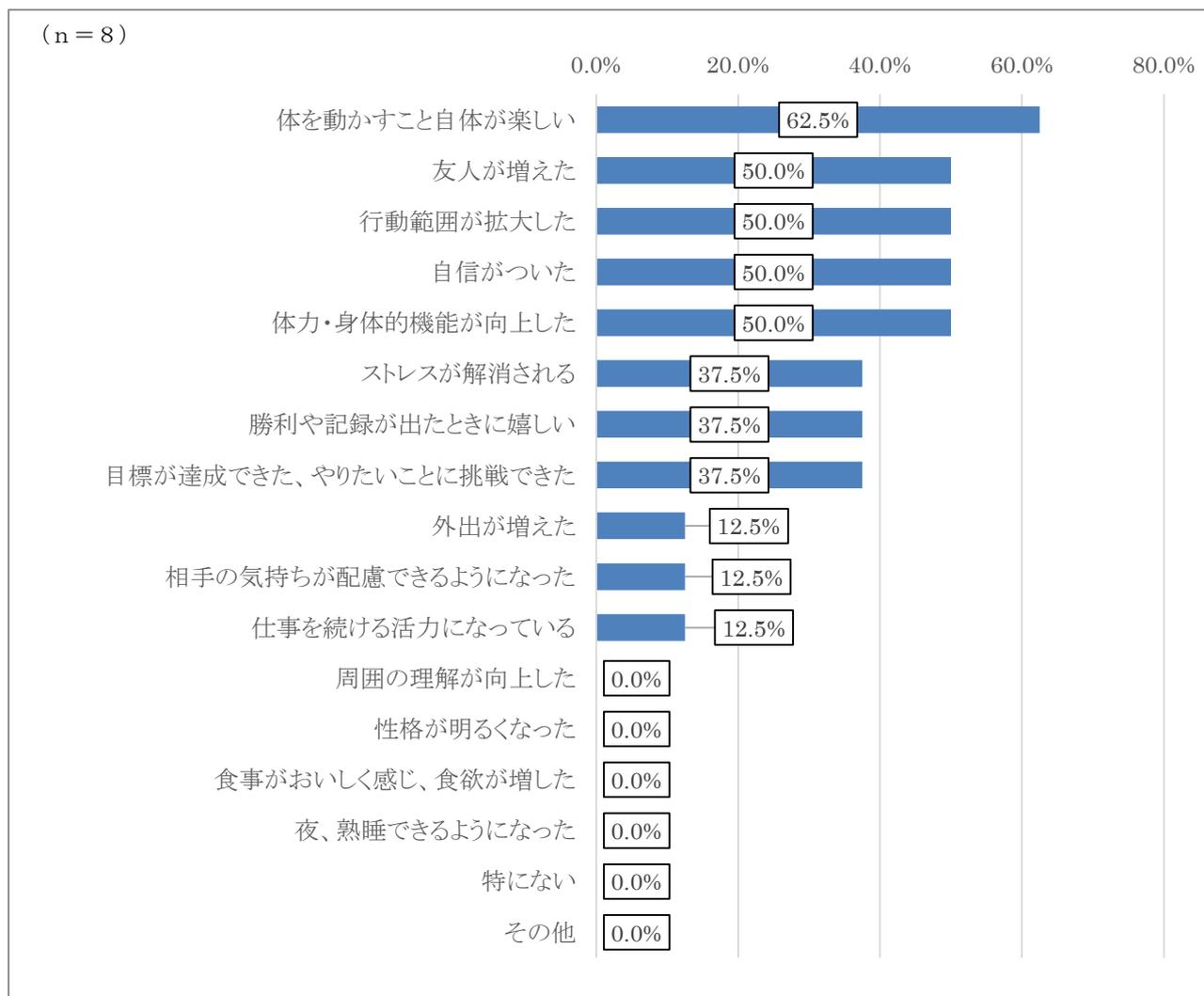
図表 参-2-13 運動・スポーツを実施する目的



⑧運動・スポーツをやってよかったこと【複数回答】

③で「定期的実施している」と回答した方に、運動・スポーツをやってよかったことをたずねたところ、「体を動かすこと自体が楽しい」(62.5%)が最多、次いで「友人が増えた」「行動範囲が拡大した」「自信がついた」「体力・身体的機能が向上した」(50.0%)という結果であった。

図表 参-2-14 運動・スポーツをやってよかったこと

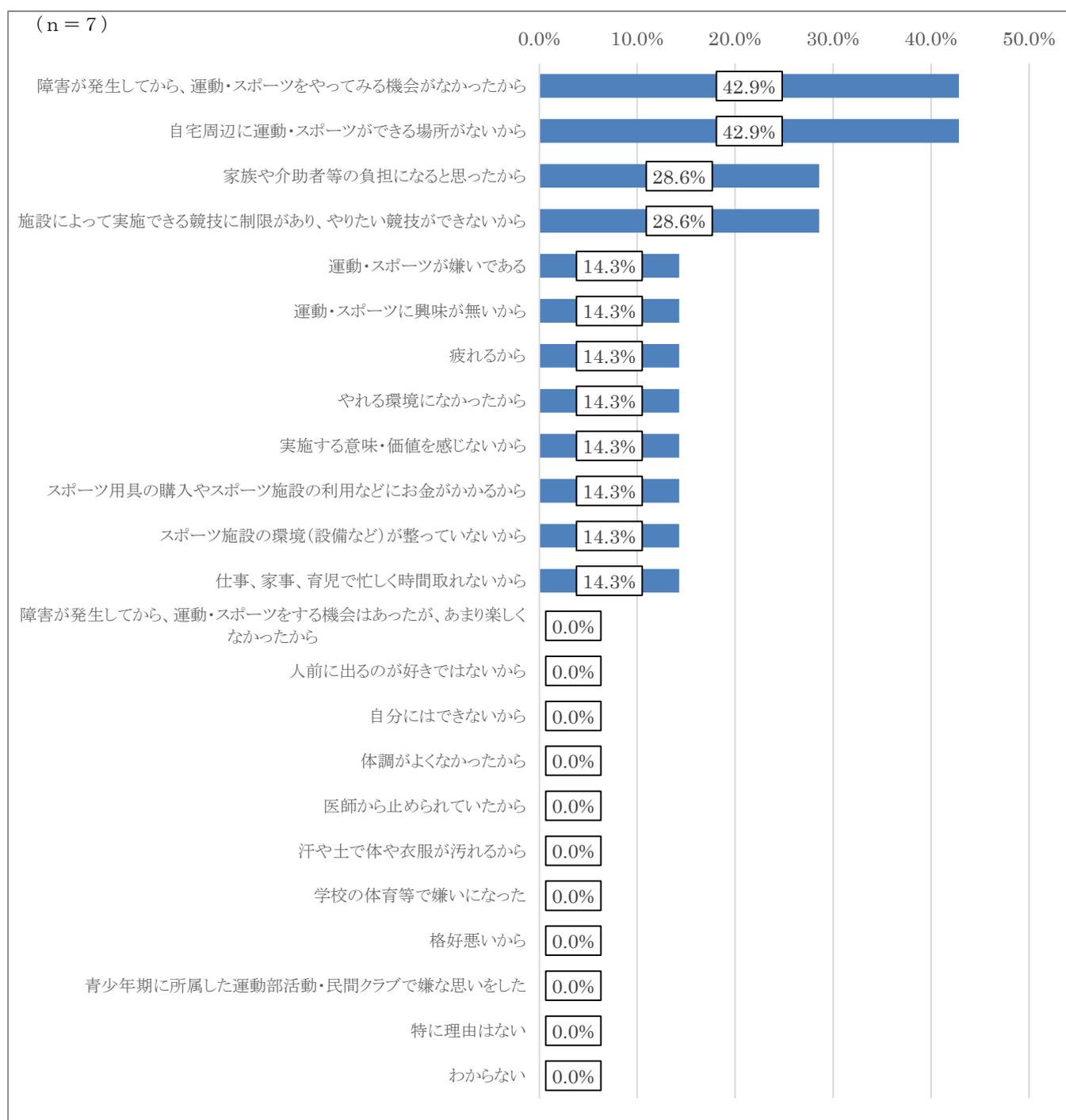


※③で「実施していない」と回答した方のみ

⑨運動・スポーツを実施しない理由【複数回答】

③で「実施していない」と回答した方に、運動・スポーツを実施しない理由をたずねたところ、「障害が発生してから、運動・スポーツをやってみる機会がなかったから」「自宅周辺に運動・スポーツができる場所がないから」(42.9%)が最多、次いで「家族や介助者等の負担になると思ったから」「施設によって実施できる競技に制限があり、やりたい競技ができないから」(28.6%)という結果であった。

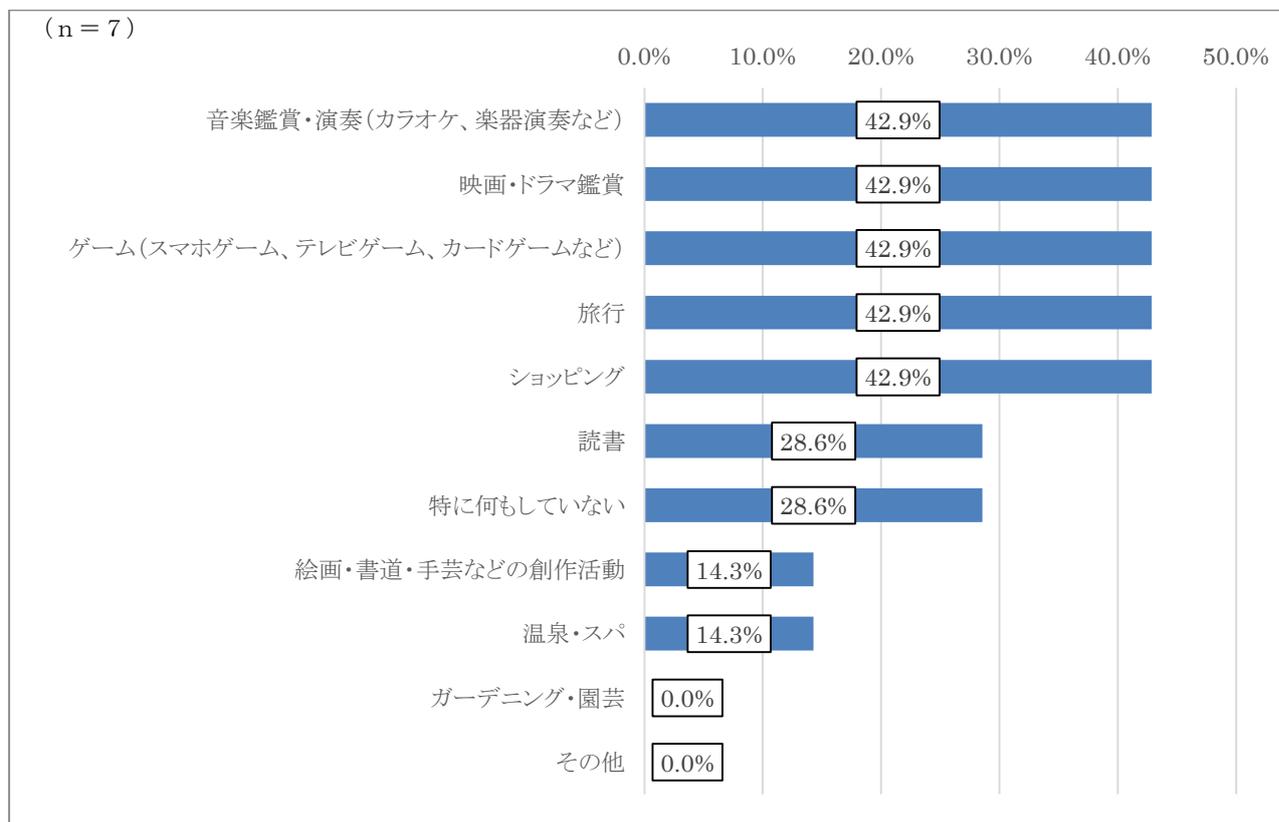
図表 参-2-15 運動・スポーツを実施しない理由



### ⑩日頃行っている余暇活動【複数回答】

③で「実施していない」と回答した方に、日頃行っている余暇活動をたずねたところ、「音楽鑑賞・演奏（カラオケ、楽器演奏など）」「映画・ドラマ鑑賞」「ゲーム（スマホゲーム、テレビゲーム、カードゲームなど）」「旅行」「ショッピング」などが挙げられた。

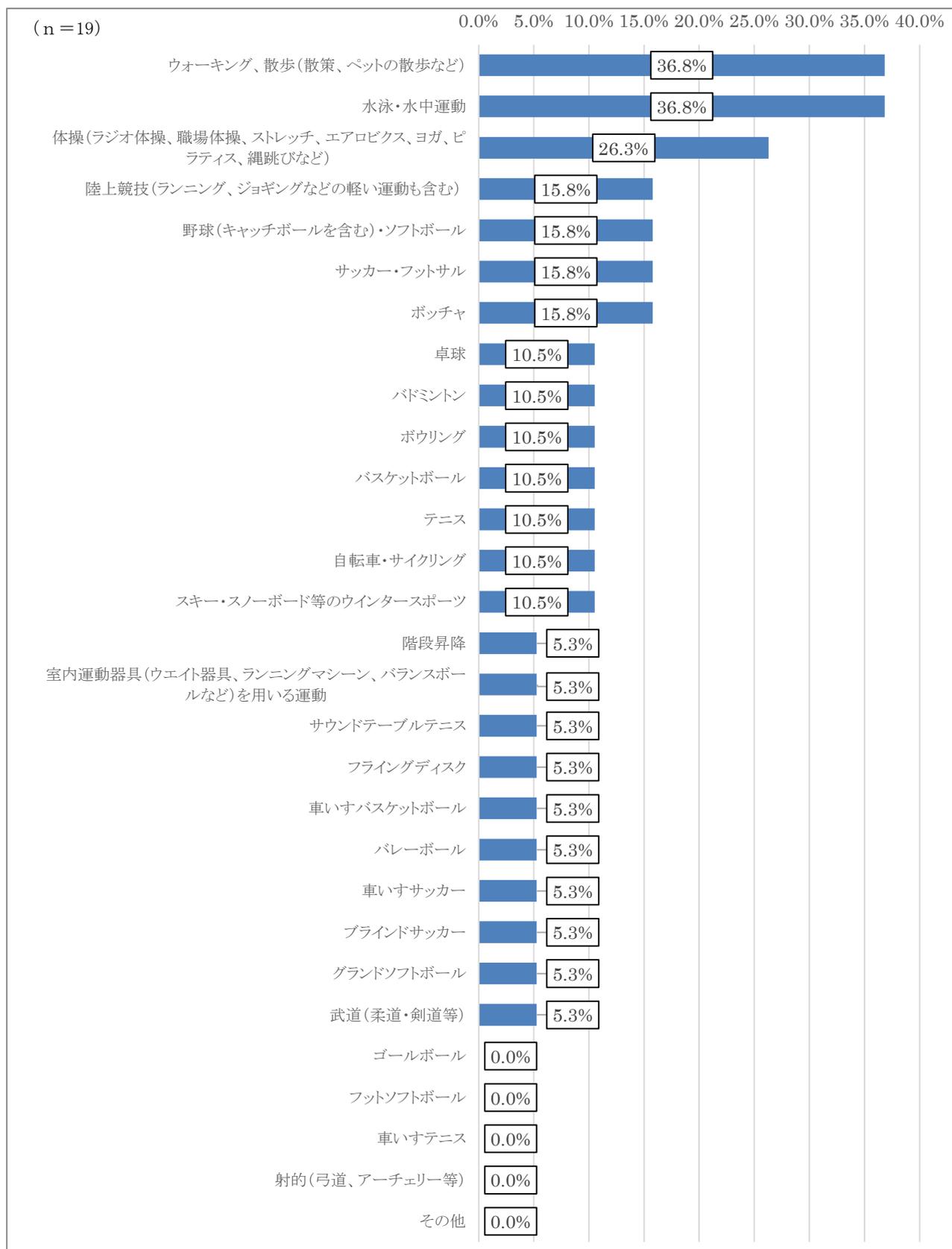
図表 参-2-16 日頃行っている余暇活動



### ⑪今後やってみたい、または今後も続けたい運動・スポーツ【複数回答】

今後やってみたい、または今後も続けたい運動・スポーツをたずねたところ、「ウォーキング、散歩（散策、ペットの散歩など）」「水泳・水中運動」(36.8%) が最多、次いで「体操（ラジオ体操、職場体操、ストレッチ、エアロビクス、ヨガ、ピラティス、縄跳びなど）」(26.3%) という結果であった。

図表 参-2-17 今後やってみたい、または今後も続けたい運動・スポーツ

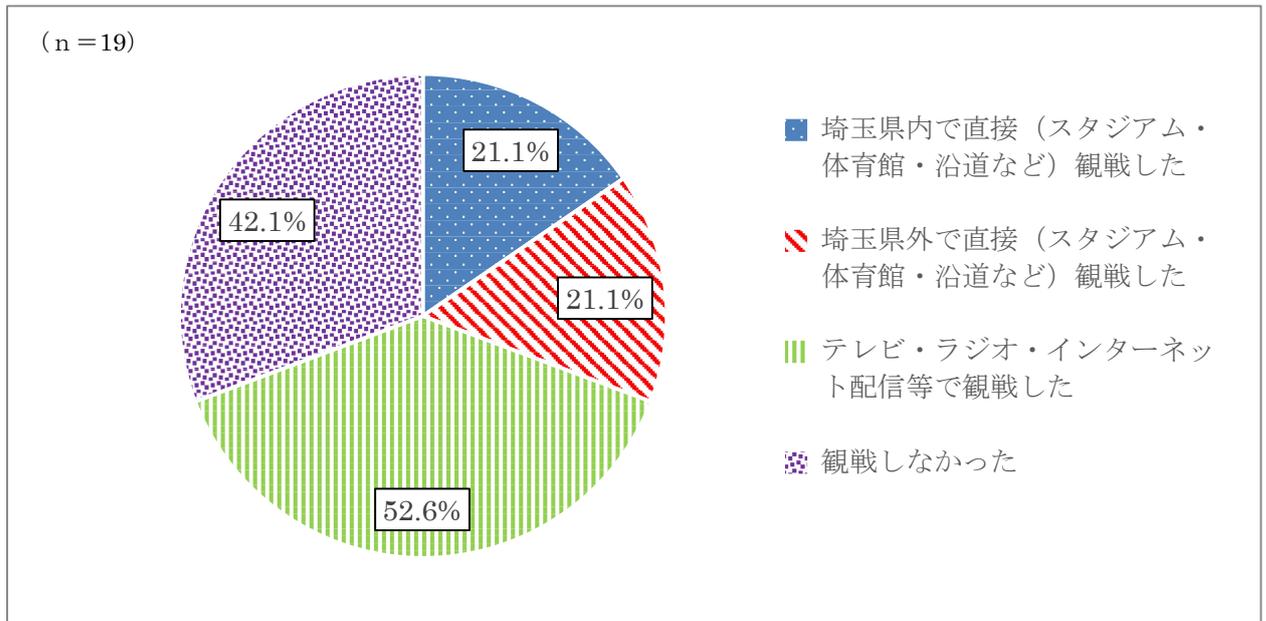


### (3) スポーツの観戦状況

#### ①過去1年間のスポーツ観戦経験【複数回答】

過去1年間のスポーツ観戦経験についてたずねたところ、「テレビ・ラジオ・インターネット配信等で観戦した」(52.6%)が最多、次いで「観戦しなかった」(42.1%)という結果であった。

図表 参-2-18 過去1年間の観戦経験

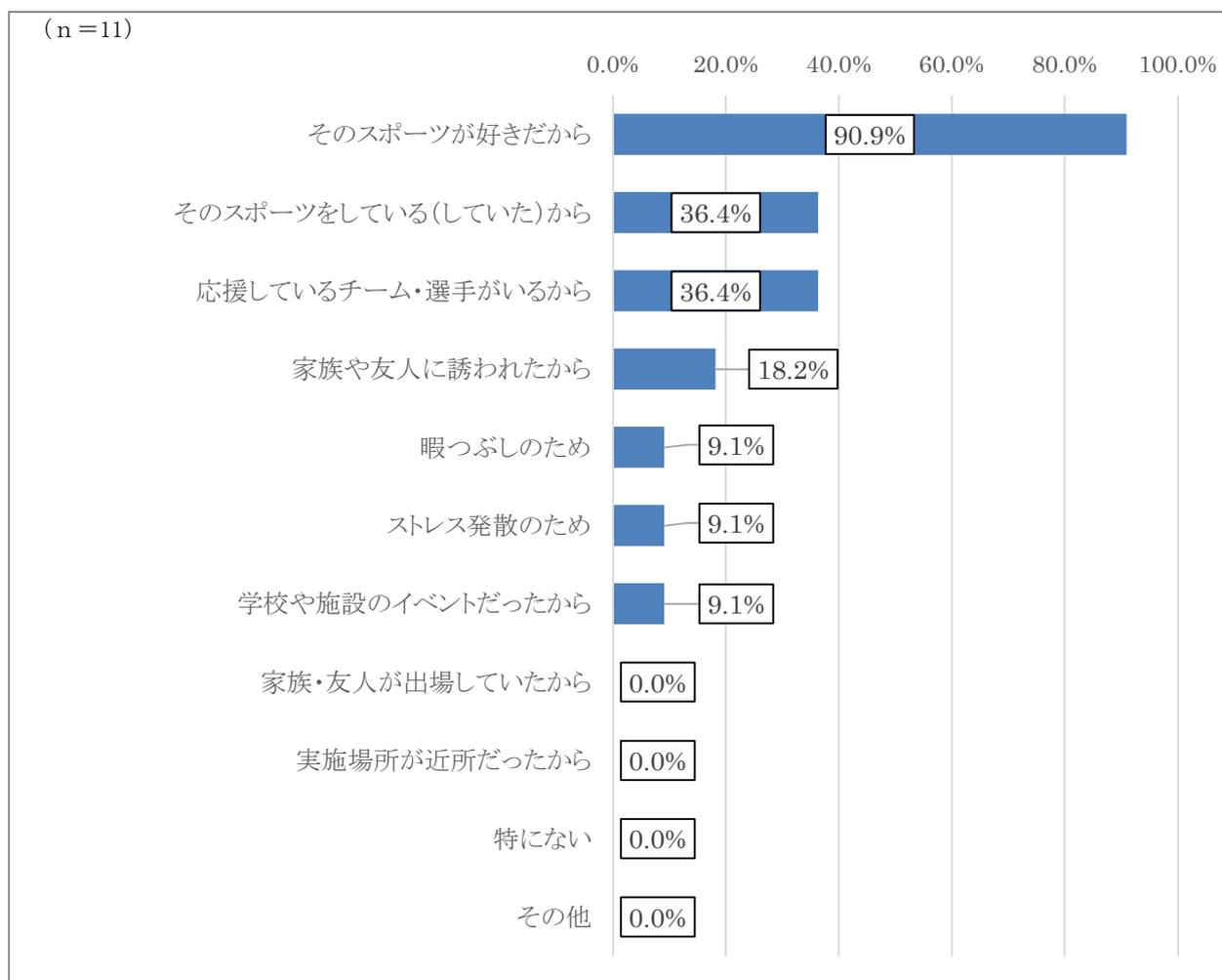


※①で「埼玉県内で直接（スタジアム・体育館・沿道など）観戦した」、「埼玉県外で直接（スタジアム・体育館・沿道など）観戦した」、「テレビ・ラジオ・インターネット配信等で観戦した」（以下、「観戦した」と回答した方のみ

②スポーツを観戦した理由【複数回答】

①で「観戦した」と回答した方に、スポーツを観戦した理由をたずねたところ、「そのスポーツが好きだから」（90.9%）が最多、次いで「そのスポーツをしている（していた）から」「応援しているチーム・選手がいるから」（36.4%）という結果であった。

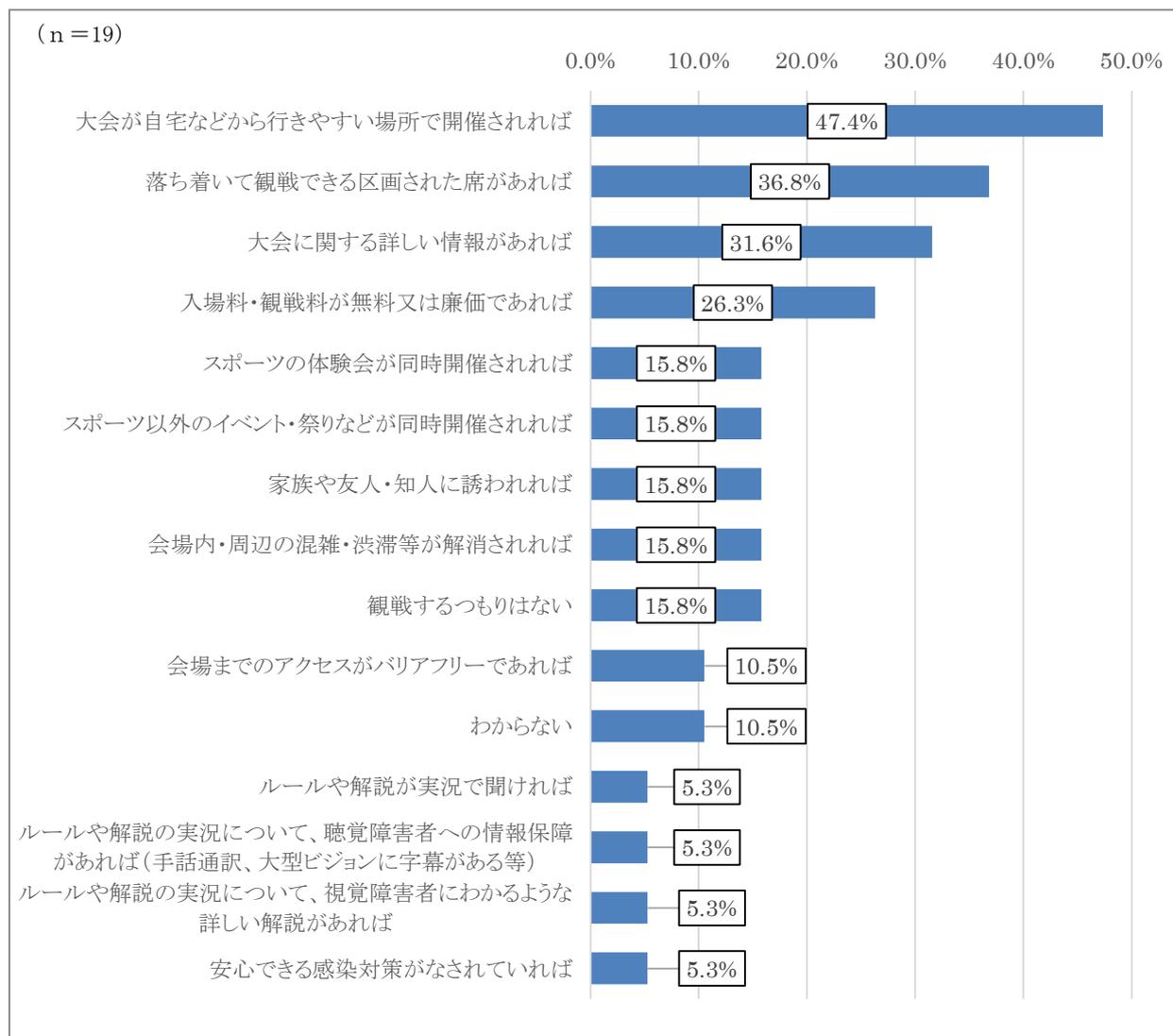
図表 参-2-19 スポーツを観戦した理由



### ③スポーツを実際に（さらに）観戦してみようと思う取組・工夫【複数回答】

スポーツを実際に（さらに）観戦してみようと思う取組・工夫についてたずねたところ、「大会が自宅などから行きやすい場所で開催されれば」（47.4%）が最多、次いで「落ち着いて観戦できる区画された席があれば」（36.8%）、「大会に関する詳しい情報があれば」（31.6%）という結果であった。

図表 参-2-20 スポーツを実際に（さらに）観戦してみようと思う取組・工夫

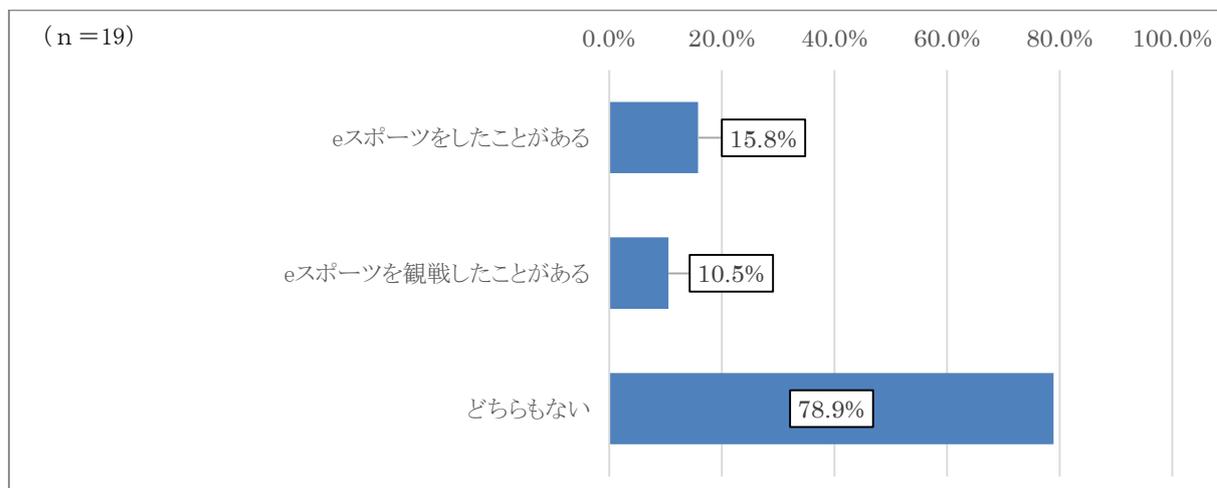


#### (4) eスポーツやマインドスポーツの実施・観戦状況

##### ① eスポーツの経験【複数回答】

eスポーツの経験をたずねたところ、「どちらもない」（したことも観戦したこともない）（78.9%）が最多であった。

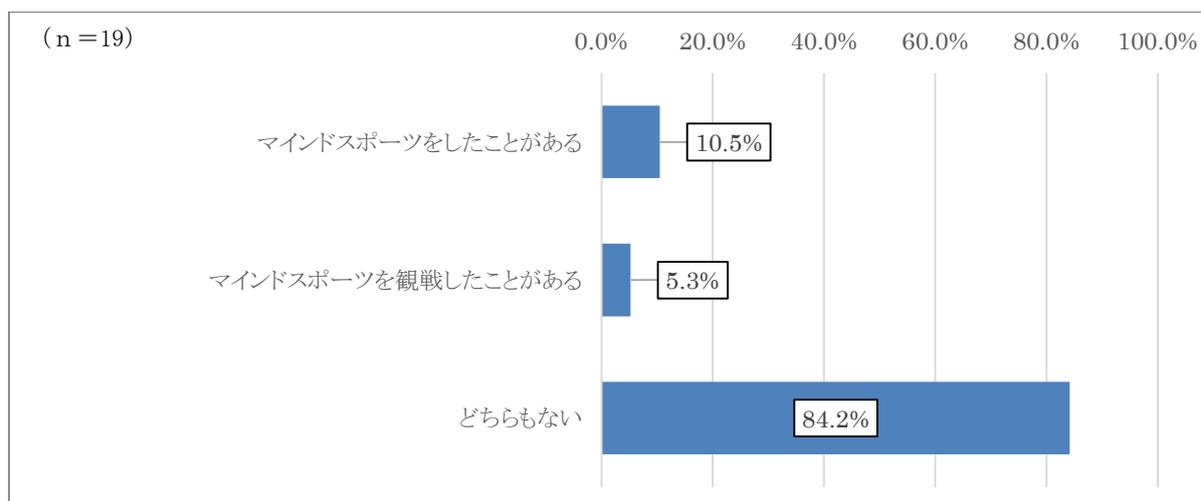
図表 参-2-21 eスポーツの経験



##### ②マインドスポーツの経験【複数回答】

マインドスポーツの経験をたずねたところ、「どちらもない」（したことも観戦したこともない）（84.2%）が最多であった。

図表 参-2-22 マインドスポーツの経験

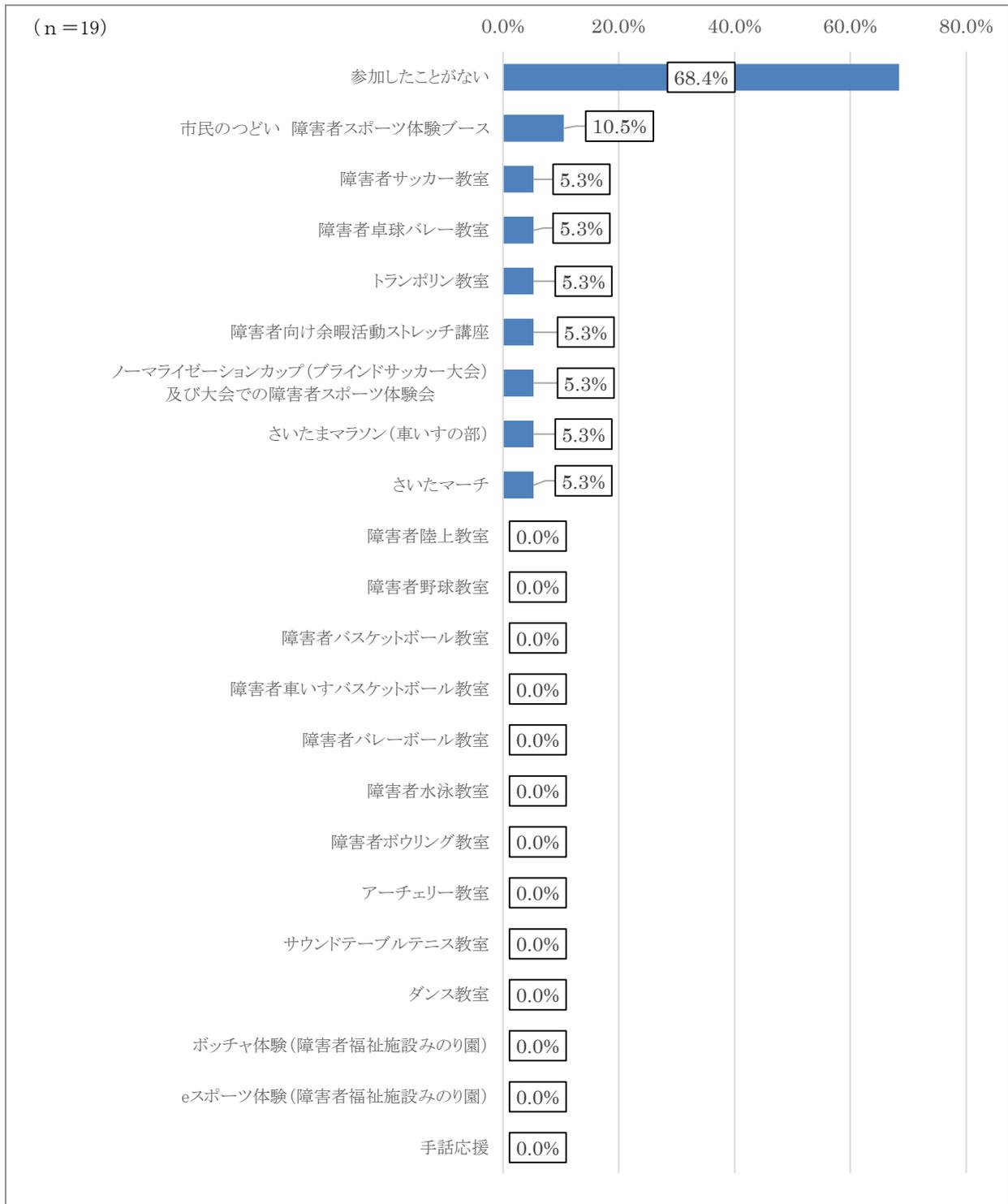


(5) さいたま市の障害者スポーツ教室・イベント

①さいたま市の障害者スポーツ教室・イベントの参加状況【複数回答】

さいたま市の障害者スポーツ教室・イベントの参加状況をたずねたところ、「市民のつどい 障害者スポーツ体験ブース」(10.5%)をはじめとして、「障害者サッカー教室」、「障害者卓球バレー教室」などの教室への参加経験が挙げられた。

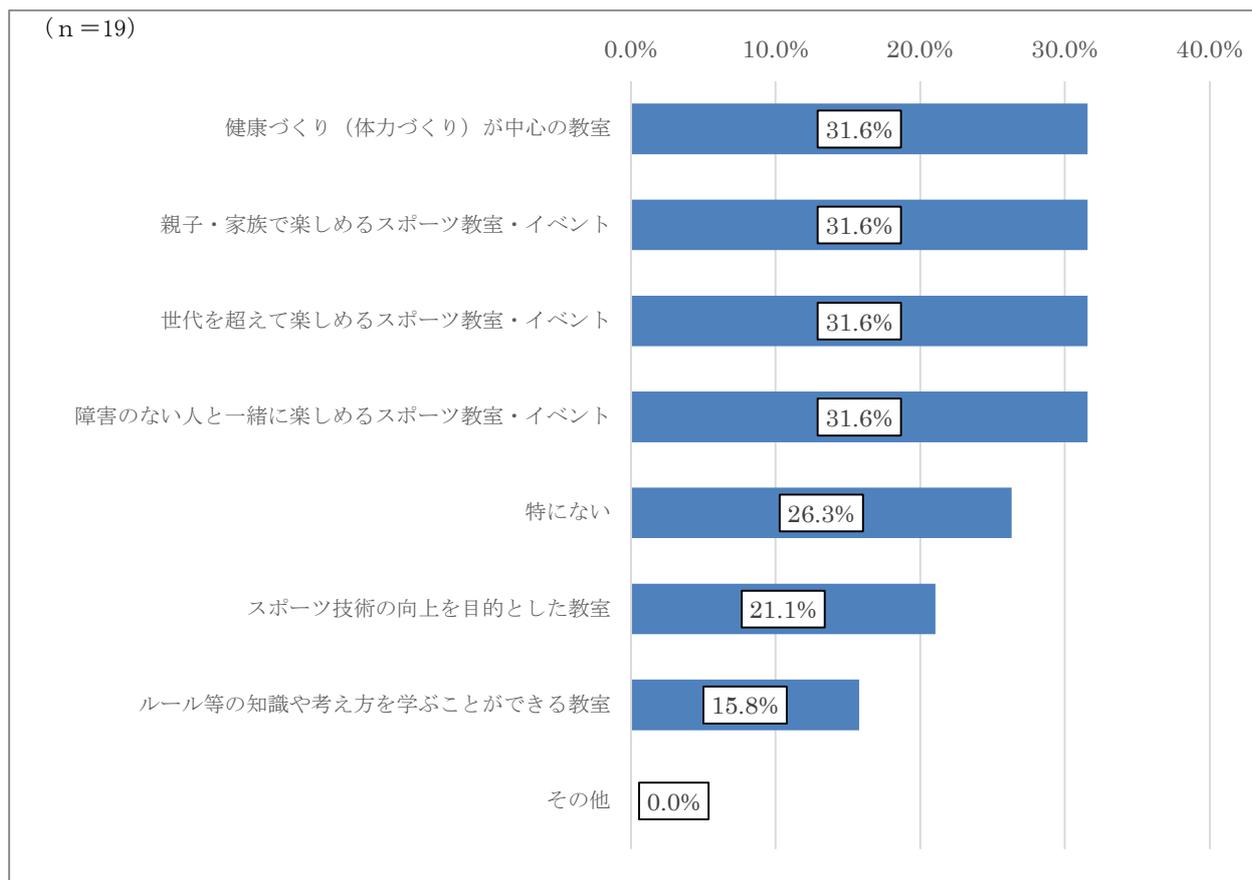
図表 参-2-23 さいたま市の障害者スポーツ教室・イベントの参加状況



## ②参加してみたいスポーツ教室・イベント【複数回答】

参加してみたいスポーツ教室・イベントをたずねたところ、「健康づくり（体力づくり）が中心の教室」「親子・家族で楽しめるスポーツ教室・イベント」「世代を超えて楽しめるスポーツ教室・イベント」「障害のない人と一緒に楽しめるスポーツ教室・イベント」などが挙げられた。

図表 参-2-24 参加してみたいスポーツ教室・イベント



(6) 障害者のスポーツの普及・推進等に関する意見等【自由意見】

障害等のある方がスポーツに取り組みやすい環境を整えるために必要なことなど、自由に意見等を求めたところ、以下のようなものが挙げられた。

図表 参-2-25 障害者のスポーツの普及・推進等に関する意見等

対象が小学3年生以上のものが多いため、小学1年生以上にしてハードルを低くして欲しい。子どもは小学生だが、対象学年ではないため、お隣の草加市まで行って、車いすバスケットを実施している。埼玉県とさいたま市でバラバラに公開されているので、情報を得るのが大変である。
知的障害があるので、ルールや結果がわかりやすい競技だと取り組みやすいです。また、チームスポーツだと助け合いながらできるところが取り組みやすく感じます。
広報をしっかりとやるべき。
交通手段があること、あまりお金が掛からないこと。
難聴の子どもが取り組みやすいスポーツの種類に関する情報を知りたい。障害の無い子どもたちと一緒にプレイする際に補聴器の装用を認めて欲しい。スポーツに適した補聴器の情報を知りたい。補聴器を外してプレイしなければならない場合、どのようなことに気をつければよいか知りたい。どこに相談すれば良いかがわからない。
障害や病があっても、安心して1人で通える環境があれば良いと思う。
近隣の小中学校の体育館やグラウンド（現地及びそこまでのアクセスのしやすさといった問題もありますが）で障害者も健常者も共に参加できるイベントが多く開催されるとよいと思います。まずは楽しむことから。
あまり世話を焼き過ぎない。自由にやらせて貰える

## 参考2 アンケート調査票



## 参考2 アンケート調査票

### 1 障害者手帳所持者向けアンケート調査票

問1 あなたの年齢をお答えください。【NA】

○歳

問2 あなたの性別をお答えください。【SA】

- 1 男性
- 2 女性
- 3 回答しない

問3 あなたの居住地域をお答えください。【SA】

- 1 西区
- 2 北区
- 3 大宮区
- 4 見沼区
- 5 中央区
- 6 桜区
- 7 浦和区
- 8 南区
- 9 緑区
- 10 岩槻区

問4 あなたは、障害者手帳はお持ちですか。【MA】

※あてはまるものすべて

- 1 身体障害者手帳1級
- 2 身体障害者手帳2級
- 3 身体障害者手帳3級
- 4 身体障害者手帳4級
- 5 身体障害者手帳5級
- 6 身体障害者手帳6級
- 7 療育手帳A・A（最重度・重度）
- 8 療育手帳B・C（中度・軽度）
- 9 精神障害者保健福祉手帳1級
- 10 精神障害者保健福祉手帳2級
- 11 精神障害者保健福祉手帳3級

問5 あなたの障害の種類をお答えください。【MA】

※あてはまるものすべて

- 1 肢体不自由（日常生活で車椅子を必要とする）
- 2 肢体不自由（日常生活で車椅子を必要としない）
- 3 聴覚障害
- 4 視覚障害
- 5 音声・言語・そしゃく機能障害
- 6 内部障害
- 7 知的障害

- 8 発達障害
- 9 精神障害

問6 あなたは何歳から障害がありますか。複数の障害がある方は、最初に障害が発生した年齢をお答えください。【SA】

- 1 先天性
- 2 0～6歳
- 3 7～12歳
- 4 13～19歳
- 5 20～29歳
- 6 30～39歳
- 7 40～49歳
- 8 50～64歳
- 9 65～74歳
- 10 75歳以上

問7 【問6で、先天性と回答した人以外】障害が発生する前にあなたが運動・スポーツを行った日数を全部合わせると、1年間に何日くらいになりますか。【SA】

- 1 週に3日以上（年151日以上）
- 2 週に1～2日（年51日～150日）
- 3 月に1～3日（年12日～50日）
- 4 3か月に1～2日（年4日～11日）
- 5 年に1～3日
- 6 わからない
- 7 運動はしていない

問8 あなたは運動・スポーツをする・みる・ささえることは好きですか【SAマトリックス】

※する・みる・ささえるのそれぞれについて、1つに○

※スポーツをささえること具体例 指導者やスポーツボランティア、審判、スポーツの付添・送迎等

- 1 好き
- 2 どちらともいえない
- 3 嫌い

問9-1 【問8で、運動・スポーツをすることが「好き」と回答した人のみ】あなたが、運動・スポーツをすることが好きな理由は何ですか。【MA】

※あてはまるものすべて

- 1 体力が向上し、健康を維持できるから
- 2 ストレスが軽減され、精神的なりフレッシュができるから
- 3 新しい友人を作り、社会的なつながりを深めることができるから
- 4 達成感を得られるから
- 5 運動やスポーツそのものが楽しいから
- 6 自己成長を感じることができるから
- 7 向上心を持つことができるから
- 8 協力することの重要性を学び、チームワークを強化できるから
- 9 その他（ ）

問9-2 【問8で、運動・スポーツをすることが「嫌い」と回答した人のみ】

あなたが、運動・スポーツをすることが嫌いな理由は何ですか。【MA】

※あてはまるもの全てに○

- 1 面倒くさいから
- 2 必要性を感じないから
- 3 身体的な負担が大きいと感じるから
- 4 運動・スポーツに参加するための時間が取れず、他の活動に影響が出るから
- 5 競争や勝敗に対するプレッシャーがストレスになるから
- 6 運動・スポーツに必要な道具や施設の利用料が高く、経済的な負担が大きいから
- 7 新しい技術やルールを覚えるのが難しく、挫折感を感じるから
- 8 障害者がスポーツをすることに対する社会的な偏見や差別が存在するから
- 9 障害の影響で体力や身体の動きが限られており、思うようにプレーできないから
- 10 その他 ( )

**問9-3 【問8で、スポーツをみることが「好き」と回答した人のみ】**

**あなたが、スポーツをみるのが好きな理由は何ですか。【MA】**

※あてはまるものすべて

- 1 試合や競技の展開がスリリングで、エンターテインメントとして楽しめるから
- 2 選手の活躍に感動し、興奮することができるから
- 3 好きなチームや選手を応援することで、一体感や連帯感を感じることができるから
- 4 スポーツの技術や戦術を学び、理解を深めることができるから
- 5 試合観戦を通じて、友人や家族と交流できるから
- 6 スポーツ観戦によって、リラックスやリフレッシュができるから
- 7 その他 ( )

**問9-4 【問8で、スポーツをみることが「嫌い」と回答した人のみ】**

**あなたが、スポーツをみるのが嫌いな理由は何ですか。【MA】**

※あてはまるものすべて

- 1 スポーツそのものに興味がなく、観戦しても楽しめないから
- 2 スポーツ観戦に時間を費やすのが無駄だと感じるから
- 3 スポーツのルールや戦術が難しく理解できず、楽しめないから
- 4 スタジアムやテレビ観戦の際の騒がしい環境が苦手だから
- 5 チケット代や関連グッズの購入など、観戦に費用がかかるから
- 6 一部の過激なファンの行動や応援が不快で、観戦を楽しめないから
- 7 スタジアムなどでバリアフリー対応されていないため、観戦が大変だから
- 8 その他 ( )

**問9-5 【問8で、運動・スポーツをささえることが「好き」と回答した人のみ】**

**あなたが、運動・スポーツをささえることが好きな理由は何ですか。【MA】**

※あてはまるもの全てに○

- 1 チームや選手と喜びや達成感を共有できるから。
- 2 ボランティアに参加することや、人に教えることが好きだから。
- 3 地域やコミュニティのスポーツ活動を支援することで、社会貢献を実感できるから
- 4 サポートを通じて、自分自身も成長し、新しいスキルや知識を身につけることができるから
- 5 その他 ( )

**問9-6 【問8で、運動・スポーツをささえることが「嫌い」と回答した人のみ】**

**あなたが、運動・スポーツをささえることが嫌いな理由は何ですか。【MA】**

※あてはまるものすべて

- 1 運動・スポーツをささえることに興味・関心がないから
- 2 運動・スポーツをささえることで自分自身にメリットがあると思えないから

- 3 運動・スポーツをささえることの中に、自分にできることが見つからないから
- 4 サポート活動が体力的に厳しく、疲労やストレスが溜まるから
- 5 サポート活動に多くの時間を費やす必要があり、他の活動に影響が出るから
- 6 サポート活動にかかる費用（交通費、宿泊費、道具費など）が経済的な負担になるから
- 7 選手（する側）からのプレッシャーが大きく、精神的に負担になるから
- 8 その他（ ）

問 10 あなたご自身の、現在の運動・スポーツの実施状況について、最も近いものを選んでください。【SA】

- 1 運動・スポーツをしており、満足している
- 2 運動・スポーツをしているが、もっと行いたい
- 3 運動・スポーツをしたいと思うができない・できていない
- 4 特に運動・スポーツをすることに興味はない

問 11 あなたご自身の、運動・スポーツの実施において障壁となっているものは何ですか。【MA】

※あてはまるものすべて

- 1 障壁はなく、十分に活動できている
- 2 交通手段・移動手段がない
- 3 交通の便が良いところに施設がない
- 4 運動・スポーツをできる場所がない
- 5 施設がバリアフリーでない
- 6 施設に利用を断られる
- 7 運動・スポーツがどこでできるのか情報が得られない
- 8 どんな運動・スポーツをできるのか情報が得られない
- 9 指導者がいない
- 10 介助者がいない
- 11 仲間がいない
- 12 家族の負担が大きい
- 13 金銭的な余裕がない
- 14 時間がない
- 15 体力がない
- 16 体調に不安がある
- 17 医者に止められている
- 18 障害に適した運動・スポーツがない
- 19 やりたいと思う運動・スポーツがない
- 20 運動・スポーツが苦手である
- 21 運動・スポーツでケガをするのではないかと心配である
- 22 人の目が気になる
- 23 一緒に運動・スポーツをする人に迷惑をかけるのではないかと心配である
- 24 運動・スポーツを行うための用具がない
- 25 補装具が運動・スポーツに対応しておらず破損が心配である
- 26 感染症に対する不安
- 27 わからない
- 28 その他（ ）

問 12 あなたが運動・スポーツを行った日数を全部合わせると、1年間に何日くらいになりますか。【SA】

- 1 週に3日以上（年151日以上）
- 2 週に1～2日（年51日～150日）

- 3 月に1～3日（年12日～50日）
- 4 3か月に1～2日（年4日～11日）
- 5 年に1～3日
- 6 わからない
- 7 運動はしていない

問13 【問12で「週に3日以上（年151日以上）」「週に1～2日（年51日～150日）」「月に1～3日（年12日～50日）」「3か月に1～2日（年4日～11日）」「年に1～3日」と回答した人のみ】

あなたは、どの時間帯で運動・スポーツをしていますか。【MA】

※あてはまるものすべて

- 1 平日の午前
- 2 平日の午後（18時まで）
- 3 平日の夜間（18時～）
- 4 土・日・祝日の午前
- 5 土・日・祝日の午後（18時まで）
- 6 土・日・祝日の夜間（18時～）

問14 【問12で「週に3日以上（年151日以上）」「週に1～2日（年51日～150日）」「月に1～3日（年12日～50日）」「3か月に1～2日（年4日～11日）」「年に1～3日」と回答した人のみ】

あなたは、運動・スポーツをどこで行っていますか。【MA】

※あてはまるものすべて

- 1 障害者スポーツ専用・優先施設
- 2 福祉施設・高齢者施設
- 3 病院・リハビリテーション施設
- 4 特別支援学校
- 5 小・中・高等学校
- 6 公共スポーツ施設（障害者スポーツ専用・優先施設に該当するものを除く）
- 7 民間スポーツ施設
- 8 自宅（入所施設を含む）※現在居住している場所
- 9 公園
- 10 道路
- 11 山岳・森林・海・湖・川等の自然環境
- 12 その他（ ）

問15 【問14で「障害者スポーツ専用・優先施設」、「公共スポーツ施設（障害者スポーツ専用・優先施設に該当するものを除く）」と回答した人のみ】具体的な実施場所をお答えください。【MA】

※あてはまるものすべて

- 1 埼玉県障害者交流センター
- 2 埼玉県総合リハビリテーションセンター（健康増進施設）
- 3 市立運動場（ ）
- 4 市立体育館（ ）
- 5 市立プール（ ）
- 6 県立運動場（ ）
- 7 県立体育館（ ）
- 8 県立プール（ ）
- 9 その他（ ）

問 16 【問 12 で「週に 3 日以上（年 151 日以上）」「週に 1～2 日（年 51 日～150 日）」「月に 1～3 日（年 12 日～50 日）」「3 か月に 1～2 日（年 4 日～11 日）」「年に 1～3 日」と回答した人のみ】

あなたは、問 13 で選んだスポーツ施設（運動・スポーツ実施場所）まで、どのように移動しましたか。

【MA】

※あてはまるものすべて

- 1 （自力で）公共の交通手段で移動した
- 2 （自力で）徒歩・自転車・自家用車で移動した
- 3 家族・友人等に送迎してもらった
- 4 移動に関する支援サービスを利用した
- 5 その他（ ）

問 17 【問 12 で「週に 3 日以上（年 151 日以上）」「週に 1～2 日（年 51 日～150 日）」「月に 1～3 日（年 12 日～50 日）」「3 か月に 1～2 日（年 4 日～11 日）」「年に 1～3 日」と回答した人のみ】

あなたは、誰と運動・スポーツをしていますか。(MA)

※あてはまるものすべて

- 1 一人で
- 2 家族
- 3 友人・知人
- 4 福祉・医療施設の仲間や職員
- 5 学校の仲間や教職員
- 6 市内の障害者スポーツサークル・団体の仲間
- 7 市外の障害者スポーツサークル・団体の仲間
- 8 その他（ ）

問 18 【問 12 で「週に 3 日以上（年 151 日以上）」「週に 1～2 日（年 51 日～150 日）」「月に 1～3 日（年 12 日～50 日）」「3 か月に 1～2 日（年 4 日～11 日）」「年に 1～3 日」と回答した人のみ】あなたは、過去 1 年の間にどのような運動・スポーツを行いましたか。【MA】

※学校の部活動や休み時間の活動は含めますが、学校の授業や学校行事のキャンプやマラソン大会などは含めません。

※あてはまるものすべて

- 1 ウォーキング、散歩（散策、ペットの散歩など）
- 2 階段昇降
- 3 陸上競技（ランニング、ジョギングなどの軽い運動も含む）
- 4 体操（ラジオ体操、職場体操、ストレッチ、エアロビクス、ヨガ、ピラティス、縄跳びなど）
- 5 室内運動器具（ウエイト器具、ランニングマシン、バランスボールなど）を用いる運動
- 6 水泳・水中運動
- 7 卓球
- 8 サウンドテーブルテニス
- 9 バドミントン
- 10 フライングディスク
- 11 ボウリング
- 12 バasketボール
- 13 車いすBasketボール
- 14 バレーボール
- 15 ゴールボール
- 16 野球（キャッチボールを含む）・ソフトボール

- 17 サッカー・フットサル
- 18 車いすサッカー
- 19 ブラインドサッカー
- 20 グランドソフトボール
- 21 フットソフトボール
- 22 テニス
- 23 車いすテニス
- 24 ボッチャ
- 25 武道（柔道・剣道等）
- 26 射的（弓道、アーチェリー等）
- 27 自転車・サイクリング
- 28 スキー・スノーボード等のウインタースポーツ
- 29 その他（ ）

問19 【問12で「週に3日以上（年151日以上）」「週に1～2日（年51日～150日）」「月に1～3日（年12日～50日）」「3か月に1～2日（年4日～11日）」「年に1～3日」と回答した人のみ】

あなたが障害発生後に運動・スポーツを始めたきっかけはどのようなものですか。【MA】

※あてはまるものすべて

- 1 心身の健康増進やストレス解消等のため、自主的に始めた
- 2 家族に奨められた
- 3 （障害のある）友人・知人・同僚に奨められた
- 4 （障害のない）友人・知人・同僚に奨められた
- 5 医師に奨められた
- 6 看護師・保健師・助産師に奨められた
- 7 医療関係者等（OT、PT、ST、CO）に奨められた
- 8 義肢装具士に奨められた
- 9 介護福祉士に奨められた
- 10 社会福祉士（ソーシャルワーカー）に奨められた
- 11 スポーツ指導者に奨められた
- 12 パラスポーツ指導者・障害者スポーツ指導者に奨められた
- 13 学校の先生に奨められた
- 14 学校の授業等で興味を持ち、自主的に始めた
- 15 障害のある有名選手・パラリンピアンの影響
- 16 テレビや新聞、インターネット等の影響
- 17 漫画、ドラマ、映画等の影響
- 18 現地やテレビ等でそのスポーツを観た
- 19 所属する団体（会社等）に奨められた
- 20 スポーツ団体等の関係者から誘われた
- 21 イベントや体験会等で興味を持ち、自主的に始めた
- 22 特にきっかけはない・なんとなく
- 23 その他（ ）

問20 【問12で「週に3日以上（年151日以上）」「週に1～2日（年51日～150日）」「月に1～3日（年12日～50日）」「3か月に1～2日（年4日～11日）」「年に1～3日」と回答した人のみ】

あなたが運動・スポーツを実施する目的はどのようなものですか。【MA】

※あてはまるものすべて

- 1 健康の維持・増進のため
- 2 気分転換・ストレス解消のため
- 3 楽しみのため
- 4 友人や家族との交流のため
- 5 健常者との交流のため
- 6 体型維持・改善のため
- 7 リハビリテーションの一環として
- 8 目標や記録への挑戦のため
- 9 特にない・なんとなく
- 10 その他（ ）

問21 【問12で「週に3日以上（年151日以上）」「週に1～2日（年51日～150日）」「月に1～3日（年12日～50日）」「3か月に1～2日（年4日～11日）」「年に1～3日」と回答した人のみ】

あなたが運動・スポーツをやったことはどのようなものですか。【MA】

※あてはまるものすべて

- 1 友人が増えた
- 2 行動範囲が拡大した
- 3 周囲の理解が向上した
- 4 外出が増えた
- 5 相手の気持ちが配慮できるようになった
- 6 ストレスが解消される
- 7 自信がついた
- 8 性格が明るくなった
- 9 仕事を続ける活力になっている
- 10 体を動かすこと自体が楽しい
- 11 食事がおいしく感じ、食欲が増した
- 12 夜、熟睡できるようになった
- 13 体力・身体的機能が向上した
- 14 勝利や記録が出たときに嬉しい
- 15 目標が達成できた、やりたいことに挑戦できた
- 16 特にない
- 17 その他（ ）

問22 【問12で「運動はしていない」と回答した人のみ】

あなたが運動・スポーツを実施しない理由についてお答えください。【MA】

※あてはまるものすべて

- 1 運動・スポーツが嫌いである
- 2 運動・スポーツに興味が無いから
- 3 障害が発生してから、運動・スポーツをやってみる機会がなかったから
- 4 障害が発生してから、運動・スポーツをする機会があったが、あまり楽しくなかったから
- 5 人前に出るのが好きではないから
- 6 自分にはできないから
- 7 疲れるから
- 8 体調がよくなかったから
- 9 医師から止められていたから
- 10 やれる環境になかったから

- 11 家族や介助者等の負担になると思ったから
- 12 汗や土で体や衣服が汚れるから
- 13 実施する意味・価値を感じないから
- 14 学校の体育等で嫌いになった
- 15 格好悪いから
- 16 青少年期に所属した運動部活動・民間クラブで嫌な思いをした
- 17 スポーツ用具の購入やスポーツ施設の利用などにお金がかかるから
- 18 自宅周辺に運動・スポーツができる場所がないから
- 19 スポーツ施設の環境（設備など）が整っていないから
- 20 施設によって実施できる競技に制限があり、やりたい競技ができないから
- 21 特に理由はない
- 22 わからない
- 23 その他（            ）

**問 23 【問 12 で「運動はしていない」と回答した人のみ】**

**あなたが運動・スポーツを実施しない理由についてお答えください。【MA】**

※あてはまるものすべて

- 1 音楽鑑賞・演奏（カラオケ、楽器演奏など）
- 2 映画・ドラマ鑑賞
- 3 読書
- 4 絵画・書道・手芸などの創作活動
- 5 ゲーム（スマホゲーム、テレビゲーム、カードゲームなど）
- 6 ガーデニング・園芸
- 7 旅行
- 8 ショッピング
- 9 温泉・スパ
- 10 特に何もしていない
- 11 その他（            ）

**問 24 あなたが、今後やってみたい、または今後も続けたい運動・スポーツは何ですか。【MA】**

※あてはまるものすべて

- 1 ウォーキング、散歩（散策、ペットの散歩など）
- 2 階段昇降
- 3 陸上競技（ランニング、ジョギングなどの軽い運動も含む）
- 4 体操（ラジオ体操、職場体操、ストレッチ、エアロビクス、ヨガ、ピラティス、縄跳びなど）
- 5 室内運動器具（ウエイト器具、ランニングマシン、バランスボールなど）を用いる運動
- 6 水泳・水中運動
- 7 卓球
- 8 サウンドテーブルテニス
- 9 バドミントン
- 10 フライングディスク
- 11 ボウリング
- 12 バasketボール
- 13 車いすBasketボール
- 14 バレーボール
- 15 ゴールボール

- 16 野球（キャッチボールを含む）・ソフトボール
- 17 サッカー・フットサル
- 18 車いすサッカー
- 19 ブラインドサッカー
- 20 グランドソフトボール
- 21 フットソフトボール
- 22 テニス
- 23 車いすテニス
- 24 ボッチャ
- 25 武道（柔道・剣道等）
- 26 射的（弓道、アーチェリー等）
- 27 自転車・サイクリング
- 28 スキー・スノーボード等のウインタースポーツ
- 29 特にない
- 30 その他（                    ）

問 25 あなたは、過去 1 年間にスポーツを観戦したことがありますか。※アマチュアスポーツを含む 【MA】

※あてはまるものすべて

- 1 埼玉県内で直接（スタジアム・体育館・浴道など）観戦した
- 2 埼玉県外で直接（スタジアム・体育館・浴道など）観戦した
- 3 テレビ・ラジオ・インターネット配信等で観戦した
- 4 観戦しなかった

問 26 【問 25 で「埼玉県内で直接（スタジアム・体育館・浴道など）観戦した」「埼玉県外で直接（スタジアム・体育館・浴道など）観戦した」「テレビ・ラジオ・インターネット配信等で観戦した」と回答した人のみ】あなたがスポーツを観戦したのはどのような理由からですか。【MA】

※あてはまるものすべて

- 1 そのスポーツが好きだから
- 2 そのスポーツをしている（していた）から
- 3 応援しているチーム・選手がいるから
- 4 暇つぶしのため
- 5 ストレス発散のため
- 6 家族や友人に誘われたから
- 7 家族・友人が出場していたから
- 8 実施場所が近所だったから
- 9 学校や施設のイベントだったから
- 10 特にない
- 11 その他（                    ）

問 27 どのような取組・工夫があれば、あなたはスポーツを実際に（さらに）観戦してみようと思いますか。

【MA】

※あてはまるものすべて

- 1 大会に関する詳しい情報があれば
- 2 ルールや解説が実況で聞ければ
- 3 ルールや解説の実況について、聴覚障害者への情報保障があれば（手話通訳、大型ビジョンに字幕がある等）
- 4 ルールや解説の実況について、視覚障害者にわかるような詳しい解説があれば

- 5 大会が自宅などから行きやすい場所で開催されれば
- 6 落ち着いて観戦できる区画された席があれば
- 7 入場料・観戦料が無料又は廉価であれば
- 8 スポーツの体験会が同時開催されれば
- 9 スポーツ以外のイベント・祭りなどが同時開催されれば
- 10 家族や友人・知人に誘われれば
- 11 会場内・周辺の混雑・渋滞等が解消されれば
- 12 会場までのアクセスがバリアフリーであれば
- 13 わからない
- 14 観戦するつもりはない
- 15 その他（ ）

**問 28 あなたはeスポーツをしたことがありますか。【MA】**

※あてはまるものすべて

※e スポーツとは球技や格闘技などの対戦型コンピューターゲームで勝敗を競うスポーツのことをいいます。

- 1 e スポーツをしたことがある
- 2 e スポーツを観戦したことがある
- 3 どちらもない

**問 29 あなたはマインドスポーツをしたことがありますか。【MA】**

※あてはまるものすべて

※囲碁や将棋、チェスなどが該当します。

- 1 マインドスポーツをしたことがある
- 2 マインドスポーツを観戦したことがある
- 3 どちらもない

**問 30 【問 12 で「週に3日以上（年 151 日以上）」「週に1～2日（年 51 日～150 日）」「月に1～3日（年 12 日～50 日）」「3か月に1～2日（年 4 日～11 日）」「年に1～3日」と回答した人のみ】**

あなたは、過去1年間で障害のない方と一緒に運動・スポーツを実施したことはありますか。【SA】

- 1 実施したことがある
- 2 実施したことがない

**問 31 【問 30 で「実施したことがある」と回答した人のみ】**

あなたが、過去1年間で、一緒に運動・スポーツをした障害のない方についてお答えください。【MA】

※あてはまるものすべて

- 1 家族
- 2 友人
- 3 クラブ・サークル等の仲間
- 4 クラブ・サークル等の指導者
- 5 イベント等での面識のない他の参加者
- 6 イベントや大会ボランティアスタッフ
- 7 学校関係者
- 8 公共スポーツ施設の職員
- 9 放課後等デイサービスや福祉施設の職員
- 10 医療関係者
- 11 （上記以外の）介助者
- 12 その他（ ）

問 32 東京 2020 大会によって、障害の有無に関係なく、誰もが一緒に運動・スポーツ（インクルーシブスポーツ）を楽しむ機運が醸成されました。今後さいたま市が、インクルーシブスポーツを推進するためには何が必要だと思いますか。【MA】

※あてはまるものすべて

- 1 一般社会に対する障害者スポーツの普及・啓発
- 2 障害者が一般スポーツに参画しやすい工夫（新たなルールの導入等）
- 3 一般スポーツと障害者スポーツの双方を指導できる人材の育成
- 4 デジタル技術の活用など、現地参加が難しい人への対応・配慮
- 5 障害者と健常者が共に参加できるスポーツイベントの開催
- 6 様々なインクルーシブスポーツに取り組む団体・サークル等の増加
- 7 わからない
- 8 その他（ ）

問 33 さいたま市内では、さまざまな障害者スポーツ教室・イベントを開催しています。参加したことがあるものを教えてください。【MA】

※あてはまるものすべて

- 1 障害者陸上教室
- 2 障害者野球教室
- 3 障害者サッカー教室
- 4 障害者バスケットボール教室
- 5 障害者車いすバスケットボール教室
- 6 障害者バレーボール教室
- 7 障害者水泳教室
- 8 障害者卓球バレー教室
- 9 障害者ボウリング教室
- 10 アーチェリー教室
- 11 トランポリン教室
- 12 サウンドテーブルテニス教室
- 13 ダンス教室
- 14 ボッチャ体験（障害者福祉施設みのり園）
- 15 e スポーツ体験（障害者福祉施設みのり園）
- 16 障害者向け余暇活動ストレッチ講座
- 17 手話応援
- 18 ノーマライゼーションカップ（ブラインドサッカー大会）及び大会での障害者スポーツ体験会
- 19 市民のつどい 障害者スポーツ体験ブース
- 20 さいたまマラソン（車いすの部）
- 21 参加したことがない
- 22 その他（ ）

問 34 あなたは、さいたま市のスポーツ情報をどこで入手していますか。【MA】

※あてはまるものすべて

- 1 家族
- 2 友人
- 3 学校や職場、施設の人
- 4 クラブやサークルの人（仲間、指導者）
- 5 ホームヘルパー、ガイドヘルパーなどの支援者

- 6 医師や看護師、理学療法士、作業療法士などの医療関係者
- 7 市報さいたま
- 8 市のホームページ
- 9 回覧板や掲示板
- 10 市の公式LINE
- 11 障害者団体の会合や機関誌
- 12 特に入手していない
- 13 その他（ ）

問 35 あなたは、どのような内容のスポーツ教室・イベントであれば参加してみたいと思いますか。【MA】

※あてはまるものすべて

- 1 健康づくり（体力づくり）が中心の教室
- 2 スポーツ技術の向上を目的とした教室
- 3 ルール等の知識や考え方を学ぶことができる教室
- 4 親子・家族で楽しめるスポーツ教室・イベント
- 5 世代を超えて楽しめるスポーツ教室・イベント
- 6 障害のない人と一緒に楽しめるスポーツ教室・イベント
- 7 特にない
- 8 その他（ ）

問 36 障害者がスポーツに取り組みやすい環境を整えるために必要なことなど、何でも結構ですので、ご意見をお聞かせください。【FA】

（ ）

## 2 スポーツ施設向けアンケート調査票

問1 施設名をお答えください。

( )

問2 施設種別をお答えください。【SA】

- 1 公共施設（スポーツ施設）
- 2 公共施設（コミュニティセンター）
- 3 公共施設（公民館）
- 4 民間施設

問3 施設の所在地（住所）を教えてください。

( )

問4 施設の運営形態をお答えください。【SA】

- 1 直営
- 2 包括業務委託
- 3 指定管理者制度（利用料金制度）
- 4 指定管理者制度（利用料金制度以外）
- 5 PFI
- 6 民間施設であり上記のいずれにも該当しない
- 7 その他（ )

問5 【問4で「直営」、「包括業務委託」、「指定管理者制度（利用料金制度）」、「指定管理者制度（利用料金制度以外）」、「PFI」、「民間施設であり上記のいずれにも該当しない」、「その他（ )」と回答した人のみ】施設運営者名をお答えください。

( )

問6 （各資格、ありの場合は人数を記入）運営人員のうち、障害者スポーツ指導に関する資格保有者数をお答えください。【MA】

※あてはまるものすべて

- 1 日本パラスポーツ協会公認初級パラスポーツ指導員（ ）人
- 2 日本パラスポーツ協会公認中級パラスポーツ指導員（ ）人
- 3 日本パラスポーツ協会公認上級パラスポーツ指導員（ ）人
- 4 日本パラスポーツ協会公認スポーツコーチ（ ）人
- 5 日本パラスポーツ協会公認スポーツトレーナー（ ）人
- 6 日本レクリエーション協会公認福祉レクワーカー（ ）人
- 7 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者（ ）人

問7 駐車場台数をお答えください。

一般駐車場（ ）台

障害者等専用駐車場（ ）台

問8 バリアフリートイレの個数をお答えください。

( ) 個

問9 施設での障害のある方の受け入れの有無についてお答えください。【SA】

- 1 受け入れている
- 2 受け入っていない。

問9-1 【問9で「受け入れている」と回答した方のみ】直近3年間で、障害者スポーツに関する施設利用があった内容についてお答えください。【MA】

※あてはまるものすべて

※スポーツ種別は問いません。

- 1 競技大会の会場利用（全国・県）
- 2 競技大会の会場利用（市町・地域）
- 3 アスリーの個人練習
- 4 クラブチーム等の団体練習
- 5 一般の個人の利用
- 6 一般の団体の利用
- 7 障害者スポーツのイベント（教室・体験会等）会場利用
- 8 指導者講習・研修の会場利用
- 9 ボランティア講習・研修の会場利用
- 10 その他（ ）

問9-2 【問9で「受け入れている」と回答した方のみ】昨年度（2024年度）、利用があったの主な種目についてお答えください。【MA】

※あてはまるものすべて

- 1 陸上競技
- 2 体操（ストレッチ、エアロビクス、ヨガ、ピラティス、縄跳びなど）
- 3 室内運動器具（ウエイト器具、ランニングマシン、バランスボールなど）を用いる運動
- 4 水泳・水中運動
- 5 卓球
- 6 サウンドテーブルテニス
- 7 バドミントン
- 8 フライングディスク
- 9 ボウリング
- 10 バasketボール
- 11 車いすBasketボール
- 12 バレーボール
- 13 ゴールボール
- 14 野球・ソフトボール
- 15 サッカー・フットサル
- 16 車いすサッカー
- 17 ブラインドサッカー
- 18 グランドソフトボール
- 19 フットソフトボール
- 20 テニス
- 21 車いすテニス
- 22 ボッチャ
- 23 武道（柔道・剣道等）
- 24 射的（弓道、アーチェリー等）
- 25 ダンス
- 26 車いすダンス
- 27 レクリエーション
- 28 その他（ ）

問9-3 【問9で「受け入っていない」と回答した方のみ】施設で障害のある方を受け入っていない理由についてお答えください。【MA】

※あてはまるものすべて

- 1 施設・設備のバリアフリーが不十分であるため
- 2 施設・設備のバリアフリーは一定程度あるが、障害のある方から利用の申し込みがないため
- 3 施設・設備のバリアフリーは一定程度あるが、障害のない人の団体・個人利用が多く、予約が出来ない状態が続いているため
- 4 スタッフの対応ノウハウや障害に関する知識が不足しているため
- 5 障害者スポーツに関する企画・運営ノウハウが不足しているため
- 6 障害者スポーツの専門的な指導者がいないため
- 7 障害者スポーツの用具が不足しているため
- 8 相談できる連携先（医療・福祉機関等）がないため
- 9 その他（ ）

問 10 施設利用者（障害のある方・関係者の方）から、施設に寄せられたことのある意見についてお答えください。（FA）

（ ）

問 11 今後の施設での障害のある方の受け入れの考えについて、お答えください。【SA】

- 1 障害者スポーツ大会の開催も含め、積極的に受け入れたい
- 2 障害者スポーツ大会は開催できないが、団体・個人利用等で積極的に受け入れたい
- 3 個々のニーズや状況に応じて、適切な配慮をもって受け入れを検討する
- 4 今後も受け入れる予定はない
- 5 その他（ ）

問 12 施設スタッフの障害についての理解度についてお答えください。【SA】

- 1 障害種別や名前は知っている
- 2 障害種別や名前に加え、障害特性についても知っている
- 3 まったく、あるいは、ほとんど知らない

問 13 施設スタッフの合理的配慮についての理解度についてお答えください。【SA】

- 1 「合理的配慮」という言葉を聞いたことがある
- 2 「合理的配慮」を施設内で既に行っている
- 3 まったく、あるいは、ほとんど知らない

問 14 【ハード面】現在施設で実施している、あるいは、すでに備えられている合理的配慮についてお答えください。【MA】

※あてはまるものすべて

- 1 施設が障害者スポーツ利用を想定して設計されている（衝撃吸収する床・壁の採用、プール内スロープ等）
- 2 施設内のバリアフリー化をしている（スロープ、エレベーター、点字ブロック等）
- 3 施設外のバリアフリー化をしている（障害者等専用駐車場の設置、雨に濡れない動線の確保等）
- 4 館内表示・デザインの工夫をしている（フリガナや点字付きの案内表示、ピクトグラム等の活用等）
- 5 利用者の特性やプライバシーに配慮した更衣室がある（広い空間や幅の確保、異性の介助者と利用が可能等）
- 6 バリアフリースイレがある
- 7 障害者スポーツ用具がある（購入、行政や施設から借用等）
- 8 直接来館や電話以外の予約方法を確保している
- 9 現状、取り組んでいることはない
- 10 その他（ ）

問 15 【ソフト面】施設の運営管理に携わるスタッフがすでに対応していること、あるいは、現在実施している合理的配慮についてお答えください。【MA】

※あてはまるものすべて

- 1 利用予約等の手続きのサポートをしている
- 2 館内利用・移動時のサポートをしている（手話・筆記対応、昇降サポート等）
- 3 スポーツ実施時のサポートをしている（備品の出し入れを手伝う、練習相手になる等）
- 4 サポートツールを用意している（筆談ボード、イヤーマフ等）
- 5 施設内の安全性を確保している（支障物の排除、こまめな床掃除 等）
- 6 緊急・非常時への対応を想定している（利用者家族の連絡先把握、避難時の個別対応想定 等）
- 7 施設利用やスポーツ実施において、わかりやすく伝える工夫をしている
- 8 障害のある方に向けた分かりやすい情報発信をしている（広報誌、インターネット、SNS 等）
- 9 現状、取り組んでいることはない
- 10 その他（ ）

問 16 障害のある方の受け入れや対応等に関するマニュアルを知っていますか。【SA】

- 1 埼玉県「障害者スポーツ受入マニュアル」等を知っており、活用したことがある
- 2 埼玉県「障害者スポーツ受入マニュアル」等を知っているが、活用したことはない
- 3 県以外が作成したマニュアルやガイドブック等を知っており、活用したことがある
- 4 県以外が作成したマニュアルやガイドブック等を知っているが、活用したことはない
- 5 まったく、あるいは、ほとんど知らない
- 6 その他（ ）

問 17 施設の障害者スポーツの優先利用の状況や取り決め・ルールについてお答えください。【MA】

※あてはまるものすべて

- 1 障害者スポーツ利用に用途を限定した予約枠（曜日・時間帯）を設定している
- 2 障害者スポーツ利用の場合、通常よりも早い時期から予約できるようにしている
- 3 予約が重複した場合に、障害者スポーツ利用を優先している
- 4 障害者スポーツ利用の場合、施設使用料の減免を設けている（減額）
- 5 障害者スポーツ利用の場合、施設使用料の減免を設けている（全額免除）
- 6 施設使用料の減免を設けている（減額）
- 7 障害者スポーツ利用を優先する取り決め・ルールは特にない
- 8 その他（ ）

問 18 施設として、今後、障害者スポーツに関して特に取り組みたい内容についてお答えください。【MA】

※あてはまるもの最大3つまで

- 1 ハード面のバリアフリー
- 2 ソフト面（予約・利用上の制度、ルール、運用・制度面）のバリアフリー
- 3 ソフト面（スタッフの対応、接遇）のバリアフリー
- 4 障害者スポーツ用具の充実
- 5 イベント教室の充実
- 6 人材育成・確保
- 7 施設へのアクセスの改善（移動支援等）
- 8 施設および施設利用、イベント等の情報提供
- 9 連携先探し、既存連携先との関係強化
- 10 埼玉県「障害者スポーツ受入マニュアル」にもとづく管理・運営・接遇
- 11 その他（ ）

問 19 さいたま市内の障害者スポーツの実施場所・環境に関して、市に期待する事業・取組をお答えください。

【MA】

※あてはまるもの最大3つまで

- 1 施設における合理的配慮に関する相談
- 2 情報保障（手話通訳・要約筆記等）に関する人材派遣支援
- 3 障害者スポーツ支援・指導ができるスタッフ・指導者・ボランティアの派遣支援
- 4 障害の種類・程度、目的に応じたスポーツ事業・プログラムの実施
- 5 障害の種類・程度、目的に応じたスポーツ事業・プログラムに関する情報提供
- 6 施設スタッフの資質向上のための人材育成（研修の提供等）
- 7 障害者スポーツ用具の常設・貸出
- 8 ハード面のバリアフリー化の支援
- 9 施設予約および利用をしてもらいやすくする支援（予約調整方法の変更、施設の稼働率が低い曜日・時間帯等を市が障害者スポーツ利用枠として借り上げる形で障害者等に提供 等）
- 10 施設へのアクセスの改善（移動支援等）
- 11 障害者スポーツに関する情報発信、普及啓発・理解の醸成
- 12 障害者スポーツ推進のための地域ネットワーク（医療・福祉機関、企業、スポーツチーム、学校等）構築の先導的役割
- 13 その他（ ）

問 20 障害者の受け入れ実態等を、より深く詳細に把握するために、いくつかの団体に対して、個別にヒアリングを実施することを予定しております。もし、貴施設がヒアリング対象に選ばれた場合、ご協力いただけますでしょうか。【SA】

- 1 はい
- 2 いいえ

【問 20 で「はい」と回答した方のみ】ご担当者様のお名前とお電話番号を教えてください。

お名前（ ）

お電話番号（ ）

### 3 スポーツ団体向けアンケート調査票

問1 団体名をお答えください。

( )

問2 団体種別をお答えください。【SA】

- 1 障害者スポーツ協会加盟団体
- 2 上記以外のスポーツ団体
- 3 レクリエーション団体
- 4 総合型地域スポーツクラブ
- 5 その他 ( )

問3 団体の所在地(住所)をお答えください。

( )

問4 団体人員数をお答えください。

( )人

問5 (各資格、ありの場合は人数を記入) 運営人員のうち、障害者スポーツ指導に関する資格保有者数をお答えください。【MA】

※あてはまるものすべて

- 1 日本パラスポーツ協会公認初級パラスポーツ指導員 ( )人
- 2 日本パラスポーツ協会公認中級パラスポーツ指導員 ( )人
- 3 日本パラスポーツ協会公認上級パラスポーツ指導員 ( )人
- 4 日本パラスポーツ協会公認スポーツコーチ ( )人
- 5 日本パラスポーツ協会公認スポーツトレーナー ( )人
- 6 日本レクリエーション協会公認福祉レクワーカー ( )人
- 7 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者 ( )人

問6 団体の主な活動場所・利用施設名をお答えください。

( )人

問7 団体の主な活動内容をお答えください。【MA】

※あてはまるものすべて

- 1 イベント
- 2 練習
- 3 教室
- 4 大会
- 5 その他 ( )

問8 団体で実施しているスポーツ・レクリエーション等の内容をお答えください。【MA】

※あてはまるものすべて

- 1 陸上競技
- 2 水泳・水中運動
- 3 卓球・サウンドテーブルテニス
- 4 バドミントン
- 5 フライングディスク
- 6 バスケットボール・車いすバスケットボール
- 7 バレーボール
- 8 ゴールボール
- 9 サッカー・車いすサッカー・ブラインドサッカー・フットサル

- 10 野球・ソフトボール
- 11 テニス・車いすテニス
- 12 ボッチャ
- 13 武道（柔道・剣道等）
- 14 射的（弓道、アーチェリー等）
- 15 体操・軽運動・筋力トレーニング等
- 16 レクリエーション
- 17 その他（ ）

問9 団体での障害のある方の受け入れの有無についてお答えください。【SA】

- 1 障害の有無にかかわらず誰でも参加可能
- 2 障害のある方のみ参加可能（障害の種類にかかわらず誰でも）
- 3 障害のある方のみ参加可能（特定の障害の方のみ）
- 4 受け入れていない
- 5 その他（ ）

問9-1 【問9で「障害のある方のみ参加可能（特定の障害の方のみ）」と回答した方のみ】

団体活動に参加している方の障害の種類、あるいは、受け入れが可能な障害の種類をお答えください。

※あてはまるものすべて

- 1 肢体不自由（日常生活で車椅子を必要とする）
- 2 肢体不自由（日常生活で車椅子を必要としない）
- 3 聴覚障害
- 4 視覚障害
- 5 音声・言語・そしゃく機能障害
- 6 内部障害
- 7 知的障害
- 8 発達障害
- 9 精神障害
- 10 その他（ ）

問9-2 【問9で「受け入れていない」と回答した方のみ】団体で、障害のある方の受け入れを行っていない理由について、お答えください。

- 1 活動できる施設がないため
- 2 活動施設はあるが、該当施設のバリアフリーが不十分であるため
- 3 活動施設はあるが、障害のない人の団体・個人利用が多く、諸室の予約が出来ない状態が続いているため
- 4 団体運営者やメンバー等の対応ノウハウや障害に関する知識が不足しているため
- 5 障害者スポーツ・レクリエーションに関する企画・運営ノウハウが不足しているため
- 6 障害者スポーツ・レクリエーションの専門的な指導者がいないため
- 7 障害者スポーツ・レクリエーションの用具が不足しているため
- 8 相談できる連携先（医療・福祉機関等）がないため
- 9 団体として受け入れは可能だが、障害のある方からの参加申し込みがないため
- 10 その他（ ）

問10 団体活動の参加対象者の年齢をお答えください。【SA】

- 1 大人・子ども（高校生以下）
- 2 大人のみ
- 3 子ども（高校生以下）のみ

4 その他 ( )

問 11 障害のある方・関係者の方から、団体に寄せられたことのある意見についてお答えください。【FA】

( )

問 12 今後の団体での障害のある方の受け入れの考えについて、お答えください。

- 1 積極的に受け入れたい
- 2 個々のニーズや状況に応じて、適切な配慮をもって受け入れを検討する
- 3 今後も受け入れる予定はない
- 4 その他 ( )

問 13 団体スタッフ・メンバーの障害についての理解度についてお答えください。【SA】

- 1 障害種別や名前は知っている
- 2 障害種別や名前に加え、障害特性についても知っている
- 3 まったく、あるいは、ほとんど知らない

問 14 団体スタッフ・メンバーの合理的配慮についての理解度についてお答えください。【SA】

- 1 「合理的配慮」という言葉を聞いたことがある
- 2 「合理的配慮」を施設内で既に行っている
- 3 まったく、あるいは、ほとんど知らない

問 15 団体スタッフ・メンバーがすでに対応していること、あるいは、現在実施している合理的配慮についてお答えください。

※あてはまるものすべて

- 1 活動に必要な手続きのサポートをしている（保険、施設への申請 等）
- 2 施設利用・移動時のサポートをしている（必要に応じた更衣やトイレ、昇降時のサポート 等）
- 3 活動実施時のサポートをしている（備品の出し入れを手伝う、練習相手になる等）
- 4 施設内の安全性を確認している（支障物の排除 等）
- 5 緊急・非常時への対応を想定している（利用者家族の連絡先把握、避難時の対応想定 等）
- 6 活動実施時やコミュニケーションにおいて、わかりやすく説明・指導するようにしている
- 7 障害のある方に向けた団体活動の分かりやすい情報発信をしている（広報誌、インターネット、SNS 等）
- 8 障害者スポーツ・レクリエーション用具がある（購入、行政や施設から借用等）
- 9 現状、取り組んでいることはない
- 10 その他 ( )

問 16 障害のある方の受け入れや対応等に関するガイドブックを知っていますか。【SA】

- 1 公益財団法人日本レクリエーション協会発行「地域スポーツクラブへの障がい者スポーツの導入 ガイドブック」等を知っており、活用したことがある
- 2 公益財団法人日本レクリエーション協会発行「地域スポーツクラブへの障がい者スポーツの導入 ガイドブック」等を知っているが、活用したことはない
- 3 その他のマニュアルやガイドブック等を知っており、活用したことがある
- 4 その他のマニュアルやガイドブック等を知っているが、活用したことはない
- 5 まったく、あるいは、ほとんど知らない
- 6 その他 ( )

問 17 さいたま市内の障害者スポーツの実施場所・環境に関して、市に期待する事業・取組をお答えください。

※あてはまるもの最大3つまで

- 1 合理的配慮に関する相談
- 2 情報保障（手話通訳・要約筆記等）に関する人材派遣支援
- 3 障害者スポーツ・レクリエーション支援・指導ができるスタッフ・指導者・ボランティアの派遣支援

- 4 障害の種類・程度、目的に応じたスポーツ・レクリエーション事業、プログラムの実施
- 5 障害の種類・程度、目的に応じたスポーツ・レクリエーション事業、プログラムに関する情報提供
- 6 団体スタッフ・メンバーの資質向上のための人材育成の支援（研修の提供等）
- 7 障害者スポーツ・レクリエーション用具の貸出
- 8 障害者スポーツ・レクリエーション利用が可能な施設に関する情報提供
- 9 障害者スポーツ・レクリエーション利用が可能な公共および民間施設の予約および利用をしやすい支援（予約調整方法の変更、施設の稼働率が低い曜日・時間帯等を市が障害者スポーツ利用枠として借り上げる形で障害者等に提供 等）
- 10 施設へのアクセスの改善（移動支援等）
- 11 障害者スポーツ・レクリエーションに関する情報発信、普及啓発・理解の醸成
- 12 障害者スポーツ・レクリエーション推進のための地域ネットワーク（医療・福祉機関、企業、スポーツチーム、学校等）構築の先導的役割
- 13 その他（ ）

問 18 障害者の受け入れ実態等を、より深く詳細に把握するために、いくつかの団体に対して、個別にヒアリングを実施することを予定しております。もし、貴団体がヒアリング対象に選ばれた場合、ご協力いただけますでしょうか。【SA】

- 1 はい
- 2 いいえ

問 19 【問 18 で「はい」と回答した方のみ】ご担当者様のお名前とお電話番号を教えてください。

お名前（ ）

お電話番号（ ）

#### 4 特別支援学校・特別支援学級向けアンケート調査票

##### 問1 学校・学級名【SA】

- 1 特別支援学校 ( ) 例：浦和特別支援学校
- 2 特別支援学級 ( ) 例：さいたま市立〇〇小学校

##### 問2 学校(学級)・障害種別【MA】

- 1 視覚障害
- 2 聴覚障害
- 3 知的障害
- 4 肢体不自由
- 5 病弱・身体虚弱
- 6 その他 ( )

##### 問3 【問1で「特別支援学校」と回答した方のみ】学部タイプ【SA】

- 1 幼稚部・小学部・中学部・高等部・高専
- 2 幼稚部・小学部・中学部・高等部
- 3 小学部・中学部・高等部
- 4 幼稚部・小学部・中学部
- 5 幼稚部・小学部
- 6 小学部・中学部
- 7 中学部・高等部
- 8 幼稚部のみ
- 9 小学部のみ
- 10 中学部のみ
- 11 高等部のみ
- 12 その他 ( )

##### 問4 【問1で「特別支援学校」と回答した方のみ】幼児・児童・生徒数【SA】

- 幼稚部 ( )  
小学部 ( )  
中学部 ( )  
高等部 ( )  
高専別 ( )
- 1 10人以下
  - 2 11～49人
  - 3 50～99人
  - 4 100～199人
  - 5 200～299人
  - 6 300人以上

##### 問5 【問1で「特別支援学級」と回答した方のみ】特別支援学級の人数【SA】

- 1 5人以下
- 2 6～10人
- 3 11～19人
- 4 20～29人
- 5 30人以上

##### 問6 体育の授業以外における運動・スポーツ実施の有無

- 1 実施している
- 2 実施していない

**問7 【問6で「実施している」と回答した方のみ】 体育の授業以外における運動・スポーツ機会の内容【MA】**

<校内>

- 1 運動部活動やクラブ活動
- 2 同じ敷地内の障害のない小中高生の運動部活動への参加
- 3 学校の運動会・体育祭やマラソン大会など
- 4 夏休み等のプール指導
- 5 彩の国ふれあいピックなどのスポーツの大会に向けた期間限定の練習会
- 6 その他の校内での活動

<校外>

- 7 移動教室や遠足、修学旅行等でのスポーツ
- 8 公共のプールや障害者スポーツセンターなど、施設に出かけて行うスポーツ
- 9 彩の国ふれあいピックなどのスポーツの大会への参加
- 10 その他の校外活動

<地域>

- 11 近隣住民とのスポーツを通じた交流
- 12 近隣や同じ敷地内の障害のない幼小中高生とのスポーツを通じた交流
- 13 他の特別支援学校・学級とのスポーツを通じた交流
- 14 地域のスポーツクラブ（プロ・アマチュア問わず）との交流
- 15 その他の地域での活動等

**問8 【問6で「実施している」と回答した方のみ】 体育の授業以外で運動・スポーツに取り組む目的【MA】**

- 1 幼児・児童・生徒の健康の維持・増進のため
- 2 幼児・児童・生徒の気分転換・ストレス解消のため
- 3 学校や学級の友人との交流を深めるため
- 4 障害のない方との交流を深めるため
- 5 他の特別支援学校・学級や地域との交流を深めるため
- 6 幼児・児童・生徒のリハビリテーションの一環として
- 7 幼児・児童・生徒の目標や記録への挑戦のため
- 8 特にない・なんとなく
- 9 その他（ ）

**問9 【問6で「実施している」と回答した方のみ】 体育の授業以外で運動・スポーツに取り組むことで期待している効果【MA】**

- 1 幼児・児童・生徒の友人が増加すること
- 2 幼児・児童・生徒の行動範囲が拡大すること
- 3 幼児・児童・生徒に対する周囲の理解が向上すること
- 4 幼児・児童・生徒が相手の気持ちを配慮できるようになること
- 5 幼児・児童・生徒のストレスが解消されること
- 6 幼児・児童・生徒が自信をつけること
- 7 幼児・児童・生徒の性格が明るくなること
- 8 幼児・児童・生徒の体力・身体的機能が向上すること
- 9 幼児・児童・生徒が目標達成に向けて、挑戦すること
- 10 特にない
- 11 その他（ ）

問 10 【問 6 で「実施していない」と回答した方のみ】実施していない理由【MA】

- 1 授業の内容を超えた専門的な内容を教えることができる指導者がいない
- 2 体育以外のスポーツを行うための施設や用具が不足している
- 3 特別な配慮が必要な幼児・児童・生徒に対して、安全にスポーツを行うための環境整備が難しい。
- 4 幼児・児童・生徒の健康状態や障害の特性により、運動・スポーツ実施が難しい
- 5 幼児・児童・生徒の興味や関心がスポーツ以外の活動に向いている
- 6 他の教育活動や療育活動に時間が割かれており、スポーツ活動に充てる時間が確保できない
- 7 体育の授業以外に課外活動として、運動・スポーツを盛り込むための予算が不足している
- 8 幼児・児童・生徒のニーズに合ったスポーツプログラムがない
- 9 スポーツ活動に対して、保護者の理解や協力が不足している
- 10 その他（ ）

問 11 【問 1 で「特別支援学校」と回答した方のみ】運動部・クラブの有無【SA】

- 1 運動部・クラブがある（部員総数 約 人）
- 2 運動部・クラブがない

問 12 【問 11 で「運動部・クラブがある」と回答した方のみ】実施種目【MA】

- 1 陸上競技
- 2 サッカー（ブラインドサッカーを含む）
- 3 ハンドサッカー
- 4 野球（ティボールを含む）
- 5 フットベースボール
- 6 ソフトボール
- 7 グランドソフトボール
- 8 バスケットボール
- 9 バレーボール（ソフトバレーを含む）
- 10 バドミントン
- 11 卓球
- 12 サウンドテーブルテニス
- 13 水泳
- 14 ボッチャ
- 15 武道（柔道・剣道等）
- 16 その他（ ）

問 13 【問 11 で「運動部・クラブがある」と回答した方のみ】指導者・サポートスタッフの状況【MA】

- 1 教職員
- 2 他校の教職員・退職教職員
- 3 児童・生徒（卒業生を含む）の保護者
- 4 卒業生
- 5 ボランティアの方
- 6 その他（ ）

問 14 卒業生の運動・スポーツ習慣継続のための取組の有無【SA】

- 1 実施している
- 2 実施していない

問 15 【問 14 で「実施している」と回答した方のみ】実施内容【MA】

- 1 卒業生が運動部活動・クラブ活動に練習参加することを認めている
- 2 卒業生を対象としたスポーツ大会や交流イベントを定期的で開催している

- 3 卒業生スポーツクラブやサークルを設立し、活動を支援している
- 4 地域のスポーツ施設と連携し、卒業生が利用しやすい環境を整えている
- 5 地域のスポーツ団体と協力し、卒業生が参加できるプログラムやイベントを提供している
- 6 在学中からスポーツ団体や施設の利用を促し、卒業後も引き続きスポーツを続けられる環境を整えている
- 7 卒業生に向けて引き続きスポーツが続けられるように障害者スポーツ団体やスポーツができる場所などの情報提供を行っている
- 8 その他（ ）

**問 16 【問 15 で「実施していない」と回答した方のみ】実施していない理由【MA】**

- 1 学校側の予算の制約や人員不足により、十分にサポートできない
- 2 卒業生が広範囲に分散している場合、地域ごとに適切な支援を提供することが難しい
- 3 卒業後の卒業生の状況やニーズを把握するための情報が不足しているため、適切な支援が提供できない
- 4 特別支援学校・学級の役割が卒業後の支援まで含まれておらず、支援が難しい
- 5 障害のある方が地域でスポーツできる場所の情報が不足していて、情報提供できない
- 6 卒業生にスポーツを続けることを支援する必要性がない
- 7 在学中からスポーツに関する支援は行っていない
- 8 その他（ ）

**問 17 スポーツに関する情報入手方法・入手先【MA】**

- 1 市報さいたま
- 2 市のホームページ
- 3 他の特別支援学校・学級からの情報提供
- 4 市の障害者団体の広報誌からの情報提供
- 5 市のスポーツ施設からの情報提供
- 6 特に入手していない・入手方法がわからない
- 7 その他（ ）

**問 18 今後のスポーツ活動の方針【FA】**

（ ）

**問 19 特別支援学校・学級におけるスポーツ実施状況等を、より深く詳細に把握するために、いくつかの学校に対して、個別にヒアリングを実施することを予定しております。もし、貴校がヒアリング対象に選ばれた場合、ご協力いただけますでしょうか。【SA】**

- 1 はい
- 2 いいえ

**問 20 【問 19 で「はい」と回答した方のみ】ご担当者様のお名前とお電話番号を教えてください。**

お名前（ ）

お電話番号（ ）

## 5 障害福祉施設等向けアンケート調査票

### 問1 施設・事業所名

( )

### 問2 施設・事業所種別【MA】

- 1 障害福祉サービス事業所（日中活動系サービス）：就労移行支援・就労継続支援A・就労継続支援B・自立訓練（機能訓練）・自立訓練（生活訓練）・生活介護・療養介護
- 2 日中一時支援事業
- 3 グループホーム日中活動支援型 14カ所
- 4 地域活動支援センター
- 5 障害児入所施設
- 6 放課後等児童デイサービス
- 7 身体障害者福祉センター
- 8 心身障害者地域デイケア施設
- 9 その他（ ）

### 問3 利用者数【SA】

- 1 10人以下
- 2 11～49人
- 3 50～79人
- 4 80～99人
- 5 100人以上

### 問4 サービス内容【MA】

- 1 就労訓練
- 2 生産活動
- 3 リハビリテーション
- 4 日常生活訓練
- 5 コミュニケーション訓練
- 6 創作活動
- 7 レクリエーション
- 8 スポーツ
- 9 その他（ ）

### 問5 訓練プログラムにおける運動・スポーツ実施の有無

- 1 実施している
- 2 実施していない

### 問6 【問5で「実施している」と回答した方のみ】訓練プログラムにおける運動・スポーツ機会の内容【MA】

- 1 ウォーキング・ランニング
- 2 車いす操作
- 3 ストレッチ
- 4 ロード・坂道訓練
- 5 レクリエーションスポーツ(障害者スポーツ)  
例) 卓球、ゴロ卓球、バドミントン、フライングディスク、ボッチャ等
- 6 立位トレーニング
- 7 格闘技・武道
- 8 バランスとコーディネーション訓練

例) バランスボールを使用したトレーニング、ラダーエクササイズ等

9 その他 ( )

問7 【問5で「実施している」と回答した方のみ】 障害者スポーツ団体やパラスポーツ指導員等の協力、スポーツ用具の貸与など、活用している支援の有無【SA】

- 1 ある
- 2 ない

問8 【問7で「ある」と回答した方のみ】 活用している支援の内容【FA】  
( )

問9 【問7で「ある」と回答した方のみ】 訓練プログラムで運動・スポーツに取り組む目的【MA】

- 1 利用者の健康の維持・増進のため
- 2 利用者の気分転換・ストレス解消のため
- 3 施設内の友人との交流を深めるため
- 4 他施設や地域との交流を深めるため
- 5 利用者のリハビリテーションの一環として
- 6 利用者の目標や記録への挑戦のため
- 7 特にない・なんとなく
- 8 その他 ( )

問10 【問7で「ある」と回答した方のみ】 訓練プログラムで運動・スポーツに取り組むことで期待している効果【MA】

- 1 利用者の友人が増加すること
- 2 利用者の行動範囲が拡大すること
- 3 利用者が相手の気持ちを配慮できるようになること
- 4 利用者のストレスが解消されること
- 5 利用者が自信をつけること
- 6 利用者の性格が明るくなること
- 7 利用者の体力・身体的機能が向上すること
- 8 利用者が目標達成に向けて、挑戦すること
- 9 特にない
- 10 その他 ( )

問11 【問7で「ない」と回答した方のみ】 実施していない理由【MA】

- 1 運動・スポーツに関する専門知識を持った指導者がいない
- 2 運動・スポーツを実施するための設備や施設が不足している
- 3 特別な配慮が必要な利用者に対して、安全にスポーツを行うための環境整備が難しい。
- 4 利用者の健康状態や障害の特性により、運動・スポーツ実施が難しい
- 5 運動・スポーツに対する利用者の興味や意欲が低い
- 6 訓練プログラムの時間やスケジュールがタイトで運動・スポーツを含める余裕がない
- 7 他の訓練プログラム（職業訓練、生活訓練等）に重点を置いている
- 8 プログラム内に運動・スポーツを盛り込むための予算が不足している
- 9 利用者のニーズに合ったスポーツプログラムがない
- 10 運動・スポーツの効果や必要性を感じていない
- 11 その他 ( )

問12 利用者の退所、利用終了後の運動・スポーツ習慣継続のための取組の有無

- 1 実施している
- 2 実施していない

**問 13 【問 12 で「実施している」と回答した方のみ】実施内容【MA】**

- 1 退所、利用終了した方も一部のスポーツプログラムに参加することを認めている
- 2 退所、利用終了した方を対象としたスポーツ大会や交流イベントを定期的に開催している
- 3 利用時から地域のスポーツ団体や施設と連携し、退所、利用終了した方が利用しやすい環境を整えている
- 4 退所、利用終了する方が引き続きスポーツを続けられるように障害者スポーツ団体やスポーツができる場所などの情報提供を行っている
- 5 その他（ ）

**問 14 【問 12 で「実施していない」と回答した方のみ】実施していない理由【MA】**

- 1 施設側の予算の制約や人員不足により、十分にサポートできない
- 2 退所、利用終了した方が広範囲に分散している場合、地域ごとに適切な支援を提供することが難しい
- 3 退所、利用終了した方の状況やニーズを把握するための情報が不足しているため、適切な支援が提供できない
- 4 施設・事業所の役割が退所後の支援まで含まれておらず、支援が難しい
- 5 障害のある方が地域でスポーツできる場所の情報が不足していて、情報提供できない
- 6 退所、利用終了する方にスポーツを続けることを支援する必要性がない
- 7 利用時からスポーツに関する支援は行っていない
- 8・その他（ ）

**問 15 スポーツに関する情報入手方法・入手先【MA】**

- 1 市報さいたま
- 2 市のホームページ
- 3 他の障害福祉施設からの情報提供
- 4 市の障害者団体の広報誌からの情報提供
- 5 市のスポーツ施設からの情報提供
- 6 特に入手していない・入手方法がわからない
- 7 その他（ ）

**問 16 貴所の今後のスポーツ活動の方針を教えてください。【FA】**

(記載例)

- ・訓練プログラムを中心に多様なスポーツプログラムを検討していく。
  - ・利用者のニーズに応じて、訓練プログラムの範囲を超えたスポーツ活動に取り組んでいきたい。
  - ・県や市と連携して、多様なスポーツプログラムを提供していきたい。
  - ・スポーツを通じた地域との交流を増やし、それらを通じて、退所後の生活が豊かになることを目指したい。
  - ・障害者スポーツ団体やパラスポーツ指導員などと連携し、スポーツプログラムを充実させたい。
  - ・障害者スポーツに関する情報提供を利用者に対して行いたい。等
- ( )

**問 17 障害福祉施設におけるスポーツ実施状況等を、より深く詳細に把握するために、いくつかの施設に対して、個別にヒアリングを実施することを予定しております。もし、貴所がヒアリング対象に選ばれた場合、ご協力いただけますでしょうか。**

- 1 はい
- 2 いいえ

**問 18 【問 17 で「はい」と回答した方のみ】ご担当者様のお名前とお電話番号**

お名前（ ）

お電話番号（ ）

## 6 障害者手帳不所持者からの意見聴取調査票

問1 あなたの年齢をお答えください。【NA】

○歳

問2 あなたの性別をお答えください。【SA】

- 1 男性
- 2 女性
- 3 回答しない

問3 あなたの居住地域をお答えください。【SA】

- 1 西区
- 2 北区
- 3 大宮区
- 4 見沼区
- 5 中央区
- 6 桜区
- 7 浦和区
- 8 南区
- 9 緑区
- 10 岩槻区

問4 あなたの障害等の種類をお答えください。【MA】

※あてはまるものすべて

- 1 身体障害（軽・中等度難聴、ロービジョン、育成医療受給等を含む）
- 2 知的障害
- 3 発達障害
- 4 高次脳機能障害
- 5 精神障害（精神通院医療受給、精神科入院等を含む）
- 6 難病（指定難病、指定難病以外の難病も含む）
- 7 その他（ ）

問5 あなたは何歳から障害等がありますか。複数の障害等がある方は、最初に障害等が発生した年齢をお答えください。【SA】

- 1 先天性
- 2 0～6 歳
- 3 7～12 歳
- 4 13～19 歳
- 5 20～29 歳
- 6 30～39 歳
- 7 40～49 歳
- 8 50～64 歳
- 9 65～74 歳
- 10 75 歳以上

問6 【問5で、「先天性」と回答した人以外】障害等が発生する前にあなたが運動・スポーツを行った日数を全部合わせると、1年間に何日くらいになりますか。【SA】

- 1 週に3日以上（年151日以上）

- 2 週に1～2日（年51日～150日）
- 3 月に1～3日（年12日～50日）
- 4 3か月に1～2日（年4日～11日）
- 5 年に1～3日
- 6 わからない
- 7 運動はしていない

問7 あなたご自身の、現在の運動・スポーツの実施状況について、最も近いものを選んでください。【SA】

- 1 運動・スポーツをしており、満足している
- 2 運動・スポーツをしているが、もっと行いたい
- 3 運動・スポーツをしたいと思うができない・できていない
- 4 特に運動・スポーツをすることに興味はない

問8 あなたご自身の、運動・スポーツの実施において障壁となっているものは何ですか。【MA】

※あてはまるものすべて

- 1 障壁はなく、十分に活動できている
- 2 交通手段・移動手段がない
- 3 交通の便が良いところに施設がない
- 4 運動・スポーツをできる場所がない
- 5 施設がバリアフリーでない
- 6 施設に利用を断られる
- 7 運動・スポーツがどこでできるのか情報が得られない
- 8 どんな運動・スポーツをできるのか情報が得られない
- 9 指導者がいない
- 10 介助者がいない
- 11 仲間がいない
- 12 家族の負担が大きい
- 13 金銭的な余裕がない
- 14 時間がない
- 15 体力がない
- 16 体調に不安がある
- 17 医者に止められている
- 18 障害に適した運動・スポーツがない
- 19 やりたいと思う運動・スポーツがない
- 20 運動・スポーツが苦手である
- 21 運動・スポーツでケガをするのではないかと心配である
- 22 人の目が気になる
- 23 一緒に運動・スポーツをする人に迷惑をかけるのではないかと心配である
- 24 運動・スポーツを行うための用具がない
- 25 補装具が運動・スポーツに対応しておらず破損が心配である
- 26 感染症に対する不安
- 27 わからない
- 28 その他（ ）

問9 あなたが運動・スポーツを行った日数を全部合わせると、1年間に何日くらいになりますか。【SA】

- 1 週に3日以上（年151日以上）
- 2 週に1～2日（年51日～150日）

- 3 月に1～3日（年12日～50日）
- 4 3か月に1～2日（年4日～11日）
- 5 年に1～3日
- 6 わからない
- 7 運動はしていない

問10 【問9で「週に3日以上（年151日以上）」「週に1～2日（年51日～150日）」「月に1～3日（年12日～50日）」「3か月に1～2日（年4日～11日）」「年に1～3日」と回答した人のみ】あなたは、誰と運動・スポーツをしていますか。【MA】

※あてはまるものすべて

- 1 一人で
- 2 家族
- 3 友人・知人
- 4 福祉・医療施設の仲間や職員
- 5 学校の仲間や教職員
- 6 市内の障害者スポーツサークル・団体の仲間
- 7 市外の障害者スポーツサークル・団体の仲間
- 8 その他（ ）

問11 【問9で「週に3日以上（年151日以上）」「週に1～2日（年51日～150日）」「月に1～3日（年12日～50日）」「3か月に1～2日（年4日～11日）」「年に1～3日」と回答した人のみ】あなたは、過去1年の間にどのような運動・スポーツを行いましたか。【MA】

※学校の部活動や休み時間の活動は含めますが、学校の授業や学校行事のキャンプやマラソン大会などは含めません。

※あてはまるものすべて

- 1 ウォーキング、散歩（散策、ペットの散歩など）
- 2 階段昇降
- 3 陸上競技（ランニング、ジョギングなどの軽い運動も含む）
- 4 体操（ラジオ体操、職場体操、ストレッチ、エアロビクス、ヨガ、ピラティス、縄跳びなど）
- 5 室内運動器具（ウエイト器具、ランニングマシン、バランスボールなど）を用いる運動
- 6 水泳・水中運動
- 7 卓球
- 8 サウンドテーブルテニス
- 9 バドミントン
- 10 フライングディスク
- 11 ボウリング
- 12 バスケットボール
- 13 車いすバスケットボール
- 14 バレーボール
- 15 ゴールボール
- 16 野球（キャッチボールを含む）・ソフトボール
- 17 サッカー・フットサル
- 18 車いすサッカー
- 19 ブラインドサッカー
- 20 グランドソフトボール

- 21 フットソフトボール
- 22 テニス
- 23 車いすテニス
- 24 ボッチャ
- 25 武道（柔道・剣道等）
- 26 射的（弓道、アーチェリー等）
- 27 自転車・サイクリング
- 28 スキー・スノーボード等のウインタースポーツ
- 29 その他（            ）

問12 【問9で「週に3日以上（年151日以上）」「週に1～2日（年51日～150日）」「月に1～3日（年12日～50日）」「3か月に1～2日（年4日～11日）」「年に1～3日」と回答した人のみ】あなたが障害発生後に運動・スポーツを始めたきっかけはどのようなものですか。【MA】

※あてはまるものすべて

- 1 心身の健康増進やストレス解消等のため、自主的に始めた
- 2 家族に奨められた
- 3 （障害のある）友人・知人・同僚に奨められた
- 4 （障害のない）友人・知人・同僚に奨められた
- 5 医師に奨められた
- 6 看護師・保健師・助産師に奨められた
- 7 医療関係者等（OT、PT、ST、CO）に奨められた
- 8 義肢装具士に奨められた
- 9 介護福祉士に奨められた
- 10 社会福祉士（ソーシャルワーカー）に奨められた
- 11 スポーツ指導者に奨められた
- 12 パラスポーツ指導者・障害者スポーツ指導者に奨められた
- 13 学校の先生に奨められた
- 14 学校の授業等で興味を持ち、自主的に始めた
- 15 障害のある有名選手・パラリンピアンの影響
- 16 テレビや新聞、インターネット等の影響
- 17 漫画、ドラマ、映画等の影響
- 18 現地・所属する団体（会社等）に奨められた
- 19 スポーツ団体等の関係者から誘われた
- 20 イベントや体験会等で興味を持ち、自主的に始めた
- 21 特にきっかけはない・なんとなく
- 22 その他（            ）やテレビ等でそのスポーツを観た

問13 【問9で「週に3日以上（年151日以上）」「週に1～2日（年51日～150日）」「月に1～3日（年12日～50日）」「3か月に1～2日（年4日～11日）」「年に1～3日」と回答した人のみ】

あなたが運動・スポーツを実施する目的はどのようなものですか。【MA】

※あてはまるものすべて

- 1 健康の維持・増進のため
- 2 気分転換・ストレス解消のため
- 3 楽しみのため
- 4 友人や家族との交流のため
- 5 健常者との交流のため

- 6 体型維持・改善のため
- 7 リハビリテーションの一環として
- 8 目標や記録への挑戦のため
- 9 特にない・なんとなく
- 10 その他（ ）

問 14 【問 9 で「週に 3 日以上（年 151 日以上）」「週に 1～2 日（年 51 日～150 日）」「月に 1～3 日（年 12 日～50 日）」「3 か月に 1～2 日（年 4 日～11 日）」「年に 1～3 日」と回答した人のみ】あなたが運動・スポーツをやってよかったことはどのようなものですか。【MA】

※あてはまるものすべて

- 1 友人が増えた
- 2 行動範囲が拡大した
- 3 周囲の理解が向上した
- 4 外出が増えた
- 5 相手の気持ちが配慮できるようになった
- 6 ストレスが解消される
- 7 自信がついた
- 8 性格が明るくなった
- 9 仕事を続ける活力になっている
- 10 体を動かすこと自体が楽しい
- 11 食事がおいしく感じ、食欲が増した
- 12 夜、熟睡できるようになった
- 13 体力・身体的機能が向上した
- 14 勝利や記録が出たときに嬉しい
- 15 目標が達成できた、やりたいことに挑戦できた
- 16 特にない
- 17 その他（ ）

問 15 【問 9 で「運動はしていない」と回答した人のみ】あなたが運動・スポーツを実施しない理由についてお答えください。【MA】

※あてはまるものすべて

- 1 運動・スポーツが嫌いである
- 2 運動・スポーツに興味が無いから
- 3 障害が発生してから、運動・スポーツをやってみる機会がなかったから
- 4 障害が発生してから、運動・スポーツをする機会があったが、あまり楽しくなかったから
- 5 人前に出るのが好きではないから
- 6 自分にはできないから
- 7 疲れるから
- 8 体調がよくなかったから
- 9 医師から止められていたから
- 10 やれる環境になかったから
- 11 家族や介助者等の負担になると思ったから
- 12 汗や土で体や衣服が汚れるから
- 13 実施する意味・価値を感じないから
- 14 学校の体育等で嫌いになった
- 15 格好悪いから

- 16 青少年期に所属した運動部活動・民間クラブで嫌な思いをした
- 17 スポーツ用具の購入やスポーツ施設の利用などにお金がかかるから
- 18 自宅周辺に運動・スポーツができる場所がないから
- 19 スポーツ施設の環境（設備など）が整っていないから
- 20 施設によって実施できる競技に制限があり、やりたい競技ができないから
- 21 特に理由はない
- 22 わからない
- 23 その他（            ）

問 16 【問 9 で「運動はしていない」と回答した人のみ】あなたが運動・スポーツを実施しない理由についてお答えください。【MA】

※あてはまるものすべて

- 1 音楽鑑賞・演奏（カラオケ、楽器演奏など）
- 2 映画・ドラマ鑑賞
- 3 読書
- 4 絵画・書道・手芸などの創作活動
- 5 ゲーム（スマホゲーム、テレビゲーム、カードゲームなど）
- 6 ガーデニング・園芸
- 7 旅行
- 8 ショッピング
- 9 温泉・スパ
- 10 特に何もしていない
- 11 その他（            ）

問 17 あなたが、今後やってみたい、または今後も続けたい運動・スポーツは何ですか。【MA】

※あてはまるものすべて

- 1 ウォーキング、散歩（散策、ペットの散歩など）
- 2 階段昇降
- 3 陸上競技（ランニング、ジョギングなどの軽い運動も含む）
- 4 体操（ラジオ体操、職場体操、ストレッチ、エアロビクス、ヨガ、ピラティス、縄跳びなど）
- 5 室内運動器具（ウエイト器具、ランニングマシーン、バランスボールなど）を用いる運動
- 6 水泳・水中運動
- 7 卓球
- 8 サウンドテーブルテニス
- 9 バドミントン
- 10 フライングディスク
- 11 ボウリング
- 12 バスケットボール
- 13 車いすバスケットボール
- 14 バレーボール
- 15 ゴールボール
- 16 野球（キャッチボールを含む）・ソフトボール
- 17 サッカー・フットサル
- 18 車いすサッカー
- 19 ブラインドサッカー
- 20 グランドソフトボール

- 21 フットソフトボール
- 22 テニス
- 23 車いすテニス
- 24 ボッチャ
- 25 武道（柔道・剣道等）
- 26 射的（弓道、アーチェリー等）
- 27 自転車・サイクリング
- 28 スキー・スノーボード等のウインタースポーツ
- 29 その他（            ）

問 18 あなたは、過去 1 年間にスポーツを観戦したことがありますか。※アマチュアスポーツを含む 【MA】

※あてはまるものすべて

- 1 埼玉県内で直接（スタジアム・体育館・沿道など）観戦した
- 2 埼玉県外で直接（スタジアム・体育館・沿道など）観戦した
- 3 テレビ・ラジオ・インターネット配信等で観戦した
- 4 観戦しなかった

問 19 【問 18 で「埼玉県内で直接（スタジアム・体育館・沿道など）観戦した」「埼玉県外で直接（スタジアム・体育館・沿道など）観戦した」「テレビ・ラジオ・インターネット配信等で観戦した」と回答した人のみ】あなたがスポーツを観戦したのはどのような理由からですか。【MA】

※あてはまるものすべて

- 1 そのスポーツが好きだから
- 2 そのスポーツをしている（していた）から
- 3 応援しているチーム・選手がいるから
- 4 暇つぶしのため
- 5 ストレス発散のため
- 6 家族や友人に誘われたから
- 7 家族・友人が出場していたから
- 8 実施場所が近所だったから
- 9 学校や施設のイベントだったから
- 10 特にない
- 11 その他（            ）

問 20 どのような取組・工夫があれば、あなたはスポーツを実際に（さらに）観戦してみようと思いますか。

【MA】

※あてはまるものすべて

- 1 大会に関する詳しい情報があれば
- 2 ルールや解説が実況で聞ければ
- 3 ルールや解説の実況について、聴覚障害者への情報保障があれば（手話通訳、大型ビジョンに字幕がある等）
- 4 ルールや解説の実況について、視覚障害者にわかるような詳しい解説があれば
- 5 大会が自宅などから行きやすい場所で開催されれば
- 6 落ち着いて観戦できる区画された席があれば
- 7 入場料・観戦料が無料又は廉価であれば
- 8 スポーツの体験会が同時開催されれば
- 9 スポーツ以外のイベント・祭りなどが同時開催されれば
- 10 家族や友人・知人に誘われれば

- 11 会場内・周辺の混雑・渋滞等が解消されれば
- 12 会場までのアクセスがバリアフリーであれば
- 13 わからない
- 14 観戦するつもりはない
- 15 その他（ ）

問 21 あなたはeスポーツをしたことがありますか。【MA】

※あてはまるものすべて

※e スポーツとは球技や格闘技などの対戦型コンピューターゲームで勝敗を競うスポーツのことをいいます。

- 1 e スポーツをしたことがある
- 2 e スポーツを観戦したことがある
- 3 どちらもない

問 22 あなたはマインドスポーツをしたことがありますか。【MA】

※あてはまるものすべて

※囲碁や将棋、チェスなどが該当します。

- 1 マインドスポーツをしたことがある
- 2 マインドスポーツを観戦したことがある
- 3 どちらもない

問 23 さいたま市内では、さまざまな障害者スポーツ教室・イベントを開催しています。参加したことがあるものを教えてください。【MA】

※あてはまるものすべて

- 1 障害者陸上教室
- 2 障害者野球教室
- 3 障害者サッカー教室
- 4 障害者バスケットボール教室
- 5 障害者車いすバスケットボール教室
- 6 障害者バレーボール教室
- 7 障害者水泳教室
- 8 障害者卓球バレー教室
- 9 障害者ボウリング教室
- 10 アーチェリー教室
- 11 トランポリン教室
- 12 サウンドテーブルテニス教室
- 13 ダンス教室
- 14 ボッチャ体験（障害者福祉施設みのり園）
- 15 e スポーツ体験（障害者福祉施設みのり園）
- 16 障害者向け余暇活動ストレッチ講座
- 17 手話応援
- 18 ノーマライゼーションカップ（ブラインドサッカー大会）及び大会での障害者スポーツ体験会
- 19 市民のつどい 障害者スポーツ体験ブース
- 20 さいたまマラソン（車いすの部）
- 21 参加したことがない
- 22 その他（ ）

問 24 あなたは、どのような内容のスポーツ教室・イベントであれば参加してみたいと思いますか。【MA】



さいたま市における障害者のスポーツの実施  
に関する調査研究  
—令和8年3月発行—

さいたま市 福祉局 障害福祉部 障害政策課  
〒330-9588  
埼玉県さいたま市浦和区常盤 6-4-4  
電話 048-829-1306

一般財団法人地方自治研究機構  
〒104-0061  
東京都中央区銀座 7-14-16 太陽銀座ビル 2階  
電話 03-5148-0661 (代表)

